

# 肢体不自由者の地域での小規模な住まいのあり方と 介護体制についての調査研究

平成 20 年度厚生労働省障害者保健推進事業  
「障害者自立支援法調査研究プロジェクト」

## 報 告 書



平成21年3月

特定非営利活動法人わーかーびー

# 目 次

第 1 章 調査研究の概要 .....	1
I 調査研究の背景と目的 .....	1
II 調査研究の方法 .....	2
1 肢体不自由者の生活と住まいに関するアンケート調査の実施 .....	2
2 肢体不自由者の住まいに関する調査の実施（情報収集のための調査） .....	2
3 住まいの運営主体に対する調査 .....	3
4 住まいの運営主体に対するヒアリングおよび視察調査 .....	3
第 2 章 調査の結果 .....	4
I 肢体不自由者の生活と住まいに関するアンケート調査 .....	4
1 調査票の発送数と回収状況 .....	4
2 調査の結果 .....	4
(1) 障がい者本人調査 .....	4
(2) 障がい者家族調査 .....	15
II 住まいの運営主体に対する調査 .....	30
1 調査票の発送数と回収状況 .....	30
2 調査票の発送先の詳細 .....	30

Ⅲ 住まいの運営主体に対するヒアリングおよび視察調査	31
1 肢体不自由の住まいに関わる制度等の変遷	31
2 ヒアリング先の概要	32
3 ヒアリング結果	35
事例1 あおば生活ホーム「俊」（兵庫県西宮市）	35
事例2 あずましや支援ハウス（青森県五所川原市）	41
事例3 生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」（埼玉県越谷市）	46
事例4 よつばホーム（神奈川県横浜市）	52
事例5 グループホーム「ゆい」（神奈川県横浜市）	60
事例6 IL ホーム「ソレイユ小倉寺」（福島県福島市）	64
事例7 多機能型地域交流ハウス「があだぱーと」（北海道室蘭市）	69
事例8 ケアホーム「野ぶどう」（北海道伊達市）	73
事例9 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」（愛知県豊橋市）	78
事例10 身体障がい者の生活の場「まちなか」（富山県富山市）	84
事例11 すまいるはーと（鳥取県米子市）	89
事例12 フロンティア（北海道札幌市）	93
（参考事例）グループホームあさがお（北海道七飯町）	100
第3章 肢体不自由者の住まいの現状と今後の課題	102
I 現状の整理	102
1 運営主体と開設の経緯	102
2 土地・建物の確保と制度活用の状況	104
3 運営（収支）の状況	105
4 職員配置の状況とサービス利用上の工夫	107
II 肢体不自由者の住まいの課題（生活と住まいの調査から）	109
圧倒的に多い家族との同居のなかでの課題	109
III 肢体不自由者の生活と住まいの課題（住まいの調査から）	109

1	土地・建物の確保.....	109
2	早期の自立生活への移行.....	110
3	夜間対応サービスの確保.....	111
4	医療ニーズへの対応.....	111
5	運営体制の確保.....	111
IV	課題からみえてきたこと.....	114
	資料.....	115
1	調査票一式.....	117
2	肢体不自由者の生活と住まいに関する調査 クロス集計結果.....	123
3	肢体不自由者の生活と住まいに関する調査 自由意見.....	151
	調査を終えて.....	195
	検討委員会名簿.....	198





# 第1章 調査研究の概要

## I 調査研究の背景と目的

平成18年、障がい者が地域で暮らせる社会の実現をめざし、「障害者自立支援法」が施行、三障がいのサービス体系一元化や、地域生活支援・就労支援のための事業の創設が行われた。

障がい者が施設から地域生活へ移行、あるいは地域生活を継続するためには、そのニーズに対応した住まいとサービスが必要であるが、それらの基盤整備は充分に進んでいるとはいえない状況にある。

とりわけ肢体不自由者の場合は、知的障がいや精神障がい等が伴っていなければ、現行の制度上、グループホームやケアホームの利用ができない（平成21年3月現在）。特に重度の肢体不自由者や知的障がいのある肢体不自由者などでは、単身生活が難しいケースがほとんどであり、地域における生活の場をどのように確保するかが課題となっている。

また、今後、障がい者の親世代の高齢化が進むにつれ、地域で安心して暮らし続けられる住まいへのニーズは一層高まることが予想され、地域で何らかの支援を受けながら、小規模な住まいで暮らす方策を探ることが求められている。

そこで、本調査では、①北海道内の施設や地域で生活する肢体不自由者本人とその家族に対して肢体不自由者の生活と住まいに関するアンケートを実施し、住まいをはじめ地域生活をすすめるうえでの現状と課題について調査するとともに、②肢体不自由者の住まいについて、地域の中で創意工夫しながら暮らしている取り組みについての情報を全国から収集し、住まいの運営主体に対する調査・ヒアリングを行い、土地や建物の確保、制度の活用状況、運営の状況等の現状と課題についてまとめ、今後、地域生活への移行を検討している当事者または家族が参考にできる基礎資料をとりまとめる。

## II 調査研究の方法

### 1 肢体不自由者の生活と住まいに関するアンケート調査の実施

肢体不自由者本人や家族に、現在の生活状況、サービスの利用状況、地域生活に対する希望などをうかがい、障がいのある方が地域生活を開始・継続する際の課題や問題点などを把握した。

- (1) 調査対象：財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会の会員 904 世帯  
障がい者本人とその家族のそれぞれを対象とした調査票を作成（2 種類）
- (2) 調査方法：財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会の道内各支部を通じて発送、郵送にて回収

### 2 肢体不自由者の住まいに関する調査（情報収集のための調査）

全国で展開されている身体障がい者を対象とした小規模な住まいについて、住まいの名称や居住している障がい者の概要、運営主体などについて、可能な限り情報を収集する。

- (1) 調査対象：①「**社団法人**全国肢体不自由児・者父母の会連合会」の各支部  
②「財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会」の各支部と会員
- (2) 調査方法  
各地で行われている身体障がい者を対象とした小規模な住まいの状況などについて、支部および会員が把握している情報や資料を提供してもらった。
  - ①「**社団法人**全国肢体不自由児・者父母の会連合会」の都府県各支部  
・各支部あてに調査票を発送、郵送にて回収した。
  - ②「財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会」の各支部および会員  
・財団法人北海道肢体不自由児者連合福祉協会主催の全道研究大会の場で、道内各支部および会員に調査票と返信用封筒を配布、郵送にて回収した。

### 3 住まいの運営主体に対する調査

「2 肢体不自由者の住まいに関する調査」で把握された事例について、実際に住まいを運営している主体（法人や個人）に対し、具体的な取り組み内容や課題などを調査するとともに、当該事例に関する資料やパンフレットなどを提供してもらった。

(1) 調査対象：「2 肢体不自由者の住まいに関する調査」で情報提供があった、肢体不自由者を対象とする住まいを運営している主体（41 件）

(2) 調査方法：郵送により発送、回収

### 4 住まいの運営主体に対するヒアリングおよび視察調査

「2 肢体不自由者の住まいに関する調査」および「3 住まいの運営主体に対する調査」で把握された住まいのうち、特徴的な取り組みをしているもの、設立の経緯に特徴があるものなどなどについて、運営主体に直接話を聞き、住まいの運営を始めた経緯や、成功要因、課題などについて調査した。

(1) 調査対象：全国の肢体不自由者の住まいの運営主体 12 ヶ所

(2) 調査方法：ヒアリング調査

## 第2章 調査の結果

### I 肢体不自由者の生活と住まいに関するアンケート調査

#### 1 調査票の発送数と回収状況

「肢体不自由児者の生活と住まいに関するアンケート調査」では、財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会の会員 904 世帯について、①障がい者本人調査、②障がい者家族調査の2種類の調査票を封入し、道内 34 支部を通じて個別の世帯に発送した。

①②のいずれも 904 件発送し、①障がい者本人調査の回収数は 186 件（回収率 20.6%）、②障がい者家族調査の回収数は 267 件（回収率 29.5%）となっている。

表 2-1 調査票発送数と回収状況

調査票	発送件数	回収数	回収率
①障がい者本人調査	904 件	186 件	20.6%
②障がい者家族調査	904 件	267 件	29.5%

#### 2 調査結果

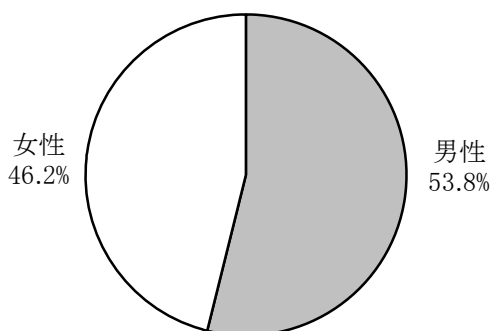
##### (1) 障がい者本人調査

###### 【基本属性】

###### 問 1 性別

性別は、「男性」が 53.8%、「女性」が 46.2%となっている。

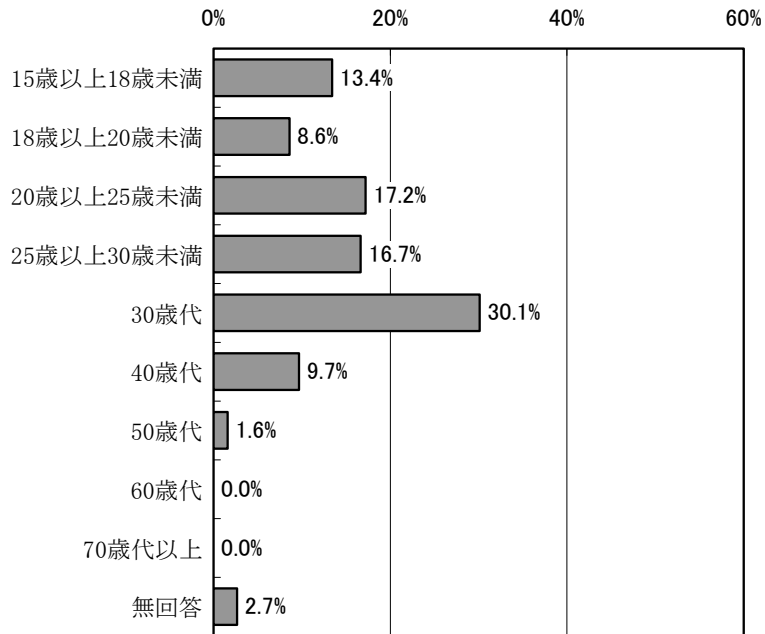
図 2-1 性別 (N=186)



## 問2 年齢

年齢については、「30歳代」が30.1%と最も高く、次いで「満20歳以上25歳未満」が17.2%、「満25歳以上30歳未満」が16.7%となっている。

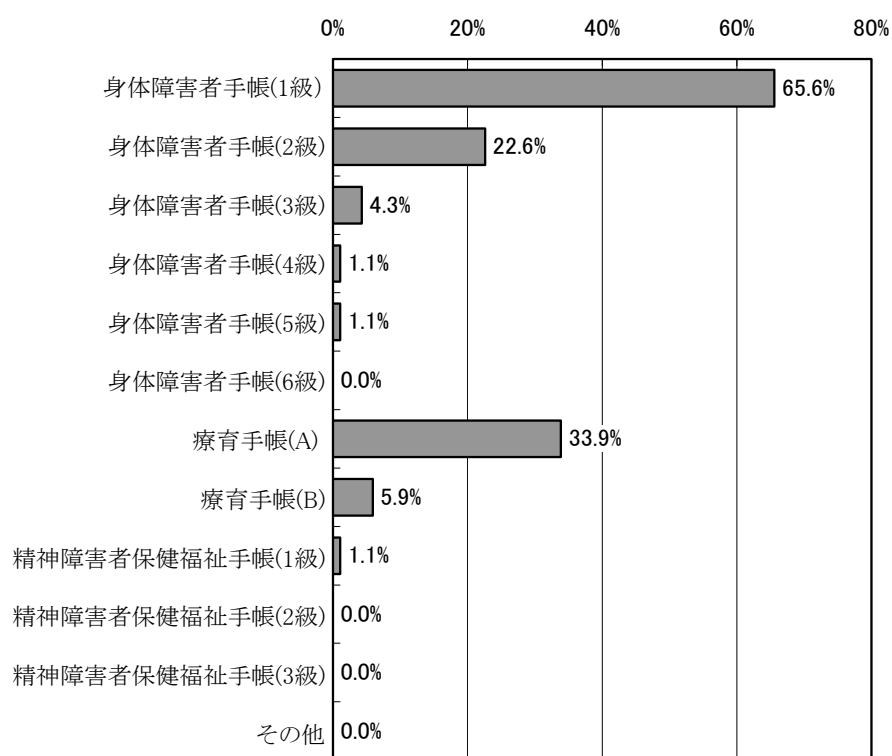
図2-2 年齢 (N=186)



### 問3 障害者手帳

持っている障害者手帳については、「身体障害者手帳（1級）」が65.6%と最も高く、次いで「療育手帳（A）」が33.9%、「身体障害者手帳（2級）」が22.6%となっている。

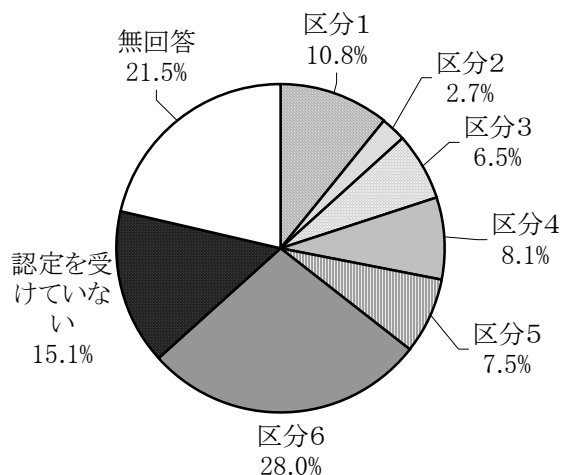
図2-3 障害者手帳（複数回答、N=186）



#### 問4 障害認定区分

障害認定区分については、「区分6」が28.0%と最も高く、次いで「認定を受けていない」が15.1%、「区分1」が10.8%となっている。

図2-4 障害認定区分 (N=186)

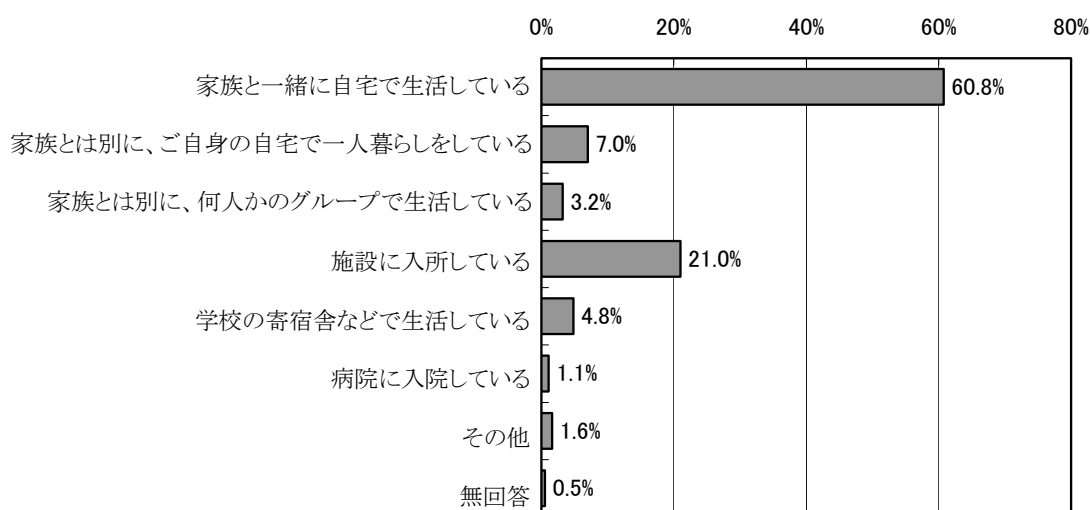


#### 【現在の生活について】

#### 問5 現在の生活場所

現在生活している場所については、「家族と一緒に自宅で生活している」が60.8%と最も高く、次いで「施設に入所している」が21.0%、「家族とは別に、ご自身の自宅で一人暮らしをしている」が7.0%となっている。

図2-5 現在の生活場所 (N=186)

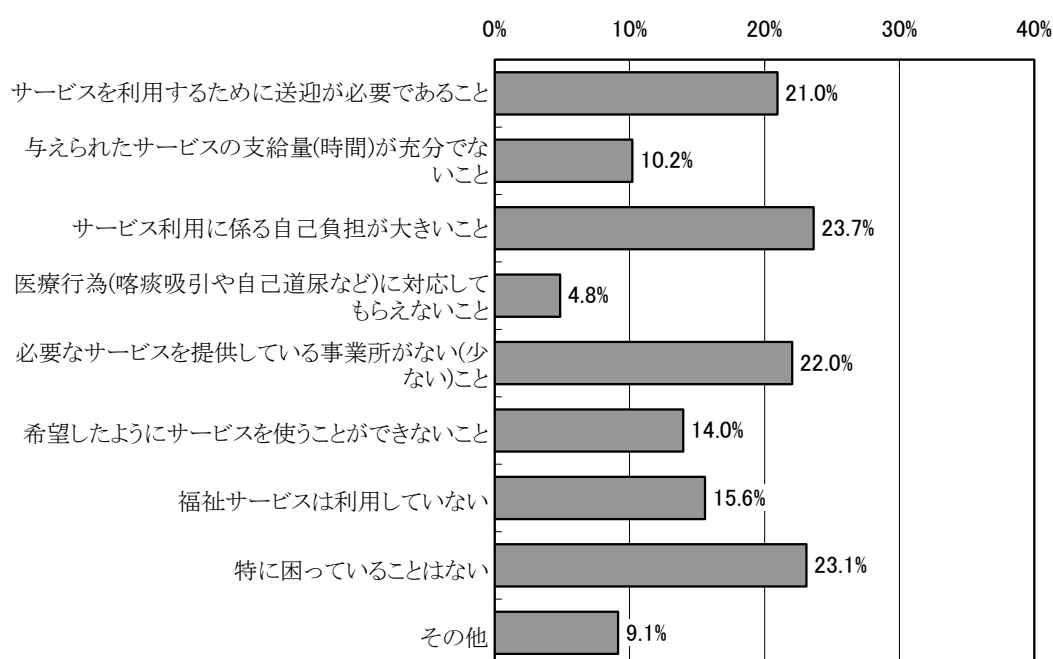




## 問6 福祉サービスの利用で困っていること

福祉サービスの利用について、困っていることがあるかについては、「サービス利用に係る自己負担が大きいこと」が23.7%と最も高く、次いで「特に困っていることはない」が23.1%、「必要なサービスを提供している事業所がない(少ない)こと」が22.0%、「サービスを利用するための送迎が必要であること」が21.0%となっている。

図2-6 福祉サービスの利用で困っていること（複数回答、N=186）



## 問7 福祉サービスの利用で困っていること（具体的な状況について）

「問6」で回答した項目について、サービス利用に関して、どのような点で、どのように困っているか、具体的な状況についての主な回答は以下のようになっている。

### 《サービス利用のための送迎》

- 送迎費が自己負担である。
- 通所に移動支援が利用できないため、家族の協力が必要。

### 《サービスの支給量について》

- 夜間の介助が必要なのに、重度訪問介護の時間数が足りない。
- 一人暮らしをするには多くの支給量が必要。個々にあった支給量がほしい。

### 《サービスに係る自己負担金》

- 施設の利用料、生活にかかる費用等年金ではまかないきれない。
- 障がい重複しており、通院や補助装具が必要で、自己負担が大きい。

《医療行為の対応》

- 日中支援サービスを受ける際など、痰吸引、注入など医療行為があるため、看護師のいる事業所しか利用できない。

《事業所の不足》

- 事業所が少ないため、十分なサービス量を確保できていない。
- 希望しているサービスを持っていても、それに対応できる事業所がなく、不安な思いをしている。

《希望したようにサービスを受けられない》

- 在宅生活のペースを変えない中でサービスを利用したいが、時間等、事業所の体制に左右される。

《その他》

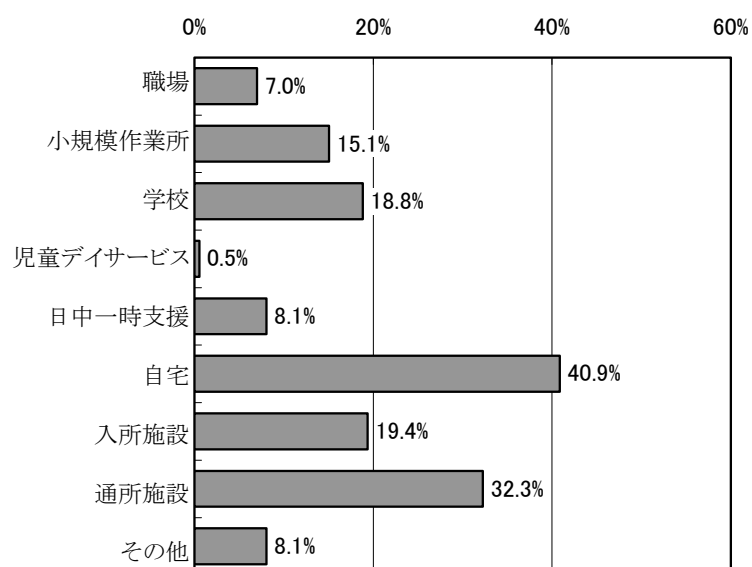
- 気の合うヘルパーがないので、気を使って毎日がつまらなくなる。自分にあったヘルパーが少ない。
- 生活するための介助はある程度満足できているが、話し相手やゲームなどレクリエーションの手助けをしてほしい。

## 問8 日中の主な活動場所

### (1) 平日

平日、日中の主な活動場所については、「自宅」が40.9%と最も高く、次いで「通所施設」が32.3%、「入所施設」が19.4%、「学校」が18.8%となっている。

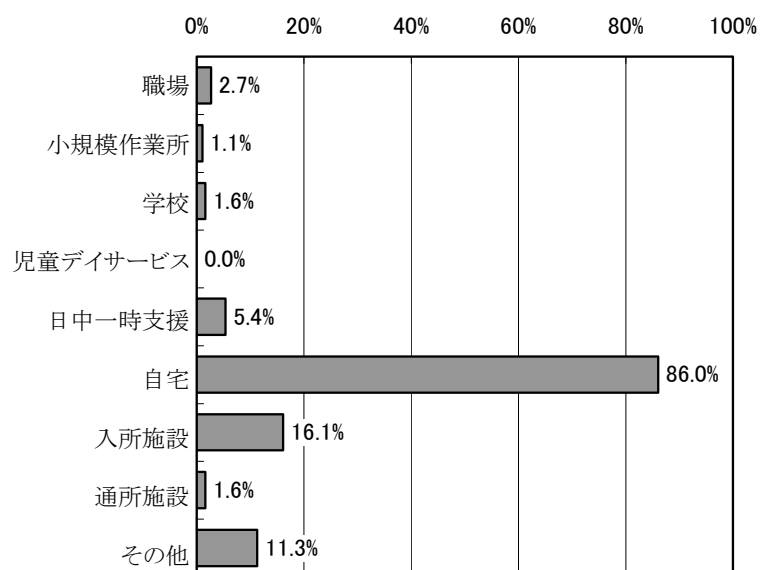
図2-7 日中の主な活動場所【平日】(2つ以内の複数回答、N=186)



### (2) 土日祝日

土日祝日、日中の主な活動場所については、「自宅」が86.0%と最も高く、次いで「入所施設」が16.1%、「その他」が11.3%となっている。「その他」については、買い物、スポーツ、趣味活動などの回答があった。

図2-8 日中の主な活動場所【土日祝日】(2つ以内の複数回答、N=186)

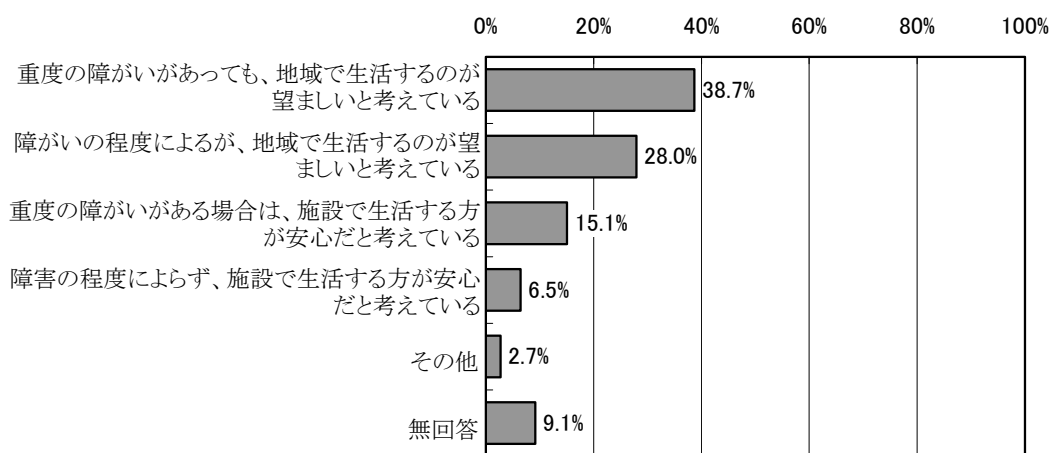


## 【地域生活について】

### 問9 障がい者の地域生活について

障がい者が、地域で生活することについて、どのように考えているかについては、「重度の障がいがあっても、地域で生活するのが望ましいと考えている」が38.7%と最も高く、次いで、「障がいの程度によるが、地域で生活するのが望ましいと考えている」が28.0%となっている。

図2-9 障がい者の地域生活について (N=186)



### 問10 将来の暮らしについて

#### (1) 将来、親と一緒に暮らせなくなった場合の生活

将来、親と一緒に暮らせなくなった場合、具体的に誰と、どこで、どのように生活したいかをたずねたところ、主な意見は以下のようにになっている。

##### 《施設やグループホームへの入所》

- 施設で友人をつくり暮らしたい。
- 同じ障がいを持つ人達とグループホームで生活したい。
- 少人数でアットホームなケアホームで暮らしたい。

##### 《自立》

- 一軒家で、一人で自由に暮らしたい。
- アパートなどを借りて、できない部分はヘルパーさんをお願いする。

##### 《兄弟など身内と生活》

- 兄弟と一緒に仲良く暮らしたい。

##### 《その他》

- 親と暮らすことしか考えていない。

## (2) 将来の暮らしのための支援

将来、どのような支援があれば希望した生活ができるかをたずねたところ、主な意見は以下のようにになっている。

### 《国の支援等》

- 公的支援（お金）があればできると思う。
- 自宅のリフォーム、車、介護ヘルパーの支援などがあればよい。
- もう少し、障害年金が上がれば良いと思う。

### 《施設等の確保》

- 必要な時にすぐに入れる施設があること。
- 地域に医療と介護が整っている施設があるといい。

### 《働く場の確保》

- 仕事が見つかり、生活費が得られること。

### 《サポートしてくれる人》

- 24時間支援してくれるヘルパーの確保。
- 周りの方（ボランティアなど）がそばにいて、地域のサポートがあること。
- 信頼できる人を見つける。

### 《その他》

- 施設で働く人の給料を考えてほしい。
- 介護してくれる方達へ、しっかりと教育をしてほしい。

## (3) 将来の生活に備えて行っていること

将来の生活に備えて、今、行なっていることはあるかをたずねたところ、主な意見は以下のようにになっている。

### 《貯蓄》

- 貯金している。

### 《自立訓練》

- 一人暮らしができるように、掃除、洗濯、炊事ができるように学校などで親から離れて生活している。
- 自分でできることを増やす訓練をしている。

### 《人との交流》

- 家族以外の介護に馴れておく。
- 事業所や、ヘルパーさんとのつながりをつくっていきたい。

### 《体調管理》

- 体調の維持、健康であること。

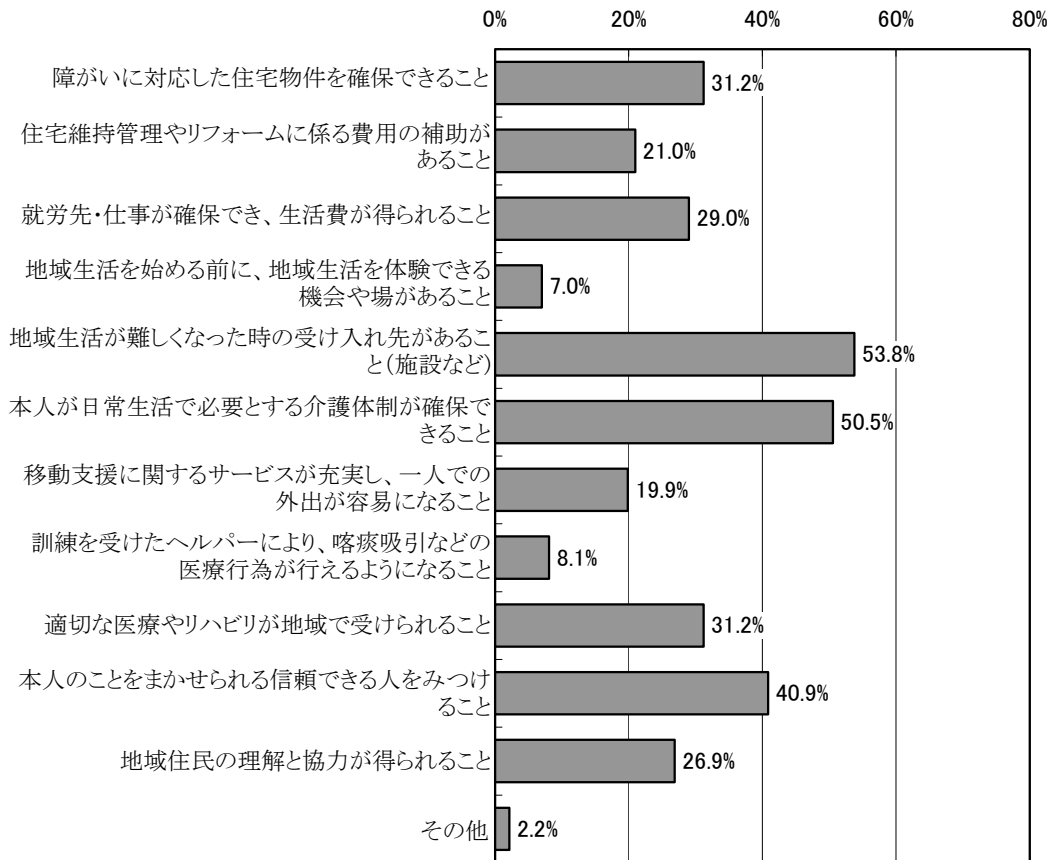
《その他》

- 一人で楽しめる趣味、習字、絵画、ピアノなど習っている。
- 何をしたいかわからない。

問 11 障がい者が地域生活を続ける（始める）上で必要なこと

障がい者が地域で生活を続ける（あるいは始める）上で必要となることについては、「地域生活が難しくなった時の受け入れ先があること（施設など）」が 53.8%と最も高く、次いで「本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できること」が 50.5%、「本人のことをまかせられる信頼できる人を見つけること」が 40.9%となっている。

図 2-10 障がい者が地域生活を続ける（始める）上で必要なこと  
(3 つ以内の複数回答、N=186)



## 問 12 地域で生活をする上で困っていること、希望すること

「問 11」で回答した項目について、地域生活を続ける（あるいは始める）上で、困っていることや希望することがあるかについてたずねたところ、主な回答は以下のようになっている。

### 《障がいに対応した住宅物件の確保》

- 市営住宅の確保

### 《就労先・仕事の確保》

- 仕事をして生活費がほしい。
- 北海道は冬、外では車椅子には乗れず、それで仕事がない。

### 《日常で必要とする介護体制の確保》

- 24 時間体制でサポートしてもらえる状況であれば、安心して生活できる。
- 事業所が少ないため、利用施設の選択ができない。

### 《移動支援サービスの充実》

- 親が送迎できなくなったとき、移動手段が限られるので不安。
- 現状の制度では、障がい者が自由に外出し、移動することは難しい。新しい制度や、より障がい者が利用する上で使いやすいシステムをつくってほしい。

### 《地域での適切な医療行為やリハビリ》

- リハビリを受けたくても、訓練士が少ない。もっと訓練士を増やしてほしい。
- リハビリを受ける場所が少ない。個人病院では対応できず、大きな病院まで行かなくてはならない。

### 《本人のことを任せられる信頼できる人》

- 思いやりのあるヘルパーさんと信頼できる施設があればよい。
- 困った時に相談できる人がそばにいと助かる。

### 《地域住民の理解と協力》

- 制度でカバーできないところは、ボランティアや近所の皆さんに手助けをお願いできるとよい。
- バカにしたり、笑ったり、ヒソヒソ話したりしないでほしい。特別ではなく自然に接してほしい。

### 《その他》

- 自立支援法が厳しすぎて、手助けの仕方が決められているので、ひとりで生活できるように訓練されても、実際にはできていない。年金でまかなえるように見直ししてほしい。

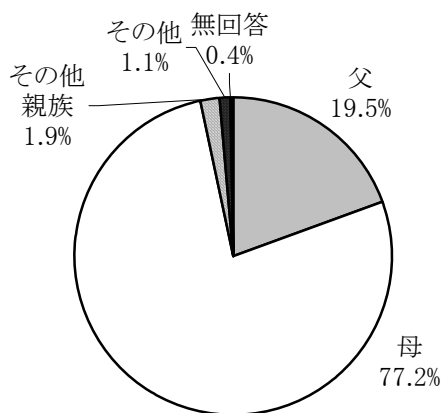
## (2) 障がい者家族調査

### 【障がいのある本人について】

#### 問1 調査票記入者（本人との続柄（関係））

調査票記入者と障がい児者本人との続柄については、「母」が77.2%と最も高く、次いで「父」が19.5%、「その他親族」が1.9%となっている。

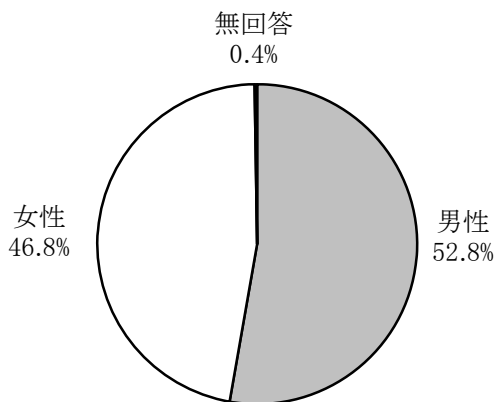
図2-11 調査票記入者（N=267）



#### 問2 本人の性別

性別は、「男性」が52.8%、「女性」が46.8%となっている。

図2-12 性別（N=267）

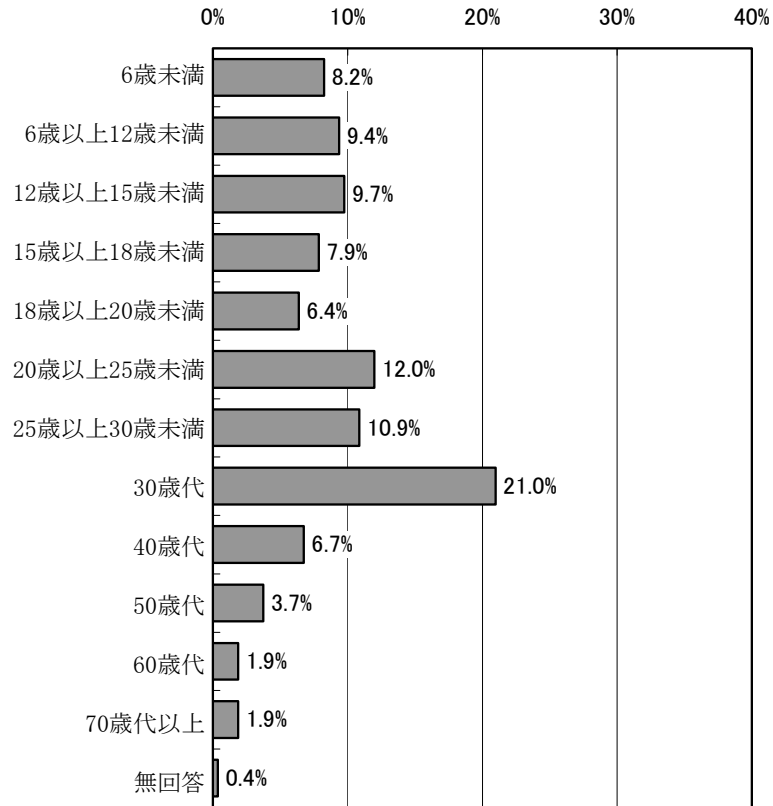




### 問3 本人の年齢

本人の年齢については、「30歳代」が21.0%と最も高く、次いで「満20歳以上25歳未満」が12.0%、「満25歳以上30歳未満」が10.9%となっている。

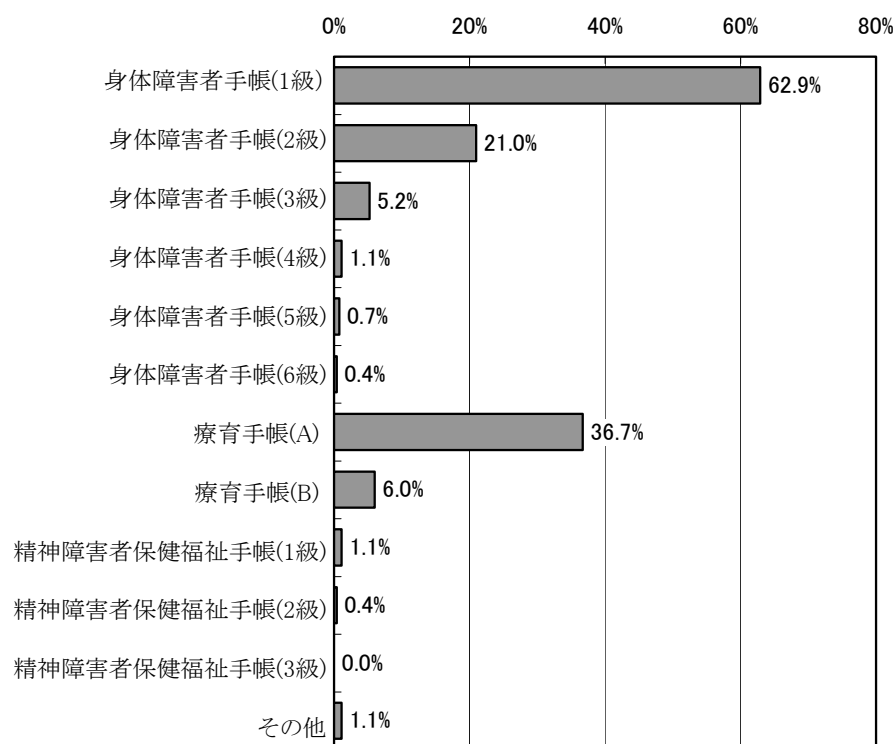
図2-13 年齢 (N=267)



#### 問4 本人が持つ障害者手帳

本人が持つ障害者手帳については、「身体障害者手帳(1級)」が62.9%と最も高く、次いで「療育手帳(A)」が36.7%、「身体障害者手帳(2級)」が21.0%となっている。

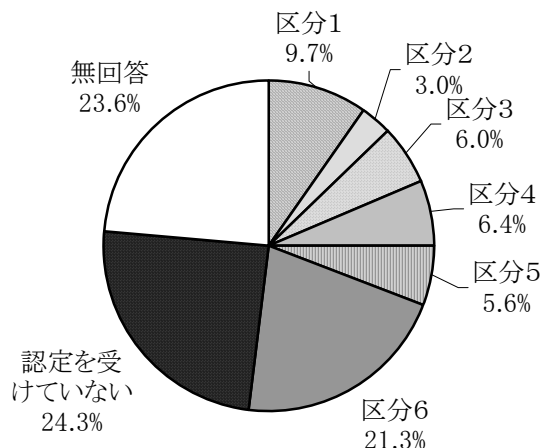
図2-14 障害者手帳(複数回答、N=267)



### 問5 本人の障害認定区分

本人の障害認定区分については、「認定を受けていない」が 24.3%と最も高く、次いで「区分6」が 21.3%、「区分1」が 9.7%となっている。

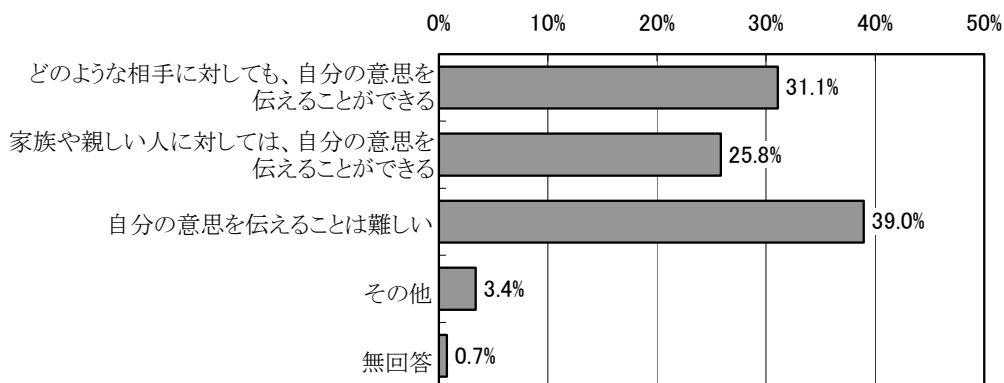
図 2-15 障害認定区分 (N=267)



### 問6 意思の伝達

本人が、自分の意思を相手に伝えることができるかについては、「自分の意思を伝えることは難しい」が 39.0%と最も高く、次いで「どのような相手に対しても、自分の意思を伝えることができる」が 31.1%、「家族や親しい人に対しては、自分の意思を伝えることができる」が 25.8%となっている。

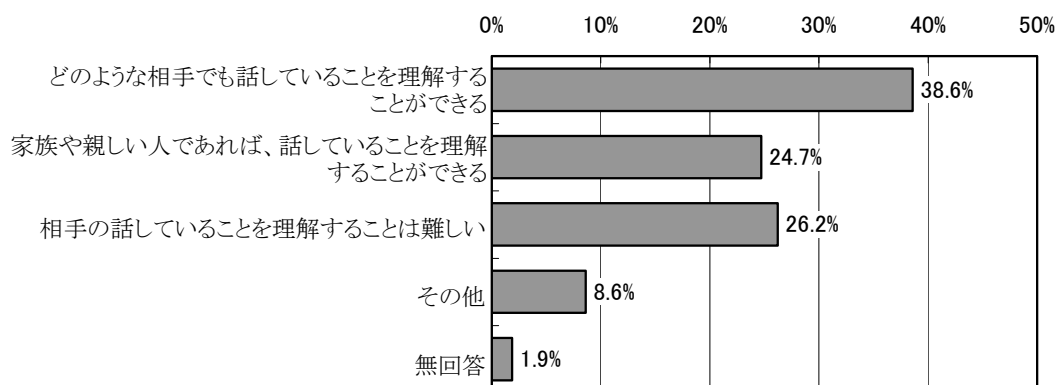
図 2-16 意思の伝達 (N=267)



## 問7 言葉の理解

本人が、相手の話していることを理解することができるかについては、「どのような相手でも話していることを理解することができる」が38.6%と最も高く、次いで「相手の話していることを理解することは難しい」が26.2%、「家族や親しい人であれば、話していることを理解することができる」が24.7%となっている。

図2-17 言葉の理解 (N=267)

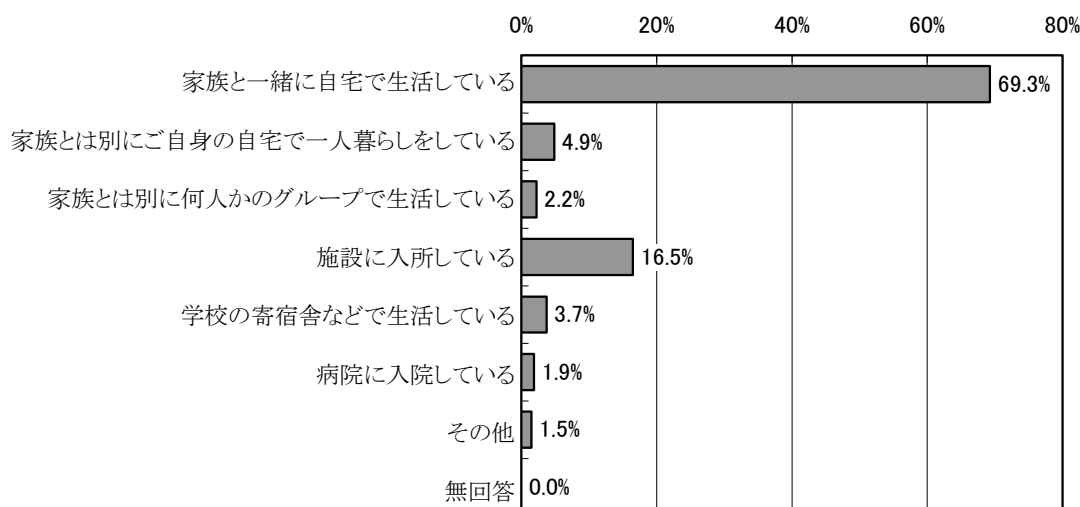


## 【現在の生活について】

### 問8 現在の生活場所

本人が現在生活している場所については、「家族と一緒に自宅で生活している」が69.3%と最も高く、「施設に入所している」が16.5%、「家族とは別にご自身の自宅で一人暮らしをしている」が4.9%となっている。

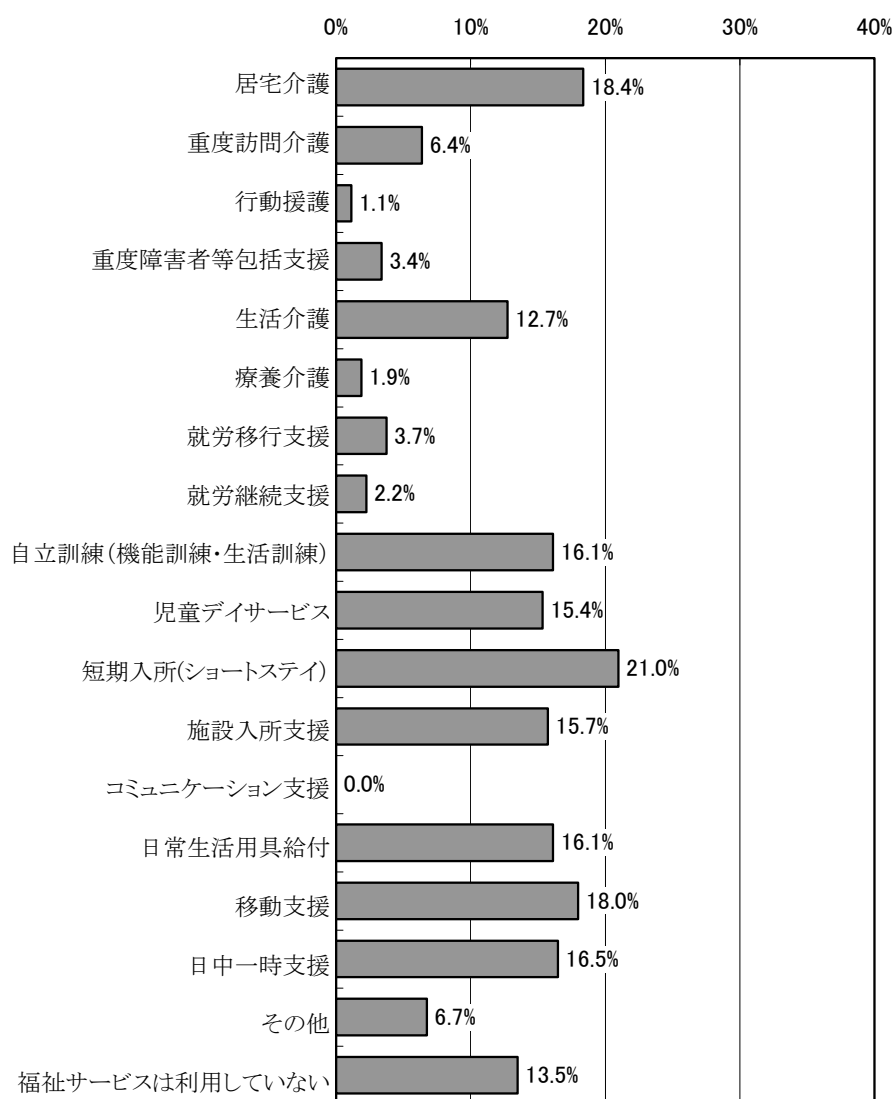
図2-18 現在の生活場所 (N=267)



## 問9 普段利用している福祉サービス

普段、利用している福祉サービスについては、「短期入所（ショートステイ）」が21.0%と最も高く、次いで「居宅介護」が18.4%、「移動支援」が18.0%、「日中一時支援」が16.5%となっている。

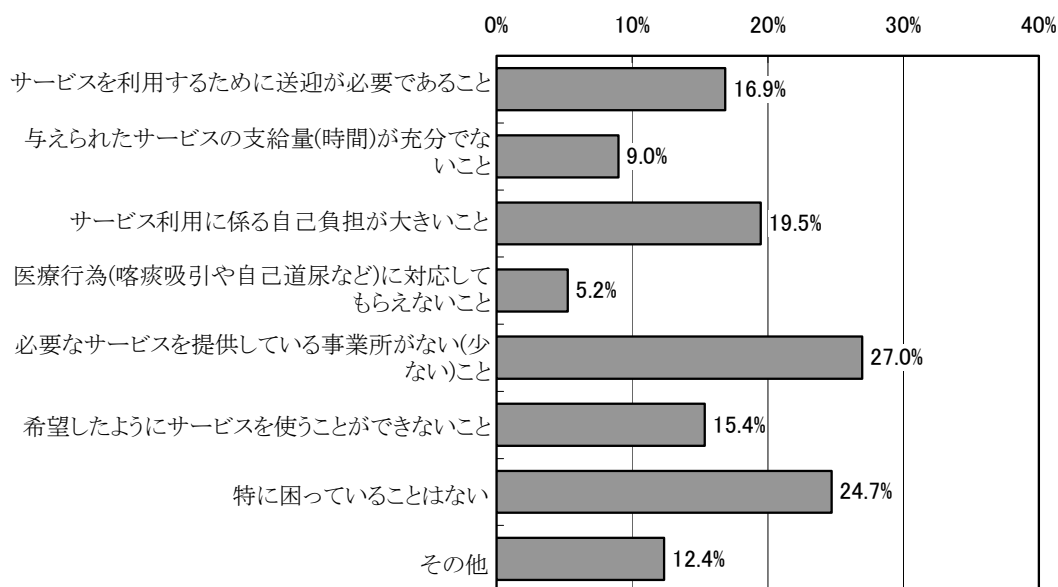
図2-19 普段利用している福祉サービス（複数回答、N=267）



## 問 10 福祉サービスの利用で困っていること

福祉サービスの利用にあたり、困っていることがあるかについては、「必要なサービスを提供している事業所がない(少ない)こと」が27.0%と最も高く、次いで「特に困っていることはない」が24.7%、「サービス利用に係る自己負担が大きいこと」が19.5%となっている。

図 2-20 福祉サービスの利用で困っていること（複数回答、N=267）



## 問 11 福祉サービスの利用で困っていること（具体的な状況について）

「問 10」で回答した項目について、サービス利用に関して、どのような点で、どのように困っているか、具体的な状況についての主な回答は以下のようになっている。

### 《サービス利用のための送迎》

- 日中一時支援を利用しているが、送迎がないため、福祉タクシーを利用するしかなく、金銭的にもかなり負担が大きい。
- 親が車の運転がだんだん困難になってきているので、送迎サービスを利用しなければならない。
- デイサービス利用にあたり、送迎も車椅子ごと乗れる人数が一杯で、片道 40 分かけて送迎せざるを得ない。

### 《サービスの支給量について》

- サービスの支給量が自立するには絶対的に不足している。
- 親の体力も衰えてきているので、より多くのサービス支給量が必要。

#### 《サービスに係る自己負担》

- 入院等と重なると自己負担が増えるのに、手当がもらえず、支払えるのか不安。
- 自立支援法施行後、自己負担（施設利用費等）が増え、障害者年金だけでは生活が難しい状況になってきている。
- サービスの自己負担が大きく、サービス回数を減らすしかない。

#### 《医療行為の対応》

- 医療行為に対応してもらえないので、預けることができない。
- 自己導尿のため、学校行事や屋外活動などで対応してもらえない場合、親がそこまで行かなくてはならない。

#### 《事業所の不足》

- 児童デイサービスを提供しているところがない。
- 知的障がい者のための施設はあるが、肢体不自由児者のための施設が少ない。
- 重症児者に対応できる事業所、ヘルパーが少ない。

#### 《希望したようにサービスを受けられない》

- 短期入所は緊急時には空いていない。
- デイサービスを利用したいが、ヘルパーの人数が足りなく、週2回ほどしか通えない。
- 訓練が必要だが、先生不足で十分な回数の利用ができない。

#### 《その他》

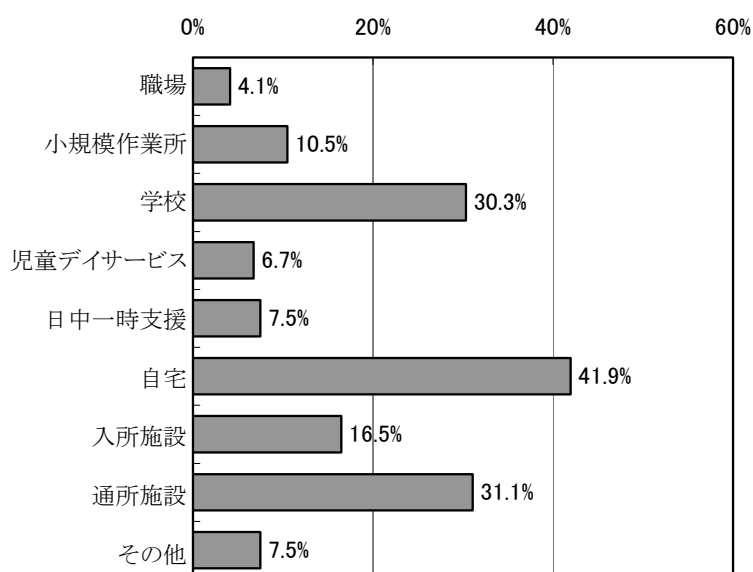
- 親が突然病気などになったとき、本人の面倒をみってくれる支援の場所や人、サービスが少なく困っている。
- 職員がよく入れ替わるので困る。

## 問 12 日中の主な活動場所

### (1) 平日

平日、日中の主な活動場所については、「自宅」が 41.9%、「通所施設」が 31.1%、「学校」が 30.3%となっている。

図 2-21 日中の主な活動場所【平日】(2つ以内の複数回答、N=267)

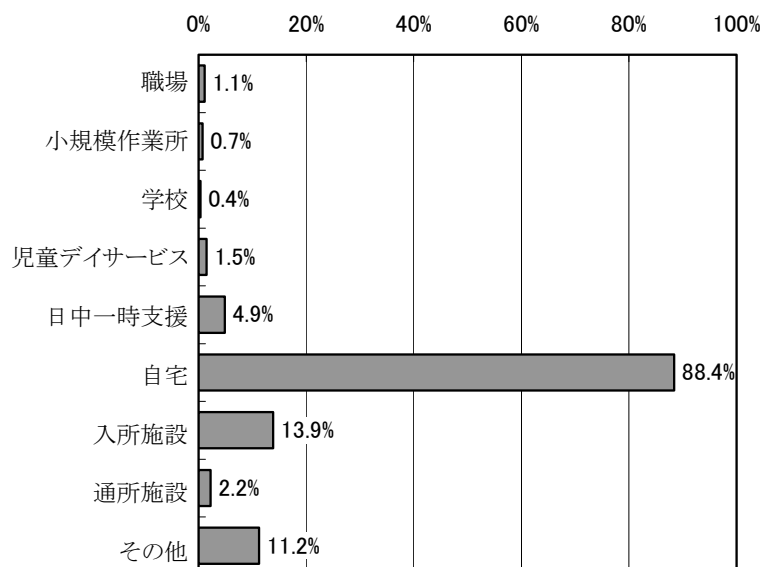


### (2) 土日祝日

土日祝日、日中の主な活動場所については、「自宅」が 88.4%と最も高く、次いで「入所施設」が 13.9%、「その他」が 11.2%となっている。

「その他」については、買い物、スポーツ、趣味活動などの回答があった。

図 2-22 日中の主な活動場所【土日祝日】(2つ以内の複数回答、N=267)



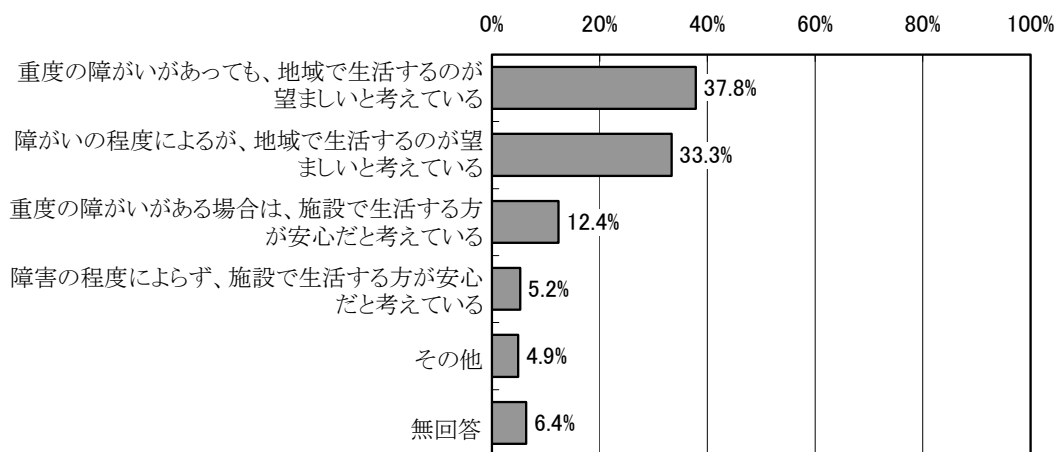


## 【地域生活について】

### 問 14 障がい者の地域生活について

障がい者が、地域で生活することについて、家族はどのように考えているかについては、「重度の障がいがあっても、地域で生活するのが望ましいと考えている」が37.8%と最も高く、次いで、「障がいの程度によるが、地域で生活するのが望ましいと考えている」が33.3%となっている。

図 2-23 障がい者の地域生活について (N=267)



### 問 15 将来の暮らしについて

#### (1) 将来、親と一緒に暮らせなくなった場合の生活

将来、親と一緒に暮らせなくなった場合、具体的に誰と、どこで、どのように生活させたいかをたずねたところ、主な意見は以下のようにになっている。

##### 《施設やグループホームへの入所》

- 地元に入所できる事業所があってほしい。
- 信頼できる事業所の方と家庭的な雰囲気のある場所（グループホームなど）
- 同じような仲間と安心して任せられる地域のケアハウス。
- 障がいに合った施設を行政と相談し、入所させたい。

##### 《自立》

- 結婚して自立してほしい。
- 兄弟が様子を見に行きやすい地元で一人暮らしをさせたい。
- 仕事に就いて、自立してほしい。

##### 《兄弟など身内と生活》

- 兄弟の自宅で暮らすことになると思うが、経済的に成り立つのか不安。
- 日中一時支援やデイサービスを利用しながら、兄弟の負担をなるべく少なくし

て、一緒に生活できたらと思う。

#### 《その他》

- 今が精一杯で先のことはまだ考えられない。

### (2) 将来の暮らしのための支援

将来、どのような支援があれば希望した生活ができるかをたずねたところ、主な意見は以下のようにになっている。

#### 《国の支援等》

- 一人ひとりのニーズに対応できるグループホームが、安定した運営ができるような補助。
- 福祉の補助の増額と暮らしやすい制度。
- 市や国が積極的に支援、援助、相談などをしてほしい。家庭内だけでは大変で、行き詰ってしまう。

#### 《施設等の確保》

- 重度身体障がい者が入所できる施設を増やしてほしい。
- 地域に入所施設をつくってほしい。
- 肢体不自由でも受け入れてくれる施設が増えるといい。

#### 《働く場の確保》

- 障がい者雇用の拡大。
- 入所しながら小規模作業所にて仕事ができればよい。

#### 《自己負担の軽減》

- ヘルパー報酬の向上と自己負担の軽減。
- 自己負担が少なく、障がい者各人の生活に合ったプランの組める支援があればよい。

#### 《サポートしてくれる人》

- 24時間体制の介護サービス。
- 訓練を受けた信頼して任せられるヘルパーさんたちをたくさん育成してほしい。
- 施設に介助員、看護師、理学療法士、作業療法士、医師がいて、寝たきりにならないようにケアができること。
- ボランティアの充実。
- 相談員の派遣。

#### 《その他》

- 支援を受けていくうえで、あまり制限をしないで、本人が希望することがスムーズにできればよい。
- わからない、不安である。

### (3) 将来の生活に備えて行っていること

将来の生活に備えて、今、行なっていることはあるかをたずねたところ、主な意見は以下のようになっている。

#### 《貯蓄》

- 将来のために少しでも貯金をすること。
- 扶養共済への加入。

#### 《自立訓練》

- 介助ができるだけなくなるよう自立訓練。
- 周りの人とコミュニケーションが取れるように言葉の訓練など。
- 生活が自立できるよう就職を考えている。

#### 《人との交流》

- 親以外のヘルパーさんから介護されることに馴れること。
- 積極的に地域の行事に参加したり、いろいろなところへ外出をし、子供のことを理解してもらえるように心掛けている。
- 同じ事業所と長く付き合い、ヘルパーさんに子供のことをよく知ってもらう。

#### 《父母・家族会等での活動、運動》

- 親の会で運動を進めている。支援してもらえる組織、人を育てている。
- 同じ障がいをもつ父母達と新施設を立ち上げる活動をしている。
- 親から離れても安心、安全に暮らしていけるよう、父母会や家族会を設置し、多種多様の運動をしている。

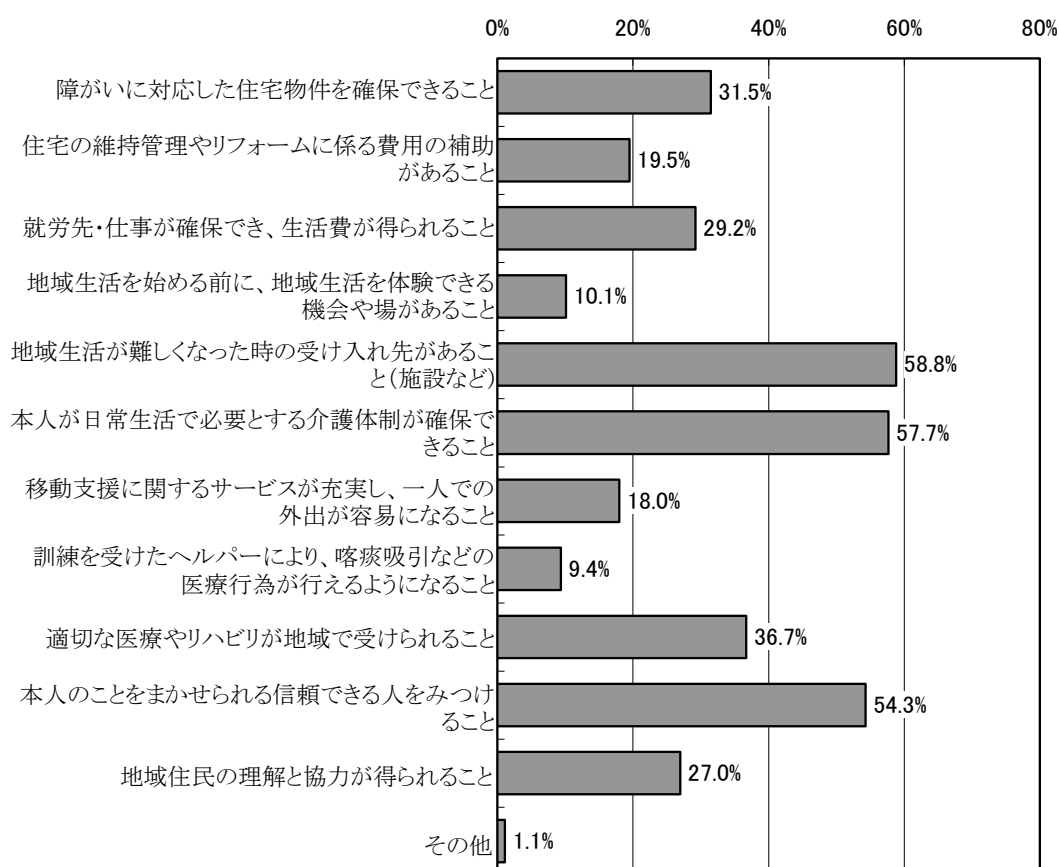
#### 《その他》

- 自宅のバリアフリー化。
- 将来のことは不安ですが、目の前の問題で一杯です。

## 問 16 障がい者が地域生活を続ける（始める）上で必要なこと

障がい者が地域で生活を続ける（あるいは始める）上で必要となることについては、「地域生活が難しくなった時の受け入れ先があること（施設など）」が58.8%と最も高く、次いで「本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できること」が57.7%、「本人のことをまかせられる信頼できる人を見つけること」が54.3%となっている。

図 2-24 障がい者が地域生活を続ける（始める）上で必要なこと  
(3つ以内の複数回答、N=267)



## 問 17 地域で生活を続ける上で困っていること、希望すること

「問 16」で回答した項目について、地域生活を続ける（あるいは始める）上で、困っていることや希望することがあるかについてたずねたところ、主な回答は以下のようになっている。

### 《住宅の維持管理やリフォーム費用の補助》

- スロープをつけたいと申し込んだが、補助を断られた。
- 今は、住宅にかかる費用がかかりすぎるため、リフォームができない。補助があると助かる。

### 《就労先・仕事の確保》

- 就労先、仕事の確保が一番難しいと思う。
- 就労先がない、あっても低賃金で、利用料がとられるのでは生活できない。
- 地方では就労先がない。

### 《地域生活を体験できる機会や場》

- 施設入所でも地域生活を体験できれば良いと思う。

### 《地域生活が難しくなった時の受け入れ先》

- 入所できる施設を増やしてほしい。
- 安心して任せられる施設が少ないこと。
- 医療と療養が一緒になっている施設がもっとあれば安心できる。

### 《日常で必要とする介護体制の確保》

- 介護体制で数多くの人が家に入出入りするの考えもの。サービスを細分化しないで、トータルで考えてほしい。
- 重度の障がいがあっても外出できる力、体力があるので、通所できる場所を増やしてほしい。
- ショートステイで施設を利用しても、人手不足で十分な介護が受けられていない。

### 《訓練を受けたヘルパーによる医療行為》

- 医療行為ができるようにしてほしい。そのために利用できる場所がない。
- 医師の確保と医療行為を行える人を増やしてほしい。
- 喀痰吸引などをできるヘルパーさんを頼めるところが近くにはない。

### 《地域での適切な医療行為やリハビリ》

- 近くの民間の病院でのリハビリを可能にしてほしい。もしくは、訪問リハビリの充実。
- 地元を受け入れ施設がない。子供のリハビリを受けられない、障がい児を診られる医者がいない。
- 町内で、その人に合ったしっかりとしたリハビリが受けられる場所。

《本人のことをまかせられる信頼できる人》

- 信頼できる世話人がほしい。
- 親が安心して頼めるヘルパーが育ってほしい。
- 重度で意思疎通が難しいので、信頼できる理解者（親に代わる）がいることが第一だと思います。

《地域住民の理解と協力》

- 地域生活が難しい。他人はなかなか障がいに対して理解がない。

《その他》

- 施設やヘルパーは、今後必ず必要となると思うので、施設やヘルパーの質を上げるために、もっと賃金や補助金等も増やして、安全な将来をつくってほしい。
- 学校によっては薬、訓練もできない等、子供にとって今大切なことをしてくれないため、その学校を選ぶことができず、該当する学校がなかなか見つからない。
- 施設が運営していけるように、道や国の支援費の予算付けをお願いしたい。施設が存続していかなければ、一番困る。
- 後見人制度のことや成人の障がい者が入れる施設情報など、もっとわかりやすくなっている文章や、情報があるといいと思う。

## Ⅱ 住まいの運営主体に対する調査

### 1 調査票の発送数と回収状況

「住まいの運営主体に対する調査」では、「Ⅰ 肢体不自由児者の住まいに関する調査」で全国から寄せられた情報のうち、名称や住所などの詳しい情報があった 39 件について、その運営主体あてに調査票を発送した。

また、その他に事務局が入手した情報に基づき、追加して 2 件の運営主体に調査票を発送、合計で 41 件発送し、回収数は 19 件（回収率 46.3%）であった。

表 2-7 発送先の内訳

	件数
全国調査	31
道内調査	8
事務局追加	2
合計	41

### 2 調査票の発送先の詳細

調査票の都道府県別の発送数は、表 2-8 の通りとなっている。また、そのうち、調査票の返送があったのは、12 都道府県 19 件であった。

発送先	通数
北海道	9件
青森県	2件
福島県	2件
埼玉県	2件
千葉県	1件
東京都	4件
神奈川県	9件
富山県	1件
石川県	1件
愛知県	1件
滋賀県	3件
京都府	1件
兵庫県	1件
和歌山県	1件
鳥取県	1件
愛媛県	1件
宮崎県	1件
合計	41件

### Ⅲ 住まいの運営主体に対するヒアリングおよび視察調査

#### 1 肢体不自由者の住まいに関わる制度等の変遷

障がい者の地域生活支援を先駆的に切り開いてきたのは、身体障がい者を中心とした当事者による長年にわたる自立生活運動の動きである。全国的な動きのなかで、北海道においても30年ほど前から、身体障害者療護施設等を退所して、少数であるが地域生活をする動きが出てきた。「どんなに障がいが高くても地域で皆と同じように暮らしたい」という障がい当事者が中心となって、自立生活の動きが始まった。

1970-80年代は一部の市町村を除き、ホームヘルパーといっても、毎日の派遣は困難であったし、夜間や休日の派遣も対応してもらえず、ご本人の希望に沿ったきめの細かいヘルパーの派遣は程遠い状況であった。したがって、入所施設を出て地域でのアパート暮らしを始めた障がい者にとって、公的ケア以上に、大半をボランティアに頼らざるをえない時代であり、住まいの整備も進んでいなかったため、特別な障がい者しか現実的には地域に出て生活することは困難であったといえる。

なお、制度的にはその後、身体障がい者福祉ホームにより住まいの整備がすすめられたが、身体介護の必要な肢体不自由者にとっては、なかなか十分な制度とはいえなかった。

また、障害者自立支援法が施行され、グループホームやケアホームも充実してきたが、知的障がい者と精神障がい者に限定され、肢体不自由のみの障がい者の利用はできなかった。

一方で、肢体不自由者の入所施設からの地域移行もすすみ、地域のなかでの肢体不自由者の住まいのあり方について、さまざまな制度の活用やインフォーマルな活動により実践も行われるようになってきている。



## 2 ヒアリング先の概要

「住まいの運営主体に対する調査」を発送した 41 件のうち 12 件について、住まいの運営主体に対するヒアリングと、住まいの視察を行った。

ヒアリング・視察先の選定にあたっては、開設の経緯や背景、住宅の状況、入居者の状況などについて、多様な事例を把握できるよう留意した。

12 件の視察先の概要は、表 2-9 のとおりである。

なお、37 ページ以降の事例については、当該住まいの責任者・担当者などからヒアリングした内容を整理したものである。運営費などの数値については、各運営主体によって事業形態も異なるため、共通のルールに基づいたものではないため、あくまでも参考数値として情報提供いただいたものとしてご理解願いたい。

表 2-9 ヒアリング先の概要

	名 称	所在地	運営主体	概 要			
				入居者	住宅・生活の方法	制度利用	基本的な考え方
1	あおば生活ホーム「俊」	兵庫県 西宮市	任意団体	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者 身体障がい者	一軒家 共同生活をベース としつつ、独立した 生活	生活ホーム制度(兵 庫県、2009年度か ら西宮市)	重度の障がいがあ っても地域で生活 できる仕組みを整 備
2	あずましや支援ハウス	青森県 五所川原市	有限会社	身体障がい者	集合住宅 共同空間もあるが、 基本は独立	制度利用なし	プライバシーが守 られ、個人の意思が 尊重される生活の 場
3	生活ホーム「オエヴィス」 「もんでん」	埼玉県 越谷市	社会福祉 法人	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者、知的障がい者 身体障がい者	一軒家 共同空間もあるが、 基本は独立	生活ホーム事業(埼 玉県)	
4	よつばホーム	神奈川県 横浜市	運営委員会	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者 身体障がい者	一軒家 共同空間もあるが、 基本は独立	障がい者グループ ホーム運営助成制 度(横浜市)	障がい者の生活の 場づくりと、介護者 である親のレスパ イトを実現
5	グループホーム「ゆい」	神奈川県 横浜市	社会福祉 法人	身体障がい者	一軒家 共同空間もあるが、 基本は独立	障がい者グループ ホーム運営助成制 度(横浜市)	
6	IL ホーム 「ソレイユ小倉寺」	福島県 福島市	特定非営利 活動法人	身体障がい者 その他障がい者 一般	集合住宅 独立型であるが、共 有スペースも用意 されている	制度利用なし	障がい者だけでは なく、いろいろな人 が生活する場

	名 称	所在地	運営主体	概 要			
				入居者	住宅・生活の方法	制度利用	基本的な考え方
7	多機能型地域交流ハウス 「があだばーと」	北海道 室蘭市	任意団体	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者 知的障がい者	一軒家 共同生活をベース としつつ、独立した 生活	制度利用なし	施設入所ではなく 地域の人々と地域 の中で生活できる 場
8	ケアホーム・野ぶどう	北海道 伊達市	社会福祉 法人	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者 知的障がい者		地域政策総合補助 金の助成（北海道） 助成金（伊達市）	養護学校卒業後も 地域生活を継続で きる場
9	笑い太鼓グループホーム 「パークサイド」	愛知県 豊橋市	任意団体	高次脳機能障害の 方		制度利用なし	
10	身体障がい者の生活の場 「まちなか」	富山県 富山市	特定非営利 活動法人	身体障がい者	一軒家	制度利用なし	地域生活へ踏み出 す第一歩としての 場を提供。ここにと どまるのではなく、 通過点。
11	すまいるはーと	鳥取県 米子市	特定非営利 活動法人	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者	一軒家 1階で日中一時支 援実施、2階が居住 スペースとなる予 定	制度利用なし	
12	フロンティア	北海道 札幌市	個人	身体障がい・知的障 がいの重複障がい 者 身体障がい者	集合住宅 独立型であるが、共 有スペースも用意 されている	制度利用なし	支えあえる仲間と 一緒に、自分らしい 地域での普通の生 活を目指す

### 3 ヒアリング結果

## 事例1 あおば生活ホーム「俊」(兵庫県西宮市)

### 【1】住まいの概要

名称	重度障害者地域生活ホーム あおば生活ホーム「俊」
運営主体	あおば福祉会 (任意団体)
開設年月日	2000年1月 (98年設計、99年着工)
居住者数	男性ホーム(入居者・世話人・ヘルパーは男性、アルバイトは男性2名・女性4名) ・「俊」を本拠にしている(ほぼ365日ホームで生活) 3名 ・「俊」を本拠にしている(土日だけ自宅の方) 1名 ・自宅と半々の生活をしている人 3名 ・その他、随時宿泊場所として利用している人 2名
居室の状況	8室(すべて個室)、広さ7.76㎡(4.7畳)掃出しの窓 各個室にエアコン・テレビアンテナ配線・簡易スプリンクラー等 ※3室は居住している3人、6人が日にちで3部屋をシェアしている
共有スペース	・風呂 1カ所 ・トイレ 2カ所 ※汚れた物を処理できるシンクがある脱衣所につながっており、脱いだ服をすぐに洗濯に回すことができる ※2カ所あるので、1人の時間が長くかかっても困らない ・台所 1カ所 ・居間と食堂 1カ所
環境	閑静な住宅街の中にあり、JR西宮駅と阪急夙川駅からも徒歩で約15分と近く、生活に便利などところにある

外観：2階は知的障がい者のグループホーム(入口は中央の階段口)



## 【2】開設の経緯

### <大家さんとあおば福祉会>

- ・大家さんが、震災で更地になった土地に、「障がい者が住める家を建てたい、ついでに、1F部分の運営をまかせたい」という話が、あおば福祉会にあった。

※「あおば福祉会」は、通所施設「青葉園」に子どもを通所されている親（青葉会）と青葉園を運営する西宮市社会福祉協議会の関係者が、将来に備えて、障がいがあっても生活していけるホームをつくらう、という考えをもった仲間で作られた任意団体である。

### <開設にあたって>

- ・生活ホームで生活するにあたっては、2003年4月より支援費支給が始まり生活ホームでのホームヘルパーの利用が認められることになった。生活ホーム事業の赤字を少しでも解消すべく2004年に、「NPO法人 西宮がすきやねん」を開設、ホームヘルパー派遣事業を手がけることにより、より個別的な支援が出来るようになった。

### <設計からの関わり>

- ・2階は社会福祉法人一羊会の運営する知的障がい者授産施設「すずかけ作業所」のメンバーが中心となったケアホーム、1階が、重度身体障がい者の生活の場として、構想されていた。建物の設計から関わり、設計に1年を費やした。座位の保持が難しい方でもゆっくりと入浴できる広い風呂場、2ヵ所のトイレ、トイレと脱衣所の行き来ができるような工夫など、これまで一般住宅の賃貸では、不便と感じていたことを解消することができた。

### <あおば福祉会の負担>

- ・当初の設計では、全部で6,000万円の建設費用となる予定であった。主に消防法の関係で、簡易スプリンクラー・自動警報装置・避難誘導灯の設置を指導され、2,000万円の不足がでた。すずかけ作業所とあおば福祉会で折半し、1,000万円ずつ負担した。あおば福祉会は、その費用を、青葉会の上位団体である西宮市肢体不自由児者父母の会から借り入れ、10年で返済することになっている。

居間での様子：それぞれの休日。ゆっくり過ごす



この日は台所で学生アルバイトが夕食の準備中



居間で過ごす居住者



広く機能的な風呂



部屋の様子：部屋で過ごすより居間にいる方が多い



玄関口：庭木の奥に玄関があり、表札がある





### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

- ・西宮市の独自事業として「身体障害者生活ホーム」が位置づけられている。1ホームあたり、年間約450万円（家賃補助込み）の事業費が計上される。しかし、家賃補助込みで約450万円では、一人分の人件費にもならない。
- ・家賃補助は一カ所につき7万円、家賃は一カ所につき15万円。
- ・生活ホーム「俊」は8室あり、2ホーム分として計算されるので、約900万円の補助がある。その内、家賃として年間360万円支払っている。

※もともとは兵庫県の制度として「身体障害者の生活ホーム事業があったが、2009年3月に、廃止になり、同年4月より西宮市が引き継いで実施している。

#### <運営費の構成（1年間）>

①居住者からの家賃・管理費	約400万円
②市からの補助金	約900万円
③寄付金	約250万円
合計	約1,550万円

#### <収支の状況>

- ・職員として6名雇用している。そのほか2人が臨時職員。アルバイトの学生が4名。生活ホーム「俊」の人件費等で2,100万円くらい。それだけで年間約500万円の赤字がでている。

#### <個人負担>

家賃 6万円 : 入居者（3人分）、水道・電気・夜間及びヘルパーの時間数が足りない部分の介護

食費 1万5千円 : 朝と夜で1日500円（昼食は外食が多く自己負担）

宿泊代金は、1泊5,000円（ただし、親が倒れた等の理由による場合は2,000円）

※個人への助成だが、西宮市から移動の際に、初乗りを利用できるタクシーチケットが1人60枚提供される。駅までは初乗りでいけるので、天気の良いときや寒い日は助かる

#### <運営上の工夫>

- ・居宅介護を「NPO すきやねん西宮」で受けている。常勤は4人で、他は登録のヘルパー。西宮市のヘルパー支給量は十分ではなく、夜間などは生活ホーム職員で対応している。

#### <支援の上での配慮>

- ・個別支援（ケア）をしている。一人ひとりの生活に合わせた支援を行うことにしているので、例えば、土曜日にまとまって外出するというものもない。外出先であうこともある。
- ・1日何回も洗濯をし、清潔にしている。汚れ物はトイレで着替えて、すぐ横の脱衣所で洗濯機をまわせるようになっている。

## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

### ＜青葉園との連携の状況＞

- ・生活ホームは青葉園の親（青葉会）と青葉園を運営する西宮市社会福祉協議会の関係者が中心になって設立された。日中は青葉園（週3日～5日）に通い、夜は自宅（実家）に戻るといった生活をしてきたが、親が高齢になってきており、地域での生活を続けるために、設置されたことから、園との連携は強い。特に、青葉園は、親御さんが入院する等、長期に渡る急な宿泊の需要に対しては、生活ホームで対応することが多く、お互いに、頼れる存在となっている。

### ＜青葉園について＞

- ・青葉園は、西宮市が設置し、西宮市社会福祉協議会に運営委託している生活介護施設。
- ・青葉園の通所者は調査時点で55人であり、気管切開等の医療ニーズが高い人も10人以上通所している。そのため看護職も配置されている。55人のうち、一人暮らしが8人（女性が7人）、生活ホームでの共同生活も増えてきている。また、自宅とホームの2カ所での生活をしている人もいる。

### ＜生活ホーム＞

- ・あおば福祉会では、「生活ホーム俊」（男性ホーム）のほか「あおば戸田生活ホーム」（マンションの2部屋を利用）、「あおば鳴尾生活ホーム」5ヶ所認可・3つの生活ホームを運営している。他にも青葉園の地域で暮らす一人暮らしの障がいを持つ方に「支援者派遣事業」を行っている（現在は2名）。生活ホームで働く職員を派遣し簡単な金銭管理や生活保護等の行政関係の手続き等を行っている。

### ■課題等について

#### ＜生活ホーム「俊」の人材と人手＞

- ・職員として6人を採用している。新人研修として、大規模施設での実習を組み入れている。ホームでは個々人に対応した生活を支援している。また、相談支援員の呼びかけで、青葉園職員や関係者が集まって「個人支援会議」を開いている。園でもホームでも個別対応であるが、一般に、大規模施設は、集団対応が多い。その現実をみることも勉強だと思っている。
- ・また、世話人としての資質向上のため各種の研修を受けてもらうようにしている。
- ・ホームでの生活は、居宅介護を利用しているが、支給時間が不足しているため、土日は大学生アルバイト（ヘルパー等の資格保持者）で対応している事もある。（12:00から21:00）。大学生には、ここで勉強すること、本を読むことを勧めている。介護の現場だけではなく、広く世界を知ることが重要だと思っている。基本は本人の知識欲にあり、学習する環境を作っている。（ホームにはスタッフの休憩コーナーがあり、本や資料がある。）
- ・3つのホームの職員が集まったの活動報告及び学習会を月に1回開催している。

#### ＜親と本人の関係について＞

- ・本人が年をとってからホームで生活するのは、本人も親もかなり大変なところがある。親は、自分が元気なうちは手元において世話をしたいと思っているが、親が高齢になっ



て倒れてから急に地域での自立生活をするには本人にも負担があるように思う。また、職員もかなりの時間（2～3年）をかけて、対応しなければならず、困難になりがち。現状では難しいが、親、ご本人共に若いうちから、自立に向けて宿泊訓練や一人暮らしへのステップを支援していきたい。

**<支援者会議について>**

- 一人一人のニーズに対して制度の「すきま」がある。この「すきま」をホームが埋めている状況。そのためにも、他の支援者と話し合う「支援者会議」が欠かせない。
- 青葉園での会議は、年間1回以上、必要があれば必要なだけ、本人も参加しての「個人支援会議」を開催している。

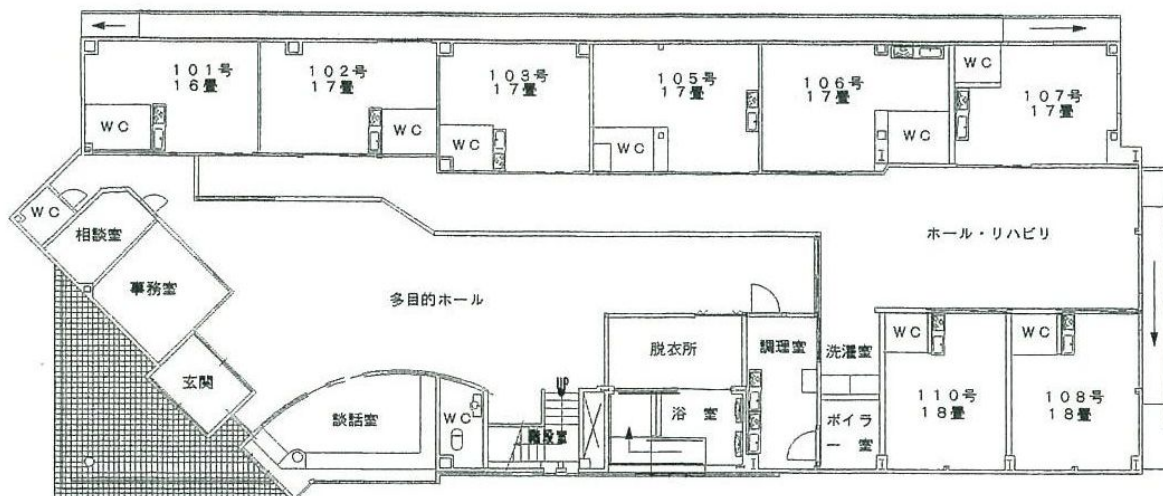
- ホームページ： <http://www.d4.dion.ne.jp/~a5452313/newpage6-6.html>

## 事例2 あずましや支援ハウス（青森県五所川原市）

### 【1】住まいの概要

名 称	あずましや支援ハウス
運営主体	有限会社 挑（イドム）
開設年月日	2004年3月1日
居住者数	男性4人、女性5人の計9名 （うち2名が高齢者：介護保険の要介護2、4）
居室の状況	9室（すべて個室） ※もともと個室は8室だったが、平成19年8月に「どうしても入居したい」という希望があり、1室造設して9室になった。図面は造設前のもので、談話室を居室に変更した。 ・部屋の広さは16畳～18畳程度 ・各部屋にトイレ、洗面台、台所が設置 ・トイレなど、入居時に利用者の希望にあわせ改修
共有スペース	・風呂 1カ所： 週3回（月水金14：30～16：30）が入浴日 ・洗濯スペース ・たまり場的スペース（居室前廊下の延長）
環 境	中心部に近い住宅街に位置しており、周辺にはスーパーや銀行などもあり、生活に便利な立地。支援ハウス横は公園もある。

【あずましや支援ハウス・見取り図】



## 【2】開設の経緯

### ＜開設の経緯＞

もともと障がい者の施設で勤務していたが、入所施設では狭い部屋の中がカーテン1枚で仕切られており、障がい者のプライバシーが全くないことに疑問を感じていた。食事の時間もゆっくり食べたくても、職員に「片付けていい？」と聞かれるとイヤと言えないのが施設の現状である。同じく施設で働いていた妻と一緒に、プライバシーの保てる住まいを作りたいと思ったのがきっかけである。

障がい者のグループホームをやりたいと県へ打診したが、法律上はないと言われ、どういう形がいいかを自分で提案した。当初、制度的に医療法人や社会福祉法人など法人でなければできなかったが、介護保険制度により、だれでも参入できるようになったことから、友人が介護保険のグループホームを立ち上げた。そこで彼の仕事を妻と手伝いながら、やはり自分も身体障がい者のグループホームを作ろうと決意した。障がい者の施設は山の中など不便なところにあることが多いので、街の中の便利なところに作りたいと思い、五所川原の中心部に位置する現在の建物（もともとは焼肉屋だった）を競売で落札。初めから身体障がい者をメインとしたグループホームを作るつもりだった。

### ＜費用負担＞

公的な支援等は全く受けず、全て銀行等の借り入れや自己資金で改築した。  
土地代で2,500万円、改築運営費で5,400万円。

外観



玄関前の廊下（居室前の廊下とは別）



ホール・リハビリスペース



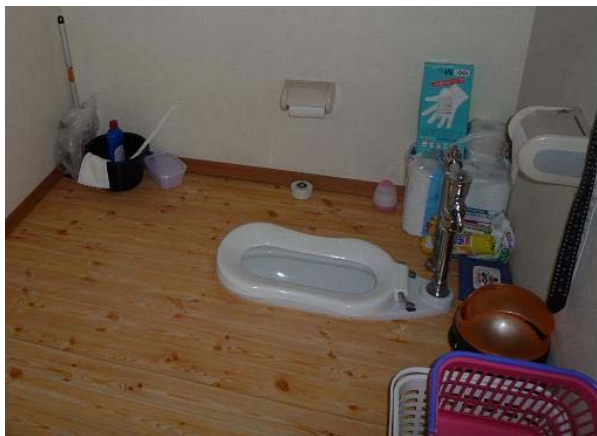
居室前の廊下



居室



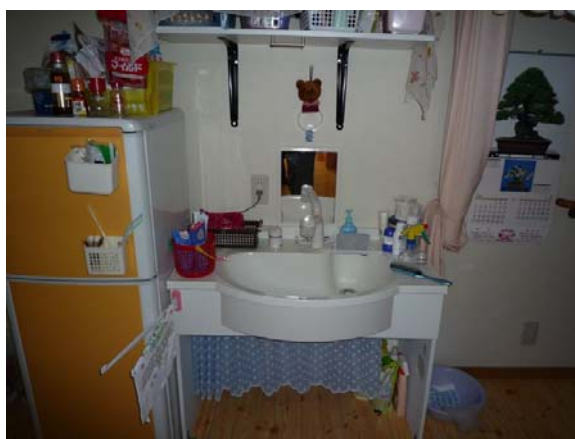
入居者に合わせて改修されたトイレの例



居室の台所



居室の洗面所



洗濯スペース



脱衣所







### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

なし

#### <運営費の構成（1年間）>

①居住者からの家賃・管理費	285万円
②自立支援法による収入	1,920万円
③運営主体の法人（または個人）の持ち出し	100万円
④その他	540万円
合計	2,845万円

#### <個人負担>

家賃：20,000円  
 管理費：12,000円～14,000円（水道光熱費込み）  
 食費：個別の利用状況に応じて負担

#### <運営上の工夫>

・各部屋のなかのトイレなどは、利用者それぞれが使いやすいように入所時に改修を行っ

ている。

- ・支援ハウスの2階は、経営者の住宅となっていることから、夫婦が住み込みで夜間も世話をしている。ボタン一つで呼び出せるようなしくみをとっている。
- ・今後、制度が変更となったときにも対応可能なように、火災報知器を設置したり、ホットラインで消防に連絡が行くようにしているほか、廊下や引き戸などの幅も広くとっている。

## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

### ■課題等について

#### ○職員の確保

- ・ハローワークからの応募があっても、1週間続かない人がほとんどである。ヘルパーの資格を取ってすぐに働きに来る人がいるが、ボランティア精神がなければ家政婦感覚で来てもなかなか長続きしない。
- ・また、実際に関わるのは利用者なので、スタッフを選ぶ際には、利用者にも意見を聞いて決めてもらっている。また、利用者からもどういう介護をしてほしいのか、意見を言ってもらっている。

#### ○運営資金の確保と建物の維持管理

#### <今後の方針・方向>

- ・入浴は週3回であるが、それ以外の日を入浴サービス等に使う予定はない。そもそも、この施設を作った目的は、プライバシーのある生活ができる「家」での生活を利用者が求めているというためであったため、他の人に開放することで住まいとしてのプライバシーが保てなくなるのでは本末転倒である。利益のためでも、利用者が望まないことはしない。
- ・現在、入居待ちの申込者もいる状態である。利用者は1年のほとんどを支援ハウスで過ごし、逆に家族がとまりに来ることもある。将来的には家族も一緒に住めるようなことも考えたい。
- ・パソコンが得意な人も多いので、将来的に入居している障害者自身が施設の経営に関われるようになれば、自分たちで住みよい「家」を作るための工夫ができるのではないかな。
- ・今後、制度が変わって、ケアホームも身体障がい者が可能になるかもしれないが、その場合は、少し様子を見て、メリットがあれば移行し、なければ現行のまま続けていく。

- ・ホームページ：<http://www15.ocn.ne.jp/~azuma/>

### 事例3 生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」(埼玉県越谷市)

#### 【1】住まいの概要

名称	生活ホーム オエヴィス 生活ホーム もんでん
運営主体	社会福祉法人つぐみ共生会 (1995年設立)
開設年月日	〔オエヴィス〕1990年4月1日 〔もんでん〕1995年10月 (通所授産施設くらしセンターベしみ2階に開設)
居住者数	〔オエヴィス〕: 男性2人、女性1人 〔もんでん〕: 女性3人
居室の状況	〔オエヴィス〕平屋5DK。個室は各6畳程度の広さがある。5部屋のうち1室は自立体験支援室として利用。玄関に2畳ほどの土間があり、車椅子などが置かれている。 〔もんでん〕2階建ての2階部分を住居スペースとしている(1階は作業所)。個室は4室あり、各6畳程度。
共有スペース	〔オエヴィス〕 ・居間(食堂) 1か所(8畳程度) ・台所 1か所 ・風呂 1か所 ・洗面所 1か所 ・トイレ 2か所 〔もんでん(2F)〕 ・居間(食堂) 1か所(8畳程度) ・台所 1か所 ・風呂 1か所 ・洗面所 1か所 ・トイレ 1か所 ・エレベーター 1基
環境	東京都心から東武伊勢崎線で30分程度の「せんげん台」駅を最寄り駅とする。駅前には比較的商店など繁華街が形成されている。両ホームは駅から車で7~8分程度のところにあり、周囲は田畑に囲まれたのどかな農村地帯である。

## 【2】開設の経緯

### 〔オエヴィス〕

重度の身体障害を持つ2人の姉妹が、1990年に親の死を機に本家から分家し、新居を建ててもらって独立して生活を始めることになった。しかし、当時は介助制度が何もない時代であったので、1988年から埼玉県が県単事業として行っていた「生活ホーム事業」に申請することになり、入居人員基準（4人）を満たすため、自立生活を希望する入居者を募った。部屋数を増やすため住宅改修を行い、新たな入居者2名を加えて生活ホーム「オエヴィス」がスタートした。

法人格を必要としない事業であるため、当初は姉妹を大家として運営していたが、開設して間もなく姉妹の1人が病死し、2000年にもう1人も亡くなったので、土地・建物は本家の所有に戻し、本家と賃貸契約を結んで運営が続けられている。

### 〔もんでん〕

オエヴィスの設立に刺激を受けた近所の障害者の親が、子ども（現在の入居者の一人）の面倒を見ることを条件に法人に土地を寄付し、建設の計画が進められた。建設費については、1階の作業所（通所授産施設べしみ）に対しては借り入れができたが、2階の生活ホームに対しては制度上借り入れが許可されず、寄付金や路上カンパによる募金で調達。1995年10月開設を迎えた。

### 〔オエヴィス〕

外 観



台所



居 間



居 室





洗面所とトイレ



居室



〔もんでん〕  
外観



廊下



居 間



トイレ



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

- ・埼玉県の「生活ホーム事業」（入居者4人以上と世話人の配置などを開設基準とする。法人格は必要ない。1日1人当たり2,400円を日割りで支給されている）
- ・「全身性障害者介護人派遣事業」（県単）
- ・利用できるあらゆる介護サービスを時間数ぎりぎりまで使って介助者を配置している。
- ・「オエヴィス」「もんでん」とも、入居者のほとんどが生活保護を受給。障害福祉年金だけでは生活が苦しい。生活保護を受けていない入居者は2人いるが、1人は親からの援助を受けており、もう一人は、さいたま市独自の家賃補助を受けている。

#### <サービスの工夫>

- ・各ホームとも、泊まり介助を必要とする入居者がおり、夜間の泊まり介助者を配置している。
- ・移動介助（県単の全身性障害者介護人派遣事業）を利用する際、出発時・帰宅時の一時的ケアにも利用している（移動に関わる介助、という内容）

#### <運営費の構成（1年間）>…「オエヴィス」と「もんでん」の合算額

①居住者からの家賃・管理費	95万円
②埼玉県生活ホーム事業・赤い羽根募金	500万円
③独自事業による収入（体験入居）	12万円（体験入居の申込者から自己負担として1泊2,300円と、県の「暮らし体験事業」として1日1人当たり2,500円を受け取っている）
④雑収入	1万円
合計	608万円

#### <収支の状況>

- ・県の「生活ホーム事業」は4人が入居していることで成り立つように設定した制度であるため、入居者が4人に満たないと、経営が苦しくなる。

#### <個人負担>

家賃 45,000円（生活保護の住宅補助額47,000円に収まる範囲で設定）  
管理費 2,000円～8,000円：電気は個別にメーターを設置しているので、利用状況に応じて負担  
食費 個別の利用状況に応じて負担  
平均的な1ヵ月の生活費は11～12万円。

## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

### ＜ホームでの生活と介助者の配置＞

「オエヴィス」「もんでん」に各1人、世話人として法人の職員が常勤で勤務している。その他のサービス利用については、入居者と世話人が話し合っ調整し、可能な限りサービスを最大限利用し、手厚い人員配置をとっている。

食事の支度は入居者それぞれのヘルパーが時間をずらして別々に作り、食卓または各自の部屋で別々に食べている（冷蔵庫も各自、部屋に設置している）。

夜間の人員については、「オエヴィス」「もんでん」それぞれに夜間の付き添いが必要な入居者が1名いるため、ヘルパーが各1名宿泊している（結果的に他の入居者の介助をすることもある）。

### ＜運営上の課題＞

自立支援法に伴って補助金が切り下げられ、全体的な予算が不足している。人員確保の予算もないため、職員の異動、退職も困難である。

### ＜新規入居者の募集＞

福祉サービスの拡充とともに、自立生活的なサービスの要望が減少し、自立型のホームへの入居希望が少ない（保護者も「施し」的な福祉サービスを求める人が多い）。入居希望者の問い合わせ自体は毎月絶えないが、2級年金では生活費を賄えないため、経済的理由で入居を断念する人が多い。

・ ホームページ : (わらじの会) <http://warajinokai.at.infoseek.co.jp/>

## 事例4 よつばホーム（神奈川県横浜市）

### 【1】住まいの概要

名称	よつばホーム 第2よつばホーム
運営主体	「よつばホーム」運営委員会（2001年3月24日設立）
開設年月日	〔よつばホーム〕2001年10月1日 〔第2よつばホーム〕2004年3月28日
居住者数	〔よつばホーム〕40代男性2人、40代女性1人、50代女性1人、計4人 （本調査中、40代男性1人が長期入院のため退室し3人となった） 〔第2よつばホーム〕男性2人、女性2人、計4人
居室の状況	〔よつばホーム〕 ・平屋一戸建て、敷地面積490.61㎡、ホーム占有面積180.91㎡。 ・7LDK。 ・入居者用個室4室（全室和室6畳で、入居者の希望に応じて車椅子から移乗しやすいように高床式ユニット畳を3畳～4.5畳設置） ・体験入居室1室（和室6畳）、スタッフルーム2室（洋室4.5畳） 〔第2よつばホーム〕 ・平屋一戸建て。 ・7LDK。 ・入居者用の個室4部屋（和室または洋室6畳） ・体験入居室1室（6畳）、スタッフルーム2室（洋室約3畳）
共有スペース	〔よつばホーム〕 ・居間（食堂）1カ所（約40㎡、高床ユニット畳6畳を含む） ・風呂1カ所（脱衣場からのリフト付き） ・洗面所3カ所（うち1つはトイレ内） ・トイレ3カ所（うち1カ所は、衣類の着脱などがしやすいように身体を横にできる台を設置） ・台所1カ所（約4.5畳） 〔第2よつばホーム〕 ・居間（食堂）1カ所（約15㎡） ・風呂1カ所（脱衣場からのリフト付き） ・洗面所1カ所 ・台所1カ所 ・トイレ2カ所（うち1カ所は、衣類の着脱などがしやすいように身体を横にできる台を設置）
環境	（よつばホームと第2よつばホーム間は徒歩数分） 横浜市内の閑静な住宅街にあり、市営地下鉄「新羽駅」から徒歩20分程度。



## 【2】開設の経緯

### ＜障害児地域訓練会の活動からの出発＞

1995年、「地域で生きる障害者を支える会」（以下、支援団体）からの資金提供で、デイサービスの場として「重度障がい者地域作業所よつばホーム」が設立された。その後、レスパイトの概念が浸透し、家族の休息の機会を作るため、レスパイトと宿泊プログラムを組み合わせたナイトケアを開始し、各自、月に1度宿泊するようになった。しかし、家族が高齢化していく中で、レスパイトだけでは重度障がい者の安心した暮らしを保てない、親亡き後にどう生活していくかという現実が差し迫り、1999年からグループホーム開設に向けて動き出した。

### ＜支援団体の活動と試行事業の実施＞

支援団体から市の助成金に応募し、2000年1月からレスパイト宿泊の拡大とグループホーム入居候補者全員を対象とする連泊訓練を行う試行事業を、1年9ヵ月にわたって実施した。バリアフリーに立て替えたばかりの公団マンション（3LDK）の一室を借り、専任職員2名を配置（作業所職員として雇用）、地域のボランティアにも食事づくりなどの面で協力を得ながら実施した。訓練は2泊から始めて徐々に日数を増やし、連泊による介護上の課題や職員の介護力などを個別に確認。その結果と併せて、①緊急度が高い、②親が高齢である、③意思疎通がある程度図れるという点から候補者を絞り込み、同年6月にグループホーム入居者4名を決定した。入居者は生活の視点でナイトケアに取り組み、その他のメンバーも将来的に入居する視点で連泊によるレスパイトを計画した。

### ＜グループホーム建設に向けて＞

試行事業を実施する中、グループホーム建設に向けた諸準備も併行して進められ、規約、マニュアル、支援体制等について、検討委員会や家族会で協議された。神奈川県運営委員会運営型障害者グループホーム設置運営費補助事業の補助金申請のため、2001年3月入居者・家族会・支援団体・地域・行政・関係機関の各代表と学識経験者からなる「よつばホーム」運営委員会を発足。

支援団体が設立準備主管となって、土地・建物を仲介する不動産業者の選定と設計・設備の検討、調度品の調達、福祉機器に係る役所との折衝を進め、各種経費（準備期間の調度品の購入、家賃、職員給与、住居のオプション分建設費、初期費用の立替払い、開所式費用）を負担した。不動産業者は、当時、「福祉部」を設立していたN不動産に決定。不動産業者を介して土地を探し出し、業者を間に入れながら交渉を進め、オーナーと賃貸契約を結んだ。間取りや内装などは支援団体自らが設計し、オーナーと交渉しつつ取り決めていった。基本的な住宅の建設費用はオーナーの負担で、バリアフリー仕様に係る部分については、借主側の負担で建設した（個室内のカーテン・エアコンなどは入居者各自で、個人負担で取り付け）。

### ＜グループホーム開設＞

2001年10月によつばホーム（1号）を、2004年3月に第2よつばホームを開設。どちらも同じ不動産業者と設計士に依頼した。

〔よつばホーム〕

看 板



外 観



台所のカウンターと食卓



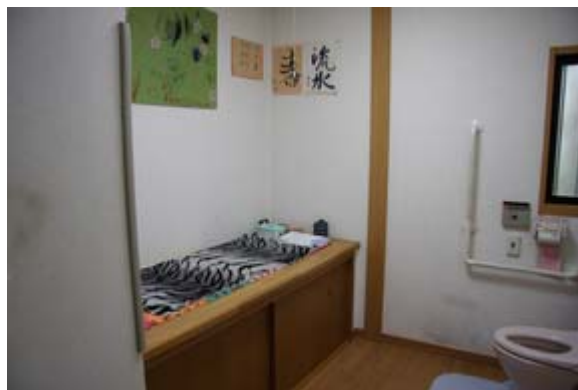
居 間



洗面所



ベッド付きのトイレ



脱衣場のリフト



風呂場



〔第2よつばホーム〕

外 観



玄 関



廊 下



食 堂





居 間



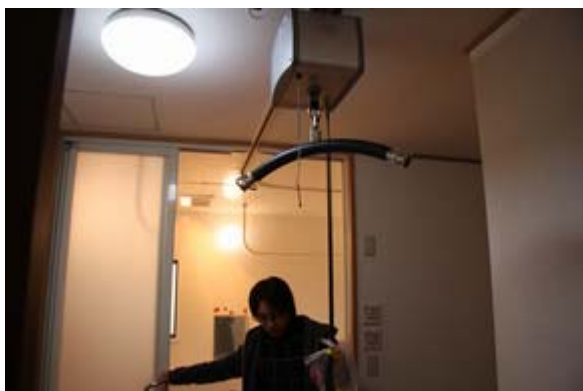
スタッフルーム



風呂場



脱衣場のリフト



トイレ内に設置のベッド



トイレ





### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

- ・運営委員会運営型障害者グループホーム設置運営費補助事業（昭和 60 年に開始した県単事業。法人格を有しない運営委員会が設置・運営するグループホームに対し、運営費等を補助。）
- ・「よつばホーム」運営委員会を設置し、よつばホームと第 2 よつばホームに対してそれぞれに支給されている。
- ・大家から請求される賃料 38 万円/月を入居者 4 人で割り、その半額（47,500 円）が入居者 1 人当たりに補助されている。

#### <自主的な資金づくり>

- ・家族会が主催するバザーやチャリティコンサートの収益の一部を必要に応じて配分を受けている。

#### <運営費の構成（1 年間）>

##### [よつばホーム]

①居住者からの家賃・管理費	700 万円
②公的な補助金	1,100 万円
③その他	200 万円
合 計	2,000 万円

##### [第 2 よつばホーム]

①居住者からの家賃・管理費	700 万円
②公的な補助金	1,100 万円
③その他	200 万円
合 計	2,000 万円

#### <収支の状況>

- ・トイレ等に設置する電気ストーブや、床暖房といった新たに導入する設備や機材、メンテナンスの費用、人員を増やしたり、職員待遇についても考慮していかなくてはならないが、現在の補助金額ではカバーすることができない。

#### <個人負担>

家 賃	50,750 円
水道光熱費	個別の利用状況に応じて負担
食 費	個別の利用状況に応じて負担

## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

### ＜地域の理解と協力＞

開設する前、他の団体が同じような住まいを建設しようとして、住民の反対に遭って直前で計画が中止になった事例があった。事前に地域の理解を得ておく必要を強く感じ、開設前に民生委員の集まりなどに入居者と一緒に挨拶と説明をしに行った。一般の住宅ではあるが、地域の一員として存在を知ってもらい、また災害時などに気にかけてもらう必要もあるので、地域に対して自ら開いていくことを意識している。開設後は毎年4月上旬にホームの庭を会場に地域交流会（バザー）を開催して、スタッフのボランティアを地域から募集して、一緒に開催しつつ交流を深める機会としている。また、「TAWAWA たわわ」というB5版4ページの広報紙をNPO法人地域で生きる障害者を支える会から毎月（8月を除く）発行し、近隣に回覧している。

### ＜医療的ケアの体制づくり＞

重度障害者が多く、定期的な診察と緊急時の体制が必要であるため、訪問看護センターとの契約で月に1度の訪問と、2ヵ月に1度ホームドクターの往診を受けている。

### ＜人員体制づくりと人材の確保＞

両ホームとも、それぞれ常勤2人と非常勤2人の計4名ずつ雇用する他、アルバイト、専任ヘルパーでシフトを組んでいる。職員1人とアルバイト1人の2人体制を基本としているが、16時から22時までの食事・入浴の時間帯は勤務時間が重なり4人～6人のスタッフがいることが多い。第2よつばホームについては、夜間1対1で添い寝する必要があるため、3名が重度訪問介護を利用することで4人の介助者が宿泊できる体制をつくっている。

よつばホームと第2よつばホームは徒歩数分の距離で、相互に人員を補ってやり繰りしている。しかし、現在の補助金では、安全でゆとりのある生活を保つだけの人員を確保することはできず、また、職業柄、スタッフの定着率も高くないため、人材不足が慢性化している。求人募集しても、重度障害者に適確に対応できる介助者の絶対数が少なく、人が集まらない。専任ヘルパーの養成研修の実施や、定着化を図るための職員待遇の保障、職員が安心して業務に専念できるように経営の安定化を図ることが不可欠と考えている。

### ＜ホームでの生活＞

開設当初は、入居者は短い日数で宿泊の練習をし、少しずつ日数を増やしてホームでの生活に慣らしていった。原則365日型のホームであるが、肉体的・精神的負担を考慮して、土日に実家に帰る形態をとっている（第1ホームは日～月曜日朝まで、第2ホーム土～日曜日）。食事は入居者全員と一緒に食卓を囲んでいる。

### ＜NPO法人化について＞

将来的には、NPO法人化することで国の補助金を得られやすいなどのメリットが出ると判断されれば、NPO法人化を図っていききたいと考えている。

ホームページ：なし

## 事例5 グループホーム「ゆい」(神奈川県横浜市泉区)

### 【1】住まいの概要

名称	グループホーム「ゆい」(I号館からVI号館まで6カ所)
運営主体	社会福祉法人横浜市社会事業協会 よこはまりバーサイド泉
開設年月日	・2002年にI号館を開設以来、ほぼ毎年1カ所の開設。 ※以下の事例は、ゆいIII号館の状況
居住者数	・女性ホーム ・4人
居室の状況	・平屋6LDK(入居者4人、スタッフルーム、体験入居室)平屋 ・居室は5室(すべて個室)、広さ20㎡(6.15畳) ※体験入居室の利用頻度は多くないが、利用の場合は最大1人30泊まで利用可能。
共有スペース	・風呂 1カ所(12㎡) ・トイレ 1カ所(6㎡) ・キッチン・ダイニング 1カ所 ・洗面所 1カ所(6㎡)に洗面台が2つ ※基本的に独立して生活しており、入居者が一緒にダイニングで過ごすという光景はほとんど見られない。
環境	住宅街の中にある。相鉄いずみ中央駅に近い。大きなスーパーが1カ所近所にある。

### 【2】開設の経緯

#### <入所施設における閉塞感>

- ・現在、法人として、グループホーム「ゆい」を6棟建設し、運営している。第1号館の開設が平成14年である。
- ・その背景には、当時、他の法人で地域生活のための施設整備が始まってきたが、自分達は地域で何も展開できていなかったことへの「閉塞感」のようなものがあった。
- ・そこで職員と家族も含めて勉強会を始めた。その中から、グループホームの整備を検討するに至った。また、こうしたことができたのは、横浜市が障がい者グループホーム等に対して助成を行っていたことが拠り所となった。

#### <設計からの関わり>

- ・設計にもかかわっている。細かい注文も聞いてもらっている。1軒づつマイナーチェンジを要求している。



### <不動産事業者の協力>

- ・地元の不動産会社で熱心な社長がいた。建設会社も所有している。(また、地域の民生委員をしており、福祉に理解があった。)
- ・不動産会社が地主から土地を借り受けて、グループホームを建設する。これを 20 年一括契約で借り上げる方式としている。
- ・6 軒にもなると、分かってくれていると思う点もあるが、例えば、トイレの鍵など重くなっているなど、意外なところで、変更になっていることがあり、注意しなくてはいけないと思うことがある。

外観：平屋の大きな一軒家



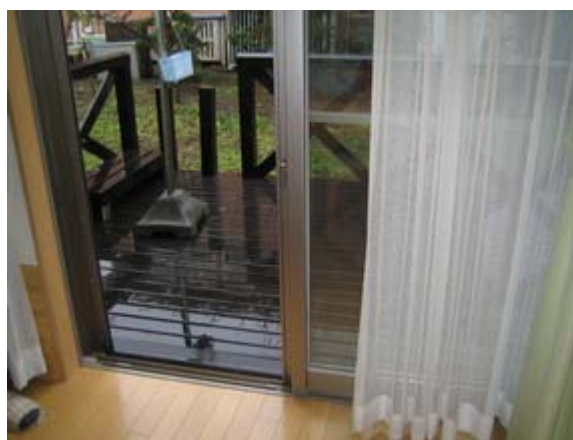
台所



居間のダイニングテーブル：朝食と夕食はここでとる。入居者が一緒に団欒するということはほとんどない。



ダイニングキッチンからデッキ、芝生の庭に降りることができる



洗面台：車椅子でも使用できる。左手にペーパーの取り出し口。



広めに作った風呂場



スタッフルーム



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

- ・賃貸契約で、大家に付に 35 万 4 千円を支払っている。市から半額 17 万 7 千円が補助されている。あとの 17 万 7 千円を入居者 4 人で割ると、1 人の家賃が 44,250 円になる。

#### <運営費の構成（1 年間）>

①居住者からの家賃・管理費	420 万円
②市からの補助金	1,125 万円
合 計	1.545 万円

#### <個人負担>

- 家賃 44,250 円
- 管理費 15,000 円
- 食費 （個別の状況にあわせて）20,000 円程度の人が多い  
食事は、食材提供「タイヘイ」から買っている。各自好きな食材を注文する。
- 光熱費 利用に応じて個人負担
- その他：利用料として 28,000 円  
(宿直対応の費用として負担してもらっている)

#### <運営上の工夫>

- ・居宅介護は入居者が自分で事業所を選んでいる。法人としても、居宅介護事業所を運営しており、入居者に利用されている。
- ・夜間、宿直を置いている。グループホームスタッフという「職員」で夜間の介護に対応している。

### 【4】現状と課題、今後の方針・方向

#### ■課題等について

##### (1) 運営資金の確保

- ・運営費補助と家賃では、すべての時間にスタッフを置くことができず、入居者が、28,000 円の自己負担をしている。利用者も経済的に裕福ではないので、苦しいところ。

##### (2) 人材の確保

- ・夜間宿直は 1 人配置している。夜間の介護が体力的にきつく、消耗が激しい。「グループホームスタッフ」として登録が 10 人。多く抱えておきたいが、なり手が少ない。
- ・体験入居は、主婦や学生バイトで対応しているが、意思を伝えられない利用者が多く、技術的な訓練が必要になっている。

##### (3) 施設の修繕費用

- ・消防法施行令の改正に伴う諸設備の修繕や改修が必要になっている。これには、補助がないので、現段階では対応できていない。

- ・ホームページ：なし



## 事例6 ILホーム「ソレイユ小倉寺」（福島県福島市）

### 【1】住まいの概要

名称	ILホーム ソレイユ小倉寺
運営主体	NPO 法人 ILセンター福島
開設年月日	2009年4月1日開設予定
居住者数	15室
居室の状況	<p>2階建て 全15部屋（1階に7部屋、2階に8部屋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に全部屋が独立し、すべての部屋は個別の玄関とバス・トイレ付になっている。</li> <li>・1階の部屋は、それぞれ独立した玄関から出入りするようになっているが、部屋の奥に「勝手口」があり、そこから共用の「コモニユーズ」につながっている。</li> <li>・コモニユーズには、「コミュニケーションサロン」として共同で利用できる台所・カウンターダイニングとリビングルームを設置している。使い方は、入居者の自治管理とする予定。また、広めの風呂とトイレを設置している。</li> <li>・2階は、通常のマンションと同様な造り。1階の共同玄関から、ホームエレベータまたは階段で2階に上がることができ、車椅子でも2階に居住が可能になっている。</li> <li>・駐車場は10区画あり、駐車料金は1月4,000円。</li> </ul>
共用スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風呂（ユニバーサルバスルーム） 1カ所（約5畳、16.5㎡）</li> <li>・トイレ（ユニバーサルトイレ） 1カ所（約3畳、10㎡）</li> <li>・キッチン・ダイニング 1カ所（約20畳、66㎡）</li> <li>・デッキ（1階 約11畳、36㎡、2階 約9畳、30㎡）</li> </ul>
環境	市内住宅街の中にある。
募集要領	<p>3段階に分けて募集した。</p> <p>1段階：地域生活移行する身障者優先（身障者施設や親の会に募集）</p> <p>2段階：障がい者優先募集（障がいの種別や程度を問わず）</p> <p>3段階：一般に向けて募集</p>

### 【当事者の会としての動き】

- ・ NPO 法人 ILセンター福島の代表角野氏、所長の設楽氏は、ともに、当事者で、ともに車椅子で、発語に障害をもっている。
- ・ 30年前、角野氏は入所施設を出て地域で暮らし始めた。社会的な支援がない中で、共同作業所から開始し、自活を目指してきた。当時の作業所は職員を雇用することもできず、学生のボランティアをお願いした。学生のボランティアはあてにならないところもあるが、とにかく、ここにくれば何かの支援があるということで、障がい者の受け入れをしてきた。

## 【2】開設の経緯

### ＜平成18年の研究会議論がスタート＞

- ・平成15年に地域福祉ワークショップを行い、地域の障がい者に不足している社会資源は何かを考えた。自立支援法がスタートした平成18年、『障がい者の地域生活ニーズに対応する住居の確保に関する研究会』を立ち上げ議論を始めた。
- ・研究会は、学識経験者や議会議員、建築家、当事者も入って議論してきた。必要なものは障がい者が自立生活できる住宅。当時、市営住宅で身体障がい者が暮せる住宅が6軒あった(角野氏もそのうちの1軒に住んでいる)。6軒ばかりに頼ってはられない、自分達でつくろうということになったが、その後、暗中模索の議論を続けた。
- ・研究会では、全国の障がい者対応の住宅を視察に訪れた。
- ・平成19年3月に、報告書をまとめ、住宅確保の方向性を示した。
- ・平成21年2月現在、6人の入居が決定。3月から一般への募集を開始した。

### ＜地域生活移行への対応＞

- ・これから国は、施設解体、地域生活移行を進めるというが、長く施設で生活している障がい者が、ぽんと「出て」と言われても対応できない。そうした人への支援として何かしようと考えた。
- ・施設にいと、与えられることに慣れてしまい、準備が必要だと議論した。

### ＜住まいへのこだわりと設計への注文＞

- ・こだわったことは「プライバシーの確保」と「一緒にいることの安心感」の両立
- ・1階の真ん中に大きなリビングを設置し、一見すると、グループホームにみえるが、リビングに面した出入り口は、あくまでも「勝手口」としている。
- ・2階は、完全に独立した住居。1階の玄関から入ったホームエレベータから2階に上がることができ、車椅子でも生活可能。
- ・障がい者だけの住宅だと、ミニ施設になってしまうのではないかと、というおそれがあり、一般の人でも入居できる住宅を考えた。

### ＜建築設計士の協力＞

- ・研究会から参加してもらい、議論してきた。
- ・設楽氏の友人。

### ＜ILセンター福島の事業概要＞

- ・居宅介護、重度訪問介護、移動支援(以上、自立支援法)、訪問介護、予防訪問介護(以上、介護保険法)の介助サービス事業
- ・障がい者の相談支援事業(ケアマネジメント)
- ・ピアサポート
- ・移送サービス
- ・2009年(平成21年)に介護事業として「ナイトヘルプサービス」も始める予定。

共同の玄関口



外観：それぞれの部屋の表玄関（目隠しされている）。車椅子も可能



共同玄関口を入ってすぐ、2Fへのエレベーター



室内：キッチン



2Fの廊下：独立の玄関があり、通常の集合住宅のようにになっている。



1 F : コミュニティスペース、調理ができるカウンターキッチン



1 F : コミュニティスペースから外のデッキへ。広い扉は開放感がある。1 Fの部屋はこちらに面して「勝手口」がある。



賛否両論 : 透明のトイレの扉 (各部屋用)



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

- ・公的な補助金は受けていない。一般の集合住宅と同じ。

#### <収支の状況>

- ・オーナーは、地主。その人から住宅全体を一括賃貸する。
- ・建設費は1億円弱。
- ・保証金の金額等、法人では検討ができないところは不動産会社に仲介に入ってもらった。

#### <個人負担>

- 家賃 タイプによって異なり、5畳相当 36,000円～13畳相当 53,000円
- 共益費 3,000円
- 光熱費 個別にメーターがあり、利用に応じて個人負担
- 駐車場 月極め 4,000円

#### <ナイトヘルプステーション事務所の併設>

- ・夜間から朝にかけて、電話1本で、ヘルパーが駆けつけるサービス事業所を併設している。

※「ナイトヘルプ」とは、急になんらかの介助や不安への対応が必要になったときに、「電話で対応すること」を「基本サービス」としている。加えて、「ベッドから落ちた」「車椅子の車輪が溝に挟まった」など、思わぬことが起きたときに駆けつける「訪問サービス①」と、夜間巡回で短時間の介助をするための「訪問サービス②」がある。

### 【4】現状と課題、今後の方針・方向

#### ■市内での「住宅」展開

- ・ソレイユのような住宅を市内に増やして行きたい。施設からの移行者数には、まだまだ不足している。

#### ■「ナイトケアステーション」の増設

- ・市内どこでも15分以内に駆けつけられる体制をとっていきたい。現在は1ヵ所なので、概ね30分かかっている。
- ・市内に6ヵ所はほしい。

- ・ホームページ：(ILセンター福島) <http://www.d5.dion.ne.jp/~s-plan21/top.htm>

## 事例7 多機能型地域交流ハウス「がだばーと」(北海道室蘭市)

### 【1】住まいの概要

名称	多機能型地域交流ハウス「がだばーと」
運営主体	在宅生活を考える会「がだばーと」 (任意団体)
開設年月日	2004年12月
居住者数	男性 3名
居室の状況	個室 2室(2階) 相部屋 1室(1階) ※ただし、現在個室の2部屋は利用していない
共用スペース	居間 風呂 1カ所 洗面所 1カ所 トイレ 2カ所 台所 1カ所
環境	JR 東室蘭駅西口から 4.8km 高速道路室蘭 IC から 6.4km

### 【2】開設の経緯

#### <開設の経緯>

- ・高等部寄宿舎(札幌)で培った力を、卒業後も継続するにはどんな方法があるかと考えた。寄宿舎生活に送り出した頃は、続けられるだろうかと不安があったが、卒業するころには、札幌で一人暮らしを望むくらいの精神力がついていた。
- ・施設入所は考えなかった。親同士が協力し合うことで、きめ細かいケアができる共同生活を考えてみた。まずは、寄宿舎生活を経験している3組の親子で始めることとなった。

#### <建物の調達方法>

- ・共同生活を始める際、運営などに大きな不安もあり、短期間の試みになるかもしれないなどを考慮して賃貸住宅を探したが、バリアフリーの住宅を見つけることはできなかった。
- ・インターネットで競売物件を見つけ、不動産会社のアドバイスを受け、落札できた。
- ・落札価格は880万円。取得資金は、協力者・保護者合わせて1,100万円用意した。手続き費用・改修費などに200万円くらいかかった。設立時にはたくさんの方から、家具・食器・日用品などの寄付と、120万円の寄付金が集まった。設立4年間にも約30万円の寄付がある。



外観



玄関スロープ



居室(1階・相部屋)

必要に応じて時間で仕切って利用している。



台所



おもちゃの配電盤：本物にイタズラしないように、触って遊んでもよいものを作成



風呂場



居室（2階・個室）：現在は使用していない。



階段



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

- ・利用していない。
- ・将来を考えると、いつまで親が関われるかと不安になり、知的障害者のグループホームとした方がよいのではないかと悩んだが、①完全に親から離すことへの不安、②地域の拠点（父母の会の会議やサークル活動の場所）として住宅を利用してほしいなどの思いから、多機能な使い方ができるように、公的な制度を利用しないことにした。

#### <運営費の構成（1年間）>

居住者からの家賃・管理費 120万円

※開設時には、120万円の寄付もあり、その後も4年間で約30万円寄付があった

#### <個人負担>

家賃 月～木曜日まで宿泊している2名がそれぞれ4万5千円

週に1泊程度の1名が1万円

合計10万円の中から、4万5千円を家賃としており、残りは管理費や貯蓄にまわしている

※住宅取得の際の出資者に対し、現在まで200万円（2名）を返還した

管理費 1万8千円

※水道光熱費、食費を含む

しかし、当番の父母達も食事をしたり食材も持ってきたりするので、正確な金額ではない

#### <建物の改修>

- ・開設時

①フローリング床にクッション材を敷いた

②今・トイレ・台所のドアを吊り戸に



③L字階段を直線化

④2階押入れを部屋から分離して、一部屋にした

・開設から4年の間

①玄関前にスロープを設置（制度利用）

②玄関前を舗装

③出入り口が玄関のみなので、居間から出入りできるようにサッシを交換（財団の助成を受け、4分の1の自己負担があった）

④和室を洋室に改修（財団の助成を受け、4分の1の自己負担があった）

#### <生活の支援>

・自立支援法でホームヘルパーを利用しているほか、保護者の希望で、食事や泊まりの当番をしている。また、月2回食事ボランティアと見守りボランティアをお願いしている。

#### <除雪・除草>

・除雪・除草は業者に依頼。除雪は年3回。そのほか除雪は、近隣の高校生ボランティアが年2回来てくれた。

## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

#### <運営・建物維持のための資金>

・建物の老朽化に伴う改修資金・大型家電等の資金の調達が課題。

#### <支援負担>

・保護者が担っている支援をいつまで続けられるかが問題。また、本人や保護者が病気になった時の当番をどうするか。

#### <居住者の募集>

・居住者が一人増えると、運営上は理想的。しかし、2階の空き部屋利用になるので、車椅子利用者は入居できない。また、親が関わることへの戸惑いがあると思う。

#### <居住者に合わせた建物のリフォーム>

・個室希望があった場合など2階の部屋を利用することになった場合、昇降機の設置や見守りの確保が必要。

#### <今後の運営>

・親が関わることの限界はあると思うので、今後については制度利用（グループホーム・ケアホームなど）も考えていかなければならないと思っている。

・夏に宿泊体験で使うなど、いろいろな人にこの家を使ってほしいと思っている。

・ホームページ：<http://www4.plala.or.jp-gardapart>

## 事例8 ケアホーム「野ぶどう」（北海道伊達市）

### 【1】住まいの概要

名称	ケアホーム・野ぶどう
運営主体	社会福祉法人 伊達コスモス 21
開設年月日	2005年12月1日 ※開設当初は支援費制度の時代だったので形態はグループホーム。 ※障害者自立支援法が施行されてからは、経過の居宅介護利用型ケアホームとなった。（ホーム全員がホームヘルプの利用が原則） ※2007年4月からは経過の居宅介護利用型ケアホームを返上し、ケアホームで個人単位のホームヘルプが利用できるようになったため、それに切り替えた。そうしないと、経過の居宅介護利用型ケアホームの単価がとても低くて、世話人2名の報酬が確保できなかった。
居住者数	男性 6名 女性 3名 ※開設から2006年3月までは、独立した別棟2部屋を空けておいて、北海道単独事業である障害者地域生活体験事業を実施。家族同居の知的障がい者や重複障がい者が短期間の自立生活を体験利用していた。2006年3月で当該補助金事業がなくなり、入居希望者がいたので部屋が埋まり現在の9名に至る。
居室の状況	9室（すべて個室） 10畳間に車椅子対応シャワー付洗面台、クローゼット付き。 ※各部屋の前に照明付きニッチ（くぼみ）があり、各自飾り付けをして、自分の部屋の目印としている。名前は書いていないが、表札代わりのようなもの。
共用スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風呂 1カ所（9.72㎡）</li> <li>・トイレ 2カ所、6ブース（1階、2階に各1ヶ所、3ブース）              ※身体機能を考慮して3つのブースがある。              ・・・・L型手摺り付きトイレ、肘掛手摺り付きトイレ、折りたたみシート・シャワー室付きの多目的トイレ。              ※失禁時のために、各自の着替えを置いておくロッカーが設置されており、失禁したことを他の人に知られないように配慮。</li> <li>・台所 1カ所</li> <li>・居間兼食堂 1カ所（53.46㎡）              ※下肢障がいの利用者の移動能力を保持するために敢えて32畳の広めの居間を用意した。居間にも1カ所洗面台があり、居間の雰囲気を壊さないように、扉を付けて見えないように工夫されている。</li> <li>・洗濯乾燥室 10畳 洗濯機3台。（他に2階に1台設置）              ※浴室の脱衣所とつながっていて、脱いだ衣類をすぐに洗濯にまわすことができる。</li> <li>・世話人室 2室</li> <li>・バルコニー 32畳 バーベキューパーティもできる</li> </ul>
環境	新興住宅地と市民憩いの散歩道である「水車あやめ川公園」に隣接しており、散歩時にはエゾリスやマガモ、野の花に出会うことができる。あやめ川公園の小川には車椅子で入ることもできる。

## 【2】開設の経緯

### <開設に至る理念>

・「伊達肢体不自由児者父母の会」の強い要望を受け、「社会福祉法人 伊達コスモス 21」が中心となり実行委員会を結成し、どんなに重度の重複障害者の方でも、養護学校卒業後は施設や病院ではなく、生まれ育った伊達の町で暮らすことができるようにしてあげたいという親の熱意と、福祉はニーズを受け止めるという伊達コスモス 21 の理念が一つとなり、開設に至った。

### <建設用地の確保>

・新築で建物を建設するために、建設用地を 5～6 ヲ所探した。不動産会社にも相談したが、300 坪もある宅地はなかった。結局、野ぶどうの裏に住んでいる方が所有していた田んぼの土地を譲ってもらった。その方は、子ども達におたまじゃくしを捕まえたりして遊んでもらうために田んぼを作っていたが、広い土地が必要だと困っているのを見て、1 坪 3 万円、300 坪 900 万円で譲ってくれた。

### <建築資金の調達>

・建築費用は、約 6,600 万円。運営主体の法人が 3,000 万円、北海道地域政策総合補助金を利用し伊達市から 2,000 万円（道 1/2、市 1/2）の助成が出た。残りの 2,500 万円は金融機関から借り入れた。入居利用する方の親から出してもらうということは一切行わなかった。

外観



居間



居間にある洗面所



窓際には床下からの暖房



風呂場



脱衣所：各自のシャンプーなどが置いてある



トイレ：折りたたみシート・シャワー室付きの多目的トイレ



各居室前の照明付きニッチ（くぼみ）：自分の部屋の目印として各自で飾りつけ。表札がわり。



バルコニー



廊下





### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <運営費の構成（平成 19 年度実績）>

①居住者からの家賃・管理費	725 万円
②自立支援法による収入	5,502 万円
（ケアホーム 868 万円、ホームヘルプ 4,634 万円）	
合 計	6,227 万円

#### <個人負担>

家 賃：2 万 8 千円

管理費：1 万 5 千円～2 万円 ：夏期と冬期の光熱費の関係で変動

※電気や水道のメーターは一括で、請求に対して居住者で割って負担

食 費：個別の利用状況に応じて負担（月額平均約 16,000 円）

※入居者の親が畑を持っていて、獲れたものを持ってきてくれたりすることも多く、他のホームに比べ高くない

その他の費用

日用品費 2 千円

備品等使用料 2 千円 ※家電などを購入する際に使うために貯蓄しておく

#### <運営上の工夫>

- ・家事援助を中心とした常勤世話人を 2 名配置。夜間支援体制も支援者を 2 名配置。夜間宿直の人は 1 階と 2 階に分かれて泊まり、1 階に泊まる人は野ぶどうの入居者 9 名の担当。2 階に泊まる人は、管理宿直の役割。入居者を守るために、警備会社と契約もしている。
- ・ホームヘルプサービスは、7 時から 20 時 45 分までの日中活動支援サービス以外の時間帯に提供している。利用者は月平均約 2 5 0 時間の支給量を利用している。
- ・野ぶどう専従の常勤のヘルパーを 11 名配置。不足分は指定障害福祉サービス事業所「サポートハンズころころ」の登録ヘルパーを入れている。登録ヘルパーは在宅の障がい児・者のところにも入るが、だいたい固定の登録ヘルパーが野ぶどうに入る。
- ・ボランティアが 1 名いる。看護師を退職された方で、胃瘻など医療的ケアを受けている方のために、月～金曜日の夕食後に来てくれている。
- ・周囲への理解を得るために、「野ぶどう」ができる前に周辺の居住者にあいさつをしてみわった。

#### <支援の上での配慮>

- ・ヘルパーの適正を把握するために、採用後に野ぶどうの方が利用している日中活動支援事業所である「ふみだす」で数ヶ月働いてもらっている。利用者のことを考えると、知らない人が自分の体に触れるのではなく、知っている人が自分の体に触れる方が良いと思う。しかし、事前に働いてもらうためには、その分の人件費も当然かかる。
- ・利用者 1 人 1 人のサポートブックを作成し介助者が変わっても利用者に安全で適切な支援・介助が提供できるようにしている。
- ・五感からの情報や刺激を大切にしており、釣り船や磯遊び、ロープウェイなどの体験を組んでいる。また、通所時なるべく送迎車を使わず、天気の良い日はヘルパーが 1 人 1 人について車椅子で通所している。

## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

### <医療的ケアの制限>

- ・ 障害者自立支援法の理念は、障害の程度に係わらず、地域で暮らしたいという本人や、その家族のニーズを受け止め叶えていくことだと思うが、吸引や胃瘻、浣腸や膀胱洗等の医療的ケアの必要な方々の支援を医療法で括ろうとするため、医師や看護師の配置されているところでなければ暮らせないことになる。
- ・ 例えば、野ぶどうの方が施設に入れるかという、全て断られる。やはり医師のいるところでなければならぬが、病院に行くと行動が管理されてしまい、休みの日に町に出かけるなどができなくなる。医療的ケアの必要な方でも、地域で自立した生活を送るために早急な解決が望まれる。

### <人材の確保>

- ・ 野ぶどうの入居者は、全員が認定区分 6 であり、日常生活はホームヘルプを利用し、1 対 1 のサービスを提供しているため、有資格者が必要となる。一般の職種とは違い、利用者の方々のライフスタイルに沿ったサービスを提供するので、早朝や夜間にも勤務が必要だったりするので、マンパワーを確保することが難しい。

- ・ ホームページ： なし

## 事例9 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」(愛知県豊橋市)

### 【1】住まいの概要

名称	笑い太鼓グループホーム「パークサイド」
運営主体	「笑い太鼓」家族会
開設年月日	2004年3月1日(生活を開始。制度・事業としての申請は未定)
居住者数	男性3人(20代、30代、40代各1人)
居室の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄筋コンクリート2階建160坪(土地・建物含む)。</li> <li>・以前まで証券会社の独身寮として使われていた。</li> <li>・個室は1階と2階合わせて12部屋(各4.5畳、収納付き)。</li> <li>・建物の左側(玄関のある方)が建設された後、建物右側(1階の手前部分が駐車スペース)が増築された。</li> <li>・裏には庭があり、家庭菜園ができる。</li> </ul>
共有スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間(食堂) 1か所(約10畳)</li> <li>・風呂場 2か所(2~3人で使用できる広い共用タイプ1か所、一般家庭サイズ(住み込みの寮母用として使われていたと思われる)が1か所)</li> <li>・洗面所 2か所(洗面台が横に3つ並んだものが1階と2階に1か所ずつあるほか、風呂場付近とトイレ付近にもそれぞれ1台ずつ設置されている)</li> <li>・トイレ 3か所(個室が2つ並んでいるタイプで1階と2階に1か所ずつと、一般家庭用トイレ(住み込みの寮母用として使われていたと思われる)1か所)</li> <li>・台所 1か所(約6畳、中央に広い調理台が設置されている)</li> </ul>
環境	豊橋駅から豊橋鉄道(路面電車)で18分の「競輪場前」駅から5分程歩いた住宅地に建てられている。工房笑い太鼓から徒歩10分程度なので、作業所へ通うのにも便利である。病院や商店も近く生活の便はよい。

### 【2】開設の経緯

#### <高次脳機能障害のための小規模作業所からの出発>

1998年から高次脳機能障害者とその家族2~3世帯が定期的集まるようになり、北海道にある全国初の高次脳機能障害者の作業所(脳外傷友の会コロポックル)を見学して刺激を受け、2000年2月、5家族が結集して豊橋市内に作業所「ヤモリクラブ」を開設した(高次脳機能障害者の作業所としては全国で2番目、愛知県では初)。ヤモリという名は、築50年の古い民家を使っていたためヤモリが頻繁に出没していたことに由来する。翌2001年4月には豊橋市から小規模授産施設として委託を受け、「工房笑い太鼓」として現住所(民家を改修)へ移転した。しかし、市外から通う人の分は補助されないため、定員超過による追加の人員費等は家族会がバザーなどを開いて支えてきた。

2006年5月組織をNPO法人化した(特定非営利活動法人高次脳機能障害者支援笑い太鼓)。



### <一人暮らしの訓練>

作業所の設立の中心を担っていた星川広江氏（現・NPO 法人理事）は、ご息子が事故で高次脳機能障害となり入院していた際、リハビリテーションに通い始めた頃から「退院後は自宅へ戻さず自立させよう」と決意し、準備に取り掛かった。退院後、自宅の近所にアパートを借りて子どもを住ませ、ヘルパーを利用しながら自らも通って手助けしていた。その後、古い一軒家に引っ越し、他の空いている部屋を家族会の有志の希望者に開放して、2～3人ずつ、代わる代わる一定期間宿泊しながら一人暮らしの試行訓練を行った。最終的に3人が定着することになったが、住居も狭く老朽化し、また他にも、将来、自立を目指そうとしている人が数多くいたため、部屋数のある広い住居を探すこととなった。

### <物件の購入>

不動産業者を通じて、作業所に近い物件を探したところ、かつて会社の社員寮として使われていた現物件に出会った。敷地面積は160坪で、一戸建て住宅が3軒建つ土地であるが、寮の解体工事に700万円かかるため、しばらく買い手がついていなかった。購入価格は土地・建物込みで4,000万円（ほとんどが土地代）。資金調達にあたっては、苦勞して保証人となってくれる人を見つけ出し、借入金を極力少なくするため、出資者を募った。資金のおよそ半分は「笑い太鼓」の家族会（加入者45人）の後援会費（年会費：個人1,000円、団体1万円、加入者は平成21年3月現在約890人）から調達し、残り半分は家族会の名義でローンを組んでいる。

### <NPO法人笑い太鼓の概要>

2006年5月に発足後、10月から豊橋市の地域活動支援事業として、地域活動支援センター笑い太鼓を運営してきた。利用希望者の増加に伴い、2008年4月、自立支援法に基づく多機能型事業所「高次脳機能障害者支援センター」（生活介護、就労継続(B)、就労移行）に移行した。小規模作業所時代と同じく、豊橋市のほか、東三河を中心に、名古屋市や静岡県など他の自治体から通ってくる人が約3分の1程度いる。作業所の道路を挟んだ向かい側に公園があるが、以前は人影もなく付近の住民も公園付近に治安上の不安を感じていたが、作業所に人が出入りするようになって、夜間も安心して道路を歩けるようになったという声が聞かれている。豊橋市からは「こども110番の家」として緊急避難所の登録の依頼も受けている。

高次脳機能障害者支援センター「笑い太鼓」（現在）



初代の作業所「ヤモリクラブ」



高次脳機能障害者支援センター  
作業所の様子



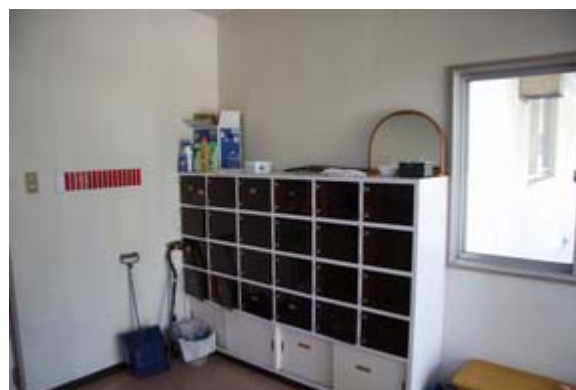
グループホーム外観



グループホーム外観（裏庭）



玄関（下駄箱）



階段



居間



台所



洗面所



トイレ



風呂場



居室



廊下





### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

現時点では公的な補助は受けていない。こういった制度を使っていくか検討中。

#### <運営費の構成（1年間）>

①居住者からの家賃・管理費	未定
②市からの補助金	未定
③寄付金	未定
合計	未定

#### <収支の状況>

土地・建物の購入額 4,000 万円

後援会会費の積み立て 2,000 万円

ローン（家族会の名義） 2,000 万円

〈将来的に見込んでいる収入〉

入居者からの家賃、宿泊者からの宿泊料（作業所の通所者などを対象に1泊3,000円くらいを予定）、1階の空きスペースの地域への貸し出し等

#### <個人負担（予定）>

家賃：5～6万円を予定（管理費・水道光熱費込み障害者年金6～8万円と作業所工賃約1万円程度の収入でやりくりできるように金額を設定する予定）

食費：個別の利用状況に応じて負担

その他：3,000円（世話人に対する支払い）

#### <その他>

社員寮の時代に使われていた家具や機材などが多く残っており、使えるものはそのまま再利用している。今後、必要に応じて家財道具を購入したり、改修なども入れていく予定。



## 【4】現状と課題、今後の方針・方向

### ＜地域からの理解＞

作業所及びグループホームは、当事者の自宅からも近く、もともと親と近隣住民との付き合いも長かったので、いずれも開設の際には地域からの理解も得られていた。

### ＜高次脳機能障害の特性と支援の課題＞

高次脳機能障害者は、もともと健康だった人たちなので、本人・家族とも自立に対する意識が高く、グループホームへの入居希望も多い。その一方で、身体的には健康であるため、家族が回復を信じて、支援を長く拒絶し続けることもよく見られる。

ヘルパーなどの公的サービスを利用できるという認識やそれらの情報が浸透していない。また、精神障害者手帳を取得することで、受けられるサービスの幅も広がるが、急性期の段階で診断を受けず、何年も経過してから精神科に受診に行っても診断が降りないケースが多々あり、手帳をもらっていない人が多い。

### ＜グループホームでの生活＞

2009年3月現在、6人の入居希望があり、うち3名がすでに生活を開始している。

朝と夕の食事の準備は作業所の女性職員が担当し、夜間から翌朝にかけて作業所の男性職員が世話人として泊り込み、作業所へ送り出すまで介助している。土日の日中には、ボランティアや居住者の家族などがサポートに入る。

### ＜ヘルパーサービス事業所設立に向けて＞

今後、入居者を募集しつつ、空き部屋を利用した宿泊体験や、遠方から作業所に通って短期の生活訓練を受ける人などの宿泊場所、緊急時または居宅サービスを好まない人のためのショートステイといったサービス提供も検討している。

5年後くらいを目途に、グループホームの中に、高次脳機能障害者に対応できるヘルパーを登録・派遣する24時間体制の相談支援事業所（ヘルパーサービス事業所）の開設を計画中で、さらに、柔軟に独自の自由な活動ができる事業所づくりを目指している。そのためには、福祉ホームとするか、ケアホームとして申請するのが良いのか、これから行政に相談したり他のホームを見学したりしながら、検討する予定である。

・ホームページ：(NPO 法人笑い太鼓) <http://www.tees.ne.jp/~waraitai/index.htm>

## 事例10 身体障害者の生活の場「まちなか」（富山県富山市）

### 【1】住まいの概要

名称	身体障害者の生活の場 まちなか
運営主体	特定非営利活動法人自立生活支援センター富山
開設年月日	2005年1月22日
居住者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50代男性2人、30代女性1人、計3人</li> <li>・開設当初は、女性に入居者を限定していたが、現在は、男性の入居も認めている。</li> </ul>
居室の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2階一戸建て、占有面積182.17㎡（奥に細長い作りの旧民家を改修）。</li> <li>・6DK、入居者居室はフローリング。サポーター（世話人）室は和室。</li> <li>・個室は6部屋あり、5部屋が入居者（体験入居含む）用（1階に8畳が2室、2階に6～6.5畳が3室）。残り1部屋はサポーター（世話人）室として使用している。</li> </ul>
共有スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関 1か所（入り口は段差昇降機で中に入れるようにしている。ドアは引き戸で、靴を脱ぐスペースをつくらず、床との段差をなくしている。）</li> <li>・台所（食堂） 1か所（8畳程度）</li> <li>・風呂 1か所（浴槽は埋め込み式）</li> <li>・洗面所 1か所</li> <li>・トイレ 2か所（1階：手すりはね上げタイプ、2階：手すり固定タイプ）</li> <li>・エレベーター 1基（車椅子対応）</li> <li>・冷蔵庫、洗濯機は共用</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩数分のところに、車椅子で乗降できるバスのバス停があり、そこからバスでJR「富山」駅まで10分程度で行くことができる。付近には中央病院や商店などもあり生活の便が良い。</li> <li>・「まちなか」開設後、富山市内にはもう1軒身体障がい者のグループホームが開設され、平成21年4月にさらに1軒開設予定。富山市では、施設や親元からの地域移行においては、グループホームよりも一人暮らしをする身体障がい者の方が多い。</li> </ul>

## 【2】開設の経緯

### <開設のきっかけ>

2000年に特定非営利活動法人自立生活支援センター富山（以下、NPO法人）を設立し、2002年から自立生活体験室を開設。支援費制度を目前に施設を出たいと考える方々を受け入れてきた。そんな中、自立への一歩を踏み出せない方や、「一人暮らしには不安を感じるが何人かでの同居なら生活ができそうだ」という人の声が聞かれた。そこで、地域生活へ踏み出すワンステップとなるような場として、ずっと住み続ける場所ではなく、今後の「生き方探し」をするための通過点となるような住まいを志し、2005年1月グループホーム「まちなか」を設立した。

### <物件探しと住宅改修>

障がい者のグループホームはとかく郊外につくられることが多いので、生活の便のよい市街地に開設することにこだわった。車椅子で乗降できるバスのバス停に近く、かつ部屋数が多くてバリアフリーへの改修を許可してくれる、といった条件で探したところ、なかなか合致する物件が見つからなかった。見つかった場合も、障がい者のグループホームという点で家主から理解が得られないケースもあり、開設計画のぎりぎりまで物件が見つからなかった。その後、知人を通じて、中古の一戸建ての空き家を所有する家主（個人）を紹介してもらい、直接交渉を重ね、賃貸契約を結んだ。玄関、風呂、トイレ、エレベーターなどのバリアフリー化改修工事費は、市の補助金とNPO法人の資金（一部を県から借り入れ）で負担した。

外観



玄関：段差昇降機付き





玄関からの廊下



台所と食堂



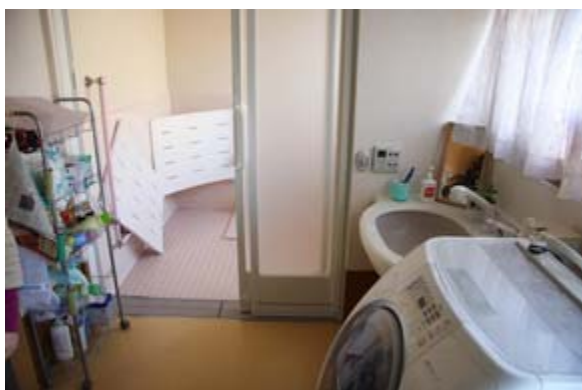
居室



トイレ



洗面所



風呂場：浴槽は埋め込み式



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### ＜公的な制度・事業＞

「富山市身体障害者等グループホームに関する補助金」交付：1人月 118,720 円（年間予算を立ててから住居人数で日割額を算出して申請し、年 4 回に分けて交付される。退去者が出た場合は日割りで年度末に返納、新しく入居者を入れた場合は次回交付時に追加交付される。

#### ＜運営費の構成（1 年間）＞

- 居住者からの家賃・管理費
- 市からの補助金
- 法人の補填

#### ＜収支の状況＞

改修工事の費用は約 1200 万かかり、そのうち 500 万円を市から補助金を受け、700 万を自己負担した。自己負担のうち 350 万を県から借り入れており、年間約 51 万円返済しなくてはならない。当初の計画では入居者の家賃から賄う見込みだったが、常時 5 室が満室にはならず（現在も入居者は 3 人）、かつ家賃を 24,000 円（開設時は 28,000 円）に引き下げたため、法人からの持出しが生じている。

#### ＜個人負担＞

家賃	24,000 円
共益費	5,000 円
水道光熱費	17,000 円：一律で徴収（春～秋の余剰分は冬季の暖房費に当てている）
食費	17,000 円（朝・夕）：一律で徴収し、余剰が出た際は返金している（知人や地域から食料の差し入れが頻繁にあり、しばしば昼食も提供している。余ることが多くほぼ毎月返金している）。嗜好品などはそれぞれ自己負担で購入。
合計	63,000 円

### 【4】現状と課題、今後の方針・方向

#### ＜地域における理解の浸透に向けた取り組み＞

開設するにあたり、町内会長からの理解は得ていたものの、他の周辺住民からは火事の心配などを指摘され、受け入れてもらうまでに時間を要した。オープン前には町内会を 1 軒 1 軒回って挨拶したり、「お披露目会」を開いて実際に住まいを見学してもらったりした。開設後は入居者自ら地域の会合や行事に参加するように心掛けたことで、地域の理解も深まり、現在ではすっかり地域に溶け込んでいる。

### <グループホームでの生活>

世話人としては、NPO 法人の職員(サポーター)3人が平日の7:00~10:00、15:00~22:00、土曜日の7:00~10:00、16:00~21:00に担当している。個別のヘルパー利用については、入居者からの要望があれば、それぞれの入居者と共にケアプランを考え、複数のヘルパー事業所を利用している。

食事の支度は、入居者が自分でメニューを考え、サポーター(世話人)が調理して、食卓、または自室でそれぞれ食べている。

### <体験入居>

体験入居者も募集している。最長1ヵ月間で、1日の体験入居料は2,100円(2食付き)

### <NPO法人の活動>

法人としては、グループホームのほかに指定別の事業を2つ実施：障害者相談支援事業、作業所(地域活動支援センターⅢ型)

### ■課題等について

#### <入居者確保の問題>

住宅改修費の借入金を円滑に返済していくためには、5室を満室にして家賃収入を安定させなくてはならないが、入居者を見つけるのが困難である。グループホームに対して施設のイメージを持たれることが多い。また、一人暮らしにこだわって敬遠する人や、逆に、夜間に世話人が配置されていないことに不安を感じ入居をためらう人もいる。グループホームでの生活を、一人暮らしを始める前のイメージトレーニングの場や、アパートが見つかるまでの仮住まいといったワンステップとして活用してもらいたいが、なかなか意図を理解されにくい。夜間のスタッフの配置については、入居者が確保されて資金が安定すれば対応できるが、地域生活へのワンステップという観点から考えると、サポーターの人員を増やすことがいいことなのか、現在も模索している(現在は、警備保障会社と契約しており、緊急時に対応している)。できる限り独立した生活を保ち、サポーターで足りない部分はヘルパーを利用しながら、入居者同志で気に掛け合うことで安全を保っていくということも大切にしたい。

#### <維持・運営費の問題>

消防法の改正に伴い、設置が義務付けられることになった機材については、NPO 法人で負担することとなったが、金額が大きく苦しい経営をさらに圧迫している。

・ホームページ：<http://www1.odn.ne.jp/~adu40180/>

## 事例 11 すまいるはーと（鳥取県米子市）

### 【1】住まいの概要

名称	すまいるはーと
運営主体	特定非営利活動法人ぴのきお
開設年月日	NPO 法人設立：2008 年 9 月 10 日、ホーム開設：未定
居住者数	（予定）男性 3 人、女性 1 人 計 4 人
居室の状況	2 階建て一戸建て。5LDK。玄関前と横には駐車スペースがあり、入口には手作りのスロープが取り付けられている。個室は 5 室あり、各 4.5～6 畳。うち 4 室が入居者用、1 室は現在、宿泊訓練用に使用している。
共有スペース	居間（食堂） 1 か所（10 畳程度） 風呂 1 か所 洗面所 2 か所（1 階と 2 階に各 1 か所） トイレ 2 か所（1 階と 2 階に各 1 か所） 台所 1 か所（対面式 3 畳程度）
環境	JR 米子駅から車で 10 分程度の閑静な住宅街にあり、バス停やスーパーマーケットなども近く、生活の便は良い。

### 【2】開設の経緯

#### <任意団体「ピノキオの会」からの取り組み>

20 年以上前から、任意の保護者会「ピノキオの会」があり、その中で子どもたちの放課後対策や自立に向けた社会参加の活動に対するニーズが集まり、平成 14 年から「のんびりタイム」という日中一時支援活動を開始。介助などは親が行っていた。平成 15 年 6 月からは鳥取県の盲・聾・養護学校のモデル事業として同様の事業を実施した（1 回 3 時間以上、年 100 日以上実施する等の規定のもと参加人数に関わらず 1 回ごとに 10,000 円が支給された。支援員には、退職した看護師・学生などが初めボランティアで携わり、利用者 9 人からスタートし、平均 4～5 人が参加していた）。そういった活動の実績が認められ、任意団体のまま日中一時支援事業の実施機関として認可され、現在も「のんびりタイム」の名称で実施している。利用者は市内・外から来ており、最も遠い地域の人で、約 1 時間半かけて通っている（療育センターに訓練に来た際や近隣の特別支援学校の交流会に参加した際に寄るかたち）。

#### <任意団体から NPO 法人化へ>

以前から知り合いだった 4 人の親たちが集まり、1 人では重度障害者で自立が難しいが、4 人での同居ならできるのではないかという話になり、独立したホームを建てる計画が持ち上がった。4 人のうち 2 名の特別支援学校の卒業を機に、具体的に計画を進め、平成 20 年 9 月他の賛同者を理事に加えて「特定非営利活動法人ぴのきお」を設立した。

### <物件探し>

一般の不動産会社の仲介で1日に何軒も見学して回り、最終的に築30年の一戸建て住宅を購入した。購入資金(土地・建物で2,300万円)は居住者4人の親と知人からの借り入れで調達し、所有者はNPO法人とした。

### <住宅改修(予定)>

- ・玄関(屋内・外)及び室内の段差:スロープを設置する(一部、手作りで作成・設置済み)。
- ・風呂場:脱衣場が狭いので、壁を取り払ってスペースを広くするとともに、浴室内を移動のためリフターを取り付ける予定。
- ・2階(各個室)への移動:階段に昇降機を取り付ける予定。
- ・トイレ:車椅子対応に改修予定。

### <入居者の事前準備>

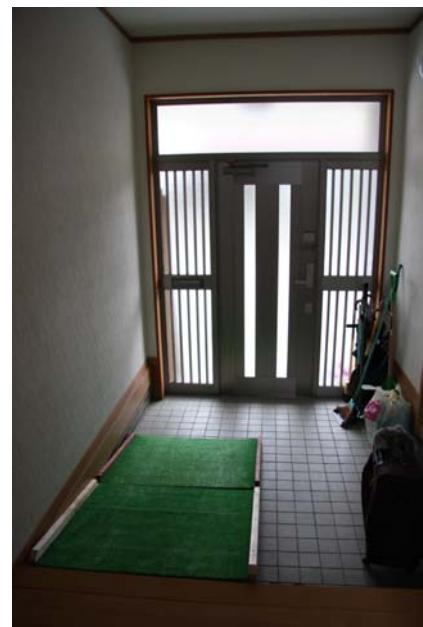
2009年1月から入居予定者が交代で、1回(1泊)に2名ずつ宿泊の練習を開始している(まだ階段の昇降機を取り付けていないため2階の個室には上がれないので、1階の居室を使用)。通所の日中活動が午後3時に終わった後、翌朝の10時頃までを過ごしている。入居者自身からも意欲的な様子が見られる。介助はのんびりタイムの支援員2人が日中一時支援として担当し、夜間のケアに慣れるまでの間は、親も一緒に泊まり込んでケア方法等の伝達を受けている。

### 外観



玄関:車いす用のスロープ(手作り)  
がある

### 玄関





風呂場（リフター設備など改修予定）



洗面所（改修予定）



階段（昇降機を設置予定）



居室



居室



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### ＜公的な制度・事業＞

検討中

#### ＜運営費の構成（1年間）＞

当面の運営資金は入居者4人の親が支出するほか、公的制度の補助等を検討している

#### ＜収支の状況＞

開設準備中のため未定

#### ＜個人負担＞

家賃 金額未定（一律で徴収予定）

水道光熱費 金額未定（一律で徴収予定）

食費 金額未定（一律で徴収予定）

### 【4】現状と課題、今後の方針・方向

#### ＜ホームの運営方法について＞

住居としてだけでなく、日中、住人の不在の時間帯には、居間などの空いたスペースを地域のニーズに応じて、家族のフリーサポートの場や高齢者のつどいの場などとして役立てていきたいと考えている。当初、ケアホームとして申請する予定でいたが、ケアホームには事業所として制度上、さまざまな制約があり、柔軟な運用が妨げられる懸念が出てきたため、ケアホームとしての申請を白紙に戻した。ケアホームとして国庫から改修費用を賄う予定でいたが、資金の目途がなくなり、改修工事の見通しが立たない。今後、どのような事業体として運営していくか、再度検討しているところである。改修費用さえ調達できれば、すぐにも生活を開始したい。

#### ＜人材の確保とケア内容＞

現在行っている「のんびりタイム（日中一時支援事業）」の支援員や、かねてから利用していた居宅介護を引き続き利用する予定。

現行の福祉サービスには限界があり、個々の障がい（医療的ケアの有無や性別など）に応じたケア・支援の体制が必要だと感じている。ヘルパー利用についても、時間数を多くもらっても、ヘルパーの人手自体が少なく、派遣を依頼しても、特に新規の場合は断られることが多い。

#### ＜運営者について＞

ホームの運営は、現時点では4家族の共同活動で行っているが、いつまでも親が子どもに関わり続けることは良くないと考えており、将来的には専任職員による運営に移行するため、職員の養成を同時進行で行っている。

・ホームページ：（未定）



## 事例12 フロントィア（北海道札幌市）

### 【1】住まいの概要

名 称	フロントィア
運営主体	個人所有
開設年月日	2005年5月
居住者数	・入居者は女性に限定 ・3人
居室の状況	・居室は6室（すべて個室） ・居室はすべて2階にあり、ホームエレベータまたは階段で昇降 ※1部屋は、ヘルパーの宿泊用に使用 ・5室全室にミニキッチン付 ・4室にユニットバス（お風呂とトイレ）、2室はトイレのみ（ユニットバス・トイレはバリアフリー仕様ではない）
共有スペース	・共有スペースは1階にある 居間（リビングダイニング） 1カ所 風呂 1カ所 洗面所 トイレ 1カ所 台所 1ヶ所 洗濯室 1カ所
環境	閑静な住宅街の中にあり、最寄の地下鉄駅までタクシーで10分程度。

### 【2】開設の経緯

居住者のAさんの母親が、フロントィアのオーナーと親戚関係にある。Aさんの養護学校高等部卒業が近づき、将来のことを考えたときに、親亡き後もAさんに地域での生活を続けさせたいと考えていた。

Aさんの高等養護学校卒業と、支援費制度の開始時期が重なっていたこともあり、グループホームの制度を利用して、障がいがあっても一人ひとりのニーズに合った生活ができるのではと期待したが、重度障がいのあるAさんには1対1の個別支援が必要であった。グループホーム制度では、ホームにいる職員は基本的に一人であり、また、グループホーム入所者に対するホームヘルプ支給量上限は在宅生活者より低く、十分な介護体制が望めなかった。

しかし、いきなり部屋を借りて一人暮らしをするのはハードルが高すぎるため、まずは支えあえる仲間と一緒に、自分らしい地域での生活ができるよう、この住まいをつくることにした。

住まいの建設は、オーナーがすべて資金を準備して、プライバシーに配慮した住宅（下宿）を新築した。下宿には、Aさんの母親が運営するカフェも併設。下宿とカフェの全体で8千500万円ほどの建設費。

当初、Aさんとその友人である2人の入居者で生活を始めた。養護学校高等部を卒業する3月頃から、新しい住まいに週末泊まるなどして、徐々に新しい生活に慣れていった。

#### 【開設に当たっての人材さがし】

当初の入居者2人がサービスを利用していた事業所の担当者が中心となって、フロントィアでの介護体制のあり方を考えた。行政とも相談しながら出来る限り希望に近いホーム

ヘルプサービスの支給量を決定してもらい、フロンティア中心の職員体制を事業所も組んだ。

写真1：玄関



写真2：共有の台所・リビングダイニング



写真3：共同の浴室



写真4：共同の洗面所



写真5：共同の洗濯室



写真6：共同のトイレ



写真7：ホームエレベータ



写真8：2階 各居室入り口



写真9：居室



写真10：居室のミニキッチン



写真11：個室のユニットバス



写真12：救助袋（2階からの避難用）



写真 13 : 階段（普段はスタッフのみが利用）



写真 14 : スタッフ用玄関



### 【3】運営上の工夫・収支状況

#### <公的な制度・事業>

公的な制度・事業は全く利用していない。

#### <運営費の構成（1年間）>

①居住者からの共益費（一人3万円×12ヵ月×3人）	108万円
②運営主体（オーナー）の持ち出し	約30万円
合計	約138万円

#### <収支の状況>

フロンティアでは、入居者がそれぞれ個別にヘルパーを利用しているので、常勤の職員や世話人などがおらず人件費は発生しない。運営主体（オーナー）は、共有スペースの光熱費について、現在空室となっている2室の入居者が負担すべき分（全体の5分の2）を負担している。

#### <個人負担>

家賃：4万7千500円、3万5千円（部屋の広さによる）

共益費：30,000円（光熱費、平日の朝・夕食費）

個人負担：個室の電気代、水道代、ガス代（個別に検針）、平日の朝・夕以外の食費

#### <運営上の工夫>

○入居者のそれぞれが、居宅介護事業所と契約しヘルパーを使っている。日中は、地域活動支援センターや生活介護（通所）を利用しているので、朝の着替えから食事の時間帯、夕食からお風呂、就寝準備までの時間帯、そして夜間の時間帯にはヘルパーがいる。

○3人の入居者それぞれに1対1でヘルパーがついているが、3人のうち1人は、ヘルパー2人での入浴介助が必要なため、入浴時間帯には、4人のヘルパーが「フロンティア」内にいることになる。

○夜間のケアが必要なのは3人のうち2人。フロンティア開設当初は「パーソナルケアアシスタンスサービス」という事業所の制度外サービスで対応していた。

○現在は、夜間にヘルパーが一人フロンティアに宿泊し、2人のケアを行っている。制度上は、1人の対象者につき1人のヘルパーがつくのが原則であるが、そうすると支給時間数が不足するので、行政担当者と相談・協議の上、1人には「0～3時」、もう一人には「3時～6時」にヘルパーがつくという形にしている（ケア時間のシェア）。

#### 【4】現状と課題、今後の方針・方向

##### ○サービス利用に制限があること

- ・札幌市では、最大でも330時間/月の支給量しか認められない。
- ・本来であれば、週末も含めて毎日住まいで生活したいと思っているが、週末は実家に帰ることによって、支給時間の不足を家族が補っている。

##### ○入居者の負担

- ・3人の利用者とも、定期受診やリハビリテーションが必要なため医療費がかかり、また、積雪期はタクシーでの移動が多くなり交通費がかかる。その他、フロンティアの家賃やサービス利用料など、すべて個人が障がい福祉年金から負担していて、貯金までできない状況。

##### ○バリアフリーの問題

- ・2階部分が居室であり、ホームエレベータを設置しているため普段の行き来は問題ないが、非常時には「救助袋」で2階から滑り降りることになっている。年2回、救助袋を使っての避難訓練を実施しているが、車いす利用者には難しく、スタッフがおんぶして階段を下りることになる。
- ・住まいを設計した頃は、Aさんが立位で台所に立つことが可能であったため、個室のキッチンが高めになっている。車椅子では使いづらい高さとなっている。また、個室のユニットバスもバリアフリーではなく、入居者のうち2人は、共同の広い浴室を利用している。今後、車椅子の入居者が新たに加わった場合、共同の浴室の利用頻度が増え、個々の入浴時間の短縮などを考える必要が出てくる。
- ・居室内に「非常呼び出しボタン」が設置されており、入居者がボタンを押すと、ヘルパーの寝泊りしている部屋でコールがなるようになっている。しかし、そのボタンは壁に固定されていて、部屋によってはベッドから離れた位置にある場合もあり、ほとんど使われていない。

##### ○入居者の募集

- ・現在、空室が2室あるが、積極的な入居者募集はしていない。
- ・しかし、共同住宅としてハローページに掲載されているためか、春になると近くの高校に進学する学生から下宿の問い合わせがある。
- ・女性であれば、障がいのあるなしに関わらず誰でも入居を受け入れるのだが、障がい者への理解があり、福祉に関心のある人でなければ、続かないと思う。
- ・以前、ヘルパーが入居していたことがあったが、ヘルパーとしての業務と、入居者としての手伝いの線引きが難しく、ヘルパー・入居者ともに混乱した。
- ・地域生活を始める前の「お試し」「体験」の場として利用してもらうこともある。積極的に募集はしていないが、口コミで申し込みがあり、以前、知的障がいの方が1～2週間滞在したことがあった。個室の水道光熱費などの実費+1泊2,000円程度の使用料で利用してもらう。その方は、体験の後、一人暮らしをはじめた。

##### ○居住者のお世話をする人や、ボランティアの確保

- ・この住まいだけでなく福祉サービス全体の課題だが、障がい分野のヘルパーは賃金も低く、いくら仕事に魅力があっても、気持ちだけではこういった仕事は続かない。よい人材を確保するためにも、賃金を含めた待遇の改善が必要だと思う。

##### ○今後の運営の引継ぎ

- ・建物の維持管理費について考えなくてはならない。
- ・ケアホームやグループホームなどの制度に乗ることも考えた。制度にのることによって継続した運営が可能だろうが、逆に介護体制等で制約も増え、入居者が望む生活が送れなくなるのではという心配がある。



### ○入居者自身の思い

- ・入居者たちが、フロンティアでの生活について意見交換するための「フロンティア自治会」を組織し、2年位前から不定期ではあるが、2～3カ月に1回の頻度で、ヘルパーを交えて食事会を兼ねた会合を持っている。
- ・フロンティアでどんな生活を送りたいのか、一緒に暮らす中で、不満や改善したいことはないか、ざっくばらんに話す場としているが、なかなか本音は出てこない。
- ・ヘルパーが個別に話をきくと、いろいろ話が出てくるので、お互いに遠慮というか「大人の配慮」で口に出さないのかもしれない。
- ・一方で、現在の生活や今後について「わからない」「がんばってる」など、受身の受け答えが多い。これまで自分自身のことについて自ら選択する機会が少なかったからかもしれない。
- ・フロンティアの将来的な運営のあり方についても、本人たちの「自分たちはこうやって住みたい」という思いがもっと出てきてほしい。

### ○地域住民との交流

- ・フロンティアの共有スペースを利用して、地域の人たちとの交流が企画できれば。広いキッチンがあるので、地域の人たちとごはんをつくって一緒に食べる、というような活動ができればいい。

- ・ホームページ：なし



**(参考事例) ※グループホーム・ケアホームへの肢体不自由者の入居**

**グループホーム あさがお (北海道七飯町)**

**【1】住まいの概要**

名称	グループホーム あさがお
運営主体	社会福祉法人道南福祉ねっと
開設年月日	2006年10月1日開設
居住者数	身体障がい者1名、知的障がい者1名、精神障がい者1名
居室の状況	2階建て ・全個室
共用スペース	・風呂1カ所 ・トイレ1カ所 ・キッチン・ダイニング 1カ所
環境	町内住宅街の中にある。

**【2】開設の経緯**

- ・元養護学校教員が重度の障がい者も地域の中で暮らしていけるようにとの思いから、日中活動の場として無認可の共働作業所 ToMo ハウスを立ち上げた。
- ・障がい者の親の声としては、入所施設のほうが安心であり、街中の施設等に通ったり、グループホーム入居に不安を感じる声があったが、当初はすぐに利用者がいなくてもすべての当事者が地域で生きていくことができる体制をまずはつくろうということで立ち上げた。

写真1：外観



写真2：洗面脱衣室と風呂場入り口





### 【3】運営上の工夫

#### ＜公的な制度・事業＞

- ・ 障害者自立支援法による一体型グループホーム・ケアホームとして運営。

#### ＜運営上の工夫＞

- ・ 入居者は、身体障がい、知的障がい、精神障がいの3名で、生活支援員が支援を行うだけでなく、入居者同士が手伝ったり相談相手になるなど、お互いにサポートし合っている。
- ・ 障がいの程度が同じ人を集めた場合、サポートする側は介護しやすいが、さまざまな障がいの人がいることで、入居者もサポートする側も、お互いのことについて学びあえる。
- ・ 建物自体は特別にバリアフリー化はしていない。不便なところは入居者がお互いに安全に注意しながら手伝っている。障がいにとらわれずに、お互いにできるところを手伝いあうことで、「心のバリアフリー」に役立っている。
- ・ 自分専用の部屋もあり、みんなで一緒にご飯を食べる場所もある。一人で住むことの良さと同時に、共に生きていくことを学ぶ機会が確保でき、人と人との関係を構築するという経験ができる。

### 【4】現状と課題、今後の方針・方向

- ・ 身体障がい者手帳しか持たない方は、障がい者自立支援法のグループホーム・ケアホーム制度の枠から外れてしまうことになる。現在は制度の枠外で特別に入居を認めてもらっているが、今後、現行制度を活用して、本人が地域生活を継続できる方法を考える必要がある。
- ・ 重度の身体障がい者の場合、個人でホームヘルパーを利用するよりも、ケアホームで職員の充実を図ったほうが、費用的には効率が良いのではないかと。今後、重度の身体障がい者が地域の中でケアホームを制度として利用できるように、制度の整備を望みたい。

- ・ ホームページ：(道南福祉ネット) <http://www13.plala.or.jp/nanaenet/index.html#news>

## 第3章 肢体不自由者の住まいの現状と課題

### I 現状の整理

#### 1 運営主体と開設の経緯

- ・運営主体では、任意団体（運営委員会方式を含む）、有限会社、特定非営利活動法人、社会福祉法人、個人と12事例で5つのパターンがあり、多様な方式があると言える。
- ・開設年も、「生活ホームオエヴィス」を除くと、ここ10年以内と新しく、支援費制度の議論から自立支援法に至るまでに、「地域生活移行（継続）」の考え方が徐々に浸透し、実現が進みつつあることが分かる。
- ・開設の経緯をみると、親や親の会が立ち上げたものが多く、障がい当事者の発案が2件、施設職員だった方の取組が1件ある。法人としての取組が1件あるが、開設にあたっては、本人、家族や職員と一緒に検討するというプロセスを経ている。

表 3-1 運営主体と開設の経緯

住まいの名称	運営主体／開設年	開設の経緯
1 あおば生活ホーム「俊」	任意団体 ／2000年	通所施設「あおば園」に子ども通わせている親が将来に備えて、重度の障がいがあっても地域で生活できるホームをつくりたいという考えをもった。
2 あずましや支援ハウス	有限会社 ／2004年	障がい者の入所施設に長く勤務していた大家さんが、施設でのプライバシーのない生活、職員の都合で動く介護に疑問を感じて、自分で始めた。
3 生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」	社会福祉法人 ／1990年	障がいをもつ2人の姉妹が、親の死をきっかけに自立した生活を継続するため、生活ホーム事業を利用して開設
4 よつばホーム	運営委員会 ／2001年	新たなデイサービスの場を模索していくなかで、家族のレスパイトを実現するため公団マンションの1室から開始した。
5 グループホーム「ゆい」	社会福祉法人 ／2002年	運営委員会型の身体障がい者のグループホーム制度が横浜市にはあったが、作業所等に通所していない方には、入居の機会がなかった。身体障がい者施設を運営する法人として地域生活支援に取り組むため、本人、家族や職員と一緒に、勉強会を始め、身体障がいの方が利用できるグループホームを検討するようになった。
6 IL ホーム「ソレイユ小倉寺」	特定非営利活動法人 ／2009年	障がい当事者である2人が、小規模作業所からスタートし、自立支援法の成立をきっかけに、建築関係者、大学助教授らとともに研究会を立ち上げ、必要な支援は何かを考え、住宅確保に行き着いた。
7 多機能型地域交流ハウス「があだぱーと」	任意団体 ／2004年	高等養護の寄宿生活を終える子どもを入所施設ではなく地域で生活するため、親が共同でケアするよう、他の親に声をかけて共同生活を開始した。

住まいの名称	運営主体／開設年	開設の経緯
8 ケアホーム「野ぶどう」	社会福祉法人／2005年	親の会の強い要請を受け、法人が中心となって、養護学校卒業後に地域で生活できるよう、ケアホームを建設する土地探しから始めた。
9 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」	任意団体／2009年	中途障がいである高次脳機能障がいの息子のために、当初は近くのマンションの一室を借りた。その後、同様な障がいの他の人も宿泊訓練として一緒に住めるように一軒家を借りた。現在は証券会社の独身寮に引っ越した。
10 身体障がい者の生活の場「まちなか」	特定非営利活動法人／2005年	支援費制度が始まる前に自立体験室をつくり、自立を目指す身体障がいの方が多く利用したが、一人暮らしでは不安だが共同生活なら、という声があり、地域での自立生活を目指すためのワンステップとして「まちなか」を開設した。
11 すまいるはーと	特定非営利活動法人／開設準備中	肢体不自由のわが子を持つ親たちが子どもの自立に向け、親以外の人からの介助を受ける機会として日中一時支援事業を開始。その後、住まいの場も必要と考え、日中一時を行っている建物（中古住宅）の2階を居住の場として利用することを計画している。制度の活用も考え、NPO法人を立ち上げたが、具体的な運営については模索中。
12 フロンティア	個人／2005年	居住者の母親が、親亡き後も地域での生活を続けさせたいと考え、母親と親戚関係にあるオーナーにより建設された。

## 2 土地・建物の確保と制度活用の状況

- ・土地・建物は、大家や所有者（オーナー）、不動産会社などが所有し、建物を一括で賃貸しているケースが 5 件と多い。また、運営主体が自ら土地や建物を所有しているケースは 3 件である。
- ・制度としては、県や市の単独事業を活用しているケースが 5 件で、「生活ホーム」「障がい者グループホーム」と位置付けられている。また、1 件は福祉には限定しない制度の助成金（地域政策総合補助金）を活用している。一方、制度を活用していないケースは 7 件である。

表 3-2 土地・建物の確保と制度活用の状況

住まいの名称	土地・建物の確保方法	制度の活用
1 あおば生活ホーム「俊」	土地・建物は大家さんの所有で、団体が建物の 1 階を丸ごと賃貸	県事業「生活ホーム事業」を活用（09 年から市事業） 1 ホーム 400 万円の家賃補助
2 あずましや支援ハウス	銀行借入で自己資金で購入（街中の元焼肉店を競売で落札。土地代 2,500 万、改修費 5,400 万）。設計も代表者自ら行い、改修工事にも加わった。	活用していない
3 生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」	障がいを持つ姉妹の親が娘たちのために土地と建物を提供。現在は姉妹ともに亡くなったが、引き続き賃貸契約している。	県事業「生活ホーム事業」を活用
4 よつばホーム	オーナーは不動産事業者	市の「横浜市における障害者グループホーム助成制度」を活用（いわゆる「運営委員会方式」）
5 グループホーム「ゆい」	地元の不動産会社が地主から土地を借り受け、グループホームの建物を建設。法人が、不動産会社から 20 年間の一括借上げで契約している。	市の「横浜市における障害者グループホーム助成制度」を活用（いわゆる「法人」）
6 IL ホーム「ソレイユ小倉寺」	オーナーは地主。住宅全体を一括賃貸	活用していない（一般の集合住宅と同じ）
7 多機能型地域交流ハウス「があだぱーと」	土地・住宅を自分達で取得。皆で持ち寄った資金が 1,100 万と寄付が 120 万円から捻出（インターネットの競売物件で、880 万円。バリアフリー改修に 70 万円。）	活用していない
8 ケアホーム「野ぶどう」	法人が土地と建物を取得（日本財団の補助有り）	道の地域政策総合補助金の助成、及び市からの助成
9 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」	代表者が個人的に賃貸契約。	活用していない
10 身体障がい者の生活の場「まちなか」	知人から市街地にある賃貸物件紹介してもらった。	活用していない

住まいの名称	土地・建物の確保方法	制度の活用
11 すまいるはーと	不動産会社からの紹介。バリアフリーの建物はなかなか見つからず、改修することとし、購入については親の負担や知人からの借入。	活用していない
12 フロンティア	オーナーの土地にオーナーの資金で建物を新築。オーナーが大家となり、居住者が家賃と管理費を納めるという、一般的の集合住宅と同じ形式で運営。	活用していない

### 3 運営（収支）の状況

- ・家賃は部屋の広さにもよるが、概ね2万円台から4万円台が多い。最大は6万円。
- ・家賃収入だけでは賄い切れないため、公的な補助を受けるか、法人内での別事業の収入により、全体をやり繰りしているケースが多い。居宅介護事業所は別法人として設置している例もある。

表 3-3 運営（収支）の状況

住まいの名称	運営（1年間）	個人負担（1ヵ月あたり）
1 あおば生活ホーム「俊」	収支（1年間） <b>【収入】</b> 入居者家賃 400万 市からの補助金 800万 寄付金 250万 合 計 1,450万 <b>【支出】</b> 人件費 2,100万 ※これだけで赤字	家賃 6万円 食費 1.5万円 （緊急の宿泊は5千円）
2 あずましや支援ハウス	<b>【収入】</b> 入居者家賃 285万 事業収入 1,920万 法人持ち出し 100万 合 計 2,345万	家賃 2万円 管理費 1.2万から1.6万 食費 個人の利用状況による
3 生活ホーム 「オエヴィス」「もんでん」	<b>【収入】</b> 入居者家賃等 95万 県補助金 500万 事業収入 12万 合 計 607万	家賃 4.5万円 管理費 2千～8千円 食費 個人の利用状況による
4 よつばホーム	<b>【収入】</b> 入居者家賃 700万 公的補助金 1,100万 合 計 1,800万	家賃 5万750円 水道光熱費・食費は、個人の利用に応じる



住まいの名称	運営（1年間）	個人負担（1ヵ月あたり）
6 ILホーム 「ソレイユ小倉寺」	(未定)	家賃 36,000円から 53,000円 共益費 3,000円 光熱費 部屋ごと 駐車場 4,000円(利用者のみ)
7 多機能型地域交流ハウス 「があだぱーと」	【収入】 入居者家賃 120万	家賃(週4) 4.5万円 (週1) 1万円 管理費 1万8千円(水道光熱費、 食費を含む)
8 ケアホーム 「野ぶどう」	【収入】 入居者家賃 725万 事業収入 5,502万 合 計 6,227万	家賃 2.8万 管理費 1.5万から2万 食費 個人の利用状況による その他 日用品など4千円
9 笑い太鼓グループホーム 「パークサイド」	(未定)	(予定) 家賃 5～6万円 食費 個別の利用状況に応じて その他 3,000円(世話人代)
10 身体障がい者の生活 の場「まちなか」	【収入】 入居者家賃等 補助金(富山県身体障害者等グル ープホーム補助金事業)	家賃 24,000円 共益費 5,000円 水光熱費 17,000円 食費 17,000円(後、清算)
11 すまいるはーと	(準備中のため不明)	(準備中のため不明)
12 フロンティア	【収入】 入居者家賃 100万 オーナーの持出し 130万 (空室2室と共有スペースの 光熱費)	家賃 3.5万～4.75万 (部屋の広さによる) 共益費 3万 (光熱費、平日の朝・夕食代) 個室の電気・水道・ガス代、朝・ 夕以外の食費は、各自で負担

#### 4 職員配置の状況とサービス利用上の工夫

- ・入居者は、各自でヘルパーを利用しているが、時間数が不足していることが多く、夜間をボランティアや個人契約でケアを受けているケースがほとんどである。
- ・親が共同で（当番制で）ケアに当たっているケースが1件ある。

表 3-4 職員配置と工夫点

住まいの名称	職員配置と工夫点
1 あおば生活ホーム「俊」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員を6人配置している。完全に個々人に対応した生活を支援しており、個別支援会議を開催している。</li> <li>・入居者は皆、ホームでの生活で、居宅介護を利用している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護事業所をNPO法人として運営</li> <li>・土日は、学生のアルバイトで対応</li> <li>・夜間の人員はボランティア</li> </ul>
2 あずましや支援ハウス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーナー夫妻のほか介護職員が数人。</li> <li>・居宅介護事業所を併設して、入居者に利用してもらっている。ヘルパー資格を持っている人を募集しているが、長く続かない悩みがある。今年度、高卒者の採用も予定している。</li> <li>・近隣の高齢者宅へも介護保険でホームヘルパーを派遣している。</li> <li>・2階にオーナー夫妻が居住し、夜中のケアに対応</li> </ul>
3 生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各入居者が個別にホームヘルパーを複数事業者と契約している。</li> <li>・世話人は1人配置。</li> <li>・入居者自らが週に1回、駅前で介助者募集のチラシを配っている。</li> </ul>
4 よつばホーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各個人に一人の職員または、パートのヘルパー等が支援にあたっている。</li> <li>・夜間体制は1対1での添い寝が必要のため、常勤2名非常勤2名の体制をとっている。</li> <li>・その他にアルバイト、ボランティア、ホームヘルパー</li> <li>・重度訪問介護に変更することにより夜間の派遣を可能にした。</li> </ul>
5 グループホーム「ゆい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間は宿直を置いている。居宅介護ほどの事業所を活用してもよいこととしている。</li> <li>・体験入居がある場合は、主婦や学生バイトで対応</li> </ul>
6 ILホーム「ソレイユ小倉寺」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナイトケア事業の拠点をおく（入居者の利用を想定）</li> </ul>
7 多機能型地域交流ハウス「がだばーと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援スタッフを各入居者が個別に契約しており、夜間も泊まる。また、父母が交代で週2回程度、見守りと泊まりの当番を行っている。</li> <li>・月2回、食事と見守りのボランティアを依頼</li> </ul>
8 ケアホーム「野ぶどう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤ヘルパーが11名、日中と早朝に2名、夜間に2名。</li> <li>・夕方からのヘルパーは世話人的な役割でありヘルパーとしての待遇をしていない</li> <li>・看護師資格を持っているボランティアがいる</li> </ul>
9 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」	7 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」
10 身体障がい者の生活の場「まちなか」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世話人3人配置、他に個別にホームヘルパー利用</li> </ul>

住まいの名称	職員配置と工夫点
11 すまいるはーと	これから介助者を募集する予定だが、当面は介護指導で親たちも交代で泊まる予定。
12 フロンティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各入居者が個別に居宅介護事業者と契約し、ヘルパーを使って生活している。</li> <li>・フロンティア開設にあたって協力を依頼した経緯から、契約している居宅介護事業者は1ヵ所のみだが、オーナーとは関係ない全くの別法人。</li> <li>・夜間はヘルパー1人が空いている居室に宿泊し、見守りが必要な2人の入居者に対するケアを行っている。</li> </ul>

## Ⅱ 肢体不自由者の生活と住まいの課題（生活と住まいの調査から）

### 1 圧倒的に多い家族との同居のなかでの課題

#### (1) 過半数が家族と同居・サービス利用のための送迎が負担

・現在の生活場所については、施設入所を除けば家族同居の割合が60%で圧倒的に多いのが現状である。また、家族と別に暮らしている障がい者の割合は10%程度であり、家族同居・施設入所以外の選択肢がきわめて限られている現状にある。

・そのなかで、福祉サービスの利用で困っていることとしては、「サービス利用にかかる自己負担が大きいこと」「必要なサービスを提供している事業所がない(少ない)こと」の他、「サービスを利用するために送迎が必要であること」の回答が多く、日中活動や通院を行うぬいあたり、送迎をいかにクリアするかが、大きな問題になっている。

#### (2) 地域で生活するのは望ましいと考えているが不安も大きい

・障がい者の地域生活については、年齢を問わず、「重度の障がいがあっても、地域で生活するのが望ましいと考えている」「障がいの程度によるが、地域で生活するのが望ましいと考えている」が全体の70%近くを占めている。しかし、家族よりも本人調査の方が「施設で生活する方が安心だと考えている」回答率が若干高くなっており、本人たちが、地域生活といっても未経験でいろんな不安を抱えていることもうかがえる。

・親と一緒に暮らせなくなった場合の生活について「グループホームやケアホームでの生活」「少人数での暮らし」を考えている意見が多くみられた一方、「親と暮らすことしか考えていない」という意見もあった。

#### (3) 地域生活のポイントは、介護体制、信頼できる人と適切な医療やリハビリ

・障がい者が生活を続ける上では、「地域生活が難しくなったときの受け入れ先があること」が最も必要な意見として多かった。その他、「本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できること」「本人のことをまかせられる信頼できる人を見つけること」「適切な医療やリハビリが地域で受けられること」「障がいに対応した住宅物件を確保できること」等の回答が上位を占めており、介護体制と人の確保、地域の医療やリハビリ体制等の整備が必要であることがうかがえる。

## Ⅲ 肢体不自由者の生活と住まいの課題（住まいの調査から）

### 1 土地・建物の確保

#### (1) 土地・建物の所有者等の理解

・土地と建物をセットにした物件を確保することが困難だった状況がみられた。そうした中でも、土地の所有者が建物を立てて、一括で賃貸している方法が5件あり、こうした協

力を求めることが解決方法の一つと言える。

- ・土地所有者や建物の所有者としては、一括賃貸することで、安定的な収入につながり、メリットがあるとの声が聞かれた。双方にとってメリットが享受できる方法を採用することが課題と言える。
- ・ただし、こうした所有者には、家族など身近なところに障がい者がいる、あるいはいた経験があることも多く、障がい者に対する理解があることが前提となっていると考えられる。
- ・障がい者への理解を深めることで、より多様な所有者が出現することが求められる。
- ・近隣住民から火災発生時などの不安の声が寄せられたという例があった。この例では、建物オープンの際に近隣住民への見学会を開くことによって、一気に理解が得られたということで、地域との関係性をいかに良い方向へ築いていくことができるかは、入居後の暮らしやすさにも関わっていくことであろう。

## (2) 資金調達

- ・物件を自己調達した法人、団体は、銀行借入れを行っている。
- ・初期投資にかかる自己資金の不足を補い、障がい者の住宅確保を容易にするため、活用しやすい制度資金の拡充が求められる。
- ・また、メンテナンス費用の確保も、地域生活の継続のために、大きな課題と言える。

## 2 早期の自立生活への移行

- ・入居者の年齢層は比較的若く、60代は少数であったが、長く施設や親元で生活していると、自立した地域生活に入ることへの抵抗が大きくなると考えられる。その要因は、一つには、本人の周囲への依存心が強くなっている場合が多く、自立意識が目覚めるまでに時間がかかること、二つ目は、親や周囲が自立生活は困難だとあきらめてしまうこと、が考えられる。
- ・高等学校の卒業や成人は、通常親離れの時期でもあり、障がい者の自立生活の時期ととらえることが望ましい。しかし、高等学校卒業から障害者年金を受給できるまでの通常約2年間は、経済的に在宅で家族が支えていかざるを得ない状況もある。
- ・児童の頃から様々な制度上のサービスを使い慣れてきた世代が成人になったとき、重複障がいや医療的ケアを必要とする方には、十分に満たされない制度上の介護支給量から、卒後も当面は親や家族が在宅で介護を行っていくしかないという思いが、親たちの声としては多く聞かれた。
- ・身体障がい者の自立生活への意気込みが、日々のボランティア確保に追われていた支援費制度前の頃と違い、「障がい者自身の自己決定・サービス選択」として障がい者のホームヘルプ利用が当たり前になってきた支援費制度後では、様々な手厚い介護サービスを受けられることが前提とされなければ地域での自立生活にも不安を感じるという意識が、当事者や親を中心に出てきたように感じられた。逆を言えば、ある程度の介護体制さえ整えば、当たり前の市民生活として、地域の中で自立して暮らしていきたいという思いが、障がい者運動等に関わらない方たちの中でも強くなってきた様子が、各地でのヒアリングで感じられた。そのためには、制度が整うまでは各個人での自立生活よりも共同生活という形を最初の一步とし

て望む人が増えてきたようである。

### 3 夜間対応サービスの確保

- ・多くのホームから、入居者の夜間の見守りと必要に応じたケアの提供が課題であることが示された。
- ・重度の障がいを持った人でも、24 時間の見守りとケアが必要な人は限られている。「ナイトケア」などのサービスで対応する、親が当番で交代で過ごすといったケースがあるが、夜間対応は大きな課題と言える。
- ・グループホームやケアホームでの職員配置は、報酬上、夜間の介護を特に必要とする人にとっては心もとない中、生活ホーム（または福祉ホーム等）の事業を活用しながら、不足分は、各人のホームヘルプ利用で補っている傾向がある。

### 4 医療ニーズへの対応

- ・医療ニーズが高い重度障がいをもっている人が入居できる住居は少なく、医師、看護師などの医療スタッフがいないことが背景にある。
- ・吸引や胃瘻、浣腸、膀胱洗浄など、日常生活を送る上で欠かせない医療対応について、医師、または看護師がいなければ対応できない仕組みを変革することが必要である。例えば、研修を受けた介護福祉士が、医師、看護師の指示のもとに、日常生活に必要な医療的な対応を行うことができるようにすることを検討する必要がある。

### 5 運営体制の確保

- ・都道府県単独事業の補助金事業から、障害者自立支援法でのグループホームやケアホーム移行を求められている事例が非常に多い。地方自治体の財政不足を補うための意向であれば、身体障がいの方が必要な介護を十分に受けられ、安全に地域で暮らせるバリアフリー化の推進の財源的裏付けも強く求められている。



表 3-5 課題と今後の方向

住まいの名称	課題と今後の方向
1 生活ホーム「俊」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームでの生活は、居宅介護を利用しているが、時間が不足し、土日は大学生ボランティアで対応しているのが現状（12：00から21：00）。</li> <li>・本人が年をとってからホームで生活するのは、本人も親もかなり大変なところがある。親は、自分が元気なうちは手元において世話をしたいと思っているが、親が高齢になって倒れてから急に地域での自立生活をするには本人にも負担がある。また、職員もかなりの時間をかけて、対応しなければならず、困難だ。</li> <li>・本人に生活保護を申請してくれれば、ホームでの生活を始めることが金銭的には可能。ただ、親が自分との関係が切れるのではないか、という気持ちをもってしまうことが多い</li> </ul>
2 あずましや支援ハウス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークからの応募があっても、1週間続かない人がほとんどである。ヘルパーの資格を取ってすぐに働きに来る人がいるが、ボランティア精神がなければ家政婦感覚で来てはなかなか長続きしない。</li> <li>・実際に関わる利用者にも意見を聞いて、スタッフを決めている。また、利用者からもどういう介護をしてほしいのか、意見を言ってもらっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居待ちの申込者もいる。利用者は1年のほとんどを支援ハウスで過ごし、逆に家族がとまりに来ることもある。将来的には家族も一緒に住めるようなことも考えたい。</li> <li>・パソコンが得意な人も多いので、将来的に入居している障害者自身が施設の経営に関われるようになれば、自分たちで住みよい「家」を作るための工夫ができるのではないかな。</li> </ul>
3 生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金が切り下げられ、全体的に予算が逼迫している。</li> <li>・人員確保が困難である。</li> <li>・サービスが拡充し始めたことから、逆にサービスを要望し、自立生活を望む人が減ってきていると感じる。</li> </ul>
4 よつばホーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員募集をしても、集まらないことが多い。</li> <li>・夜間の支援体制や、入浴部分の二人体制など毎日をホームで過ごすとなると、重度訪問介護の支給時間が現状では足りない。</li> </ul>
5 グループホーム「ゆい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営費補助と家賃では、すべての時間帯にスタッフを配置することができず、夜間のスタッフ配置のために個人負担（28,000円）をお願いしている。</li> <li>・夜間は1人を配置しているが、登録スタッフが10人では、かなりきつい状況。</li> </ul>
6 ILホーム「ソレイユ小倉寺」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の対応が課題であり、今後、ナイトケアステーションを増やし、市内のどこからでも連絡があったら15分で駆けつけられる体制をとりたい。</li> </ul>

住まいの名称	課題と今後の方向
7 多機能型地域交流ハウス「があだぱーと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物が老朽化してきたときの改修資金等の調達が困難な状況になると考えられる。</li> <li>・現在は、2人の共同部屋にしているが、個室希望があったときに、2階でしか対応できない。</li> <li>・ケアホームなどの制度に対応したほうがよいか、今後の課題と考えている。</li> <li>・夏休みなど体験宿泊で使ってもらいたい。</li> </ul>
8 ケアホーム「野ぶどう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸引や胃瘻、浣腸、膀胱洗浄等の医療的ケアへの対応を考えると、医師や看護師の配置が必須であり、困難である。</li> <li>・また、医療ニーズの高い人は、施設に入所もできない状況にある。</li> <li>・入居者が全員「区分6」であり、職員がすべて有資格であることが必要で、人材を確保することが難しい。</li> </ul>
9 笑い太鼓グループホーム「パークサイド」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて十分なホームヘルパー利用を求めると、現行のグループホーム・ケアホームの精度では不十分であり、福祉ホームとしての運営を考えている。</li> <li>・地域に開かれたスペースとしての活用も考慮中。</li> <li>・体験入居をしても、子どもの自立に対して親のほうが決心がつかずにいることがある。</li> </ul>
10 身体障がい者の生活の場「まちなか」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「富山型デイサービス」で有名な地域ではあるが、ヘルパー利用率は全国最下位で、在宅での介護よりも自宅外へ障がい者の暮らす場を求める傾向があり、入所施設を望む声も多い。</li> <li>・その中で50代以降で親を失い、行き場を無くした人たちがグループホームを求めるケースが増えているが、現状の制度上では、夜間介護まで職員を配置できない状況である。</li> <li>・消防法に基づき、消防設備等の設置を求められているが、財政的に苦しい。</li> </ul>
11 すまいるはーと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は福祉ホーム事業を活用する予定だったが、自立支援法に基づくケアホームの利用や、そこでのホームヘルプの利用の制限なども考え、現在考慮中。</li> <li>・入居者の部屋は2階を予定しているが、バリアフリーのための改修がまだできていなく、そのための資金確保も課題となっている。</li> </ul>
12 フロンティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の金銭的負担が大きい。定期受診やリハビリテーションが必要だったり、積雪期はタクシーでの移動が多くなり交通費もかかる。</li> <li>・サービス利用・家賃などすべて障がい福祉年金からの負担であり、なんとか生活できる状態ではあるが、貯金はできない状況。</li> <li>・札幌市では、重度訪問介護が最大でも330時間/月の支給量しか認められないため、障がいの程度が重い入居者は、週末は実家に帰って支給時間を節約している。</li> </ul>

## IV 課題からみえてきたこと

地域の中での暮らしの場を自ら選択していく障がい者にとっては、プライバシーが守られ、自分らしい暮らしを実現できる住まいの場と、日常生活において最低限必要な介護の体制の整備が強く望まれていることは、今回の調査においても改めて確認することができた。

しかし、現実には、自分自身で自らの暮らしを公的制度も含めてケアマネジメントできる方はホームヘルプサービスをフルに活用しながら一人暮らしを始めるなど、支援費制度以前よりも可能になってはきましたが、そこまでの自らのケアマネジメント力に自信のない方、あるいは出来ない方は、グループホームやケアホームなどといった公的な共同住居による支援を望んでいることも推測される。

一方でグループホームやケアホームといった公的制度上の共同住居には、身体障害者手帳のみしか持たない方は対象から外れ、また、療育手帳等も同時に取得することにより入居可能となった方にとっても、住居のバリアフリーや医療的介護の必要性などから、入居を断念せざるを得ない実態があります。そこで当事者自身、あるいは親たちが実践を始めたのが、複数の人たちと一緒に暮らし支えあう「共同住宅」といった住まいの方法である。実際には、県や市の単独事業として補助金が支給される「福祉ホーム」または「生活ホーム」といった補助事業を活用し、ホームヘルパーを利用するかたちが多いことが今回の訪問調査で分かったが、ホームヘルプ以外については何らの助成金等も受けずに、いわば親持ち出しで共同住宅を維持運営している例も見受けられた。

ヒアリング調査においては、全国各地での様々な団体、当事者の取り組みについて調査したが、ヒアリング先での共通事項は、各運営者が現状に様々な課題を抱えながらも、さらにもっとこんな生活や暮らしをしてみたいという当事者の声に耳を傾け、それを支えていく体制を自立支援法において報酬が設定されているサービスにとどまらず、地域のインフォーマルな福祉力も活用しながら体制を整えているという状況があった。

# 資 料



肢体不自由児者の生活と住まいに関するアンケート調査

【 ご本人用 】

問1 性別に○をつけてください。

1 男性	2 女性
------	------

問2 年齢について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 15歳以上18歳未満	4 25歳以上30歳未満	7 50歳代
2 18歳以上20歳未満	5 30歳代	8 60歳代
3 20歳以上25歳未満	6 40歳代	9 70歳代以上

問3 あなたが持つ障害者手帳について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

1 身体障害者手帳 (1級)	7 療育手帳 (A)
2 身体障害者手帳 (2級)	8 療育手帳 (B)
3 身体障害者手帳 (3級)	9 精神障害者保健福祉手帳 (1級)
4 身体障害者手帳 (4級)	10 精神障害者保健福祉手帳 (2級)
5 身体障害者手帳 (5級)	11 精神障害者保健福祉手帳 (3級)
6 身体障害者手帳 (6級)	12 その他 ( )

問4 あなたの障害認定区分について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 区分1	4 区分4	7 認定を受けていない
2 区分2	5 区分5	
3 区分3	6 区分6	



げんざい せいかつ  
【現在の生活について】

問5 あなたは、<sup>げんざい</sup>現在、<sup>せいかつ</sup>どちらで生活されていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- |   |   |
|---|---|
| 1 | <sup>かぞく いっしょ</sup> 家族と一緒に、 <sup>じたく せいかつ</sup> 自宅で生活している           |
| 2 | <sup>かぞく べつ</sup> 家族とは別に、 <sup>じしん じたく ひとりぐ</sup> ご自身の自宅で一人暮らしをしている |
| 3 | <sup>かぞく べつ なんにん</sup> 家族とは別に、 <sup>せいかつ</sup> 何人かのグループで生活している      |
| 4 | <sup>しせつ にゅうしょ</sup> 施設に入所している                                      |
| 5 | <sup>がっこう きしゅくしゃ</sup> 学校の寄宿舎などで <sup>せいかつ</sup> 生活している             |
| 6 | <sup>びょういん にゅういん</sup> 病院に入院している                                    |
| 7 | その他 ( )   |

問6 <sup>ふくし</sup>福祉サービスの<sup>りよう</sup>利用にあたり、<sup>こま</sup>困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |   |   |
|---|---|
| 1 | サービスを利用するために <sup>そうげい ひつよう</sup> 送迎が必要であること                              |
| 2 | 与えられたサービスの <sup>しきゅうりよう じかん じゅうぶん</sup> 支給量（時間）が充分でないこと                   |
| 3 | サービス利用に係る <sup>りよう かか じ こふたん おお</sup> 自己負担が大きいこと                          |
| 4 | 医療行為（ <sup>いりようこうい かくたんきゅういん じ ことうじょう たいおう</sup> 喀痰吸引や自己道尿など）に対応してもらえないこと |
| 5 | 必要なサービスを <sup>ひつよう ていきょう じぎょうしょ すく</sup> 提供している事業所がない（少ない）こと              |
| 6 | 希望したようにサービスを <sup>きぼう つか</sup> 使うことができないこと                                |
| 7 | <sup>ふくし</sup> 福祉サービスは <sup>りよう</sup> 利用していない                             |
| 8 | 特に <sup>とく こま</sup> 困っていることはない  |
| 9 | その他 ( )   |

問7 「問6」で○をつけた項目<sup>こうもく</sup>について、どのような状<sup>じょうきょう</sup>況<sup>ぐたいてき</sup>なのか具体的に<sup>おし</sup>教えてください。  
 (サービス<sup>りよう</sup>利用<sup>かん</sup>に関して、どのような点<sup>てん</sup>で、どのように<sup>こま</sup>に困<sup>こま</sup>っているのか  
 など)

問8 日<sup>にちちゅう</sup>中<sup>おも</sup>の主な活動場所<sup>かつどうばしょ</sup>はどこですか。平日<sup>へいじつ</sup>・土日<sup>どにちしゆくじつ</sup>祝<sup>べつ</sup>日<sup>おも</sup>の別に、主なものに2つ  
 まで○をつけてください。

(1) 平日<sup>へいじつ</sup> (主なもの2つに○)

1 職場 <sup>しよくば</sup>	6 自宅 <sup>じたく</sup>
2 小規模作業所 <sup>しょうきぼさぎようしょ</sup>	7 入所施設 <sup>にゅうしょしせつ</sup>
3 学校 <sup>がっこう</sup>	8 通所施設 <sup>つうしょしせつ</sup>
4 児童デイサービス <sup>じどう</sup>	9 その他 <sup>ほか</sup> ( )
5 日中一時支援 <sup>にちちゅういちじしえん</sup>	

(2) 土日<sup>どにちしゆくじつ</sup>祝<sup>おも</sup>日<sup>おも</sup> (主なもの2つに○)

1 職場 <sup>しよくば</sup>	6 自宅 <sup>じたく</sup>
2 小規模作業所 <sup>しょうきぼさぎようしょ</sup>	7 入所施設 <sup>にゅうしょしせつ</sup>
3 学校 <sup>がっこう</sup>	8 通所施設 <sup>つうしょしせつ</sup>
4 児童デイサービス <sup>じどう</sup>	9 その他 <sup>ほか</sup> ( )
5 日中一時支援 <sup>にちちゅういちじしえん</sup>	

ちいきせいかつ  
【地域生活について】

問9 障がいのある方が、地域で生活することについて、どのようにお考えですか。

あなたの考えに最も近いもの1つに○をつけてください。

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 | 重度の障がいがあっても、地域で生活するのが望ましいと考えている |
| 2 | 障がいの程度によるが、地域で生活するのが望ましいと考えている  |
| 3 | 重度の障がいがある場合は、施設で生活する方が安心だと考えている |
| 4 | 障がいの程度によらず、施設で生活する方が安心だと考えている   |
| 5 | その他 ( )                         |

問10 自宅で親御さんと一緒に暮らしている方におたずねします。

- (1) 将来、親御さんと一緒に暮らせなくなるときがきた場合に、あなたは、誰と、どこで、どのように生活したいと考えていますか。具体的に記入してください。

--

- (2) どのような支援があれば、(1)で記入したような生活ができると思いますか。具体的に記入してください。

--

(3) 将来の生活に備えて、今、行っていることはありますか。具体的に記入してください。

問 11 障がいのある方が地域で生活を続ける（あるいは始める）上で、必要となるのはどのようなことだと思いますか。主なものに3つまで○をつけてください。

**【住まい・仕事】**

- 1 障がいに対応した住宅物件を確保できること
- 2 住宅の維持管理やリフォームに係る費用の補助があること
- 3 就労先・仕事が確保でき、生活費が得られること
- 4 地域生活を始める前に、地域生活を体験できる機会や場があること
- 5 地域生活が難しくなった時の受け入れ先があること（施設など）

**【福祉サービス・医療】**

- 6 ご本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できること
- 7 移動支援に関するサービスが充実し、一人での外出が容易になること
- 8 訓練を受けたヘルパーにより、喀痰吸引などの医療行為が行えるようになること
- 9 適切な医療やリハビリが、地域で受けられること
- 10 本人のことをまかせられる信頼できる人を見つけること

**【その他】**

- 11 地域住民の理解と協力が得られること
- 12 その他（ )

問 12 「問 11」で○をつけた項目<sup>こうもく</sup>について、困<sup>こま</sup>っている点<sup>てん</sup>や希望<sup>きぼう</sup>することがあれば、  
具体的<sup>ぐたいてき</sup>に記入<sup>きにゅう</sup>してください。

ご協<sup>きょうりよく</sup>力<sup>りよく</sup>ありがとうございました  
同封<sup>どうふう</sup>の返信用<sup>へんしんようふうとう</sup>封筒<sup>ふうとう</sup>に入れて2月<sup>がつ</sup>9日<sup>にち</sup>までに投函<sup>とうかん</sup>してください

肢体不自由児者の生活と住まいに関するアンケート  
クロス集計結果  
【本人】



## I - 1 [問1] 性別

上段:件数 下段:%

		合計	男性	女性	無回答
合計		186 100.0	100 53.8	86 46.2	0 0.0
性別	男性	100 100.0	100 100.0	0 0.0	0 0.0
	女性	86 100.0	0 0.0	86 100.0	0 0.0
年齢	15歳以上18歳未満	25 100.0	12 48.0	13 52.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	16 100.0	8 50.0	8 50.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	12 37.5	20 62.5	0 0.0
	25歳以上30歳未満	31 100.0	18 58.1	13 41.9	0 0.0
	30歳代	56 100.0	33 58.9	23 41.1	0 0.0
	40歳代	18 100.0	12 66.7	6 33.3	0 0.0
	50歳代	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	無回答	5 100.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0
区分	区分1	20 100.0	12 60.0	8 40.0	0 0.0
	区分2	5 100.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0
	区分3	12 100.0	4 33.3	8 66.7	0 0.0
	区分4	15 100.0	9 60.0	6 40.0	0 0.0
	区分5	14 100.0	7 50.0	7 50.0	0 0.0
	区分6	52 100.0	27 51.9	25 48.1	0 0.0
	認定を受けていない	28 100.0	17 60.7	11 39.3	0 0.0
	無回答	40 100.0	21 52.5	19 47.5	0 0.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113 100.0	61 54.0	52 46.0	0 0.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	7 53.8	6 46.2	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0
	施設に入所している	39 100.0	20 51.3	19 48.7	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	9 100.0	5 55.6	4 44.4	0 0.0
	病院に入院している	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	その他	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

I-2 [問2] 年齢

上段:件数 下段:%

		合計	15歳以上18歳未満	18歳以上20歳未満	20歳以上25歳未満	25歳以上30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	無回答
合計		186 100.0	25 13.4	16 8.6	32 17.2	31 16.7	56 30.1	18 9.7	3 1.6	5 2.7
性別	男性	100 100.0	12 12.0	8 8.0	12 12.0	18 18.0	33 33.0	12 12.0	2 2.0	3 3.0
	女性	86 100.0	13 15.1	8 9.3	20 23.3	13 15.1	23 26.7	6 7.0	1 1.2	2 2.3
年齢	15歳以上18歳未満	25 100.0	25 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	16 100.0	0 0.0	16 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	0 0.0	0 0.0	32 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	25歳以上30歳未満	31 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	31 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	56 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	56 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18 100.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0
	無回答	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0
区分	区分1	20 100.0	5 25.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	5 25.0	4 20.0	1 5.0	1 5.0
	区分2	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
	区分3	12 100.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3	2 16.7	2 16.7	3 25.0	0 0.0	0 0.0
	区分4	15 100.0	0 0.0	1 6.7	2 13.3	5 33.3	6 40.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0
	区分5	14 100.0	0 0.0	1 7.1	5 35.7	2 14.3	5 35.7	1 7.1	0 0.0	0 0.0
	区分6	52 100.0	2 3.8	9 17.3	14 26.9	11 21.2	13 25.0	2 3.8	1 1.9	0 0.0
	認定を受けていない	28 100.0	7 25.0	1 3.6	3 10.7	3 10.7	11 39.3	2 7.1	0 0.0	1 3.6
	無回答	40 100.0	8 20.0	1 2.5	6 15.0	6 15.0	12 30.0	4 10.0	0 0.0	3 7.5
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113 100.0	15 13.3	13 11.5	19 16.8	15 13.3	37 32.7	11 9.7	1 0.9	2 1.8
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4	4 30.8	5 38.5	0 0.0	2 15.4	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	0 0.0	0 0.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	39 100.0	2 5.1	2 5.1	6 15.4	8 20.5	13 33.3	7 17.9	0 0.0	1 2.6
	学校の寄宿舎などで生活している	9 100.0	6 66.7	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 22.2
	病院に入院している	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

I-3 [問3]障害者手帳について

(複数回答)

		全体	身体障害者手帳(1級)	身体障害者手帳(2級)	身体障害者手帳(3級)	身体障害者手帳(4級)	身体障害者手帳(5級)	身体障害者手帳(6級)	療育手帳(A)	療育手帳(B)	精神障害者保健福祉手帳(1級)	精神障害者保健福祉手帳(2級)	精神障害者保健福祉手帳(3級)	その他
			上段:件数	下段:%										
全体		186	122 65.6	42 22.6	8 4.3	2 1.1	2 1.1	0 0.0	63 33.9	11 5.9	2 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別	男性	100	65 65.0	26 26.0	5 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33 33.0	6 6.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性	86	57 66.3	16 18.6	3 3.5	2 2.3	2 2.3	0 0.0	30 34.9	5 5.8	1 1.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	15歳以上18歳未満	25	19 76.0	4 16.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 36.0	3 12.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	16	13 81.3	2 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 81.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32	22 68.8	5 15.6	0 0.0	0 0.0	2 6.3	0 0.0	15 46.9	4 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	25歳以上30歳未満	31	21 67.7	6 19.4	2 6.5	1 3.2	0 0.0	0 0.0	11 35.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	56	32 57.1	20 35.7	2 3.6	1 1.8	0 0.0	0 0.0	12 21.4	2 3.6	1 1.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	18	9 50.0	4 22.2	4 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 16.7	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	3	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	5	4 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	20	16 80.0	2 10.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分2	5	1 20.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分3	12	6 50.0	4 33.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分4	15	7 46.7	7 46.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分5	14	5 35.7	6 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 64.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分6	52	49 94.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	28 53.8	2 3.8	2 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	認定を受けていない	28	19 67.9	7 25.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6	0 0.0	5 17.9	2 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	40	19 47.5	12 30.0	5 12.5	2 5.0	1 2.5	0 0.0	10 25.0	5 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113	74 65.5	23 20.4	5 4.4	2 1.8	2 1.8	0 0.0	44 38.9	10 8.8	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	6 46.2	6 46.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6	5 83.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	39	27 69.2	11 28.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	9	6 66.7	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	病院に入院している	2	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

I-4 [問4] 障害者認定区分について

上段:件数 下段:%

		合計	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	認定を受けていない	無回答
合計		186 100.0	20 10.8	5 2.7	12 6.5	15 8.1	14 7.5	52 28.0	28 15.1	40 21.5
性別	男性	100 100.0	12 12.0	3 3.0	4 4.0	9 9.0	7 7.0	27 27.0	17 17.0	21 21.0
	女性	86 100.0	8 9.3	2 2.3	8 9.3	6 7.0	7 8.1	25 29.1	11 12.8	19 22.1
年齢	15歳以上18歳未満	25 100.0	5 20.0	1 4.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	7 28.0	8 32.0
	18歳以上20歳未満	16 100.0	1 6.3	0 0.0	2 12.5	1 6.3	1 6.3	9 56.3	1 6.3	1 6.3
	20歳以上25歳未満	32 100.0	1 3.1	0 0.0	1 3.1	2 6.3	5 15.6	14 43.8	3 9.4	6 18.8
	25歳以上30歳未満	31 100.0	2 6.5	0 0.0	2 6.5	5 16.1	2 6.5	11 35.5	3 9.7	6 19.4
	30歳代	56 100.0	5 8.9	2 3.6	2 3.6	6 10.7	5 8.9	13 23.2	11 19.6	12 21.4
	40歳代	18 100.0	4 22.2	1 5.6	3 16.7	1 5.6	1 5.6	2 11.1	2 11.1	4 22.2
	50歳代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	無回答	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0
区分	区分1	20 100.0	20 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分2	5 100.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分3	12 100.0	0 0.0	0 0.0	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分4	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分5	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分6	52 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	52 100.0	0 0.0	0 0.0
	認定を受けていない	28 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	28 100.0	0 0.0
	無回答	40 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	40 100.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113 100.0	8 7.1	2 1.8	8 7.1	10 8.8	9 8.0	37 32.7	15 13.3	24 21.2
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	3 23.1	1 7.7	2 15.4	0 0.0	2 15.4	2 15.4	2 15.4	1 7.7
	何人かのグループで生活している	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	0 0.0	1 16.7
	施設に入所している	39 100.0	6 15.4	1 2.6	1 2.6	5 12.8	3 7.7	5 12.8	9 23.1	9 23.1
	学校の寄宿舎などで生活している	9 100.0	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	2 22.2	3 33.3
	病院に入院している	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

I-5 [問5]現在の生活場所

		上段:件数 下段:%								
		合計	家族と一緒に、自宅で生活している	家族とは別に、ご自身の自宅で一人暮らしをしている	家族とは別に何人かのグループで生活している	施設に入所している	学校の寄宿舎などで生活している	病院に入院している	その他	無回答
合計		186 100.0	113 60.8	13 7.0	6 3.2	39 21.0	9 4.8	2 1.1	3 1.6	1 0.5
性別	男性	100 100.0	61 61.0	7 7.0	4 4.0	20 20.0	5 5.0	1 1.0	2 2.0	0 0.0
	女性	86 100.0	52 60.5	6 7.0	2 2.3	19 22.1	4 4.7	1 1.2	1 1.2	1 1.2
年齢	15歳以上18歳未満	25 100.0	15 60.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	6 24.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	16 100.0	13 81.3	0 0.0	0 0.0	2 12.5	1 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	19 59.4	2 6.3	4 12.5	6 18.8	0 0.0	0 0.0	1 3.1	0 0.0
	25歳以上30歳未満	31 100.0	15 48.4	4 12.9	2 6.5	8 25.8	0 0.0	0 0.0	1 3.2	1 3.2
	30歳代	56 100.0	37 66.1	5 8.9	0 0.0	13 23.2	0 0.0	0 0.0	1 1.8	0 0.0
	40歳代	18 100.0	11 61.1	0 0.0	0 0.0	7 38.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	20 100.0	8 40.0	3 15.0	0 0.0	6 30.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分2	5 100.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	区分3	12 100.0	8 66.7	2 16.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0
	区分4	15 100.0	10 66.7	0 0.0	0 0.0	5 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分5	14 100.0	9 64.3	2 14.3	0 0.0	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分6	52 100.0	37 71.2	2 3.8	5 9.6	5 9.6	1 1.9	0 0.0	2 3.8	0 0.0
	認定を受けていない	28 100.0	15 53.6	2 7.1	0 0.0	9 32.1	2 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	40 100.0	24 60.0	1 2.5	1 2.5	9 22.5	3 7.5	0 0.0	1 2.5	1 2.5
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113 100.0	113 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	0 0.0	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	0 0.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	39 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	39 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	病院に入院している	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	その他	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

## I-6 [問6] 福祉サービスの利用にあたり困っていること

(複数回答)

上段:件数 下段:%

		全体	サービスを利用するために送迎が必要であること	与えられたサービスの支給量(時間)が充分でないこと	サービス利用に係る自己負担が大きいこと	医療行為(喀痰吸引や自己道尿など)に対応してもらえないこと	必要なサービスを提供している事業所がない(少ない)こと	希望したようにサービスを使うことができない	福祉サービスは利用していない	特に困っていることはない	その他
全体		186	39 21.0	19 10.2	44 23.7	9 4.8	41 22.0	26 14.0	29 15.6	43 23.1	17 9.1
性別	男性	100	20 20.0	9 9.0	24 24.0	6 6.0	24 24.0	17 17.0	17 17.0	23 23.0	13 13.0
	女性	86	19 22.1	10 11.6	20 23.3	3 3.5	17 19.8	9 10.5	12 14.0	20 23.3	4 4.7
年齢	15歳以上18歳未満	25	6 24.0	0 0.0	5 20.0	0 0.0	10 40.0	5 20.0	6 24.0	3 12.0	2 8.0
	18歳以上20歳未満	16	6 37.5	3 18.8	4 25.0	1 6.3	5 31.3	3 18.8	3 18.8	3 18.8	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32	8 25.0	8 25.0	13 40.6	1 3.1	8 25.0	6 18.8	4 12.5	8 25.0	2 6.3
	25歳以上30歳未満	31	7 22.6	4 12.9	9 29.0	2 6.5	6 19.4	2 6.5	2 6.5	7 22.6	2 6.5
	30歳代	56	9 16.1	3 5.4	9 16.1	4 7.1	7 12.5	7 12.5	12 21.4	16 28.6	7 12.5
	40歳代	18	3 16.7	1 5.6	3 16.7	1 5.6	2 11.1	2 11.1	1 5.6	4 22.2	3 16.7
	50歳代	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 33.3	1 33.3
	無回答	5	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
区分	区分1	20	1 5.0	1 5.0	5 25.0	2 10.0	3 15.0	4 20.0	3 15.0	6 30.0	2 10.0
	区分2	5	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	区分3	12	3 25.0	1 8.3	4 33.3	0 0.0	3 25.0	2 16.7	3 25.0	2 16.7	3 25.0
	区分4	15	5 33.3	2 13.3	4 26.7	0 0.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7
	区分5	14	7 50.0	2 14.3	4 28.6	0 0.0	3 21.4	1 7.1	0 0.0	3 21.4	1 7.1
	区分6	52	16 30.8	10 19.2	11 21.2	6 11.5	16 30.8	13 25.0	2 3.8	10 19.2	3 5.8
	認定を受けていない	28	3 10.7	1 3.6	5 17.9	1 3.6	6 21.4	1 3.6	10 35.7	7 25.0	4 14.3
	無回答	40	3 7.5	2 5.0	9 22.5	0 0.0	8 20.0	5 12.5	9 22.5	13 32.5	2 5.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113	31 27.4	12 10.6	18 15.9	6 5.3	32 28.3	16 14.2	15 13.3	26 23.0	9 8.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	3 23.1	2 15.4	5 38.5	0 0.0	1 7.7	1 7.7	3 23.1	5 38.5	1 7.7
	何人かのグループで生活している	6	1 16.7	2 33.3	3 50.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	2 33.3	0 0.0
	施設に入所している	39	2 5.1	2 5.1	16 41.0	2 5.1	5 12.8	3 7.7	7 17.9	8 20.5	6 15.4
	学校の寄宿舎などで生活している	9	2 22.2	0 0.0	2 22.2	1 11.1	2 22.2	5 55.6	2 22.2	1 11.1	0 0.0
	病院に入院している	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	その他	3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## I-7 [問8]日中の主な活動場所 (1)平日

(複数回答)

上段:件数 下段:%

		全体	職場	小規模作業所	学校	児童デイサービス	日中一時支援	自宅	入所施設	通所施設	その他
全体		186	13 7.0	28 15.1	35 18.8	1 0.5	15 8.1	76 40.9	36 19.4	60 32.3	15 8.1
性別	男性	100	8 8.0	19 19.0	17 17.0	0 0.0	6 6.0	39 39.0	19 19.0	31 31.0	10 10.0
	女性	86	5 5.8	9 10.5	18 20.9	1 1.2	9 10.5	37 43.0	17 19.8	29 33.7	5 5.8
年齢	15歳以上18歳未満	25	0 0.0	0 0.0	23 92.0	0 0.0	2 8.0	10 40.0	2 8.0	0 0.0	4 16.0
	18歳以上20歳未満	16	1 6.3	3 18.8	6 37.5	1 6.3	1 6.3	4 25.0	0 0.0	7 43.8	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32	3 9.4	8 25.0	2 6.3	0 0.0	2 6.3	14 43.8	6 18.8	11 34.4	4 12.5
	25歳以上30歳未満	31	3 9.7	4 12.9	0 0.0	0 0.0	2 6.5	8 25.8	8 25.8	15 48.4	3 9.7
	30歳代	56	3 5.4	9 16.1	0 0.0	0 0.0	4 7.1	27 48.2	12 21.4	22 39.3	4 7.1
	40歳代	18	3 16.7	3 16.7	0 0.0	0 0.0	3 16.7	9 50.0	7 38.9	3 16.7	0 0.0
	50歳代	3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	無回答	5	0 0.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	20	2 10.0	0 0.0	7 35.0	0 0.0	4 20.0	7 35.0	6 30.0	4 20.0	2 10.0
	区分2	5	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	区分3	12	1 8.3	1 8.3	3 25.0	0 0.0	1 8.3	7 58.3	1 8.3	5 41.7	1 8.3
	区分4	15	1 6.7	4 26.7	1 6.7	0 0.0	0 0.0	4 26.7	4 26.7	6 40.0	0 0.0
	区分5	14	2 14.3	4 28.6	1 7.1	0 0.0	3 21.4	4 28.6	2 14.3	5 35.7	0 0.0
	区分6	52	2 3.8	10 19.2	3 5.8	1 1.9	3 5.8	22 42.3	4 7.7	30 57.7	7 13.5
	認定を受けていない	28	1 3.6	3 10.7	8 28.6	0 0.0	1 3.6	13 46.4	9 32.1	6 21.4	3 10.7
	無回答	40	4 10.0	6 15.0	11 27.5	0 0.0	2 5.0	17 42.5	9 22.5	3 7.5	1 2.5
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113	5 4.4	25 22.1	23 20.4	1 0.9	13 11.5	60 53.1	0 0.0	48 42.5	7 6.2
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	6 46.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 38.5	0 0.0	6 46.2	1 7.7
	何人かのグループで生活している	6	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	2 33.3
	施設に入所している	39	0 0.0	0 0.0	2 5.1	0 0.0	1 2.6	5 12.8	36 92.3	3 7.7	1 2.6
	学校の寄宿舎などで生活している	9	0 0.0	0 0.0	8 88.9	0 0.0	0 0.0	4 44.4	0 0.0	0 0.0	1 11.1
	病院に入院している	2	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
	その他	3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-



## I-8 [問8]日中の主な活動場所 (2)土日祝日

(複数回答)

		全体	職場	小規模作業所	学校	児童デイサービス	日中一時支援	自宅	入所施設	通所施設	その他
										上段:件数 下段:%	
全体		186	5 2.7	2 1.1	3 1.6	0 0.0	10 5.4	160 86.0	30 16.1	3 1.6	21 11.3
性別	男性	100	4 4.0	2 2.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	87 87.0	17 17.0	3 3.0	12 12.0
	女性	86	1 1.2	0 0.0	3 3.5	0 0.0	8 9.3	73 84.9	13 15.1	0 0.0	9 10.5
年齢	15歳以上18歳未満	25	0 0.0	0 0.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	22 88.0	1 4.0	0 0.0	4 16.0
	18歳以上20歳未満	16	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	15 93.8	1 6.3	0 0.0	2 12.5
	20歳以上25歳未満	32	1 3.1	1 3.1	0 0.0	0 0.0	3 9.4	30 93.8	4 12.5	0 0.0	4 12.5
	25歳以上30歳未満	31	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	27 87.1	6 19.4	2 6.5	5 16.1
	30歳代	56	0 0.0	1 1.8	0 0.0	0 0.0	2 3.6	46 82.1	11 19.6	1 1.8	4 7.1
	40歳代	18	3 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 16.7	13 72.2	6 33.3	0 0.0	1 5.6
	50歳代	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
区分	区分1	20	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 20.0	16 80.0	4 20.0	0 0.0	4 20.0
	区分2	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	区分3	12	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	11 91.7	1 8.3	1 8.3	3 25.0
	区分4	15	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	13 86.7	2 13.3	0 0.0	2 13.3
	区分5	14	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	12 85.7	2 14.3	0 0.0	2 14.3
	区分6	52	1 1.9	1 1.9	0 0.0	0 0.0	2 3.8	49 94.2	5 9.6	1 1.9	7 13.5
	認定を受けていない	28	0 0.0	0 0.0	2 7.1	0 0.0	0 0.0	23 82.1	7 25.0	0 0.0	1 3.6
	無回答	40	2 5.0	1 2.5	0 0.0	0 0.0	1 2.5	33 82.5	8 20.0	1 2.5	1 2.5
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113	3 2.7	2 1.8	1 0.9	0 0.0	7 6.2	108 95.6	0 0.0	3 2.7	12 10.6
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 84.6	0 0.0	0 0.0	4 30.8
	何人かのグループで生活している	6	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0	2 33.3
	施設に入所している	39	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.1	25 64.1	29 74.4	0 0.0	1 2.6
	学校の寄宿舎などで生活している	9	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	8 88.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	病院に入院している	2	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	その他	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

I-9 [問9]障がいのある方が地域で生活することについて

上段:件数 下段:%

		合計	重度の障がい があっても、地 域で生活する のが望ましいと 考えている	障がいの程度 によるが、地域 で生活するのが 望ましいと考 えている	重度の障がい がある場合は、 施設で生活す る方が安心だと 考えている	障がいの程度 によらず、施設 で生活する方 が安心だと考 えている	その他	無回答
合計		186 100.0	72 38.7	52 28.0	28 15.1	12 6.5	5 2.7	17 9.1
性別	男性	100 100.0	38 38.0	35 35.0	14 14.0	5 5.0	1 1.0	7 7.0
	女性	86 100.0	34 39.5	17 19.8	14 16.3	7 8.1	4 4.7	10 11.6
年齢	15歳以上18歳未満	25 100.0	13 52.0	5 20.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0	3 12.0
	18歳以上20歳未満	16 100.0	9 56.3	3 18.8	3 18.8	0 0.0	0 0.0	1 6.3
	20歳以上25歳未満	32 100.0	14 43.8	7 21.9	6 18.8	3 9.4	0 0.0	2 6.3
	25歳以上30歳未満	31 100.0	11 35.5	8 25.8	5 16.1	3 9.7	1 3.2	3 9.7
	30歳代	56 100.0	18 32.1	19 33.9	6 10.7	5 8.9	3 5.4	5 8.9
	40歳代	18 100.0	4 22.2	7 38.9	5 27.8	0 0.0	0 0.0	2 11.1
	50歳代	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
区分	区分1	20 100.0	4 20.0	8 40.0	2 10.0	2 10.0	1 5.0	3 15.0
	区分2	5 100.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	区分3	12 100.0	6 50.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0
	区分4	15 100.0	1 6.7	10 66.7	2 13.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0
	区分5	14 100.0	8 57.1	2 14.3	2 14.3	2 14.3	0 0.0	0 0.0
	区分6	52 100.0	28 53.8	13 25.0	5 9.6	0 0.0	0 0.0	6 11.5
	認定を受けていない	28 100.0	13 46.4	6 21.4	7 25.0	1 3.6	0 0.0	1 3.6
	無回答	40 100.0	11 27.5	8 20.0	8 20.0	3 7.5	3 7.5	7 17.5
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113 100.0	50 44.2	32 28.3	11 9.7	5 4.4	4 3.5	11 9.7
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	6 46.2	5 38.5	1 7.7	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	39 100.0	6 15.4	11 28.2	14 35.9	5 12.8	1 2.6	2 5.1
	学校の寄宿舎などで生活している	9 100.0	3 33.3	1 11.1	1 11.1	1 11.1	0 0.0	3 33.3
	病院に入院している	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

I-10 [問11] 障がいのある方が地域で生活を続ける(あるいは始める)上で必要となること

		全体	障がいに対応した住宅物件を確保できること	住宅の維持管理やリフォームに係る費用の補助があること	就労先・仕事が確保でき、生活費が得られること	地域生活を始める前に、地域生活を体験できる機会や場があること	地域生活が難しくなった時の受け入れ先があること(施設など)	ご本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できること
全体		186	58 31.2	39 21.0	54 29.0	13 7.0	100 53.8	94 50.5
性別	男性	100	36 36.0	21 21.0	28 28.0	6 6.0	53 53.0	50 50.0
	女性	86	22 25.6	18 20.9	26 30.2	7 8.1	47 54.7	44 51.2
年齢	15歳以上18歳未満	25	8 32.0	3 12.0	10 40.0	1 4.0	14 56.0	9 36.0
	18歳以上20歳未満	16	5 31.3	4 25.0	3 18.8	2 12.5	10 62.5	10 62.5
	20歳以上25歳未満	32	9 28.1	2 6.3	11 34.4	4 12.5	15 46.9	21 65.6
	25歳以上30歳未満	31	8 25.8	6 19.4	9 29.0	1 3.2	12 38.7	16 51.6
	30歳代	56	20 35.7	14 25.0	10 17.9	4 7.1	34 60.7	29 51.8
	40歳代	18	6 33.3	7 38.9	7 38.9	1 5.6	9 50.0	6 33.3
	50歳代	3	2 66.7	1 33.3	2 66.7	0 0.0	2 66.7	2 66.7
	無回答	5	0 0.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0
区分	区分1	20	9 45.0	7 35.0	10 50.0	1 5.0	11 55.0	9 45.0
	区分2	5	2 40.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	3 60.0	2 40.0
	区分3	12	3 25.0	2 16.7	3 25.0	1 8.3	6 50.0	5 41.7
	区分4	15	7 46.7	4 26.7	5 33.3	2 13.3	7 46.7	8 53.3
	区分5	14	3 21.4	2 14.3	2 14.3	2 14.3	9 64.3	11 78.6
	区分6	52	15 28.8	12 23.1	8 15.4	4 7.7	26 50.0	31 59.6
	認定を受けていない	28	8 28.6	7 25.0	9 32.1	2 7.1	17 60.7	12 42.9
	無回答	40	11 27.5	5 12.5	14 35.0	0 0.0	21 52.5	16 40.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	113	36 31.9	26 23.0	31 27.4	8 7.1	61 54.0	56 49.6
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	5 38.5	3 23.1	9 69.2	1 7.7	4 30.8	8 61.5
	何人かのグループで生活している	6	2 33.3	1 16.7	2 33.3	2 33.3	3 50.0	3 50.0
	施設に入所している	39	11 28.2	8 20.5	9 23.1	2 5.1	25 64.1	23 59.0
	学校の寄宿舎などで生活している	9	2 22.2	1 11.1	1 11.1	0 0.0	5 55.6	2 22.2
	病院に入院している	2	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
	その他	3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	無回答	1	-	-	-	-	-	-

上段:件数 下段:%

		移動支援に関するサービスが充実し、一人での外出が容易になること	訓練を受けたヘルパーにより、喀痰吸引などの医療行為が行えるようになること	適切な医療やリハビリが地域で受けられること	本人のことを任せられる信頼できる人をみつけること	地域住民の理解と協力が得られること	その他
全体		37 19.9	15 8.1	58 31.2	76 40.9	50 26.9	4 2.2
性別	男性	18 18.0	6 6.0	38 38.0	37 37.0	32 32.0	3 3.0
	女性	19 22.1	9 10.5	20 23.3	39 45.3	18 20.9	1 1.2
年齢	15歳以上18歳未満	8 32.0	6 24.0	5 20.0	11 44.0	7 28.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	4 25.0	2 12.5	4 25.0	9 56.3	4 25.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	10 31.3	2 6.3	9 28.1	12 37.5	10 31.3	1 3.1
	25歳以上30歳未満	4 12.9	1 3.2	8 25.8	13 41.9	6 19.4	1 3.2
	30歳代	9 16.1	4 7.1	21 37.5	23 41.1	16 28.6	2 3.6
	40歳代	0 0.0	0 0.0	7 38.9	6 33.3	5 27.8	0 0.0
	50歳代	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	無回答	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
区分	区分1	6 30.0	3 15.0	7 35.0	12 60.0	8 40.0	1 5.0
	区分2	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
	区分3	4 33.3	2 16.7	3 25.0	3 25.0	3 25.0	0 0.0
	区分4	5 33.3	0 0.0	4 26.7	4 26.7	6 40.0	1 6.7
	区分5	2 14.3	0 0.0	1 7.1	4 28.6	5 35.7	0 0.0
	区分6	6 11.5	7 13.5	17 32.7	26 50.0	8 15.4	1 1.9
	認定を受けていない	5 17.9	1 3.6	10 35.7	11 39.3	10 35.7	0 0.0
	無回答	8 20.0	2 5.0	13 32.5	15 37.5	9 22.5	1 2.5
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	24 21.2	8 7.1	33 29.2	52 46.0	30 26.5	1 0.9
	ご自身の自宅で一人暮らし	4 30.8	1 7.7	5 38.5	3 23.1	7 53.8	1 7.7
	何人かのグループで生活している	3 50.0	0 0.0	3 50.0	4 66.7	2 33.3	1 16.7
	施設に入所している	5 12.8	2 5.1	12 30.8	15 38.5	8 20.5	1 2.6
	学校の寄宿舎などで生活している	1 11.1	3 33.3	3 33.3	2 22.2	2 22.2	0 0.0
	病院に入院している	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	その他	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	-	-	-	-	-	-

肢体不自由児者の生活と住まいに関するアンケート  
クロス集計結果  
【 家 族 】

Ⅱ-1 [問1] 性別

上段:件数 下段:%

		合計	男性	女性	無回答
合計		267 100.0	141 52.8	125 46.8	1 0.4
性別	男性	141 100.0	141 100.0	0 0.0	0 0.0
	女性	125 100.0	0 0.0	125 100.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
年齢	6歳未満	22 100.0	12 54.5	10 45.5	0 0.0
	6歳以上12歳未満	25 100.0	16 64.0	9 36.0	0 0.0
	12歳以上15歳未満	26 100.0	13 50.0	13 50.0	0 0.0
	15歳以上18歳未満	21 100.0	12 57.1	9 42.9	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17 100.0	6 35.3	11 64.7	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	15 46.9	17 53.1	0 0.0
	25歳以上30歳未満	29 100.0	15 51.7	13 44.8	1 3.4
	30歳代	56 100.0	33 58.9	23 41.1	0 0.0
	40歳代	18 100.0	9 50.0	9 50.0	0 0.0
	50歳代	10 100.0	6 60.0	4 40.0	0 0.0
	60歳代	5 100.0	1 20.0	4 80.0	0 0.0
	70歳代以上	5 100.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	区分	区分1	26 100.0	14 53.8	12 46.2
区分2		8 100.0	7 87.5	1 12.5	0 0.0
区分3		16 100.0	8 50.0	8 50.0	0 0.0
区分4		17 100.0	9 52.9	8 47.1	0 0.0
区分5		15 100.0	9 60.0	6 40.0	0 0.0
区分6		57 100.0	28 49.1	28 49.1	1 1.8
認定を受けていない		65 100.0	44 67.7	21 32.3	0 0.0
無回答		63 100.0	22 34.9	41 65.1	0 0.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185 100.0	94 50.8	90 48.6	1 0.5
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	8 61.5	5 38.5	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0
	施設に入所している	44 100.0	24 54.5	20 45.5	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	10 100.0	6 60.0	4 40.0	0 0.0
	病院に入院している	5 100.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0
	その他	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0

II-2 [問2] 年齢

		上段:件数 下段:%													
		合計	6歳未満	6歳以上12歳未満	12歳以上15歳未満	15歳以上18歳未満	18歳以上20歳未満	20歳以上25歳未満	25歳以上30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答
合計		267 100.0	22 8.2	25 9.4	26 9.7	21 7.9	17 6.4	32 12.0	29 10.9	56 21.0	18 6.7	10 3.7	5 1.9	5 1.9	1 0.4
性別	男性	141 100.0	12 8.5	16 11.3	13 9.2	12 8.5	6 4.3	15 10.6	15 10.6	33 23.4	9 6.4	6 4.3	1 0.7	3 2.1	0 0.0
	女性	125 100.0	10 8.0	9 7.2	13 10.4	9 7.2	11 8.8	17 13.6	13 10.4	23 18.4	9 7.2	4 3.2	4 3.2	2 1.6	1 0.8
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22 100.0	22 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	6歳以上12歳未満	25 100.0	0 0.0	25 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	12歳以上15歳未満	26 100.0	0 0.0	0 0.0	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	15歳以上18歳未満	21 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	25歳以上30歳未満	29 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	56 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	56 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60歳代	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
	70歳代以上	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	区分	区分1	26 100.0	1 3.8	2 7.7	5 19.2	3 11.5	1 3.8	1 3.8	2 7.7	4 15.4	3 11.5	2 7.7	0 0.0	2 7.7
区分2		8 100.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0
区分3		16 100.0	1 6.3	2 12.5	2 12.5	2 12.5	1 6.3	1 6.3	2 12.5	2 12.5	3 18.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分4		17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 17.6	5 29.4	7 41.2	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分5		15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	4 26.7	2 13.3	5 33.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0
区分6		57 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.8	12 21.1	15 26.3	10 17.5	15 26.3	2 3.5	1 1.8	1 1.8	0 0.0	0 0.0
認定を受けていない		65 100.0	11 16.9	10 15.4	10 15.4	7 10.8	2 3.1	3 4.6	3 4.6	11 16.9	3 4.6	3 4.6	1 1.5	0 0.0	1 1.5
無回答		63 100.0	9 14.3	10 15.9	8 12.7	7 11.1	0 0.0	4 6.3	5 7.9	11 17.5	4 6.3	2 3.2	2 3.2	1 1.6	0 0.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185 100.0	21 11.4	23 12.4	22 11.9	15 8.1	13 7.0	18 9.7	16 8.6	33 17.8	11 5.9	7 3.8	3 1.6	3 1.6	0 0.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	4 30.8	5 38.5	0 0.0	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	44 100.0	0 0.0	2 4.5	0 0.0	2 4.5	2 4.5	7 15.9	7 15.9	15 34.1	6 13.6	1 2.3	0 0.0	2 4.5	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	10 100.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
	病院に入院している	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	その他	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



II-3 [問3]障害者手帳について

(複数回答)

		全体	身体障害者手帳(1級)	身体障害者手帳(2級)	身体障害者手帳(3級)	身体障害者手帳(4級)	身体障害者手帳(5級)	身体障害者手帳(6級)	療育手帳(A)	療育手帳(B)	精神障害者保健福祉手帳(1級)	精神障害者保健福祉手帳(2級)	精神障害者保健福祉手帳(3級)	その他
			上段:件数	下段:%										
全体		267	168 62.9	56 21.0	14 5.2	3 1.1	2 0.7	1 0.4	98 36.7	16 6.0	3 1.1	1 0.4	0 0.0	3 1.1
性別	男性	141	90 63.8	34 24.1	8 5.7	1 0.7	0 0.0	0 0.0	48 34.0	6 4.3	1 0.7	1 0.7	0 0.0	3 2.1
	女性	125	77 61.6	22 17.6	6 4.8	2 1.6	2 1.6	1 0.8	49 39.2	10 8.0	2 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	8 36.4	4 18.2	2 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 31.8	5 22.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 9.1
	6歳以上12歳未満	25	15 60.0	4 16.0	3 12.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	9 36.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	12歳以上15歳未満	26	22 84.6	3 11.5	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 42.3	0 0.0	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0
	15歳以上18歳未満	21	17 81.0	3 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 28.6	3 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17	13 76.5	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	14 82.4	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32	23 71.9	3 9.4	0 0.0	0 0.0	1 3.1	1 3.1	16 50.0	3 9.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	25歳以上30歳未満	29	19 65.5	6 20.7	2 6.9	1 3.4	0 0.0	0 0.0	10 34.5	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	56	32 57.1	20 35.7	2 3.6	1 1.8	0 0.0	0 0.0	16 28.6	1 1.8	1 1.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	18	10 55.6	4 22.2	2 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 22.2	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	10	5 50.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
	60歳代	5	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳代以上	5	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26	21 80.8	3 11.5	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 23.1	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分2	8	2 25.0	4 50.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分3	16	9 56.3	4 25.0	2 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分4	17	7 41.2	8 47.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 41.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分5	15	6 40.0	6 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 53.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分6	57	54 94.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33 57.9	2 3.5	2 3.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	認定を受けていない	65	41 63.1	12 18.5	3 4.6	1 1.5	1 1.5	0 0.0	21 32.3	6 9.2	0 0.0	1 1.5	0 0.0	3 4.6
	無回答	63	28 44.4	19 30.2	8 12.7	1 1.6	1 1.6	0 0.0	19 30.2	7 11.1	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	117 63.2	32 17.3	11 5.9	3 1.6	2 1.1	0 0.0	72 38.9	15 8.1	2 1.1	0 0.0	0 0.0	3 1.6
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	5 38.5	7 53.8	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6	5 83.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	44	29 65.9	12 27.3	1 2.3	0 0.0	0 0.0	1 2.3	16 36.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	10	7 70.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
	病院に入院している	5	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	4	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

II-4 [問4] 障害者認定区分について

上段:件数 下段:%

		合計	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	認定を受けていない	無回答
合計		267 100.0	26 9.7	8 3.0	16 6.0	17 6.4	15 5.6	57 21.3	65 24.3	63 23.6
性別	男性	141 100.0	14 9.9	7 5.0	8 5.7	9 6.4	9 6.4	28 19.9	44 31.2	22 15.6
	女性	125 100.0	12 9.6	1 0.8	8 6.4	8 6.4	6 4.8	28 22.4	21 16.8	41 32.8
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22 100.0	1 4.5	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 50.0	9 40.9
	6歳以上12歳未満	25 100.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 40.0	10 40.0
	12歳以上15歳未満	26 100.0	5 19.2	1 3.8	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 38.5	8 30.8
	15歳以上18歳未満	21 100.0	3 14.3	1 4.8	2 9.5	0 0.0	0 0.0	1 4.8	7 33.3	7 33.3
	18歳以上20歳未満	17 100.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9	12 70.6	2 11.8	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	1 3.1	1 3.1	1 3.1	3 9.4	4 12.5	15 46.9	3 9.4	4 12.5
	25歳以上30歳未満	29 100.0	2 6.9	0 0.0	2 6.9	5 17.2	2 6.9	10 34.5	3 10.3	5 17.2
	30歳代	56 100.0	4 7.1	1 1.8	2 3.6	7 12.5	5 8.9	15 26.8	11 19.6	11 19.6
	40歳代	18 100.0	3 16.7	0 0.0	3 16.7	1 5.6	2 11.1	2 11.1	3 16.7	4 22.2
	50歳代	10 100.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0
	60歳代	5 100.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0
	70歳代以上	5 100.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
区分	区分1	26 100.0	26 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分2	8 100.0	0 0.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分3	16 100.0	0 0.0	0 0.0	16 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分4	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分5	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分6	57 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	57 100.0	0 0.0	0 0.0
	認定を受けていない	65 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	65 100.0	0 0.0
	無回答	63 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	63 100.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185 100.0	14 7.6	4 2.2	12 6.5	10 5.4	10 5.4	42 22.7	51 27.6	42 22.7
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	3 23.1	1 7.7	2 15.4	1 7.7	2 15.4	1 7.7	1 7.7	2 15.4
	何人かのグループで生活している	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	0 0.0	1 16.7
	施設に入所している	44 100.0	7 15.9	2 4.5	1 2.3	6 13.6	3 6.8	6 13.6	9 20.5	10 22.7
	学校の寄宿舎などで生活している	10 100.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0	4 40.0
	病院に入院している	5 100.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0
	その他	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0

II-5 [問6] 意思の伝達

		合計	どのような相手に対しても、自分の意思を伝えることができる	家族や親しい人に対しては、自分の意思を伝えることができる	自分の意思を伝えることは難しい	その他	無回答
			上段:件数 下段:%				
合計		267	83	69	104	9	2
		100.0	31.1	25.8	39.0	3.4	0.7
性別	男性	141	48	36	52	5	0
		100.0	34.0	25.5	36.9	3.5	0.0
	女性	125	35	33	51	4	2
	100.0	28.0	26.4	40.8	3.2	1.6	
	無回答	1	0	0	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
年齢	6歳未満	22	7	2	10	3	0
		100.0	31.8	9.1	45.5	13.6	0.0
	6歳以上12歳未満	25	7	5	12	1	0
		100.0	28.0	20.0	48.0	4.0	0.0
	12歳以上15歳未満	26	9	7	9	1	0
		100.0	34.6	26.9	34.6	3.8	0.0
	15歳以上18歳未満	21	6	7	7	1	0
		100.0	28.6	33.3	33.3	4.8	0.0
	18歳以上20歳未満	17	1	5	10	1	0
		100.0	5.9	29.4	58.8	5.9	0.0
	20歳以上25歳未満	32	11	9	12	0	0
		100.0	34.4	28.1	37.5	0.0	0.0
	25歳以上30歳未満	29	9	8	12	0	0
		100.0	31.0	27.6	41.4	0.0	0.0
30歳代	56	18	18	18	2	0	
	100.0	32.1	32.1	32.1	3.6	0.0	
40歳代	18	6	3	7	0	2	
	100.0	33.3	16.7	38.9	0.0	11.1	
50歳代	10	5	2	3	0	0	
	100.0	50.0	20.0	30.0	0.0	0.0	
60歳代	5	2	0	3	0	0	
	100.0	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0	
70歳代以上	5	1	3	1	0	0	
	100.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	
	無回答	1	1	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
区分	区分1	26	10	10	6	0	0
		100.0	38.5	38.5	23.1	0.0	0.0
	区分2	8	8	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	区分3	16	7	3	6	0	0
		100.0	43.8	18.8	37.5	0.0	0.0
	区分4	17	6	7	4	0	0
		100.0	35.3	41.2	23.5	0.0	0.0
区分5	15	4	9	1	0	1	
	100.0	26.7	60.0	6.7	0.0	6.7	
区分6	57	5	12	38	2	0	
	100.0	8.8	21.1	66.7	3.5	0.0	
認定を受けていない	65	24	11	26	4	0	
	100.0	36.9	16.9	40.0	6.2	0.0	
無回答	63	19	17	23	3	1	
	100.0	30.2	27.0	36.5	4.8	1.6	
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	51	49	75	9	1
		100.0	27.6	26.5	40.5	4.9	0.5
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	12	1	0	0	0
		100.0	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0
	何人かのグループで生活している	6	2	1	3	0	0
		100.0	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0
	施設に入所している	44	12	15	16	0	1
	100.0	27.3	34.1	36.4	0.0	2.3	
学校の寄宿舎などで生活している	10	3	3	4	0	0	
	100.0	30.0	30.0	40.0	0.0	0.0	
病院に入院している	5	1	0	4	0	0	
	100.0	20.0	0.0	80.0	0.0	0.0	
その他	4	2	0	2	0	0	
	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	

Ⅱ-6 [問7] 理解力

上段:件数 下段:%

		合計	どのような相手でも、話していることを理解することができる	家族や親しい人であれば、話していることを理解することができる	相手の話していることを理解することは難しい	その他	無回答
合計		267 100.0	103 38.6	66 24.7	70 26.2	23 8.6	5 1.9
性別	男性	141 100.0	61 43.3	26 18.4	40 28.4	13 9.2	1 0.7
	女性	125 100.0	42 33.6	40 32.0	29 23.2	10 8.0	4 3.2
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22 100.0	8 36.4	3 13.6	7 31.8	4 18.2	0 0.0
	6歳以上12歳未満	25 100.0	10 40.0	6 24.0	6 24.0	3 12.0	0 0.0
	12歳以上15歳未満	26 100.0	14 53.8	4 15.4	5 19.2	3 11.5	0 0.0
	15歳以上18歳未満	21 100.0	7 33.3	7 33.3	5 23.8	2 9.5	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17 100.0	2 11.8	5 29.4	10 58.8	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	10 31.3	7 21.9	10 31.3	5 15.6	0 0.0
	25歳以上30歳未満	29 100.0	12 41.4	5 17.2	10 34.5	2 6.9	0 0.0
	30歳代	56 100.0	21 37.5	21 37.5	11 19.6	2 3.6	1 1.8
	40歳代	18 100.0	7 38.9	6 33.3	1 5.6	2 11.1	2 11.1
	50歳代	10 100.0	7 70.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0
	60歳代	5 100.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0
	70歳代以上	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	無回答	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分	区分1	26 100.0	14 53.8	8 30.8	3 11.5	0 0.0
区分2		8 100.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分3		16 100.0	10 62.5	2 12.5	2 12.5	2 12.5	0 0.0
区分4		17 100.0	8 47.1	4 23.5	3 17.6	2 11.8	0 0.0
区分5		15 100.0	7 46.7	6 40.0	1 6.7	0 0.0	1 6.7
区分6		57 100.0	5 8.8	17 29.8	30 52.6	5 8.8	0 0.0
認定を受けていない		65 100.0	26 40.0	14 21.5	15 23.1	9 13.8	1 1.5
無回答		63 100.0	25 39.7	15 23.8	16 25.4	5 7.9	2 3.2
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185 100.0	68 36.8	44 23.8	53 28.6	16 8.6	4 2.2
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	12 92.3	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	0 0.0
	施設に入所している	44 100.0	12 27.3	19 43.2	7 15.9	5 11.4	1 2.3
	学校の寄宿舎などで生活している	10 100.0	6 60.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0
	病院に入院している	5 100.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0
	その他	4 100.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0

II-7 [問5]現在の生活場所

上段:件数 下段:%

		合計	家族と一緒に、自宅で生活している	家族とは別に、ご自身の自宅で一人暮らしをしている	家族とは別に何人かのグループで生活している	施設に入所している	学校の寄宿舎などで生活している	病院に入院している	その他	無回答
合計		267 100.0	185 69.3	13 4.9	6 2.2	44 16.5	10 3.7	5 1.9	4 1.5	0 0.0
性別	男性	141 100.0	94 66.7	8 5.7	4 2.8	24 17.0	6 4.3	2 1.4	3 2.1	0 0.0
	女性	125 100.0	90 72.0	5 4.0	2 1.6	20 16.0	4 3.2	3 2.4	1 0.8	0 0.0
	無回答	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22 100.0	21 95.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0
	6歳以上12歳未満	25 100.0	23 92.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	12歳以上15歳未満	26 100.0	22 84.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	15歳以上18歳未満	21 100.0	15 71.4	0 0.0	0 0.0	2 9.5	2 9.5	2 9.5	0 0.0	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17 100.0	13 76.5	0 0.0	0 0.0	2 11.8	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	18 56.3	1 3.1	5 15.6	7 21.9	0 0.0	0 0.0	1 3.1	0 0.0
	25歳以上30歳未満	29 100.0	16 55.2	4 13.8	1 3.4	7 24.1	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0
	30歳代	56 100.0	33 58.9	5 8.9	0 0.0	15 26.8	0 0.0	1 1.8	2 3.6	0 0.0
	40歳代	18 100.0	11 61.1	0 0.0	0 0.0	6 33.3	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	10 100.0	7 70.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60歳代	5 100.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	70歳代以上	5 100.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26 100.0	14 53.8	3 11.5	0 0.0	7 26.9	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分2	8 100.0	4 50.0	1 12.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0
	区分3	16 100.0	12 75.0	2 12.5	0 0.0	1 6.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0
	区分4	17 100.0	10 58.8	1 5.9	0 0.0	6 35.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分5	15 100.0	10 66.7	2 13.3	0 0.0	3 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分6	57 100.0	42 73.7	1 1.8	5 8.8	6 10.5	1 1.8	0 0.0	2 3.5	0 0.0
	認定を受けていない	65 100.0	51 78.5	1 1.5	0 0.0	9 13.8	3 4.6	0 0.0	1 1.5	0 0.0
	無回答	63 100.0	42 66.7	2 3.2	1 1.6	10 15.9	4 6.3	3 4.8	1 1.6	0 0.0
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185 100.0	185 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	0 0.0	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6 100.0	0 0.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	施設に入所している	44 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	44 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	病院に入院している	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
	その他	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0

II-8 [問9] 普段利用している福祉サービス

		全体	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	生活介護	療養介護	就労移行 支援	就労継続 支援	自立訓練 (機能訓 練・生活訓 練)
全体		267	49 18.4	17 6.4	3 1.1	9 3.4	34 12.7	5 1.9	10 3.7	6 2.2	43 16.1
性別	男性	141	25 17.7	12 8.5	1 0.7	6 4.3	17 12.1	3 2.1	6 4.3	2 1.4	19 13.5
	女性	125	24 19.2	5 4.0	2 1.6	3 2.4	16 12.8	2 1.6	4 3.2	4 3.2	24 19.2
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	2 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 36.4
	6歳以上12歳未満	25	5 20.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	7 28.0
	12歳以上15歳未満	26	5 19.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 23.1
	15歳以上18歳未満	21	2 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 14.3
	18歳以上20歳未満	17	5 29.4	3 17.6	1 5.9	1 5.9	5 29.4	1 5.9	0 0.0	0 0.0	3 17.6
	20歳以上25歳未満	32	10 31.3	4 12.5	2 6.3	3 9.4	8 25.0	0 0.0	5 15.6	3 9.4	4 12.5
	25歳以上30歳未満	29	5 17.2	2 6.9	0 0.0	1 3.4	7 24.1	2 6.9	2 6.9	0 0.0	4 13.8
	30歳代	56	7 12.5	6 10.7	0 0.0	4 7.1	9 16.1	0 0.0	2 3.6	1 1.8	6 10.7
	40歳代	18	3 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	1 5.6	1 5.6	0 0.0
	50歳代	10	4 40.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0
	60歳代	5	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	70歳代以上	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区分	区分1	26	3 11.5	1 3.8	0 0.0	1 3.8	3 11.5	0 0.0	0 0.0	20 76.9
区分2		8	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5
区分3		16	7 43.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3
区分4		17	4 23.5	0 0.0	0 0.0	1 5.9	4 23.5	1 5.9	1 5.9	2 11.8	3 17.6
区分5		15	2 13.3	2 13.3	1 6.7	0 0.0	3 20.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	0 0.0
区分6		57	23 40.4	12 21.1	2 3.5	7 12.3	20 35.1	1 1.8	2 3.5	1 1.8	8 14.0
認定を受けていない		65	7 10.8	2 3.1	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	3 4.6	0 0.0	15 23.1
無回答		63	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.2	2 3.2	1 1.6	1 1.6	10 15.9
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	37 20.0	11 5.9	2 1.1	3 1.6	26 14.1	2 1.1	8 4.3	5 2.7	37 20.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	5 38.5	3 23.1	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4
	何人かのグループで生活している	6	4 66.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	3 50.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3
	施設に入所している	44	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 6.8	4 9.1	3 6.8	0 0.0	0 0.0	2 4.5
	学校の寄宿舎などで生活している	10	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	病院に入院している	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	4	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

上段:件数 下段:%

		児童デイサービス	短期入所(ショートステイ)	施設入所支援	コミュニケーション支援	日常生活用具給付	移動支援	日中一時支援	その他	福祉サービスは利用していない
全体		41 15.4	56 21.0	42 15.7	0 0.0	43 16.1	48 18.0	44 16.5	18 6.7	36 13.5
性別	男性	22 15.6	22 15.6	23 16.3	0 0.0	23 16.3	26 18.4	19 13.5	11 7.8	19 13.5
	女性	19 15.2	34 27.2	19 15.2	0 0.0	20 16.0	22 17.6	25 20.0	7 5.6	17 13.6
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	11 50.0	1 4.5	1 4.5	0 0.0	5 22.7	4 18.2	1 4.5	4 18.2	3 13.6
	6歳以上12歳未満	13 52.0	4 16.0	2 8.0	0 0.0	10 40.0	6 24.0	5 20.0	1 4.0	3 12.0
	12歳以上15歳未満	11 42.3	6 23.1	1 3.8	0 0.0	8 30.8	5 19.2	9 34.6	0 0.0	4 15.4
	15歳以上18歳未満	2 9.5	1 4.8	1 4.8	0 0.0	2 9.5	2 9.5	5 23.8	1 4.8	5 23.8
	18歳以上20歳未満	1 5.9	7 41.2	2 11.8	0 0.0	2 11.8	5 29.4	3 17.6	1 5.9	2 11.8
	20歳以上25歳未満	0 0.0	9 28.1	6 18.8	0 0.0	2 6.3	11 34.4	4 12.5	3 9.4	1 3.1
	25歳以上30歳未満	1 3.4	7 24.1	5 17.2	0 0.0	4 13.8	6 20.7	4 13.8	3 10.3	3 10.3
	30歳代	2 3.6	14 25.0	17 30.4	0 0.0	7 12.5	4 7.1	7 12.5	4 7.1	7 12.5
	40歳代	0 0.0	3 16.7	5 27.8	0 0.0	1 5.6	3 16.7	3 16.7	1 5.6	3 16.7
	50歳代	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0
	60歳代	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	70歳代以上	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
区分	区分1	6 23.1	4 15.4	7 26.9	0 0.0	3 11.5	3 11.5	5 19.2	0 0.0	3 11.5
	区分2	1 12.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5
	区分3	2 12.5	5 31.3	2 12.5	0 0.0	2 12.5	7 43.8	4 25.0	3 18.8	2 12.5
	区分4	0 0.0	4 23.5	7 41.2	0 0.0	2 11.8	5 29.4	1 5.9	1 5.9	1 5.9
	区分5	0 0.0	4 26.7	2 13.3	0 0.0	2 13.3	2 13.3	4 26.7	0 0.0	0 0.0
	区分6	1 1.8	30 52.6	6 10.5	0 0.0	10 17.5	16 28.1	13 22.8	6 10.5	0 0.0
	認定を受けていない	20 30.8	6 9.2	8 12.3	0 0.0	14 21.5	8 12.3	9 13.8	5 7.7	14 21.5
	無回答	11 17.5	3 4.8	8 12.7	0 0.0	43 68.3	48 76.2	44 69.8	18 28.6	36 57.1
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	40 21.6	50 27.0	2 1.1	0 0.0	37 20.0	39 21.1	43 23.2	16 8.6	25 13.5
	ご自身の自宅で一人暮らし	0 0.0	1 7.7	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	1 7.7	2 15.4
	何人かのグループで生活している	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	2 33.3	3 50.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	施設に入所している	0 0.0	0 0.0	37 84.1	0 0.0	2 4.5	2 4.5	0 0.0	0 0.0	2 4.5
	学校の寄宿舎などで生活している	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0
	病院に入院している	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0
	その他	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0



II-9 [問10] 福祉サービスの利用にあたり困っていること

(複数回答)

上段:件数 下段:%

		全体	サービスを利用するために送迎が必要であること	与えられたサービスの支給量(時間)が充分でないこと	サービス利用に係る自己負担が大きいこと	医療行為(喀痰吸引や自己道尿など)に対応してもらえないこと	必要なサービスを提供している事業所がない(少ない)こと	希望したようにサービスを使うことができない	特に困っていることはない	その他
全体		267	45 16.9	24 9.0	52 19.5	14 5.2	72 27.0	41 15.4	66 24.7	33 12.4
性別	男性	141	24 17.0	9 6.4	31 22.0	5 3.5	39 27.7	25 17.7	32 22.7	22 15.6
	女性	125	21 16.8	15 12.0	21 16.8	9 7.2	32 25.6	16 12.8	34 27.2	11 8.8
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	2 9.1	4 18.2	1 4.5	2 9.1	8 36.4	7 31.8	6 27.3	3 13.6
	6歳以上12歳未満	25	3 12.0	1 4.0	6 24.0	2 8.0	9 36.0	5 20.0	7 28.0	1 4.0
	12歳以上15歳未満	26	4 15.4	4 15.4	7 26.9	2 7.7	14 53.8	9 34.6	4 15.4	3 11.5
	15歳以上18歳未満	21	5 23.8	1 4.8	7 33.3	1 4.8	7 33.3	2 9.5	1 4.8	8 38.1
	18歳以上20歳未満	17	8 47.1	5 29.4	5 29.4	2 11.8	8 47.1	5 29.4	1 5.9	3 17.6
	20歳以上25歳未満	32	7 21.9	4 12.5	7 21.9	1 3.1	9 28.1	3 9.4	13 40.6	1 3.1
	25歳以上30歳未満	29	8 27.6	3 10.3	6 20.7	0 0.0	4 13.8	1 3.4	5 17.2	5 17.2
	30歳代	56	8 14.3	2 3.6	10 17.9	3 5.4	9 16.1	7 12.5	13 23.2	4 7.1
	40歳代	18	0 0.0	0 0.0	2 11.1	0 0.0	1 5.6	1 5.6	7 38.9	2 11.1
	50歳代	10	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	5 50.0	2 20.0
	60歳代	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
	70歳代以上	5	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 600.0	3 300.0
	区分	区分1	26	1 3.8	3 11.5	6 23.1	3 11.5	5 19.2	4 15.4	7 26.9
区分2		8	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	2 25.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5
区分3		16	4 25.0	1 6.3	3 18.8	1 6.3	4 25.0	4 25.0	2 12.5	3 18.8
区分4		17	4 23.5	1 5.9	5 29.4	0 0.0	2 11.8	2 11.8	4 23.5	3 17.6
区分5		15	5 33.3	1 6.7	3 20.0	0 0.0	5 33.3	1 6.7	2 13.3	0 0.0
区分6		57	18 31.6	10 17.5	11 19.3	5 8.8	19 33.3	10 17.5	14 24.6	4 7.0
認定を受けていない		65	7 10.8	2 3.1	11 16.9	4 6.2	23 35.4	14 21.5	18 27.7	11 16.9
無回答		63	6 9.5	6 9.5	12 19.0	1 1.6	12 19.0	5 7.9	15 23.8	7 11.1
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	39 21.1	22 11.9	33 17.8	13 7.0	62 33.5	35 18.9	46 24.9	19 10.3
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	1 7.7	0 0.0	3 23.1	0 0.0	1 7.7	0 0.0	5 38.5	1 7.7
	何人かのグループで生活している	6	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0
	施設に入所している	44	1 2.3	0 0.0	13 29.5	0 0.0	5 11.4	2 4.5	10 22.7	8 18.2
	学校の寄宿舎などで生活している	10	3 30.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0
	病院に入院している	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0
	その他	4	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0

		全体	職場	小規模作業所	学校	児童デイサービス	日中一時支援	自宅	入所施設	通所施設	その他
										上段:件数 下段:%	
全体		267	11 4.1	28 10.5	81 30.3	18 6.7	20 7.5	112 41.9	44 16.5	83 31.1	20 7.5
性別	男性	141	7 5.0	14 9.9	45 31.9	8 5.7	12 8.5	60 42.6	22 15.6	41 29.1	12 8.5
	女性	125	4 3.2	14 11.2	36 28.8	10 8.0	8 6.4	52 41.6	22 17.6	41 32.8	8 6.4
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 31.8	1 4.5	14 63.6	1 4.5	11 50.0	7 31.8
	6歳以上12歳未満	25	0 0.0	0 0.0	24 96.0	6 24.0	2 8.0	10 40.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0
	12歳以上15歳未満	26	0 0.0	0 0.0	26 100.0	3 11.5	3 11.5	15 57.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	15歳以上18歳未満	21	0 0.0	0 0.0	20 95.2	0 0.0	3 14.3	9 42.9	2 9.5	0 0.0	3 14.3
	18歳以上20歳未満	17	1 5.9	4 23.5	5 29.4	1 5.9	1 5.9	4 23.5	1 5.9	7 41.2	1 5.9
	20歳以上25歳未満	32	1 3.1	6 18.8	2 6.3	0 0.0	2 6.3	9 28.1	7 21.9	14 43.8	4 12.5
	25歳以上30歳未満	29	3 10.3	4 13.8	0 0.0	0 0.0	1 3.4	8 27.6	8 27.6	16 55.2	2 6.9
	30歳代	56	4 7.1	7 12.5	0 0.0	1 1.8	3 5.4	25 44.6	15 26.8	22 39.3	1 1.8
	40歳代	18	1 5.6	2 11.1	2 11.1	0 0.0	2 11.1	8 44.4	5 27.8	5 27.8	1 5.6
	50歳代	10	0 0.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	6 60.0	1 10.0	4 40.0	0 0.0
	60歳代	5	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0
	70歳代以上	5	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26	1 3.8	0 0.0	12 46.2	3 11.5	2 7.7	11 42.3	5 19.2	7 26.9	1 3.8
	区分2	8	0 0.0	1 12.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5
	区分3	16	1 6.3	1 6.3	6 37.5	1 6.3	3 18.8	6 37.5	2 12.5	5 31.3	0 0.0
	区分4	17	2 11.8	3 17.6	1 5.9	0 0.0	0 0.0	7 41.2	6 35.3	7 41.2	0 0.0
	区分5	15	1 6.7	5 33.3	1 6.7	0 0.0	4 26.7	2 13.3	2 13.3	4 26.7	1 6.7
	区分6	57	1 1.8	9 15.8	3 5.3	1 1.8	4 7.0	21 36.8	6 10.5	36 63.2	5 8.8
	認定を受けていない	65	2 3.1	6 9.2	29 44.6	7 10.8	3 4.6	34 52.3	9 13.8	14 21.5	7 10.8
	無回答	63	3 4.8	3 4.8	26 41.3	6 9.5	4 6.3	28 44.4	12 19.0	9 14.3	5 7.9
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	5 2.7	25 13.5	66 35.7	18 9.7	19 10.3	99 53.5	1 0.5	70 37.8	13 7.0
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	4 30.8	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 38.5	1 7.7	7 53.8	1 7.7
	何人かのグループで生活している	6	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 50.0	1 16.7
	施設に入所している	44	0 0.0	1 2.3	4 9.1	0 0.0	0 0.0	4 9.1	41 93.2	2 4.5	2 4.5
	学校の寄宿舎などで生活している	10	0 0.0	0 0.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
	病院に入院している	5	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	その他	4	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0

II-11 [問12]日中の主な活動場所 (2) 土日祝日

(複数回答)

上段:件数 下段:%

		全体	職場	小規模作業所	学校	児童デイサービス	日中一時支援	自宅	入所施設	通所施設	その他
全体		267	3 1.1	2 0.7	1 0.4	4 1.5	13 4.9	236 88.4	37 13.9	6 2.2	30 11.2
性別	男性	141	2 1.4	2 1.4	1 0.7	2 1.4	4 2.8	124 87.9	20 14.2	5 3.5	17 12.1
	女性	125	1 0.8	0 0.0	0 0.0	2 1.6	9 7.2	111 88.8	17 13.6	1 0.8	13 10.4
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 95.5	1 4.5	0 0.0	2 9.1
	6歳以上12歳未満	25	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	2 8.0	24 96.0	2 8.0	0 0.0	3 12.0
	12歳以上15歳未満	26	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	2 7.7	24 92.3	0 0.0	0 0.0	3 11.5
	15歳以上18歳未満	21	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	1 4.8	20 95.2	1 4.8	0 0.0	3 14.3
	18歳以上20歳未満	17	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	17 100.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9
	20歳以上25歳未満	32	0 0.0	1 3.1	0 0.0	0 0.0	3 9.4	30 93.8	5 15.6	1 3.1	5 15.6
	25歳以上30歳未満	29	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	24 82.8	4 13.8	3 10.3	4 13.8
	30歳代	56	0 0.0	1 1.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	45 80.4	16 28.6	2 3.6	5 8.9
	40歳代	18	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	14 77.8	4 22.2	0 0.0	3 16.7
	50歳代	10	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
	60歳代	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	70歳代以上	5	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26	1 3.8	0 0.0	1 3.8	1 3.8	2 7.7	20 76.9	5 19.2	0 0.0	3 11.5
	区分2	8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 75.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5
	区分3	16	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	2 12.5	13 81.3	2 12.5	1 6.3	3 18.8
	区分4	17	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9	15 88.2	4 23.5	0 0.0	3 17.6
	区分5	15	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	13 86.7	2 13.3	0 0.0	2 13.3
	区分6	57	0 0.0	1 1.8	0 0.0	0 0.0	3 5.3	54 94.7	5 8.8	3 5.3	7 12.3
	認定を受けていない	65	1 1.5	1 1.5	0 0.0	2 3.1	3 4.6	62 95.4	7 10.8	0 0.0	3 4.6
	無回答	63	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6	53 84.1	11 17.5	2 3.2	8 12.7
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	2 1.1	2 1.1	1 0.5	4 2.2	12 6.5	180 97.3	0 0.0	4 2.2	19 10.3
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 69.2	1 7.7	1 7.7	3 23.1
	何人かのグループで生活している	6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	1 16.7	1 16.7	2 33.3
	施設に入所している	44	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29 65.9	34 77.3	0 0.0	2 4.5
	学校の寄宿舎などで生活している	10	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
	病院に入院している	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	その他	4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0

II-12 [問14]障がいのある方が地域で生活することについて

上段:件数 下段:%

		合計	重度の障がいがあっても、地域で生活するのが望ましいと考えている	障がいの程度によるが、地域で生活するのが望ましいと考えている	重度の障がいがある場合は、施設で生活する方が安心だと考えている	障がいの程度によらず、施設で生活する方が安心だと考えている	その他	無回答
合計		267 100.0	101 37.8	89 33.3	33 12.4	14 5.2	13 4.9	17 6.4
性別	男性	141 100.0	48 34.0	54 38.3	18 12.8	8 5.7	3 2.1	10 7.1
	女性	125 100.0	52 41.6	35 28.0	15 12.0	6 4.8	10 8.0	7 5.6
	無回答	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22 100.0	7 31.8	12 54.5	0 0.0	1 4.5	2 9.1	0 0.0
	6歳以上12歳未満	25 100.0	12 48.0	10 40.0	1 4.0	0 0.0	1 4.0	1 4.0
	12歳以上15歳未満	26 100.0	15 57.7	5 19.2	1 3.8	0 0.0	2 7.7	3 11.5
	15歳以上18歳未満	21 100.0	10 47.6	8 38.1	1 4.8	0 0.0	2 9.5	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17 100.0	8 47.1	3 17.6	3 17.6	2 11.8	1 5.9	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32 100.0	9 28.1	14 43.8	4 12.5	1 3.1	1 3.1	3 9.4
	25歳以上30歳未満	29 100.0	10 34.5	7 24.1	7 24.1	1 3.4	2 6.9	2 6.9
	30歳代	56 100.0	18 32.1	18 32.1	10 17.9	5 8.9	1 1.8	4 7.1
	40歳代	18 100.0	5 27.8	4 22.2	4 22.2	2 11.1	1 5.6	2 11.1
	50歳代	10 100.0	6 60.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0
	60歳代	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	70歳代以上	5 100.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	無回答	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26 100.0	9 34.6	7 26.9	4 15.4	2 7.7	3 11.5	1 3.8
	区分2	8 100.0	2 25.0	3 37.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5
	区分3	16 100.0	5 31.3	6 37.5	2 12.5	1 6.3	0 0.0	2 12.5
	区分4	17 100.0	3 17.6	7 41.2	5 29.4	0 0.0	1 5.9	1 5.9
	区分5	15 100.0	6 40.0	5 33.3	3 20.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7
	区分6	57 100.0	27 47.4	19 33.3	5 8.8	1 1.8	3 5.3	2 3.5
	認定を受けていない	65 100.0	30 46.2	23 35.4	5 7.7	2 3.1	1 1.5	4 6.2
	無回答	63 100.0	19 30.2	19 30.2	9 14.3	6 9.5	5 7.9	5 7.9
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185 100.0	80 43.2	68 36.8	13 7.0	6 3.2	9 4.9	9 4.9
	ご自身の自宅で一人暮らし	13 100.0	9 69.2	1 7.7	1 7.7	1 7.7	0 0.0	1 7.7
	何人かのグループで生活している	6 100.0	2 33.3	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7
	施設に入所している	44 100.0	4 9.1	11 25.0	18 40.9	5 11.4	2 4.5	4 9.1
	学校の寄宿舎などで生活している	10 100.0	4 40.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0
	病院に入院している	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0
	その他	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0

II-13 [問11] 障がいのある方が地域で生活続ける(あるいは始める)上で必要となること

		全体	障がいに対応した住宅物件を確保できること	住宅の維持管理やリフォームに係る費用の補助があること	就労先・仕事が確保でき、生活費が得られること	地域生活を始める前に、地域生活を体験できる機会や場があること	地域生活が難しくなった時の受け入れ先があること(施設など)
全体		267	84 31.5	52 19.5	78 29.2	27 10.1	157 58.8
性別	男性	141	46 32.6	26 18.4	44 31.2	12 8.5	84 59.6
	女性	125	38 30.4	26 20.8	34 27.2	15 12.0	73 58.4
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	6 27.3	3 13.6	13 59.1	5 22.7	10 45.5
	6歳以上12歳未満	25	9 36.0	5 20.0	11 44.0	3 12.0	16 64.0
	12歳以上15歳未満	26	7 26.9	8 30.8	5 19.2	3 11.5	13 50.0
	15歳以上18歳未満	21	7 33.3	3 14.3	9 42.9	0 0.0	12 57.1
	18歳以上20歳未満	17	5 29.4	3 17.6	1 5.9	2 11.8	12 70.6
	20歳以上25歳未満	32	11 34.4	4 12.5	10 31.3	3 9.4	18 56.3
	25歳以上30歳未満	29	8 27.6	3 10.3	9 31.0	2 6.9	17 58.6
	30歳代	56	23 41.1	13 23.2	13 23.2	6 10.7	37 66.1
	40歳代	18	3 16.7	3 16.7	4 22.2	1 5.6	11 61.1
	50歳代	10	4 40.0	4 40.0	2 20.0	1 10.0	6 60.0
	60歳代	5	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0
	70歳代以上	5	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0
	無回答	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26	10 38.5	7 26.9	8 30.8	4 15.4	21 80.8
	区分2	8	4 50.0	2 25.0	3 37.5	1 12.5	3 37.5
	区分3	16	4 25.0	6 37.5	1 6.3	1 6.3	10 62.5
	区分4	17	7 41.2	0 0.0	3 17.6	2 11.8	12 70.6
	区分5	15	4 26.7	3 20.0	3 20.0	2 13.3	11 73.3
	区分6	57	19 33.3	12 21.1	8 14.0	6 10.5	35 61.4
	認定を受けていない	65	19 29.2	12 18.5	26 40.0	5 7.7	32 49.2
	無回答	63	17 27.0	10 15.9	26 41.3	6 9.5	33 52.4
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	61 33.0	41 22.2	53 28.6	21 11.4	109 58.9
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	8 61.5	2 15.4	7 53.8	0 0.0	5 38.5
	何人かのグループで生活している	6	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	3 50.0
	施設に入所している	44	10 22.7	5 11.4	9 20.5	3 6.8	31 70.5
	学校の寄宿舎などで生活している	10	1 10.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	6 60.0
	病院に入院している	5	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0
	その他	4	2 50.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0

上段:件数 下段:%

		全体	ご本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できること	移動支援に関するサービスが充実し、一人での外出が容易になること	訓練を受けたヘルパーにより、喀痰吸引などの医療行為が行えるようになること	適切な医療やリハビリが地域で受けられること	本人のことを任せられる信頼できる人をみつつけること	地域住民の理解と協力が得られること	その他
全体		267	154 57.7	48 18.0	25 9.4	98 36.7	145 54.3	72 27.0	3 1.1
性別	男性	141	80 56.7	24 17.0	11 7.8	55 39.0	78 55.3	34 24.1	1 0.7
	女性	125	73 58.4	24 19.2	14 11.2	42 33.6	66 52.8	38 30.4	2 1.6
	無回答	1	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
年齢	6歳未満	22	8 36.4	0 0.0	2 9.1	13 59.1	10 45.5	11 50.0	1 4.5
	6歳以上12歳未満	25	15 60.0	7 28.0	4 16.0	13 52.0	17 68.0	8 32.0	0 0.0
	12歳以上15歳未満	26	13 50.0	5 19.2	2 7.7	17 65.4	15 57.7	6 23.1	1 3.8
	15歳以上18歳未満	21	13 61.9	4 19.0	3 14.3	4 19.0	13 61.9	6 28.6	0 0.0
	18歳以上20歳未満	17	10 58.8	3 17.6	2 11.8	3 17.6	13 76.5	4 23.5	0 0.0
	20歳以上25歳未満	32	21 65.6	7 21.9	2 6.3	10 31.3	15 46.9	8 25.0	1 3.1
	25歳以上30歳未満	29	20 69.0	5 17.2	1 3.4	10 34.5	17 58.6	5 17.2	0 0.0
	30歳代	56	35 62.5	9 16.1	6 10.7	18 32.1	31 55.4	13 23.2	0 0.0
	40歳代	18	8 44.4	1 5.6	2 11.1	4 22.2	6 33.3	5 27.8	0 0.0
	50歳代	10	8 80.0	4 40.0	1 10.0	3 30.0	5 50.0	3 30.0	0 0.0
	60歳代	5	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0
	70歳代以上	5	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0
	無回答	1	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
区分	区分1	26	13 50.0	5 19.2	4 15.4	11 42.3	15 57.7	9 34.6	1 3.8
	区分2	8	5 62.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	4 50.0	0 0.0
	区分3	16	10 62.5	7 43.8	2 12.5	8 50.0	8 50.0	3 18.8	0 0.0
	区分4	17	13 76.5	4 23.5	0 0.0	6 35.3	10 58.8	3 17.6	0 0.0
	区分5	15	9 60.0	3 20.0	0 0.0	2 13.3	7 46.7	1 6.7	0 0.0
	区分6	57	41 71.9	8 14.0	7 12.3	15 26.3	36 63.2	13 22.8	1 1.8
	認定を受けていない	65	36 55.4	10 15.4	7 10.8	27 41.5	39 60.0	18 27.7	0 0.0
	無回答	63	27 42.9	9 14.3	5 7.9	28 44.4	29 46.0	21 33.3	1 1.6
生活場所	家族と一緒に自宅で生活	185	108 58.4	34 18.4	20 10.8	69 37.3	113 61.1	50 27.0	3 1.6
	ご自身の自宅で一人暮らし	13	9 69.2	6 46.2	0 0.0	3 23.1	4 30.8	5 38.5	0 0.0
	何人かのグループで生活している	6	2 33.3	1 16.7	0 0.0	3 50.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0
	施設に入所している	44	28 63.6	5 11.4	1 2.3	14 31.8	20 45.5	8 18.2	0 0.0
	学校の寄宿舎などで生活している	10	5 50.0	2 20.0	2 20.0	5 50.0	4 40.0	2 20.0	0 0.0
	病院に入院している	5	2 40.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0
	その他	4	0 0.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0

福祉サービスの利用に関して困っていること

1. サービス利用のための送迎

- 子供が平日寄宿舍より家までの送迎などが利用できない

(女性 15 歳以上 18 歳未満)

- 外に出るとき、母親以外連れて行く人がいないために学校に行けないことがある。家にひとりである時、見守りに来てくれる人がいない。

(男性 15 歳以上 18 歳未満)

- 場所が山の中にあり、送迎が必要であり、その他で受けられる場が少ない

(男性 15 歳以上 18 歳未満)

- 週末は家に帰るが、迎えに行けない時など送迎があればいいと思う

(女性 18 歳以上 20 歳未満)

- 送迎費が自己負担である。
- リフト車がない事業所なので、利用する範囲が限られている。評判がよいので、もっと利用したいのですが。

(女性 18 歳以上 20 歳未満)

- 週に 2 回しか通えない。車椅子ごと乗る車がいっぱいのため、片道 40 分かけて親が送迎するしかない。

(男性 18 歳以上 20 歳未満)

- 施設から自宅への帰省などに送迎を十分に利用できない。自己負担が大きく、家族からの支援が必要。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- 大学に通いながら利用しているため、利用時間や送迎の時間が合わない。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- 作業所への通所に送迎車が途中までしか来ないので、残りの行き帰りは親の送迎になる。冬みちの運転や渋滞で大変な時もある。家族の用事が送迎の時間帯にぶつかることもある。

(男性 20 歳以上 25 歳未満)

- 通所の時、施設と家の往復を実現するためには家族の協力が必要。毎日タクシーを利用するわけにはいかない。

(女性 25 歳以上 30 歳未満)

- 通所施設にお父さんに送ってもらい、帰りはバスで帰ってきています。片道 1 時間以上かかるので送迎バスがあったらいいと思います。

(男性 25 歳以上 30 歳未満)

- 作業所から自宅までの送迎のみのサービスがあるといいです。

(男性 25 歳以上 30 歳未満)

- 移動サービス。運転者とは別に一人の介護者が付かなくても良いので、移動(乗用車)サービスがあると良い。

(男性 25 歳以上 30 歳未満)

- 夏は車椅子で移動できるけれど、冬は雪が多いので移動に運賃がかかるので、交通手段を考えてほしい

(男性 30 歳代)

- 通所、通園先がエリア外のため、自己送迎しなくては行けなくて、札幌の場合は認めてもらえない。送迎中、痰の吸引が必要な時があり、吸引行為を任せられない。

(男性 30 歳代)

- 日中、一時支援に親の都合の悪いときに送迎サービスがないので、休まなければならないこと。

(男性 30 歳代)

- 札幌市には通所に移動支援が使えない。障害の区分 5、6 の人は時間数を限定してでも利用するようにしてほしい。入院時に生活が移るといことで、月の時間数から見守りとして利用できるようになってほしい。保護者の体力も限界にある。

(男性 30 歳代)

2. サービスの支給量について

- 身体の機能訓練が月に 2 回しか利用できていないので、週 1 回の回数で利用できるのが望ましい。以前は無料だったけれど、今は毎回利用料がかかるので、負担が大きい。

(男性 18 歳以上 20 歳未満)

- 夜間の介助が必要なのに、重度訪問介護 330 時間では足りない。



(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- サービスを利用するときに通勤が使えないことで、次の職場が見つかったとしてもサービス対象となっていないため、とても困っています。個々に合った支給時間がほしい。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- 一人暮らしするには多くの時間が必要(支給量) 重度で暮らせる支給量がほしい。理解してほしい

(女性 25 歳以上 30 歳未満)

### 3. サービスに係る自己負担

- 前までは訓練に行くのに送迎で連れて行ってもらいましたが、1 回の負担金が高くなって使えなくなりました。

(女性 15 歳以上 18 歳未満)

- 19 歳なので入所すると年金がもらえないので、親が入所の使用料などを払っているため負担が大きい。

(女性 18 歳以上 20 歳未満)

- 現在施設入所なので、他のサービスが全く受けられず親に頼っています。施設に支払う金額が高く、年金のみでは大変です。今は親に助けてもらっています。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- サービス負担金がバラバラ(上限額、補装具 1 割負担など)で、生活するためのお金に影響します。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- 年金だけで生活しております。そのサービスに対して利用料は少なくとも、いろいろサービスを受けているとかなりかかってくるので、年金だけでは生活していきません。見直しをお願いしたい。

(男性 20 歳以上 25 歳未満)

- 障害が重複しており、通院や補助装具が必要。自己負担が大きい。また、障害の特性に合った環境施設がなく、体調を崩しやすい。利用したくてもできない。卒業生の増加に伴って、地域の受け皿の拡充が遅れている。財政難を理由に弱者は行く場所が限られている。

(男性 20 歳以上 25 歳未満)

- 施設の利用料、生活にかかる費用等年金ではまかないきれない。

(男性 20 歳以上 25 歳未満)

- サービス利用に係る自己負担が大きい。

(男性 25 歳以上 30 歳未満)

- 行くだけで診察料がかかる。週 3 回行くと、3 日分かかる。昼食代とか訓練代もかかる、それが困る。無料が良い、昔みたいに。

(女性 30 歳代)

- 自己負担が大きいことが大変。もう少し軽減してほしい。小遣い等余裕がない。

(女性 30 歳代)

- 年金生活だけなので負担が大きい。

(男性 30 歳代)

- 親の援助を受けなければ満足できる生活を送ることは難しい。

(男性 40 歳代)

### 4. 医療行為の対応

- 日中支援サービスを受ける際など痰吸引、注入など医療行為があるため看護師のいる事業所しか利用できない。

(男性 15 歳以上 18 歳未満)

- 経管栄養の医療行為が必要です。医療行為があると近くに太陽の園・言泉学園・伊達リハビリセンター等の施設があるが、夜間看護師がいないため、ショートステイを利用できない。

(女性 15 歳以上 18 歳未満)

- 入浴サービスを利用している所が送迎バスに看護師さんに乗せられないため、親の送迎になっている。気管切開しているため医療行為が必要

(男性 30 歳代)

### 5. 事業所のサービス提供

- デイサービスの不足、児童入浴

(女性 15 歳以上 18 歳未満)

- 施設がない

(男性 15 歳以上 18 歳未満)

- 現在、児童の施設に入所、3 月で卒業後は施設入所となるが、近くに事業所がない。

(男性 18 歳以上 20 歳未満)

- デイサービスをしている所がない。休みの日に遊びに行ける場所がほしい。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- 希望しているサービスを持っていても、それに対応できる事業所がなく、本当は常についてほしいヘルパーを使わずに、不安な思いをしています。

(女性 20 歳以上 25 歳未満)

- 何かあった時に安心してみてもらえるデイサービス  
を充実させてほしい。

(女性 30 歳代)

- 医療的ケアが通所施設で週1回、1.5 時間しか受  
けられない。週 1 回でも、北海道では 1 ヶ所帯広で  
は受けられるだけ良いのかもしれない。網走、釧路  
では事業所が撤退したため、20 年度はしていない  
と聞いた。経管栄養の管理の必要な子は、週 2 回に  
増やしてほしい。呼吸の難しい子、けいれんのある  
子供の通院に親が同乗して、ヘルパーを使うことが  
できない。

(女性 30 歳代)

- 事業所数が少ない。STS の資源量が少ない。

(男性 40 歳代)

- 各自治体によりサービス提供に格差がある。たと  
えば送迎サービスなど

(男性 不明)

- 事業所が少ないため、十分な回数を確保できて  
いない。

(男性 不明)

## 6. 希望通りサービスを受けられないこと

- 在宅生活(親と)のペースを変えない中でのサー  
ビスを利用したいが、仕方がないことですが、事業所  
の体制に左右される(時間等)

(男性 18 歳以上 20 歳未満)

- 急用ができたとき福祉サービスを受けられる所  
がないこと。

(男性 30 歳代)

## 7. その他

- 気の合うヘルパーがいないから気を使って毎日  
がつまらなくなる。自分に合ったヘルパーが少ない。  
いろいろな事業所を使うと日程を決めるのが疲れる。  
代わりにやってくれる人がいるといい。

(女性 15~18 歳未満)

- 一人での食事が不自由なため、家族での手助け  
があるため、サービス利用が不可

(女性 15 歳以上 18 歳未満)

- 病院でもサービスを受けたい

(女性 15 歳以上 18 歳未満)

- 夏休み、冬休みにもサービスを利用できないこと。

(男性 15 歳以上 18 歳未満)

- 高校一年生になり、体重が 30kg、手足も長く、抱  
いて移動するのがきつくなってきた。バギー、車、乗  
せるだけでも持ち上げていくのは一人ではつらい。

(男性 15 歳以上 18 歳未満)

- 私のことを理解してくれる人がいない。伝える  
手法が下手で、言葉も出せなく、物に当たってしまう。

(男性 25 歳以上 30 歳未満)

- 自分にこなせるような仕事がなかなかない。

(女性 30 歳代)

- 施設に入所していますが、平日の日中活動、作業  
などを充実してください。

- 土日祝日の外出やレクリエーションの支援をし  
てください。

(女性 30 歳代)

- 私の住んでいるところでは、ショートステイが  
ないので、困っている。重度で在宅でいる人がいない  
ため、何かと大変である。旭川に行けばあるが、私の  
住んでいるところで何かあった時は大変である。

(男性 30 歳代)

- デイサービスに週 2~3 回通っているが、介助者  
のタバコの匂いが気になる

(男性 30 歳代)

- 排泄支援、生活支援、日常生活に関すること

(男性 40 歳代)

- 公園など車で連れていただいて、公園の中を散  
歩させてほしい。

(男性 40 歳代)

- 2 つの事業所を使えるかわからないが、そう出来  
たらいいと思っている。生活するための介助はある程  
度満足できているが、話し相手やゲームなどレクリ  
エーションの手助けをしてくれたらいいと思います。

(男性 50 歳代)

- 母が仕事をしているので、学校から帰ったら一  
人で勉強やゲームをしているので、その間誰かと一  
緒に勉強やゲームをしたい。

(男性 不明)

## 将来の子供の生活場所について

### 1. 施設入所

- 顔見知りの方とグループホームのような場所で家族のような暮らしができたらと思っています。ヘルパーさんなどに支援いただきながら。  
(女性 15～18 歳未満)
- 施設  
(女性 15～18 歳未満)
- 入所施設になると思います  
(女性 15～18 歳未満)
- 優しいヘルパーさんがいる施設  
(女性 15～18 歳未満)
- 安心して任せられる信頼できる人達に(施設)みてもらいたい。本人に合う医療、リハビリなど受けられ、できるなら地域で楽しく暮らせたらいい。  
(男性 15～18 歳未満)
- 同じ障害を持つ人達とグループホームのような所で生活したい。  
(男性 15～18 歳未満)
- 施設  
(男性 15～18 歳未満)
- 今利用している機関が、入所できるようにはまだ整っていないので、将来になってほしい。  
(女性 18～20 歳未満)
- 生まれ育った場所で環境の整った施設で暮らしたい。  
(男性 18～20 歳未満)
- 同じような仲間とケアハウスなどで地域で生活したい。  
(男性 18～20 歳未満)
- 介護者のいる施設に入所  
(男性 18～20 歳未満)
- 入所施設に入りたい、またはグループホームのような所から作業所などに通いたい。  
(男性 18～20 歳未満)
- 同じような仲間とグループホームに入れたらいいと思う  
(女性 20～25 歳未満)
- グループホーム(家と同じ様な生活)など  
(女性 20～25 歳未満)
- 施設での入所  
(女性 20～25 歳未満)
- 少人数でアットホームなケアホーム  
(女性 20～25 歳未満)
- 誰も見てくれないので施設しかない  
(女性 20～25 歳未満)
- できれば兄と。それが難しい時は仲間とグループホーム  
(女性 20～25 歳未満)
- ひとりでするしかないが、万が一のことをいろいろ想像すると夜中何かあったらどうしたらいいのかわからない。対応住宅がないので、このままでは施設に入るしかない。気の合う人とシェアハウスなど。  
(女性 20～25 歳未満)
- 毎日通っている作業所の人や仲間とグループホームで一緒に生活したい。  
(女性 20～25 歳未満)
- 施設で友人を作り、暮らしたいです。  
(男性 20～25 歳未満)
- 施設に頼るしかないと思っています。  
(男性 20～25 歳未満)
- 身体障害者でもグループホームが認可されて、サポートを受けながら日中は作業所へ行き、夜はホームに帰って暮らす方法がよい。  
(男性 20～25 歳未満)
- 施設で生活したい。  
(女性 25～30 歳未満)
- 仲間と同じ施設(グループホーム)のような所で暮らしたい。  
(女性 25～30 歳未満)
- 一人暮らしが可能ならそれがベスト。でもそれには相当の介助体制がないと不安。グループホームの一室がいいのではないかと思う。  
(女性 25～30 歳未満)
- グループホーム(入所施設)で仲間と生活したい。  
(男性 25～30 歳未満)

- グループホームに入って仲間(障がい者)と生活をしたい。  
(男性 25~30 歳未満)
- 現在、身体障害者施設(丹頂の園)へ通所を利用していますが、将来親が高齢になれば施設入所生活を考えています。  
(男性 25~30 歳未満)
- 施設ではなく、自分と同じ状態の人、4~5人程度で世話をしてくれる人と一緒にグループホームなどで生活したいです。  
(男性 25~30 歳未満)
- 施設に入所する予定  
(男性 25~30 歳未満)
- 重症心身障害児施設  
(男性 25~30 歳未満)
- 1種1級で睡眠時、無呼吸があるので、親が健康上の理由で介護ができなくなったときは、施設が幸い帯広には国療があるので、そこでの生活になるでしょう。  
(女性 30 歳代)
- 今通っている施設にお世話になりたいと思っています。できたら家で生活しているように暮らせたらいいなと思っています。  
(女性 30 歳代)
- 施設に入りたい  
(女性 30 歳代)
- 親の近くの施設で。  
(男性 30 歳代)
- 気の合った仲間とスタッフと生活したい  
(男性 30 歳代)
- 兄弟がいません。施設にお世話になると思います。  
(男性 30 歳代)
- グループホーム  
(男性 30 歳代)
- 最悪の場合は施設で生活。そのときの障害の程度にもよるのでなんとも言えない。  
(男性 30 歳代)
- 施設  
(男性 30 歳代)
- 施設で生活というが具体的にない。  
(男性 30 歳代)
- 重度なので医療がきちんとあって、介護してくれて安心できる場所で生活してもらいたい。

- (男性 30 歳代)
- 重度の障害施設で生活する方が安心  
(男性 30 歳代)
- その時は施設で暮らします。  
(男性 30 歳代)
- 入所施設を考えている(ただし、今の入所施設は日中活動が充分ではないので、日中活動を考えてほしい。  
(男性 30 歳代)
- 入れる施設です  
(男性 30 歳代)
- 町内にはまだありませんが、NPO 法人でケアハウスを立ち上げようと積立を始めています。そのハウスで仲間と暮らしたいです。  
(女性 40 歳代)
- 自分にあった施設に入所したい  
(男性 40 歳代)

## 2. 自立

- 一軒家で一人で自由に暮らしたい。  
(女性 15~18 歳未満)
- アパートを借りて、できない所はヘルパーさんをお願いする。  
(男性 15~18 歳未満)
- 自宅での自立した生活  
(男性 15~18 歳未満)
- 一人暮らし  
(男性 15~18 歳未満)
- 一人でアパートやマンションに住みたい  
(男性 15~18 歳未満)
- バリアフリーの家で一人暮らし  
(女性 18~20 歳未満)
- 今のままこの自宅で暮らしていけたらと思います。ただ金銭面でちょっと不安はあります。  
(女性 30 歳代)
- 市内で一人暮らしをしたいと思っています。  
(女性 30 歳代)
- 自活できれば一番いい。ホームヘルパーの充実や経済的支援  
(男性 30 歳代)
- 一人生活(地域で)  
(男性 30 歳代)

- 両親がいなくなった場合、福祉のほうの支援を受けたい。施設は希望しない。  
(男性 30 歳代)
- 福祉サービスを利用しながらアパートで暮らしたい。  
(男性 40 歳代)
- ヘルパーを呼びたい  
(男性 40 歳代)
- 私は長男で、障がいもありますが、できれば一人立ちを願っています。  
(男性 40 歳代)

### 3. 兄弟など身内と生活

- 兄と一緒に暮らしたい。  
(男性 15～18 歳未満)
- お姉ちゃんと一緒に暮らしたい  
(男性 25～30 歳未満)
- 家が親の家なので、姉妹と仲良く暮らせたらいと思っている。  
(女性 30 歳代)

- 兄弟と主に生活する  
(女性 30 歳代)

### 4. その他

- 親と暮らすことしか考えていない。  
(男性 30 歳代)
- 親と同じような限りなく近い愛情を注いでくださる方と。  
(女性 18～20 歳未満)
- 本人は考えられない子供なので困ります。  
(女性 18～20 歳未満)
- 仲間 3～4 人とヘルパーに助けてもらいながらナイトケアを受けることができると良い。日中は通所をしたい。  
(男性 30 歳代)
- お父さんかお母さんと家で暮らしたい。二人が死んでしまうとは考えていないようです。  
(男性 不明)

## 将来の暮らしのための支援

### 1. 国の支援等

- そのような生活スペースとその生活をサポートしていただける事業所、公的支援があると可能になるのではと。  
(女性 15～18 歳未満)
- 自宅のバリアフリー化に関して、車の障がい者用改造の資金の援助、および生活資金援助、以上の 2 つ既にある場合は強化、ない場合は新設  
(男性 15～18 歳未満)
- 重度の障がいがあっても、受け入れてくれるところ。地域での子供にとって、行き届いた施設に支援をしてあげればよい。親も子供も安心して将来を任せられる。  
(男性 15～18 歳未満)
- 公的支援(お金)があればできるかと思います  
(女性 20～25 歳未満)
- 自宅で親と障がいの子どもと一緒に暮らせて生活し、支援があると良いと思います。  
(女性 25～30 歳未満)

- 現在の自己負担、支給額では、生きるのみで楽しみのある生活は難しい。  
(男性 25～30 歳未満)
- 電気、電話、水道代等、光熱費、病院代、税金がかからなければいつまでも元気で仲良く暮らせると思います。  
(女性 30 歳代)
- 一番心配なことは、金銭面だと思います。障害年金で入所できれば良いと思います。  
(男性 30 歳代)
- 支援金と送迎用の手段があればいいと思います。  
(男性 30 歳代)
- 自宅のリフォームの支援、車、介護ヘルパーetc  
(男性 30 歳代)
- もう少し障害年金が上がれば良いと思います。  
(男性 30 歳代)
- 24 時間体制の福祉サービスの確保。金銭的な生活



保障。

(男性 40 歳代)

## 2. 施設等の確保

- 必要な時にすぐ施設に入れることです。  
(女性 15～18 歳未満)
- 医療と介護が整っている施設が地域があればいいと思う。  
(男性 18～20 歳未満)
- 現在、肢体不自由者のグループホームなどが地域にない  
(男性 18～20 歳未満)
- 重度なので、医療機関と連携の取れる施設があればできるかも。  
(男性 18～20 歳未満)
- 入所できる施設を充実してほしい  
(男性 18～20 歳未満)
- まず、グループホームなどの施設を増やす  
(女性 20～25 歳未満)
- 施設代金援助  
(男性 20～25 歳未満)
- 身体障害者用のグループホームの整備と介助者の充足  
(男性 20～25 歳未満)
- 施設を増やしてほしい。(函館市内)  
(女性 25～30 歳未満)
- 希望した施設で受け入れられること。  
(男性 25～30 歳未満)
- 自閉の重い人用の施設が増えること  
(男性 25～30 歳未満)
- 親が自分の面倒を見られなくなった時のこと。入れる施設です  
(男性 30 歳代)
- グループホームのような家と看護師さんを含めたスタッフ。日中活動できる施設とリハビリスタッフ  
(男性 30 歳代)
- 施設を増やす。  
(男性 30 歳代)
- 自分で何もできないので、全部介護してくれる方に手を借りなければならないので、食事、入浴、全てが設備できる場所  
(男性 30 歳代)

● 養護施設

(男性 30 歳代)

- 自分に合う施設がどこにあるのかわからない。行政と相談して早く探したいと思っている。

(男性 40 歳代)

## 3. 働く場の確保

- 入所しながら小規模作業所にて仕事ができる  
(女性 15～18 歳未満)
- 仕事の確保、生活費が得られること。年金の充実、住宅の確保。  
(女性 30 歳代)
- とりあえず仕事が見つければと思います。  
(女性 30 歳代)

## 4. 支援体制の拡充

- 住居の確保と十分な受給量(福祉サービス)と地域の理解  
(女性 15～18 歳未満)
  - サービスの時間が充分にあること。  
● サービスを受けるためのお金があること。  
● バリアフリーのアパートがあること。  
(男性 15～18 歳未満)
  - 24 時間介護付で安心できる生活  
(女性 20～25 歳未満)
  - 十分なサービス(個人にあった支援サービス)施設の選択可能な状況  
(女性 20～25 歳未満)
  - 福祉サービスの充実  
(女性 30 歳代)
  - ヘルパー24 時間体制  
(男性 30 歳代)
  - 24 時間体制のヘルパー  
(男性 不明)
- ## 5. 人材の確保
- ホームヘルパー(自宅介護)  
(男性 15～18 歳未満)
  - 自分のできないことを一緒に手伝ってくれる。トイレ介助、料理、風呂、食事介助(掃除介助も含む)生活全般  
(女性 15～18 歳未満)

- できないことを手伝ってもらいたい。外出する時に福祉サービスを利用したい  
(男性 15~18 歳未満)
- 信頼できる方をみつける  
(女性 18~20 歳未満)
- 24 時間の支援が必要なので、支援してくれるヘルパーの確保。  
(女性 20~25 歳未満)
- 24 時間を通して、誰かとコンタクトがいつでも取れること(例:時間交代制のヘルパー、夜中が不安)  
(女性 20~25 歳未満)
- 介護してくれる人が一日中いてくれること  
(女性 20~25 歳未満)
- 朝起きてから、夜寝ているときまでサポート体制があれば。食事の支度、片付け、掃除、洗濯、買い物、通所の送迎など一緒に手伝ってくれる体制。  
(女性 25~30 歳未満)
- ヘルパーさんの援助、外出する際、車や手伝い食事の面倒をみてくれる人  
(女性 25~30 歳未満)
- 周りの方(ボランティアなど)がそばにいることと、地域のサポートがあること。  
(男性 25~30 歳未満)
- 親のできなくなったことをサポートしてくれる人たちがいてくれると少しでも親と暮らせると思っています。  
(男性 30 歳代)
- 自分の介助や暮らしを支えてくれるヘルパーや相談支援をできる人を増やす。バックアップしてくれる社会福祉法人のような組織があること、スタッフを常に研修したり、育成する仕組み。  
(男性 30 歳代)
- ショートステイ、日中の支援で施設に職員の人に馴染んでもらう。  
(男性 30 歳代)

- 生活支援手助けがあればできる。  
(男性 30 歳代)
- ホームヘルパーさんの利用しやすい制度(利用頻度や料金)  
(男性 30 歳代)
- 利用者に対する介助者の数を今以上に増やしてもらいたい。  
(男性 30 歳代)

## 6. その他

- 全ての家がバリアフリーになれば、みんなが住みやすくなると思います。  
(女性 18~20 歳未満)
- 国がきちんと施設で働く人の給料を考える。  
(男性 18~20 歳未満)
- 作業所のそばにみんなで住める家を建てて、仕事に行ったり遊びに行ったりする。  
(女性 20~25 歳未満)
- お母さんのように食事や掃除などをしてくれる人がいないと生活できません。  
(男性 25~30 歳未満)
- 障害者、福祉行動計画の早期実施や、中身の濃い計画であってほしい。計画内容と現実のギャップがありすぎる。  
(男性 20~25 歳未満)
- なかなかそういう方を見つけられないお世話をしてくれる方へ、しっかりとした教育をしてほしい。社会生活があまり上手でない方が安易に福祉の世界に入っているような気がする。  
(女性 18~20 歳未満)

## 将来の生活に備えて今行っていること

### 1. 貯蓄

- お金を貯める  
(男性 15~18 歳未満)

- お金を貯金していること。
- 自立できるようにJRの乗り方や身の回りのことの訓練。



- (男性 15~18 歳未満)  
 ● 就職活動、貯金
- (女性 20~25 歳未満)  
 ● 貯金
- (女性 20~25 歳未満)  
 ● 貯金を心掛けているができない。年金では足りない  
 ので。  
 (男性 20~25 歳未満)
- 親が扶養共済に入ってくれている。入院互助会にも  
 入っていて少しは安心できる。  
 (女性 30 歳代)
- 少しでも多くお金を残し、貯金しています。  
 (女性 30 歳代)
- 貯金、サービス事業所との関係作り  
 (男性 30 歳代)
- 貯金・技術の勉強(パソコン)  
 (男性 30 歳代)
- 貯蓄、福祉サービス事業所との関係作り。  
 (男性 40 歳代)

## 2. 自立訓練

- 自分自身である程度のことができるようにしたい。  
 (女性 15~18 歳未満)
- 自分でできることを増やす訓練をしている。  
 (女性 15~18 歳未満)
- 一人暮らしができるように掃除、洗濯、炊事ができる  
 ように学校などで親から離れて生活しています。  
 (女性 15~18 歳未満)
- 日常生活訓練  
 (男性 15~18 歳未満)
- 一人で食事をする練習をしている。  
 (女性 20~25 歳未満)
- 買い物や交通機関利用の訓練  
 (女性 25~30 歳未満)
- 自分でできることはしますが、洗濯等を上手にできる  
 ようにしたい。  
 (男性 25~30 歳未満)
- 将来のために一つでも自分でできることを増やすよ  
 うにしています。(他の人に自分の意思を伝えること  
 は難しい)  
 (男性 25~30 歳未満)

- 身の回りのことを自分でできるようにしている。  
 (男性 25~30 歳未満)
- 自分のことは自分でできるように  
 (男性 30 歳代)
- 自立する努力。親離れの訓練。  
 (女性 40 歳代)

## 3. 人との交流

- 事業所、ヘルパーさんとのつながりを探したり、作っ  
 ていきたい。  
 (女性 15~18 歳未満)
- 親以外の方に馴れ、表現を伝えられること。  
 (男性 25~30 歳未満)
- 家族以外の人と一緒に行動できるようにヘルパーを  
 頼んでいます。  
 (男性 25~30 歳未満)
- 家族以外の介護に馴れておく。支援者を育ててい  
 るつもり。  
 (男性 30 歳代)

## 4. 体調管理

- 体調の維持、健康であること。  
 (女性 20~25 歳未満)
- 健康管理  
 (女性 25~30 歳未満)

## 5. 父母・家族会等での活動、運動

- 今まで重度の障害が生活する場がなかったです。  
 そこで親達が集まり、地域生活を体験する場を作っ  
 て活動をしました。その結果、伊達にもグループホ  
 ーム(重度)ができました。必要なだと声を上げて  
 いくことですね。  
 (男性 20~25 歳未満)
- 親達が日中活動できる施設を釧路につくる運動を3  
 年前からしていて、ようやく実現しつつある。  
 (男性 30 歳代)

## 6. その他

- 障がいを持った人を受け入れる一般企業をもっと増  
 やしてほしいです。  
 (女性 18~20 歳未満)

- 市に言い続ける。  
(男性 18～20 歳未満)
- 春に通所施設が開設するので、それをもっと大きいものにしたい。  
(男性 18～20 歳未満)
- 今のところは何もしていません。福祉施策が不安定で、どんな準備をしておくべきか親も不安です。方向性が見えません。  
(男性 20～25 歳未満)
- 一人で楽しめるように習字、絵画、ピアノなど習っています。  
(男性 25～30 歳未満)
- 市営住宅の障がい者専用住宅の空き待ち中です。  
(女性 30 歳代)
- 親の面倒を自分なりに見ている。  
(男性 30 歳代)
- 本人には難しいです。親は、リハビリ、通院など手伝

っていますが、これからまたいろいろ考えていきます。

(男性 30 歳代)

- リハビリ、自宅で手がしびれて曲がらなくなるので  
(男性 30 歳代)
- 勉強  
(男性 不明)
- 就労支援センターに通って、就労先を待っています。  
(男性 20～25 歳未満)
- 何をしたいかわからない  
(女性 20～25 歳未満)
- まだ何も準備していません。  
(女性 20～25 歳未満)
- 将来の国療入所を考えて、年に数回、平成 20 年は 5 回、短期入所をして馴れるようにしている。  
(女性 30 歳代)

## 地域で生活続ける（あるいは始める）上で困っていること、希望すること

### 1. 障がいに対応した住宅物件の確保

- 地域の事業所でも、本人の自立のために住宅改装して頑張っている所もありますが、やはり不便なところは出てきます。快適に暮らせるように助言や補助をしていただければ地域で暮らせる方が増えると思います。大きな建物(施設)を建てれば良いわけではなく、きめ細やかな補助制度が必要と思います。  
(男性 18～20 歳未満)
- 項目全体が希望することです。今は高齢者と障がい者下宿にて暮らしています。しかし、本当に地域で暮らすと考え、インターネットで家を探しています。探しているサイトに障がい者をサポートする項目があればいいと思うときがあります。  
(女性 20～25 歳未満)
- 仕事の確保。市営住宅の確保。交通費の支援。  
(女性 30 歳代)
- 住宅の維持管理に関する費用が必要。移動支援でのサービスで冬の外出支援を容易にしてほしい。  
(男性 30 歳代)

### 2. 就労・仕事先の確保

- このままでは施設に入らなければならない。自由がなくいやだ。  
(男性 15～18 歳未満)
- 仕事をして生活費がほしい。  
(男性 30 歳代)
- 自分は小学校 1 年から旭川養護学校中学 3 年まで、高校岩見沢養護を卒業して、神奈川障害施設コンピューターの専門学校 2 年、卒業後会社に就職して、16 年勤めて、親が病気になったので、去年、北海道に帰って来ました。今は家でコンピュータなどゲーム、テレビなど退屈せず暮らしています。神奈川では会社までの 20 分、電動椅子で毎日(月～金)通っていました。辞める時は会社に惜しまれ、やむなく帰って来ました。北海道は冬は車椅子は外では乗れません。それで仕事もありません。  
(男性 30 歳代)
- 高等部を卒業した後は、仕事をして給料をもらって入院することなく、元気に生活していきたいので、今頑張って勉強をして、太り過ぎないように注意してい

るそうです。

(男性 不明)

### 3. 地域生活が難しくなった時の受け入れ先など(施設など)

- 入所施設も信頼できるスタッフがいて、希望する時に入所できるようになるといいと思います。  
(男性 25~30 歳未満)
- 福祉村に入所していましたが、前年度の自立支援法改定の障害認定区分では村を出るような話になり困っていたところに、福祉ホームに空きができて入ることとなったが、父母が元気なうちは安心ですが、今後年をとるにつれ、心配です。できれば施設に入所して生活ができることが良いと思います。  
(女性 30 歳代)

### 4. 日常で必要とする介護体制の確保

- 施設を増やしてほしい。  
(女性 20~25 歳未満)
- 入院が必要になったとき、介護の方がそばにいてくれること。  
(男性 25~30 歳未満)
- 居宅サービスなど  
(女性 30 歳代)
- 24 時間体制でサポートしてもらえる状況であれば、安心して生活できそうです。生活費が得られること。  
(男性 30 歳代)
- 事業所が少ないため、利用施設の選択ができない。  
(男性 不明)

### 5. 移動支援サービスの充実

- 自宅の近くにサービス利用のための施設がありませんので、もう少し増えてくるとよりよいと考えている。  
(女性 15~18 歳未満)
- 現状の制度では、障がい者が自由に外出し、移動することは難しい。よって新しい制度やより障がい者が利用する上で使いやすいシステムをつくっていくことが必要であると考えます。  
(男性 15~18 歳未満)
- 施設入所したい人でも移動支援などが利用できたらいいと思います。  
(女性 18~20 歳未満)
- 親の送迎ができなくなったとき、市外での移動手段が限られるので不安。ヘルパーの費用負担(そんな

に収入はない)両親の死後、自宅の維持が難しく、次の住まいへの不安。冬の外出全般。出先のトイレの数が極端に少なく、外出に制限がかかる。

(女性 20~25 歳未満)

### 6. 訓練を受けたヘルパーによる医療行為

- 職場で介助を受けられるようになれば、働くことができ、収入も得られる。「薬を本人に持たせることはできるが、飲ませることはできない」「人工呼吸器を扱えない」など、ヘルパーの介助が最も必要な部分ができないのは困る。そのままでは、重度障害者は地域で生活できない。  
(女性 20~25 歳未満)

### 7. 地域での適切な医療やリハビリ

- 医療行為があるのでなかなか外出などできない。  
(女性 15~18 歳未満)
- 地域で特に困っていることは、整形外科の対応が悪い。診療を受けても体すら触れて診てくれない。市の施設がなぜこのような医師を嘱託医にしているのか疑問である。行政や親の会に訴えても全く改善されない。何とかしてほしいと思っています。(函館市、青柳学園)  
(男性 20~25 歳未満)
- リハビリを受けたくても、訓練士さんが少ないために、訓練士さんも重労働で大変。もっと訓練士を増やしてほしい。  
(女性 30 歳代)
- リハビリを受けることができない  
(男性 30 歳代)
- 訪問看護やリハビリや通所先の作業所でも受けることができると、通所先のスタッフにも勉強になり、日中活動でも介助が充実する。本人に対応できるヘルパーが通所先にも同行できるとケアの充実が図られる。  
(男性 30 歳代)
- リハビリを受ける場が少ない。病院にかかりたくても個人病院では対応できず、大きな病院になってしまう。大きい病院は診療時間が限られていてかかることが困難。  
(男性 不明)

### 8. 本人のことを任せられる信頼できる人

- 思いやりのあるヘルパーさんと信頼できる施設があ

ればなんとか生きていけるかな。

(女性 15～18 歳未満)

- 家族以外に身近に任せられる人がいない。  
(女性 20～25 歳未満)
- グループホームは必要なので、早めにはできればいいと思います。また困った時に相談できる方もそばにいと助かります。  
(男性 25～30 歳未満)

## 9. 地域住民の理解と協力

- 地域の人々の理解と協力を得られることを希望します  
(男性 18～20 歳未満)
- 障がい者が地域で生活するために必要と思われることは、たくさんありすぎて一つ一つ解決するのは時間がかかると思います。でも、法律でカバーできないところはボランティアや近所の皆さんに、こんな人の手助けをお願いしますと本人や家族に代わって声をかけてくれる人がいると、本人、家族とも心より安心して暮らしていけると思うのですが、そんな草の根の仕組みができるとうれしいです。  
(男性 20～25 歳未満)
- 弱者がいじめられない世の中になれば…普通の人々が生活するのに大変だと弱いものにしわ寄せがくるように思います。温かい目で見えていただけると幸いです。  
(男性 25～30 歳未満)
- いきなり理解・協力を得るのは難しいです。今よりも少し「気にかけてほしい」です。ばかにしたり、笑ったり、ヒソヒソ話したりしないでください。特別ではなく自然に接してください。  
(男性 25～30 歳未満)

## 10. その他

- お金がないので困っています  
(男性 15～18 歳未満)
- 現在は事業所がしっかり支援してくれているので、楽しく生活しています。ヘルパーさんの時間やお金も行政が出してくれているのが、いつまで出してくれるのか心配しています。国や市だけに頼ることが難しくなったら、私たちはどうしていったらいいのか今からしっかり、地に足をつけた生活をしていかなければいけないですね。  
(男性 20～25 歳未満)
- 自立支援法の法律が厳しすぎて、手助けの仕方が決められているので、ひとりで生活できるように訓練されても、実際にはできていない。年金でまかなえる

ように見直してほしい。

(男性 20～25 歳未満)

- やはり、いろいろな障害の人にかかる費用を無料にしてくださったり(病院、税金、通園施設費用、訓練料、光熱費等はかからないでほしい)心配で考えると、眠れなく病気になりそう。死ぬしかないのかと思うこともある。心にゆっくり人生を送りたいと思う。  
(女性 30 歳代)
- 3ヶ月に一度くらい、このような同じ内容のアンケートが来ます。子ども達の状態を知りたいのでしたら、各支部を訪問して直接親の会や子ども達や保護者の声や実情を見たり聞いたりしていただきたい。小規模作業所・地域活動支援センターが少人数の活動形態での事業ができるように、ご検討くださいますようお願いいたします。子供が書いたりできませんので、母が記入しました。  
(女性 30 歳代)
- 福祉を充実してほしい。  
(男性 30 歳代)

福祉サービスの利用に関して困っていること

1. サービス利用のための送迎

- リハビリ、学校の行き帰り、長距離の歩行は困難なので、必ず母親の自動車での送迎が必要です。

(女性 12~15 歳未満)

- 日中一時支援を利用しているが、送迎がないため、福祉タクシーを利用するしかなく、金銭的にもかなり負担が大きい(ほぼ毎日のため)。日中一時支援をしている所が少ないため、時間的に制限のある所しか利用できない場合があり、困ることがある。

(女性 12~15 歳未満)

- 高校一年生になり、体重も 30kg に、手足も長くなり、抱いて移動するのが大変。バギーに乗せるだけでも持ち上げるのは腰が悪くなりそう。

(男性 15~18 歳未満)

- 送迎費がかなり負担です。ガソリン代が上がった去年くらいからぐんと上がった。サービスを頼んでも忙しいので頼みにくい。

(女性 18~20 歳未満)

- 親の車の運転がだんだん困難になってきているので、送迎サービスを利用しなければいけない。利用が多ければ自己負担が大変

(女性 18~20 歳未満)

- サービスを受ける場所が遠方にある

(女性 18~20 歳未満)

- 現在高 3 で、4 月からデイサービスを利用する予定だが、ヘルパーの人数が足りないということで、週 2 回しか通えない。送迎も車椅子ごと乗れる人数が一杯だということで、片道 40 分かけて送迎せざるを得ない。

(男性 18~20 歳未満)

- 送迎が必ず必要ですが、金額がかかりすぎて手当を頂いても足りません。土曜日は行く所がなく、自宅にいる家族も仕事があり困っております。札幌市で行なっている一時支援に 4~5 時間いただけでもかなりの金額がかかり、預けられません。

(女性 20~25 歳未満)

- サービスを利用するために送迎が必要なことについて、特に冬は移動が大変、でも外出はしたい。移送サービスの内容には条件があるため、タクシーのよう

に自由な使い方はできません。雪の日など買い物は歩いて(車椅子)10 分以内のところでもタクシー(タクシーは個人タクシーで何度もその方をお願いしていることもあるから)は、気持ちよく迎えに来てくれます。

- 必要なサービスを利用するための送迎について、娘は身体的には全介ですが、だからといって通しでの長い時間のヘルパーさんは必要ないのですが、時間を 30 分で終わることもできない。夜寝るときなどは長い時間でもよいのですが、希望は日中は短い時間帯でお願いしたいが、そうなるとヘルパーさんがいない。だからと言って、たくさんの事業所をお願いするのもややこしいです。

(女性 20~25 歳未満)

- サービスを受ける場所が遠い(一般のバスに乗れない)ので送迎が必要です。

(女性 20~25 歳未満)

- 通所の送迎車は途中までなので、その場所まで親の送迎が必要です。冬道の運転や渋滞でストレスがたまります。親の体調が悪いとき、本人が行きたくても休まなくてはなりません。家族の用事が送迎の時間に重なることもあります。

(男性 20~25 歳未満)

- 知的作業所に初めて車椅子の子を受け入れてもらっていますが、車椅子対応の大型バスではないため、送迎は親が行なっています。今年1月から週2回朝のみ、施設のほうで迎えに来てくれることになったのですが、やはり親の負担が(時間や体力的に)大きくあります。

- 生活介護等受給はありますが、肢体をあまり扱ったことがないため、使う私たちにとってすごく不安があり、全く使うことがない。

(男性 20~25 歳未満)

- 現在は自力送迎をしている。この先、親が老いた時、送迎を使うと自己負担が多くなり、日々の生活が成り立たなくなる。

(女性 25~30 歳未満)

- 送迎について…団体の送迎は施設の最寄の地下鉄駅までで、公共機関の利用と家から最寄の駅までの送迎は自家用車を利用している。そのため交通費がかかる。

- その他について…授産施設でありながら利用料を払い、なおかつ現在は給金ゼロの労働者である。これでは授産ではなくデイケアに近いと思われる。



(女性 25~30 歳未満)

- 通所施設に行く際、毎日自費でタクシーを使っている。

(女性 25~30 歳未満)

- 通所施設に行っているが、片道 1 時間以上かかるところに親が送って行っています。帰りはバスがあるのですが、朝はちょうど良い時間のバスがないため送っているのですが、いつまで続けられるのか不安です。息子はとても喜んで行っていますので。

(男性 25~30 歳未満)

- 居宅を利用するとき、交通費実費が高い。送迎だけしてもらいたい時があるが断られる。通園時間中、休んで訓練、病院に居宅を利用してほしいと思うが、できないらしい。

(男性 25~30 歳未満)

- 作業所が 10~15 時ですが、母が仕事をしているため、親しい人に送迎のみをお願いしています。送迎のみの利用ができるとうれしいです。

(男性 25~30 歳未満)

- 移動支援サービスで例えばヘルパーさんと床屋へ行ってもらうのに、親が送迎しなければならない。

(男性 25~30 歳未満)

- 短期入所、通園など個人の送迎を必要とするため、移動支援が使えると良い。特に通園については自分で送迎が可能なら、増やしても良いということ。

(女性 30 歳代)

- 利用している施設が遠いため、送迎サービスを受けられない。札幌市は通所に移動支援の送迎サービスを利用できない。

(男性 30 歳代)

- 車椅子が大きく、乗車に困る

(男性 30 歳代)

- 学校の寄宿舎より家までの送迎

(男性 40 歳代)

## 2. サービスの支給量について

- 児童デイサービスに行く時、送り迎えをしてくれると介護するものの負担が軽減される。
- 子供を安心して預ける所がなく、介護している者が病院へかかれない。
- サービスの自己負担が大きい(家計を圧迫するため回数を減らしてしまう)

(女性 6 歳未満)

- 個々にケースは違うと思いますが、なかなか状態の

向上が期待してもできないので、訓練回数が少ないのか何なのかわかりませんが、北海道のトップの方々の指導をもっと厳密に受けてほしいと思います。(函館の施設の訓練の方々。私の子は青柳学園です)

(男性 15~18 歳未満)

- 複数の事業所に契約していますが、どの事業所も定期以外の急な、例えば 1 週間前などの利用は難しい
- サービスの支給量が自立するには絶対的に不足しています...

(女性 18~20 歳未満)

- 親の体力も年々衰えているので、より多くのサービス支給量が必要です。よりよい事業所が増えることを希望します。

(男性 18~20 歳未満)

- 重心通園施設に週 2 回通っています。入浴サービスがないため、居宅介護(入浴サービス)月 20.0 時間の支給、週 2 回では足りないが、それ以上は望めないのが現実。市の経営している施設は、障害の特性に配慮や個別支援計画に沿った内容ではなく、ただ保護している状況であり、自立支援にはほど遠く、体調管理ができないため、利用できないでいる。自宅で過ごすことが多く、親子ともども疲れています。

(男性 20~25 歳未満)

- 本人は全面介助のため、親は先に亡くなることを前提に一人暮らしを考えるにあたり、重度訪問介護時間を今後 300 時間くらいなければ生活ができないので、福祉課に説明をしっかりと、一人暮らしをさせたい。

(女性 25~30 歳未満)

- 子供の身の世話をする妻が入院してサービスの時間が足りなくなったが、どうにもならなく大変でした。また、ヘルパーの質も不満であった。

(男性 25~30 歳未満)

- 週に 1 回 1 時間しかデイサービスでの支援が受けられていなく、時間を増やしてくれるよう要望しても答えてくれません。現状では少なく、色々な相談もできません。

(女性 6 歳未満)

## 3. サービスに係る自己負担

- サービスの自己負担が大きい(家計を圧迫するため回数を減らしてしまう)

(女性 6 歳未満)

- 母子家庭で母親が働いているため、日曜日の預け先がなかったり、お金もかかるので調整しながら利用しないとならない。

(女性 12~15 歳未満)

- 児童デイサービスで規模によって利用料が違うのはおかしいと思う。受ける内容は一緒なのに。13 時~18 時までは児童デイサービスだが、それ以外の時間は日中一時支援で負担金が多い。

(男性 12~15 歳未満)

- 仕事に行く場合見守りに来てくれる人がいない、料金もかかり頼めない。

(女性 15~18 歳未満)

- 病院通院(訓練)のため、移動支援をよく利用していましたが、負担金が大きくなり、使えなくなりました。

(女性 15~18 歳未満)

- 今まで福祉サービスを利用していないが、これから利用するにあたり、自己負担が多ければ利用できないと考えている。

(男性 15~18 歳未満)

- 母子家庭で入所してもらわないと仕事ができないが、自己負担と入所に必要な物を揃えるもの(服や下着などの)枚数も多く、目に見えない金がかかり、また車椅子や装具を作る際の自己負担もかなりの負担で苦しい家計から出費としてはとてもつらい

(男性 15~18 歳未満)

- 施設に入所したため年金がもらえないので、自己負担金が多い。週末必ず家に帰ってきますが、施設に入所していると移動支援などが受けられないので、もし受けることができれば親が迎えに行けない時でも家に帰ってくることもできるし、どこかに遊びに行くこともできる。

(女性 18~20 歳未満)

- 身体機能訓練のための送迎、片道 20 分くらいかかる訓練時間を 45 分かかり、親がつきっきりになる雪道や時間帯で遅くなることも親の負担が多い。自己負担も回数を重ねれば大きな出費となる。装具も年齢によって作成が難しくなるのが困る。必要に応じて作れる状況が好ましい。

(男性 18~20 歳未満)

- 送迎が必ず必要ですが、金額がかかりすぎて手当を頂いても足りません。土曜日は行く所がなく、自宅にいる家族も仕事があり困っております。札幌市で行なっている一時支援に 4~5 時間いただけでもかなりの金額がかかり、預けられません。

(女性 20~25 歳未満)

- 年金の中でやっていこうと思うが、自己負担金がかかり大きいので、将来のために貯金したいが、ほとん

ど無理な状況である。

(女性 20~25 歳未満)

- サービス利用にかかってくる自己負担について、施設入所中ですが、収入(年金)のほとんどが負担となっている。

(男性 20~25 歳未満)

- 各事業所の調整を母親が行なっているが、今後はどうのようにしていけばよいか悩んでいる。また、移動支援については走行距離についてのガソリン代を支払うので、金銭的負担が多く、利用しにくくなっている。

(男性 20~25 歳未満)

- サービス利用に係る自己負担が多い。

(男性 25~30 歳未満)

- 昨年 11 月福祉村の福祉ホームに入居させていただきましたが、経費の面でもう少し軽減されると助かります。親が元気な時は少しでも金銭面で助けてやれますが、このままでは困る。

(女性 30 歳代)

- 3 月末で親が定年退職するので、月・水・金と週 3 回の訪問看護の自己負担と 2 週間に 1 度の通院があり、医療費の自己負担が多い。

(男性 30 歳代)

- 自立支援法の施行後、自己負担が月 2 万増となり、その分どうしても親が負担しているが、この先親自身も負担が難しくなってくるのが予想される。年金の中から月 5 万円以上の支払いがあり、その他本人の国保支払い、いずれ介護保険の支払いなど差し引かれると親亡き後はどうなるかと不安である。

(男性 30 歳代)

- 定年退職で年金生活で自己負担が多い。

(男性 30 歳代)

- 自己道尿をやっていますが、学校などの行事や屋外活動などの時に対応してもらえないことがあり、親などがそこまで行かないといけない。

- 訓練など週 1~2 回ですが、医療機関やサービスの利用の負担を少なくしてほしい。毎月になると結構大きいです。

(女性 6~12 歳未満)

- 経済的な理由で共働きですが、本当なら 1 日働かなければ苦しいのですが、預け先がなく、半日しか(子供が学校へ行っている間)働けません。民間の障害児学童保育は利用料が高く、働く意味がないほどです。長期休みの中のデイサービス利用も午前 10 時からで、朝から預ける場合は学童保育を利用するか、勤務時間を短縮しなければならず、どちらにしても経済的に厳しくなってしまう。普通学校のように低額で利用できる学童保育が必要です。



もしくは、共働きしなくても生活できる程度の給付金がいただけたらと思います。

(女性 6~12 歳未満)

- 我が家は自己負担金が高くてサービスを利用したことがありません。

(女性 6~12 歳未満)

- 入院等と重なると自己負担が増えるのに手当がもらえず支払えるのか不安です。

(男性 6~12 歳未満)

- 施設への入所

(男性 6~12 歳未満)

- 自立支援法施行後、自己負担(施設利用費等)が増え、障害者年金だけでは自己生活が難しい状況になってきている。

(男性 70 歳代以上)

#### 4. 医療行為の対応

- 自己道尿をやっていますが、学校などの行事や屋外活動などの時に対応してもらえないことがあり、親などがそこまで行かないといけない。

- 訓練など週 1~2 回ですが、医療機関やサービスの利用の負担を少なくしてほしい。毎月にすると結構大きいです。

(女性 6~12 歳未満)

- 経管栄養にも対応してくれないため、昼食が絶食になってしまうので、あまりサービスを利用できない。

(男性 12~15 歳未満)

- 経管栄養の医療行為が必要です。近くに太陽の園、伊達リハビリセンター、言泉学園等がありますが、夜間看護師がいない為、医療行為のある子のショートステイを受け入れてくれないので、非常に困っています。

(女性 15~18 歳未満)

- 通学している学校で先生が医療行為ができないので、何かあれば自宅からその都度出向かなければならない

(女性 18~20 歳未満)

- 2 ヶ所の生活介護通所サービスを利用しているが、1 ヶ所は送迎バスに看護師さんが乗らないため、親の送迎で入浴サービスを受けている。今のところ、入浴サービスのある通所施設が 1 ヶ所しかないので、仕方なしに続けているが、親は一日かかりきりになる。

(男性 30 歳代)

- てんかん発作があります。

(男性 30 歳代)

- 事業所が少ないことと、医療行為が必要なためいつも保護者に付き添っていないといけない。

(女性 50 歳代)

- ・医療行為をしてくれる短期入所施設が少なく、あっても2床分しかないので使いたくても使えない状態である。

- ・医療行為のできるヘルパーさんが少なく、混んでいてなかなか利用できない。

- ・養護学校が父母同伴通学なので、用事や病院に行きたい時に通学支援を利用したいが、使えないので困っている。

(女性 6~12 歳未満)

- デイサービスに看護師がいないため、医療行為(注入、サクションなど)してもらえず、利用が出来ない。

- 時間通りに来てもらえず、サービスを受けられない。

(女性 6 歳未満)

- 医療行為に対応してもらえないので預けることができない。

(女性 6 歳未満)

#### 5. 事業所のサービス提供

- 児童デイサービスをしている事業所が一件しかないので、思うように利用できない。土・日・祝日も利用したい。

(女性 12~15 歳未満)

- 日中一時支援を利用しているが、送迎がないため、福祉タクシーを利用するしかなく、金銭的にもかなり負担が大きい(ほぼ毎日のため)。日中一時支援をしている所が少ないため、時間的に制限のある所しか利用できない場合があり、困ることがある。

(女性 12~15 歳未満)

- 児童デイが市内に一つしかなく希望通りに使えない。またその中で訓練のサービスがないので、児童デイの中で対応してほしい。

(女性 12~15 歳未満)

- 移動支援サービスが利用したいが、事業所がなく受けることができない。

(男性 12~15 歳未満)

- 児童を入浴させてくれる(家ではなく)事業所がない。

(男性 12~15 歳未満)

- 居宅介護(お風呂支援)、移動サービスを利用しているが、事業所が 1 ヶ所しか子供の受け入れをしておらず、人員不足のため満足のいく回数が確保できない。児童デイも同様です。

(男性 12~15 歳未満)

- 肢体不自由児者のデイサービスなどの不足  
(女性 15～18 歳未満)
- 日中支援サービスを受ける際、看護師のいる事業所(少ない)しか利用できない  
(男性 15～18 歳未満)
- 高齢者のサービスが充実しているのに、子供のサービスが何もなく、近くでも隣の市(1 時間以上かかる)、函館の方へお願いしなくてはならない状況です。  
(男性 15～18 歳未満)
- ケアホームやショートステイの場所が少ない。  
(女性 18～20 歳未満)
- 知的障がい者のための施設はあるが、肢体不自由児者のための施設は少ない。  
(男性 18～20 歳未満)
- 急に自分が具合が悪くなった時、入院等しなくてはいけないうる時に、介護するものがないため、本人を預けたい時に近いところにすぐに医療行為も万全な長期(1 ヶ月～2 ヶ月等)に利用できる(入所)施設がない。  
(男性 20～25 歳未満)
- 重度であるため、通所できる場所がない。訪問教育を卒業してから、出かけることは病院以外全くといってない。何度か利用する短期入所は自宅から 3 時間かかるため、私が送れなくなると思うととても不安になります。  
(男性 20～25 歳未満)
- ショートステイしてもらえ施設が少ない。何かあった時にも見てもらえ施設の充実  
(女性 30 歳代)
- 小さな町なので、事業所がない(必要なサービスの)  
(男性 30 歳代)
- ショートステイを利用したいが、持病(けいれん発作)があるので自宅から近い所に事業所がほしい。  
(男性 30 歳代)
- 重症児者に対応できるヘルパー、事業所が少ない。利用したい曜日、時間等が重なることが多い。  
(男性 30 歳代)
- 肢体不自由と知的障害の重複障がい者なので、現在知的障がい者施設に入所しているが、肢体不自由者のリハビリはなく困っている。  
(女性 40 歳代)
- ショートステイ先の施設が少なく、空きがなくて利用できないことがある。  
(女性 50 歳代)
- 入浴サービスを希望していますが(自宅ではなく施設で入浴させたい、送迎も希望している)定員がオーバーして2 年待ちくらいといわれている。  
(女性 6～12 歳未満)
- 児童デイサービスを提供しているところが少ない。ただ一つだけ行っているところを利用しているが、PT の先生が少なく、困っている。肢体不自由の場合、20 歳前後まで成長に伴い、成長に合わせた理学療法、作業療法などを受けたい。毎日は無理でも、週 1 回以上は受けさせたい。一番の成長時にきちんとした訓練をしないと、体の成長に影響が出てくる。肢体の人達は一生訓練をし続けることをしないと、体が硬くなるので、他の障がい者とはまた違ったところもあることを理解してほしいです。  
(男性 6～12 歳未満)
- 入浴サービスを週 3 回受けたいのであるが、児童入浴を提供している事業所が 1 ヶ所であるため、週 2 回やっとな受けている。家庭では重くて移動、入浴を一人ですることは困難である。  
(男性 6～12 歳未満)
- 子供が本人なので、ヘルパーを使って家で見てもらいたいが、できない。家の近くにあればいいのだけれど、事業所が遠い。少ないので(事業所が)選べない。  
(男性 6～12 歳未満)
- 日中一時支援を利用していますが、地域には1 ヶ所しかなく、利用を控えてほしいというときがある(入所している子がインフルエンザや他の感染症になったとき)家庭の事情で働いているため、利用できないときは大変困ります。  
(男性 6～12 歳未満)
- 休日等、なかなか見てくれるところがなく、複数のデイサービスは難しく、子供が負担を感じ、体調を崩してしまうため。  
(男性 6～12 歳未満)
- 近くに児童デイサービスがない。訓練が先生不足で回数多くは受けられない。(3 ヶ月 1 回など)  
(女性 6 歳未満)
- 居宅介護や短期入所など、児童を扱っているところが少ないうえに、一応児童も可能なはずなのに、扱ったことがない、責任がもてないなどで幼児期の子どもは扱ってもらえない。就学前では受け入れ先が見当たらない。  
(女性 6 歳未満)
- 地元でデイサービスがないため、隣町へ送迎しないといけないうる。  
(男性 6 歳未満)

## 6. 希望通りサービスを受けられないこと

- 医療行為(胃ろう注入)が必要なため、利用できるところが限られている。土・日・祝日は利用できない。  
(女性 12~15 歳未満)
- ヘルパーの人数が確保できず、他の事業所と平行して使うと予定を立てるのに神経を使う。連絡ミスでサービスができなくなったこともあった。時間数があるにもかかわらず、毎日何時間も居宅できません、と断られたこともあった。  
(女性 12~15 歳未満)
- 入浴のサービスを受けたいが、今利用のところは事業所を始めたばかりで、入浴までは無理である。(スタッフの人数等)  
(男性 15~18 歳未満)
- 今はまだ大丈夫ですが、私をもっと年老いて、介護がきつくなった時を考えると不安。我が家は風呂が狭いので、他施設の風呂を使いたいが、そうすると経済的負担も大きくなる。家の風呂は家族全員(7人)交替で入っているの、時間も夜になりヘルパーを頼みづらい。  
(男性 18~20 歳未満)
- 現在高3で、4月からデイサービスを利用する予定だが、ヘルパーの人数が足りないということで、週2回しか通えない。  
(男性 18~20 歳未満)
- 短期入所は緊急時はあいていない。  
(女性 20~25 歳未満)
- 移動支援利用時、通勤、通所等に利用(学校)できるようにしてほしい。  
(男性 30 歳代)
- 移動支援を利用したいが、希望と合わない。  
(男性 6~12 歳未満)
- 療養センターに行っているが、月1回しか行けない(予約が多すぎて)言語、作業等、知的な面への働きかけをもっと増やしてほしい。  
(男性 6 歳未満)
- 希望日は受入枠になかったりする。  
(男性 6 歳未満)

## 7. その他

- 現在は近くに両親も住んでいるので、サービスの利用を受けていません。本人もほとんどのことは自分でできる(片麻痺)。でも、突然利用したくても手続きをしないといけないし、定期的にご利用しないといけないのかなと思うので、利用しづらいです。もう少し手軽(言葉が悪いかもしれませんが)に利用できた

らと思います。

(女性 12~15 歳未満)

- 児のサービスが稚内市にはない  
(女性 12~15 歳未満)
- 市町村によって考え方が違うと聞いています。今住んでいる町では、居宅介護が受けられません。サービス利用に対して理由に相当しないとされました。  
(男性 12~15 歳未満)
- 学校で何度か勉強会がありましたが、自分もまだ元気なので今のところ必要がないので、勉強不足といった感じです。ただ、私が仕事をしているので、下校後一人で勉強をしたり、ゲームをしているので、学童保育みたいなものや、プールに連れて行ってくれるサービスがあればいいと思います。  
(男性 12~15 歳未満)
- いつも見ている親、特に母などがケガや病気で倒れた時に本人を面倒見てくれる支援の場所や人が少なく、突然何かあった時に使えるサービスが少なく困っている。ただ、預かってベッドなど椅子などに乗せておくだけではなく、ちゃんと世話や話し合いや人が付いてくれる支援がほしい。  
(男性 12~15 歳未満)
- 入院中でも何かサービスは受けられるかわからない。  
(女性 15~18 歳未満)
- 障害福祉サービス受給者証は持っているが、療育センター(コドモックル)に入院しているため、利用できない。併設の養護学校が夏、冬休みなどの長期休みには外泊して自宅にいますが、その間も利用することができない。年齢的には親離れしたい年頃だが、外出するにはいつも母親と一緒にいう事になる。  
(男性 15~18 歳未満)
- 将来はできれば結婚して、家族を持ってほしい。  
(女性 18~20 歳未満)
- 障害者自立支援法の根本的な改正(廃止を含め)  
(男性 18~20 歳未満)
- 時間数が希望通りに支給されるので、今は困っていません。自己負担も現状維持だといいいのですが、負担上限 1,500 円  
(女性 20~25 歳未満)
- 医療行為に対する緩和。家族がしていることが医師の指導を受けたものができるようになってほしい。  
(男性 20~25 歳未満)
- 施設入所  
(男性 20~25 歳未満)

- 週 2 回デイサービスで入浴をしています(火曜・木曜)。土・日はデイサービスが休みのため、自宅で入浴はしますが、子供が大きくなり、親の体力はなくなりつつなっています。  
(女性 25~30 歳未満)
- 地域でグループホームがあれば生活させたい。  
(女性 25~30 歳未満)
- 自分の気持ちを伝えることが本人なりにしているが、他者には伝わりにくく、施設内での生活に支障がある。  
(男性 25~30 歳未満)
- 親の気持ちですが、重心の子の事をどこまで理解してくれているのか、ヘルパーの質というか専門性があるのか、心配でなかなか聞けずにあります。  
(不明 25~30 歳未満)
- 職員がよく入れ替わる。給料が安いいためなのか、新しい人に代わってすぐにやめてしまうのが残念。  
(女性 30 歳代)
- 事業所というよりもそれに関する信用に値する人が少ない。  
(女性 30 歳代)
- 通園ホームへ通って行って、月・火・水は送迎でバスが来てくれるし、木曜日は家族送迎で行っているが、職員さん(上司)の部下への名前呼び方(呼び捨て、大声で怒鳴る)。私の子は、回りのこともほとんどわかり怖がります。やはり、部下にもサン、君付けで優しく呼んでほしい。昼食後の残りの人が少なく、用事があってもすぐに頼めない。  
(女性 30 歳代)
- 今はまだ困ったと思うことがない。  
(女性 30 歳代)
- 施設入所しているため、帰省時利用したいが、新体制に変わらないのでサービス利用はできない。  
(女性 30 歳代)
- 入所施設に入っていますが、日中活動の支援、指導を充実してほしい。
- 施設での生活の質の向上を望みます。
- ・居室スペースが狭い(個室ですが)
- ・清掃が不十分
- 親亡き後が心配です。施設を運営する法人が入所者の財産管理ができるような制度にしてほしい。  
(女性 30 歳代)
- 施設入所しているので、施設の方針に任せている  
(男性 30 歳代)
- 前年度まで受けられたサービスがだめになった。

(男性 30 歳代)

- 何事も時間がかかり、仕事もできないこと  
(男性 30 歳代)
- 今、通所でお世話になっています。北海道療育園にお願いしたいと思っています。  
(女性 40 歳代)
- 現在は北海道療育園通園ホームに通っています。将来療育園に入所させることを考えています。  
(女性 40 歳代)
- サービスはかなり充実している所がありますが、ロングというか1日誰かいてくれるというのではなく、1時間半、2時間、30分という刻んで介護をいただいています。地震のような時、また食事のメニューは家族が考え、買い物をしてこなくてはならない、災害が心配など、家族の負担が大変に感じてきました。法律で行なってもらえないことが結構あるためです。雪かき、本人が使用していない部屋は掃除をしない、時間がないと省かれる、病気の際は姉が泊らないといけない、など今はなんとか私も頑張っていますが、もっと高齢になったらと思うと不安です。  
(男性 50 歳代)
- まだ小学生なので考えられないし、考えていない。  
(女性 6~12 歳未満)
- 預かりの時間が朝 10 時からなので、用事を済ませる時や上の子の保育園の預ける時間など不便なことが多い。  
(女性 6 歳未満)
- 定員が一杯など思うように利用できない。  
(女性 6 歳未満)
- できるだけ自立させてあげたい。  
(男性 6 歳未満)
- まだ小さいので、全て自分たちでやってきたが、これから学校に上がってどんなサービスが必要になるか、どこの事業所がやっているのか、市役所に聞いていないのでわからない。(実際にサービスを利用しているお母さん達の話を知っていると、どこまでが日中一時支援なのか、移動支援や通院介護なのか、種類があって申請するのも気が引けています)  
(男性 6 歳未満)
- 自宅の近くにある入所施設のような場所。
- 重度身体障害者が入所できるグループホームのような場所。
- 上記のような施設の中で適切なリハビリや医療が受けられればより良いと思います。  
(男性 6 歳未満)



- 児童デイサービスに週 1 回通園しています。時間は 1 時間で 30 分は個別、残りは担任と遊ぶかたちです。デイサービスの都合で休みにもかかわらず、振り替えをもうけることもなければ、年度始めに父母に対して年度計画の話がないし、担当にこのようにしてほしいことを伝えると、上司との相談なのでの一方的で、とにかく話の場がないこと。

(男性 6 歳未満)

- 生活支援、意志を伝えられないので、日常生活の最低限のこと、例えば洗髪、入浴、着脱、排泄など。特に痛いとか、かゆいとか全く伝えることができないので、息子の状態をチェックしながら対応してもらっている。

(男性 70 歳代以上)

## 将来の子供の生活場所について

### 1. 施設入所

- 意思疎通が難しい子なので、本児のことを理解してくれる人と地域で、本児がのびのびと楽しい日々を送る生活をさせたい。その中で訓練を受けられる環境であってほしい。

(女性 12～15 歳未満)

- 親が動けない時は地域の施設で受け入れてくれたらと思います。亡くなったときなどは旭川療養園になると思います

(女性 12～15 歳未満)

- 施設で、しっかりお任せできる介護員さんのいる所など。親戚などが面倒を見てくれるのが本当は一番いいと思うが、あまり負担もかけられないと思うので。

(女性 12～15 歳未満)

- 自宅の近くの施設に入所して、休日等に帰宅したり家族が面会しやすい状況が良いと思う。

(女性 12～15 歳未満)

- 地元に入所できる事業所があってほしい

(12～15 歳未満男性)

- 第一人いますが、それぞれ別の人生があると思っています。ただ、主人は弟と本人が仲良く暮らせたらいいと思っているようです。弟が月に 1 回でも会いにいけるような、あまりへんぴな所のない施設で生活できればと思っています。

(男性 12～15 歳未満)

- 学校で一緒だった顔見知りのお友達と同じところで暮らせたらいいが、施設と言うより、ヘルパーさんにお世話してもらってグループホーム的なところがあれば。

(男性 12～15 歳未満)

- 兄弟が一人いるが、その子一人の負担にはできないので、施設入所になると考えている。できれば自

宅で介護を受けながら暮らせたら…と思う。

(男性 12～15 歳未満)

- 兄弟と住むか、同じような友達との共同生活

(男性 12～15 歳未満)

- 子供に適した施設で、お世話になればと思っておりますが、時々ニュースで施設での虐待等が流れると、どの施設でもあるのではないかと疑ってしまいます。不安です。笑いのある安心できる生活を望みます。

(男性 12～15 歳未満)

- その時のことを考えて、児童デイサービスや日中一時支援を受けているので、その事業所でグループホーム的なものをしていただければそこをお願いしたい。

(男性 12～15 歳未満)

- 安心して入れる施設があれば良いと思います。

(女性 15～18 歳未満)

- 親がギブアップした時は施設しかないと思っていますが。

(女性 15～18 歳未満)

- 支援者、伊達の町 仲間(ケアホーム)

(女性 15～18 歳未満)

- 次女は将来親がいなくなった時は、一緒に住むと言ってはくれますが、親として恥ずかしいのですが、この子が施設で生活するのがいいのか悩んでいます。

(女性 15～18 歳未満)

- 施設入所

(女性 15～18 歳未満)

- 自宅から近くて授産施設みたいところで住ませたい。

(女性 15～18 歳未満)

- 入所施設になると思います  
(女性 15~18 歳未満)
- 安心して任せられる信頼できる人達に(施設でも)みてもらいたい。本人にあう医療、リハビリなど受けられ、できるだけ近くで楽しく暮らせたい。  
(男性 15~18 歳未満)
- 今利用している日中一時支援のスタッフなど、気心の知れた人達とグループホームのような形で、地域で生活できることを願ってます。  
(男性 15~18 歳未満)
- お互いの悩みを話し合ったり、助け合える仲間と共にグループホームで必要な介助やリハビリを受けながら生活させたい。そこから仕事に行ったり、余暇は各自が過ごしたいスタイルをヘルパーさんの利用などで実現できるといいと思う。  
(男性 15~18 歳未満)
- 看護師、医師が配置されている施設での生活。  
(男性 15~18 歳未満)
- 施設入所  
(男性 15~18 歳未満)
- 信頼できる事業所の方と家庭的な雰囲気のある場所(グループホームなど)で、自宅にいたような感じで暮らせると良いと思っています。  
(男性 15~18 歳未満)
- 地域で生活(一人暮らし)させたいが、車椅子で生活できるようなアパートもないし、施設もないので多分地域以外の施設になるのだろうと思う。  
(男性 15~18 歳未満)
- 両親が高齢になり、介護も大変になるので、施設での入所も考えています。その前に施設へのショートステイを利用し、馴れさせていくしかないと思っています。あとは兄がいるので(兄の負担も軽くさせるためにも)  
(男性 15~18 歳未満)
- 安心してサービスのしっかりした施設です。  
(女性 18~20 歳未満)
- 安心できる仲間と通所施設の職員と暮らしてほしい。  
(女性 18~20 歳未満)
- 限りなく親に近い愛情をくれる方のそばで暮らさせたいが、未だ見つからず。グループホームも小さい施設になって閉鎖的になってしまうのではないかと怖い。市の園の方が見通しもよく、施設のほうが良いだろうと思案  
(女性 18~20 歳未満)
- グループホーム、共同住宅等

- (女性 18~20 歳未満)
- 現状、社会的福祉的支援状況では、自立(親元を離れて)地域で生活することはできません。考えたり選択する状況でないので、入所施設ということになってしまいます。  
(女性 18~20 歳未満)
- 施設入所しかない  
(女性 18~20 歳未満)
- 日頃利用している福祉サービスのスタッフがいる施設に入所させて生活させたい。  
(女性 18~20 歳未満)
- 生まれ育った場所で施設で生活させたいと思っています。重度の子供でも安心して暮らせる施設があればと思います。近くであれば兄弟も会いにいけるので。  
(男性 18~20 歳未満)
- 同じような仲間と安心して任せられる地域のケアハウス  
(男性 18~20 歳未満)
- 介護のできる施設への入所  
(男性 18~20 歳未満)
- 現実的にはかなわないと思っていますが、現在利用しているショートステイ先で見てもらえると安心できると思います。手をかけてもらえる時間も短いので。  
(男性 18~20 歳未満)
- 信頼できる人(本人も私も)複数で、交代制でお世話してくれる家庭的な住まい。子供の友達と一緒にだと心強い。  
(男性 18~20 歳未満)
- 本人の兄弟以外で介護して暮らせる施設  
(男性 18~20 歳未満)
- 兄弟はいるが、それぞれの生活があるので本人はやっぱり入所施設にお願いするしかないと思っている。  
(女性 20~25 歳未満)
- グループホーム  
(女性 20~25 歳未満)
- ケアホームに入り、ヘルパーさん、ホームの人と過ごしてほしい。  
(女性 20~25 歳未満)
- 現在利用しているヘルパーさんのところで、ケアホームとして 24 時間対応してもらえるような生活  
(女性 20~25 歳未満)
- 施設になるかと思っています  
(女性 20~25 歳未満)

- 重度重複の障害があっても生活できるケア付グループホームのようなところで、わが子のような愛情を持って接してくれる方々と一緒に現在通っている作業所に通いながら生活させることができたらと考えています。

(女性 20～25 歳未満)

- 将来、親が面倒を見られなくなった時に困っています。兄弟には迷惑をかけたくないのが親の気持ちです。いずれは施設に預けるしかないと考えています。

(女性 20～25 歳未満)

- 今現在はケアホームに入って生活しています。とても安心してしますので、これからも今の場所だと考えています。

(男性 20～25 歳未満)

- 同じような障がいを持っていて、市内で生活できればと。例えばグループホームやケアホーム等

(男性 20～25 歳未満)

- 施設に入所ができればよいと思っています。

(男性 20～25 歳未満)

- 施設入所

(男性 20～25 歳未満)

- 施設入所し、生活するのが安心です。

(男性 20～25 歳未満)

- 身体障害者用のグループホームの施設を作ってほしいと思います。日中は作業所へ通い、夜はホームに帰って仲間と暮らしています。

(男性 20～25 歳未満)

- 地域に密着した場で、ケアホーム的なところ、ヘルパーやボランティアの方に助けをもらいながらですが、そこから近隣の通所施設に通うなど、生活リズム、生きがいを失いたくないので、そういうところが望ましいです。

(男性 20～25 歳未満)

- 町内で仲間と暮らさせたい。(ケアホーム、グループホーム)

(男性 20～25 歳未満)

- 入所費援助

(男性 20～25 歳未満)

- 福祉専門職で、障害の特性に理解されている方で、社会福祉法人等が経営するグループホーム、またはケアホーム等で、安心して(医療機関との連携)生活させたいと考えています

(男性 20～25 歳未満)

- 本当は兄弟のいる地域の施設で生活してほしいと

考えていますが、無理なので、短期入所で利用している施設で生活してほしいと願っています。

(男性 20～25 歳未満)

- 介護員とグループホームで、日中は通所しながらグループホームに帰れば一人暮らしの雰囲気を感じつつ、安全に生活できる場があればよい。

(女性 25～30 歳未満)

- グループホーム拡充

(女性 25～30 歳未満)

- 施設で生活させたい

(女性 25～30 歳未満)

- 実際はどこか施設を探し、入所しないと一人では生活していくことができない。しかし、日常生活の手助けをしてくれる人があれば、グループホームのような所で支援を受けながら暮らせることが良いと思っている。

(女性 25～30 歳未満)

- 住まいと同じ、地域にある施設へ入所。会いたい時に面会に行ける範囲。

(女性 25～30 歳未満)

- その時は施設も一つの方法かと思うが、あらゆるサービスを使いながら一緒に生活しようと思っている。

(女性 25～30 歳未満)

- 入所施設

(女性 25～30 歳未満)

- 医療設備の整ったところで信頼して任せられる人がいる施設で生活させたい。

(男性 25～30 歳未満)

- 現在障害者施設の通所をしてるが、将来両親が高齢者になった場合は、施設入所生活を希望しています。

(男性 25～30 歳未満)

- 信頼できるスタッフがいる施設で仲間と楽しく暮らしてほしい。

(男性 25～30 歳未満)

- 一人暮らしは難しいと思うのですが、かといって大きな施設での生活は管理されすぎたり、プライバシーがなかったりするので、5～6人程度でのグループホームを希望します。家庭の延長線上にあるグループホームがたくさんできるといいと思います。

(男性 25～30 歳未満)

- 本人の意志が全く伝えられないので、最終的には重症心身障害児施設入所となるでしょう。その時期がいつになるのかわかりませんが、それまでの間はグループホーム的な所(現在の生活)でヘルパーさんの力を借りて暮らさせたい。



(男性 25~30 歳未満)

- 地域で仲間とケアホームで暮らし、日中は別の所に  
通い活動ができればと思っています。

(不明 25~30 歳未満)

- 今は親が元気ですが、年もとってきているので、将  
来は子供にあった施設に入れるようにと思っています  
ますが、入れてもらえるかどうか。

(女性 30 歳代)

- 医療的な観察や通院(定期的)が必要。寝たきりの  
状況、車椅子への移乗などと考えると、本意ではあ  
ってもそういうことを満たしてくれる施設へ入れたほう  
がよいと思っている(具体的には今通所している旭  
川療育園)

(女性 30 歳代)

- 親がいなくなった時点で施設に入るしかないと思っ  
ている。それか親が高齢になったら。

(女性 30 歳代)

- 施設希望を考えています。

(女性 30 歳代)

- 信頼できる人と施設に入って本人が快適に暮らして  
いけると判断できること。

(女性 30 歳代)

- 地域の施設で信頼できる体制の中で生活させたい。  
親亡き後のことが一番の心配事である。

(女性 30 歳代)

- 母が介護できなくなったときは、療育園に入所させ  
なければならない。(人工呼吸器など使用して  
いるので)

(女性 30 歳代)

- ひとりで生活するのは無理なので、グループホーム  
または施設入所が出来たらと考えています。

(女性 30 歳代)

- 私が無理になったときは現在利用(デイ、ショート)し  
ている施設で安心して暮らしてほしいです。

(女性 30 歳代)

- 私のところは 3 姉妹の 3 番目で次女が私がお嫁に  
行く時に一緒に連れて行くと言っていますが、本人  
はどこかの施設に入ることになるのではと言ってい  
る・姉達に迷惑をかけたくないらしい。

(女性 30 歳代)

- 今は親がまだ体力もあり、一緒に暮らせていきます  
ますが、そうでなくなった時、親が亡くなった場合は施設  
でなければならないと思っています。しかし、施設な  
らどこでもいいとは思いません。信頼できることを  
望みます。

(男性 30 歳代)

- 医療が合った、全部介護してくれて、安心できると  
ころで生活させたい

(男性 30 歳代)

- 親が見られなくなった時は、療養所に入所するしか  
ないと思っています。そのためにも年 1~2 回は短  
期入所をしています。

(男性 30 歳代)

- グループホーム

(男性 30 歳代)

- ケアハウス(有料)のような所ができればいいの  
ですが。

(男性 30 歳代)

- 現在は考えていないが、医療しか選択肢がないと思  
う

(男性 30 歳代)

- 現実には施設入所になると思う。

(男性 30 歳代)

- 施設で生活させたい

(男性 30 歳代)

- 施設にお願いする

(男性 30 歳代)

- 施設へお願いしたい。

(男性 30 歳代)

- 重心の入所施設を考えています。ただし、今現在施  
設では日中活動が充分ではなく、個々の対応が足  
りない。

(男性 30 歳代)

- 少人数(9 人くらい)のケアホームから日中はデイサ  
ービスに通わせたい。

(男性 30 歳代)

- 少人数のケアハウスのようなところで、今までかかわ  
ってきた人達に囲まれて生活させたい。

(男性 30 歳代)

- 仲間 3~4 人と通所先の近くでヘルパーなど支援者  
に助けてもらいながら日中は今の共同作業所に通  
所できると良い。

(男性 30 歳代)

- 入所施設に預けます

(男性 30 歳代)

- 身内には迷惑がかかるので、やはり施設より他はあ  
りません。

(男性 30 歳代)

- 養護施設

- (男性 30 歳代)

● 療護施設等福祉施設

(男性 30 歳代)
- 入所した場合には、毎日が楽しく生活できることを望む

(女性 40 歳代)
- 施設での生活希望

(男性 40 歳代)
- 障害にあった施設を行政と相談し、入所させたいと思っています。

(男性 40 歳代)
- 身内は父しかいないので、将来は施設に入所させようと考えています。

(男性 40 歳代)
- グループホームなどで(介護をしてくれる方がいて)作業所等に通えたらよいと考えています。

(女性 50 歳代)
- 施設へ入れる

(女性 50 歳代)
- 本当は自宅でサービスを受けながら一緒に生活したいが、それは相当無理な話なので、施設に入所させるしかないが、なるべくしたくないのが本心である。

(女性 50 歳代)
- 1 種 1 級で、睡眠時に無呼吸があるので、親に健康上の理由で介護ができなくなったときは、施設へお願いすることになるでしょう。幸い帯広には国療があるので、そこでの生活になるでしょう。

(男性 50 歳代)
- 障がいの程度によらず、施設で生活する方が安心だと考えています。

(男性 50 歳代)
- 自立生活は問題が多いので施設が望ましい。

(男性 50 歳代)
- ・世話のできる者がいないので、施設で生活になりそうである。

● ・ベッドで寝たきりにならぬように、介助者に人間らしい生活を望みます(外出他)

● ・看護師がいて、医療行為の心配もせず、緊急時医師が診てくれる状態、リハビリ訓練もしてくれるところ。

(女性 6~12 歳未満)
- この地域の施設に預けたいが、「いい人間」「心ある行動」ととれる温かい人間がいてくれる施設

(女性 6~12 歳未満)

- 重度の肢体不自由児者でも入居できるグループホームができることを願っています。

(女性 6~12 歳未満)
- 本来なら本人の兄弟と一緒に暮らしていましたが、経済的な面や配偶者の考えによりほぼ無理と考えます。施設入所しかないと思っています。

(女性 6~12 歳未満)
- グループホームなどでヘルパーの援助を受けながら一人暮らししてほしい

(男性 6~12 歳未満)
- 施設

(男性 6~12 歳未満)
- 施設で本人を理解してくれる人がいる所で生活させたいと思っています。

(男性 6~12 歳未満)
- 施設に入れて知り合いや親戚から近いところで暮らせるのが希望です。

(男性 6~12 歳未満)
- 信頼のおける施設と近くに暮らす兄弟の近くで生活してほしい。できれば家族を持ってほしい。

(男性 6~12 歳未満)
- 母一人、子供一人の家族しかいないので、将来は不安です。施設に入所することとなり、一生はどのようなものか今は考えられません。

(男性 6~12 歳未満)
- 病院と一緒にある施設で、家庭的なところで自宅が近くてリハビリを毎日してくれるところ。

(男性 6~12 歳未満)
- 本来は兄弟のそばにいたらよいのですが、施設入所しかないと思っております。

(男性 6~12 歳未満)
- 親が見られなくなったら私は施設と思っています。

(女性 60 歳代)
- 施設のほうがいいと思います。

(女性 60 歳代)
- その時は施設に預けるとしています。そのためには家で見れる間は、一生懸命見ようと思っています。でも、本人がこれからいろいろの意味で頑張れると思っています。

(女性 60 歳代)
- グループホームか何かで生活して、たまに兄弟と会える環境がいいと思います。お世話してくれる方はできれば同じく障がいをお持ちの家族がいいです。

(女性 6 歳未満)
- 子供(兄弟)に世話をしてほしいとは思わない(荷が

重過ぎるのでは)医療と療養(福祉、介護)が備わった施設があってほしい。

(女性 6歳未満)

- 自宅の近くの施設(医療設備の整った)で安心した生活  
(女性 6歳未満)
- 姉達(2人)と遠くない所で、医療ケア(経管栄養、痰吸引)のできる、周りにも友達のいる所(グループホームのような感じ)  
(男性 6歳未満)
- 一番望む形は姉、兄の近くで自立で生活することが希望ですが、グループホームのような形での生活になるでしょう。  
(男性 6歳未満)
- きちんと知識を持った人のいる施設で生活させたいと思います。  
(男性 6歳未満)
- 信頼できる方々と入所施設で生活できればと思っています。  
(男性 6歳未満)
- 施設と家族との生活を続けていますが、親が高齢となり、送迎が難しくなってきました。子のためにも施設で楽しく暮らせる環境づくりが必要。  
(男性 70歳代以上)

## 2. 自立してほしい

- 第1希望:本人が結婚して自立すること
- 第2希望:グループホーム等で仲間、お友達とヘルパーさんの手を借りながら生活すること  
(女性 12~15歳未満)
- なるべく、ひとりで自立してほしいです。でも、近くには親族がいたり、信頼できるヘルパーさんなどのサービスを受けて暮らしてほしい。障がい者専用のマンションなどでヘルパーさんなどの力を借りて暮らしてほしい。  
(女性 12~15歳未満)
- 一人で自由気ままに国からお金(生活費)をもらって、必要な時にヘルパーに助けをもらいながら生きてほしい。または富山型。  
(女性 12~15歳未満)
- ひとりでの生活がどの程度できるのかまだわかりませんが、できれば本人の希望する地域で定期的なヘルパーさんの訪問等で援助してもらいながら生活できるようになればいいと思います。グループホーム等も考えてはいますが。  
(女性 12~15歳未満)

- 結婚するか否に関わりますが、自分の家を持ち、必要な介助のみを受け生活させたい。仕事を持った場所で。  
(男性 12~15歳未満)
- 両親が子供を養うことができなくなる前に、職について自立してほしい。  
(男性 12~15歳未満)
- 信頼できる人と地域の中で安心して生活させたいです。  
(女性 15~18歳未満)
- 今の状態ではどこまで自立してできるかわかりませんが、なるべく自立した生活ができるようになってほしいと思っています。  
(男性 15~18歳未満)
- その時の自立程度によりケア付き住宅かあるいは自宅。  
(男性 15~18歳未満)
- 姉のそばでヘルパーや作業所を利用して日常を送り、時々短期入所なども利用する。  
(女性 20~25歳未満)
- 結婚相手と自宅または身障用市営住宅で仕事を持って生活させたい。もしくは一人で仕事をしながら身障用の住宅で。  
(女性 20~25歳未満)
- 今現在、年金で一人暮らしをしています。周囲の人や友達と楽しくやっていたら良いです。  
(男性 25~30歳未満)
- 市内で一人暮らしをさせたいと思っています。  
(女性 30歳代)
- 今はひとりで暮らしていますが、食事だけは一緒にしています。自分でご飯だけは炊くことができます。親亡き後も地域で暮らしていきたい、暮らさせたいと思っています。  
(男性 30歳代)
- 現在私が介助する程度を可能にしてくれる人がいれば、この家に暮らせます。結婚できれば一番安心ですが、または一緒に暮らしてくれる人ができれば望ましいと思います。  
(男性 30歳代)
- 福祉に相談して自宅生活し、施設には入居希望しない。  
(男性 50歳代)
- 身内が近くにいる環境で、福祉施設や病院、スーパーなどが近くにあり、サービスが受けやすいところ。  
(女性 6~12歳未満)

- 弟が様子を見に行きやすい地元で、できれば一人暮らしさせてみたい。

(男性 6～12 歳未満)

- 子供が成人になっていると仮定した場合、やはり地域で社会人の一人として自立した生活を送ってほしい。ただ、家族は本人と私だけなので、不安だらけです。

(男性 6～12 歳未満)

- できれば姉のそばで自立できればと。

(男性 6～12 歳未満)

- 一人でも生活していけるよう(支援を受けながら)にさせたいと考えています。

(男性 6～12 歳未満)

- 普通に結婚して、家庭を築いてほしい。

(男性 6～12 歳未満)

- うちの子は上肢に問題はないので、結婚相手がいればその方と。いなければ兄弟または、一人暮らしの寮生活、あまり施設では考えていない。

(女性 6 歳未満)

- 自宅で自立してほしい。

(女性 6 歳未満)

- 一緒に暮らせなくなった時は本人が自立できるようになった時。耳が不自由なのでそのことを理解してくれ、一緒に力を合わせてくれる人と結婚し、幸せになってほしい。

(男性 6 歳未満)

- 知的な障害はないので、自分で住みやすいところなどを見つけて自分で考えて生活してほしい。

(男性 6 歳未満)

- 仲の良いお友達、小さい時から通園など一緒、自宅から近い、毎日楽しく可愛がってもらいたい。(信頼できるヘルパーさんに)

(男性 6 歳未満)

### 3. 兄弟など身内と生活

- 兄弟と定期的に日中一時支援や居宅介護デイサービスなど、兄弟の負担をなるべく少なくして、一緒に生活できたらよいと考えます。

(男性 12～15 歳未満)

- 兄弟に望みたいのですが、自宅で一緒に暮らしてもらえればと思っはいますが…

(男性 25～30 歳未満)

- 兄弟の自宅で暮らすことになると思うが、経済的に成り立つのが不安。

(男性 30 歳代)

- 自宅で気の合った人とか従弟と一緒に暮らせたらと思います。

(女性 40 歳代)

- 姉妹のどちらかとその家でその時に必要な作業所に通いながら

(男性 6 歳未満)

- 身内の者と生活することを話し合っている。

(男性 70 歳代以上)

### 4. その他

- ボランティアを利用して、一人暮らしできればよいが、サービスも少なく、料金も高いので、難しいかと思う。近くの施設入所も検討しているが、施設で人工呼吸器管理ができず、できる場所は重度すぎて息子に合っていない。

(男性 12～15 歳未満)

- 国民、皆様のご理解と国の援助しかないと思っています。

(女性 40 歳代)

- 今が精一杯なので、先のことはまだ考えられません。

(女性 12～15 歳未満)

- 具体的に記入できるほど考えが定まっていません。

(女性 12～15 歳未満)

- 正直、一緒に暮らせなくなったら子供にはどんな生活を送らせてあげればよいのか、今の福祉体制では悩むところです。

(男性 12～15 歳未満)

- できればずっと一緒に暮らしていたいので、今は考えられません。

(男性 12～15 歳未満)

- 具体的にははっきりしていないが、親としていろいろ探す方向でいる

(女性 25～30 歳未満)

- 今の段階では考えにくいです。ただ、自立はしていないといけないので、具体的にはまだ記入できません。

(女性 6～12 歳未満)

- 考えていないが、できれば離したくないです。

(女性 6～12 歳未満)

- 考え中

(男性 6～12 歳未満)

- 具体的にはまだ考えていません。

(女性 6 歳未満)

- 子供がまだ1歳なので具体的には考えていないし、どのような方法があるのか知識も乏しい。  
(女性 6歳未満)
- まだ3歳で先のことは考えられないですが、本人が信頼でき、心休まるところで生活してほしい。できれば身内、兄弟と一緒によいが、施設で生活する方がよいのか、考えると不安になります。  
(女性 6歳未満)

- 今のところわからない  
(男性 6歳未満)
- 勉強不足で良い考えがありません。  
(男性 6歳未満)
- まだ考えられない  
(男性 6歳未満)

## 将来の暮らしのための支援

### 1. 国の支援等

- 一人ひとりのニーズに対応できるグループホームが安定した運営ができるような補助(費用)
- それぞれの人の合った生活スタイルを実現するために親身になってアドバイスしてくれるケアマネジャーやカウンセラーが存在すること。
- 外出なども含めて当たり前の生活をするために必要な介助を受けられる福祉サービスとその福祉サービスを受けるための経済的な支援。  
(男性 15～18歳未満)
- 福祉の補助の増額と暮らしやすい制度。例えば医療ケアの必要な人が地域で暮らす場合、身近な看護師やヘルパーが医療ケアをできる等でしょうか。まだよくわかりませんが、必要なところに必要な体制をすみやかにとれる制度があれば…  
(男性 18～20歳未満)
- 利用している事業所に補助金などの助成金が必要。  
(男性 18～20歳未満)
- 公的な経済援助。十分な数のヘルパーさんを雇用するため。グループホームのバリアフリー化のため(場所確保のため)。ヘルパーさんの意識教育のため。  
(女性 20～25歳未満)
- 公的な経済援助。十分な数のヘルパーさんを雇用するため。グループホームのバリアフリー化のため(場所確保のため)。ヘルパーさんの意識教育のため。  
(女性 20～25歳未満)
- 公的援助があれば、地域でグループホームで過ごさせたい。  
(女性 20～25歳未満)
- 地域の方々の理解と、その施設の存在、国の支援

- 体制、そこで働く方々の手配等。  
(男性 20～25歳未満)
- 行政の補助  
(男性 20～25歳未満)
- 今のままでは年金では施設に入所できません。  
(男性 25～30歳未満)
- やはり、年金を多くいただければ姉妹も見てくれるのでは。年をとれば施設でも50歳代くらいまではみて仲良くできるのでは。そういう大人が病院代無料とか手伝ってくれる人が無料で来てくれるとか。なるべくお金がかからなくみに来てくれる人がいれば、永く家庭で家族が暮らせるのでは。  
(女性 30歳代)
- 市営住宅の障がい者専用住宅の確保。年金の充実。  
(女性 30歳代)
- 介護スタッフの質と量を確保できる国からの補助金が必要だと思います。場所と人材トータルで支援が必要。  
(男性 30歳代)
- 日常生活費の援助。贈与財産への特例的扱い。  
(男性 30歳代)
- 障がい年金を増やしてほしい。  
(男性 30歳代)
- 重症者に対応できるケアホームの制度の充実やヘルパーの育成、生活保障、本人の年金を月10万に値上げしてほしい。  
(男性 30歳代)
- 福祉からの支援金と外出のための送迎手段を考慮してもらえば良いと思います。  
(男性 50歳代)



- 国の支援や自治体の援助、周りの人の理解と協力があるといいと思います。  
(男性 6～12 歳未満)
- もう少し年金額も上がると良いのですが。そうしたらもっと楽しい生活ができると思います。  
(女性 60 歳代)
- 市や国が積極的に支援・援助・相談などしてほしい。やはり家族内だけでは大変だし、行き詰ってしまう。  
(女性 6 歳未満)
- 送迎、金銭面  
(男性 6 歳未満)
- 社会保障が充実して福祉に予算をつけてくれれば。  
(男性 6 歳未満)

## 2. 施設等の確保

- 今は稚内では重度の受け入れはないので、できるような場所、体制が進むように言っていきたいです。  
(女性 12～15 歳未満)
- 障がい者のグループホームを建てる  
(女性 12～15 歳未満)
- 重度身体障害者が入所できる施設を増やしてほしい。  
(女性 12～15 歳未満)
- 肢体不自由でも受け入れてくれる施設がもっと増えればいいと思います。  
(男性 12～15 歳未満)
- 受け入れ人数の増加  
(女性 15～18 歳未満)
- 自宅から近くて授産施設みたいな施設  
(女性 15～18 歳未満)
- 車椅子で暮らせるグループホームがあればいいと思います。  
(女性 15～18 歳未満)
- があだばーのようなバリアフリーの住宅と信頼できる支援の方の手があれば可能かな。  
(女性 15～18 歳未満)
- まず、地域に入所施設を作ってほしい。あとは今ある支援を自己負担を少なくしていただかないと利用したくても利用できません。  
(男性 15～18 歳未満)
- 重度の障がいがあっても、安心して任せられる施設、あまり大きくなくても目が届く温かい地域での施設、子供が住みよい環境ができる支援をしてほしい。  
(男性 15～18 歳未満)
- 地元のサービスが充実していれば老人だけではなく、年齢に関係なく地元施設があればいい。  
(男性 15～18 歳未満)
- 地域には現在障害者の入所施設がありません。施設整備と充実を。  
(男性 18～20 歳未満)
- 身体障害者用のグループホームの整備と介助者の充実  
(男性 20～25 歳未満)
- 入所施設がたくさんできれば良いと思います。  
(男性 20～25 歳未満)
- 施設を増やしてほしい(函館市内)  
(女性 25～30 歳未満)
- 小規模のグループホームの存在、日々の介護もしくは日常生活の不足部分をしてくれる人の存在、食事支援、作業所の送迎  
(女性 25～30 歳未満)
- 入りたいときにすぐに入れる施設  
(女性 30 歳代)
- 入所を受け入れてもらえること  
(女性 30 歳代)
- 親亡き後のことが一番心配。福祉村も自宅から遠くて大変だが、近くに安心できるような施設がない。少しでも安心できるように栗沢で暮らしている。  
(女性 30 歳代)
- 施設を増やしたら。  
(女性 30 歳代)
- 3～4 人くらいで生活できる住宅があるといいのですが。  
(女性 30 歳代)
- 設備が整っているところ  
(男性 30 歳代)
- 施設を増やしてほしい。  
(男性 30 歳代)
- ケアホームが市内の数箇所にできるだけ多くほしい。  
(男性 30 歳代)
- 父母の会、道肢連の協力を得て、子どもに合う施設を望むところに入所できるように支援を願いたい。  
(男性 40 歳代)
- 現在住んでいる地域には、肢体不自由者向けのグループホームがありません。  
(女性 50 歳代)

- 地域に重度の肢体不自由児者が入居できるグループホームができること。

(女性 6～12 歳未満)

- 通所施設など定員が一杯で入れないとか、よく聞くのでそこら辺が改善できれば少しは違うのでは。

(女性 6 歳未満)

- 近くに施設をたくさん作る。

(男性 6 歳未満)

### 3. 働く場の確保

- 障がい者雇用の拡大

(男性 12～15 歳未満)

- 入所しながら小規模作業所にて仕事ができればよいと思う。

(女性 15～18 歳未満)

- 就労先が地域にあること。障がいに対応した住宅の確保。一人での外出が容易なこと。

(女性 20～25 歳未満)

- 何とか就職して金銭的に余裕があると良いと思います。

(男性 25～30 歳未満)

- 市内、近くに働く場所があればよい(安心して預けられるところ)

(女性 6～12 歳未満)

- そこで働いている人々がちゃんと見合った賃金を得られること。施設長の人間性が良いということ。

(女性 6～12 歳未満)

- 本人が自立できるような職業について、生活できる場

(男性 6～12 歳未満)

- 大人になった時に働く場所の確保。

(男性 6 歳未満)

### 4. 自己負担の軽減

- ヘルパー報酬の向上と自己負担の軽減

(男性 12～15 歳未満)

- 自己負担が少なく、障害者各人の生活に合って、プランの組める支援があればよい。

(男性 20～25 歳未満)

- 兄弟には最小限の負担で、居宅介護、移動支援が必要だけ利用できればと思います。

(男性 25～30 歳未満)

- 低料金で受けられるサービスがある(例:ホームヘルプやデイサービス等)

(女性 6～12 歳未満)

- 経済的な負担がなく、重度の障がい者でも見ていただける施設があれば。

(女性 6 歳未満)

### 5. 医療行為、医師・看護師の在中

- 医療機関と連携の取れる母体となる施設があれば。

(男性 18～20 歳未満)

- 設備の整った施設(医療と介護)が兼ね備えたところがあればいいと思う(地域に)

(男性 18～20 歳未満)

- 何ヶ月に 1 回、理学療法(PT、OT)が施設に来てもらって、職員に利用者さんの指導をしてほしい。早期に体の異変に気づききっかけになると思う。

(女性 25～30 歳未満)

- 医療と重度障害者の施設が併設になっていること。

(男性 40 歳代)

- 施設に介助員、看護師、訓練(PT、OT)師、医者がいる。寝たきりにならないようにケアができるように。

(女性 6～12 歳未満)

- もし、一人暮らしであれば、障害者専用のマンションがあり、そこには必ずヘルパー、医師、看護師が在中している。

(女性 6 歳未満)

### 6. 支援体制の拡充

- 24 時間体制の介護サービス、お金の管理

(男性 12～15 歳未満)

- 友達と住むなら食事などのサポート

(男性 12～15 歳未満)

- いつでも人の手が借りられる支援があれば生活できると思います。1 人ではなく 2 人以上、お年寄りの介護に 2～3 人以上の人が必要のように、障がい者には 2～3 人以上の人の手が必要です。それがあっていろいろなサービス福祉施設を使って生活するのがベストです。

(男性 12～15 歳未満)

- 住居の確保と十分な福祉サービスの受給量と地域の理解

(女性 15～18 歳未満)



- 24 時間 365 日支援が必要です。それをふまえた上で、人間らしい、その年頃の方に準じる生活を望みます。今の入所施設ではひとりひとりには対応できないので寂しいと思います。  
(女性 18～20 歳未満)
- 福祉サービスの充実  
(女性 18～20 歳未満)
- 一人に対してヘルパーさんが一人ついてくれ、1から10まで全部お世話をしてくれたら、グループホームなどでも生活できるのかもしれない。  
(女性 20～25 歳未満)
- 障がい者に 20 時間(1 日量)くらいの支援があれば。  
(女性 25～30 歳未満)
- 1DK の部屋で、身の回りのこと、食事の支度などの介助を受けながら 24 時間見守ってもらえるなら。平日は通所でき、一日中家の中にいることのないような支援体制  
(女性 25～30 歳未満)
- 24 時間、食事提供や入浴介助等、家庭での親代わりをしてくれる世話人が常時いるような支援をしてほしいです。  
(男性 25～30 歳未満)
- 居宅サービス各種が充実。重症心身障害者児施設が医療的にも安心してかかれる所として機能し、終身までそこに居られること。  
(男性 25～30 歳未満)
- 要するに施設に入ったとして、本人が精神的に満足して暮らせるためには本人の体調とか遅れている部分をケアできるような場所。  
(女性 30 歳代)
- 外出する場所への介護(助)、食事、他生活を助けてくれる人が必要です。  
(男性 30 歳代)
- 団体生活は大変(本人)だとは思いますが。やはりケアがしっかりしている所がよいです。  
(男性 30 歳代)
- 24 時間ホームヘルパーや訪問看護しにお世話になるとできると思うが、自分も自分のことができないとなると老人ホームや施設に入所しなくてはいけないので、本当に難しいと思う。  
(女性 50 歳代)
- 一人でトイレが出来ないので、その介助(特に便、腸洗浄)をしているので、一人では無理(自己道尿もトイレではまだ出来ていないので)その介助・支援

があれば助かります。

- 風呂も同様  
(女性 6～12 歳未満)
- 車椅子の移動なので、外出、食事など福祉サービスを受けたい。住宅も本人が暮らしやし場所があれば良いが。  
(男性 6～12 歳未満)
- 本人の成長の程度により、支援が変わってくると思うので。ヘルパーの充実は必要だとは思いますが。  
(男性 6～12 歳未満)
- 福祉サービスの充実  
(男性 70 歳代以上)

## 7. 人材の確保

- 手をかけず、気を使わず、言いたいことも我慢せず、間違っても本人が良しとすることに口を出さない影武者のような人材のいる事業所がたくさんあればよい。  
(女性 12～15 歳未満)
- ヘルパーさんなどの定期的支援  
(男性 15～18 歳未満)
- 障害に対応した住宅、生活費、介護体制の確保ができること。信頼できる方がいること。  
(男性 15～18 歳未満)
- 24 時間マンツーマンとまでは言わないが、それに近い感じで介護してくれると安心。子供を自分の身内だと思って接してくれる方。  
(女性 18～20 歳未満)
- 常にヘルパーさんがいてくれる市。近くに信頼のおける医師がいる市。  
(女性 18～20 歳未満)
- 心ある施設を運営できる人、そこで働く人の給料をきちんと保障されること(国にもっとしっかりしてほしい)  
(男性 18～20 歳未満)
- 訓練を受けた信頼して任せられるヘルパーさんをたくさん育ててほしい。  
(男性 25～30 歳未満)
- 重心の人のケアホームも必要だし、また重心の人を理解し、支えてくれる人が育ってほしい。  
(不明 25～30 歳未満)
- 福祉の理想をしっかり持った経営者による利用者本意の施設の充実。その理念が一人ひとりの職員に浸透していることが大事。

- (女性 30 歳代)

● 食事の支度をしてくれる人がいれば、障害がこのままであればできると思います。

(男性 30 歳代)
- 一人暮らしになっても安心して預けられる

(男性 30 歳代)
- 医療費、障害者施設に対する手厚い対応(介護人の十分な確保等)

(男性 30 歳代)
- 介護してくれる人が一日中いてくれること

(女性 40 歳代)
- 家庭で生活しているように、重度の障がい者をしっかり面倒見てくれるようになってほしい。今現在は、施設の職員不足で目が届かない状況にあるように思われます。職員の待遇が意外と悪く、長く勤めてくれない。

(男性 70 歳代以上)

## 8. その他

- 信頼できるヘルパーさんがいると良いと思います

(女性 12~15 歳未満)
- 今の段階で、中 2 の娘が様々なことに不安に思うことが将来どれだけ成長して自分で克服できるかにもよるのですが、身体的な問題ももちろん、精神的な面でも支えてくださる、いろいろな世話をやいてくれるヘルパーさんの支援があったら良いかと思っています。グループホームのように仲間と一緒にというよりも、もう一歩独立した生活を本人が望むと思うので。

(女性 12~15 歳未満)
- 学校卒業と同時に地域に毎日通える施設があること。そうすれば毎日の生活の中で、本児の事を理解して、親も協力できるので、一緒に暮らせなくなっても信頼して任せられると思います。

(女性 12~15 歳未満)
- ボランティアの充実。

(男性 12~15 歳未満)
- 両親は地方に住んでいて障害のある人の職場がまだ少ないと聞いています。全国どの場所でも行かせられる心構えはあるので、その場所に公団のバリアフリー住宅があればと思います。

(男性 12~15 歳未満)
- 施設運営者や職員の人間性の問題だと思います。親身になってのサポートをお願いしたいです。

(男性 12~15 歳未満)
- 住まいとお金の面が一番、あとは周りの理解だと思います。

(女性 15~18 歳未満)
- 目的地までの送迎。

(男性 15~18 歳未満)
- バリアフリーの住宅、リフト付のお風呂、個室でマンツーマン対応、清潔感のある所。ケアホーム希望

(女性 20~25 歳未満)
- 全介助の娘には今の生活を維持するのは無理だと思います。

(女性 20~25 歳未満)
- 支援を受けていく上で、あまり制限をしないで、本人が希望することがスムーズにできればよい。

(男性 20~25 歳未満)
- 社会福祉法人等の安定した経営基盤整備(人材確保と助成金)障害自立支援法によりサービス(行政)の低下を招いている。厚生労働省が打ち出した政策、サービスの需要と供給の整合性を見直すこと。4 つに分類された各サービスに一割負担ではなく、4 つの枠内で一割負担にすることも良いのではないか。

(男性 20~25 歳未満)
- 精神的に自立もできるように、ショートステイをして、親以外の人々と接したり、コミュニケーションを取ったりしています。

(男性 30 歳代)
- 難しいとは思いますが、人として暮らせていけることです。意味が違うかもしれませんが。

(男性 30 歳代)
- 息子は現在 48 歳です。体重は 50kg、家族の体力(夫婦 2 人がかり)に限界があると考えています。

(男性 30 歳代)
- 手をつなぐと歩いてくれますので、足を鍛えるようになるべく歩くようにしています。

(女性 40 歳代)
- 療育園に短期入所を 1 日も早くと思っている。一人で親から離れ、他人と行動をたくさんしていること。

(女性 40 歳代)
- 成人が入所できる(終身)障害者施設が必要です。障がいの程度により医療が必要な方は医療施設となったらいいし、うちの子は今のところ肢体不自由と知的障害なので、医療ではなくてもかまいませんが、受託等に連れて行ってくれたり、薬を飲ませてくれたり、健常者のグループホームのような。アットホームなところだったらいいなと思います。

(女性 6~12 歳未満)

- 居宅(家事・身体)もしくは短期入所  
(男性 6～12 歳未満)
- 理解のあるパートナー、信頼関係を築いたスタッフ  
の中での暮らし  
(男性 6～12 歳未満)
- 身体的に不自由な部分の介助、経済的に自立でき  
るだけの教育を受けさせる。周りの人達とのつながり、  
地域全体が障がい者に優しい環境であること。  
(男性 6～12 歳未満)
- 中学・高校と進んでも、PT を受けられる福祉サービ  
スがあってほしい。(病院などの理学療法ではなく)  
(男性 6～12 歳未満)

- 相談員の派遣とか  
(男性 6 歳未満)
- 療養を行なっている(作業療法、理学療法)  
(男性 6 歳未満)
- 今からそういう所を作っておいて、日頃から利用して  
おきたい。  
(男性 6 歳未満)
- わからない、不安。  
(女性 15～18 歳未満)
- まだ具体的には見えてきません。  
(男性 6～12 歳未満)

## 将来の生活に備えて今行っていること

### 1. 貯蓄

- お金を少しでも貯金すること。  
(女性 12～15 歳未満)
- 貯蓄、ショートステイなどで自宅以外に泊る練習  
(女性 12～15 歳未満)
- 不動産を持ち、子供がたとえ国から援助が受けられ  
なくても、生活できるだけのお金を得るため貯蓄をし  
ている。  
(女性 12～15 歳未満)
- 貯金  
(男性 12～15 歳未満)
- 貯金。自立できるよう洗濯、買い物など。  
(男性 15～18 歳未満)
- 1 日 100 円貯金をしている。  
(男性 15～18 歳未満)
- 日常生活を規律正しく過ごすこと。金銭を貯めるこ  
と。  
(女性 20～25 歳未満)
- 貯金と仕事に就けられるように資金を取らせる。ひと  
りで外出、友達を多く作れるよう、親離れをさせるこ  
と。  
(女性 20～25 歳未満)

- 親の健康維持と将来必要であろうと思う貯蓄。  
(男性 20～25 歳未満)
- 保護者が積立を始めようとしている。  
(男性 20～25 歳未満)
- 毎月 5 千円くらいは蓄えておいてあげたい。  
(女性 25～30 歳未満)
- 金銭的なことを今は重視している  
(女性 25～30 歳未満)
- 扶養共済に入っていて、親亡き後金銭的に困った  
時に役立つのではと思っている。それと福祉村入院  
互助会に入っている。  
(女性 30 歳代)
- これからお金を貯める。  
(女性 30 歳代)
- 年金だけでは暮らせないので、一生懸命働いて貯  
金をしています。  
(女性 40 歳代)
- 貯金(子供名義)、NPO 法人にパートとして参加し  
情報収集、就労施設の立ち上げなど(育成会)  
(男性 6～12 歳未満)
- わずかな貯蓄  
(男性 6～12 歳未満)
- 貯金  
(男性 6～12 歳未満)

- 兄弟に負担がかからないように貯金  
(女性 6 歳未満)
- 住宅のリフォームをしなくてはならなくなるので、預金をする必要がある。  
(女性 6 歳未満)
- 日常生活は自分でできるようになってほしい。特児などの手当は将来のために貯めている。  
(女性 6 歳未満)
- 将来のため少しずつ毎月積み立てしています。  
(女性 6 歳未満)
- ・まだ小さいので、早いのですが、生活面は自分でできるように身につけさせたい。
- ・貯金  
(男性 6 歳未満)
- 貯金  
(男性 6 歳未満)
- 貯蓄  
(男性 6 歳未満)
- 特にしていないが、子供のために貯金を少しずつしている。  
(男性 6 歳未満)

## 2. 自立訓練

- 今の段階では、やはり本人にいろいろな技術(家事などですが)を身につけられたり、地域の公共手段を使って移動できるよう教えたりでしょうが…  
(女性 12~15 歳未満)
- できるだけ、親が手を貸さずに一人で物事を出来るようにさせている。  
(男性 12~15 歳未満)
- 身の回りのことを自分で(当たり前のことですが)  
(男性 12~15 歳未満)
- 勉強だけはしておきなさいと言っている。  
(男性 12~15 歳未満)
- 自分自身である程度のことのできると良い。  
(女性 15~18 歳未満)
- 身近にいる地域の人に理解してもらえるように小さい時から、親子で地域の友達を増やしたり、子供会に参加したりしています。
- 自立に向けて自分ひとりで外出したり、交通機関を利用できるように練習をしています。
- 福祉サービスや制度についての勉強会、講習会に

はできるだけ参加しています。  
(男性 15~18 歳未満)

- 生活が自立できるよう就職を考えています。  
(男性 15~18 歳未満)
- 介助ができるだけなくなるよう自立訓練。(食事・衣服着脱・意思疎通など)ケアホームの見学や後見人制度の勉強  
(女性 20~25 歳未満)
- いつまで一緒に暮らせるかわかりません。私の体力が続く限り息子に迷惑をかけないように頑張りたいと思っています。いつ病気になったり、今の生活が続けられなくなった時のことを考えて、1年に5回くらい短期入所を利用して、戸惑うことのないように生活が続けられるように心掛けています。  
(男性 20~25 歳未満)
- 社会経験のみ(買い物、車の利用)  
(女性 25~30 歳未満)
- 身の回りのことはなるべく自分でするようにしている。  
(男性 25~30 歳未満)
- 通所施設に通っていますが、他は何も利用していません。一人になっても楽しめるようにピアノや、習字、絵画を習っています。  
(男性 25~30 歳未満)
- 訓練に力をいれています。食事が難しいので今、誰からでも食べられるように頑張っています。  
(男性 25~30 歳未満)
- 言語がほとんどないので、パソコンで練習していますが、ほとんど進歩しません。将来入所するところに、ショートやデイで馴染んでいると、本人も親も安心と思い、通所しています。  
(女性 30 歳代)
- 親亡き後のことを教え、少しずつ納得させています。また、共同生活は健常者でも大変なので、特に指導をしています。  
(女性 30 歳代)
- できることは自分でするようにさせている。また、親の手伝い等もしてもらっている。  
(男性 30 歳代)
- 自宅でリハビリをしています  
(男性 30 歳代)
- 歩行の訓練、歩行器を使って短期入所をして将来のために利用してみたいと思っています。  
(男性 30 歳代)

- 自分のことは自分ひとりでできるように。  
(男性 30 歳代)
- 起立不能、言語障害等、自分でできるものがない。  
言葉、食事等日常最小限度のことをしている。  
(男性 30 歳代)
- 記憶障害があり、同じことを何度も言ったり、聞いたことを忘れていたりするので、メモをとるように言っていますが、左手で書くことを面倒くさいのか、なかなかやらずにいる。自分でやってほしいことをはっきり言うように言っている。  
(男性 30 歳代)
- 特にありませんが、現在の訓練などを行なっていて余裕があまりない状態。  
(男性 40 歳代)
- ひとりで生活できるように、自立心を養っている。  
(男性 50 歳代)
- コミュニケーションを取れるように言葉など訓練。自力移動ができるよう歩行など訓練。  
(男性 6～12 歳未満)
- 児童デイサービスを利用し、週 1 度の足の訓練を受けている。年 2 回、こどもつクルに通い、リハビリ整形外科、理学療法(PT)を受けている家庭で、本人による足の訓練、親によるストレッチをしている。  
(男性 6～12 歳未満)
- 周りの人とのコミュニケーションが取れることと、自分でやれることを増やす訓練と機能訓練。  
(男性 6～12 歳未満)
- 自立訓練  
(男性 6～12 歳未満)
- 日常生活ができるように、何でも経験させている。  
(男性 6～12 歳未満)
- 社会的自立に向けてなんでも必要だと思うので、保育園、生活全般、作業訓練など  
(女性 6 歳未満)
- 特に行なっていません。自立できるように、できることは一人でさせるようにしています。  
(女性 6 歳未満)
- 児童デイサービス(保育とリハビリ)を週 2 回  
(女性 6 歳未満)
- 歩行ができるようになるように訓練の日々です。  
(男性 6 歳未満)
- 歩く訓練など。  
(男性 6 歳未満)

### 3. 人との交流

- 全面介助の子なので、たくさんの人達と触れ合っ  
てほしいと思っています。寄宿舍生活を中心に、長い  
休みの時なども受け入れ先(今は訓練中心)がある  
限りは、いろいろな所へ連れて行っています。  
(女性 12～15 歳未満)
- 同じ事業所と長く付き合い、ヘルパーさんに子供の  
ことをよく知ってもらおう。  
(男性 12～15 歳未満)
- 年に 2 回 1 カ月ずつ入所、普段から他人とコミュニケ  
ーションが計れるよう児童デイサービス等  
(男性 12～15 歳未満)
- いろいろな人に馴れる。いろいろな人に自分のメッ  
セージをどう伝えるのか覚える。ヘルパーさんなど  
を使って本人が人に馴れるなど。  
(男性 12～15 歳未満)
- 卒業後、日中デイサービスに通うことを考えて、早く  
から入浴サービスや移動支援等を使って、業者さん  
にも本人にも馴れたらおとうとしていた。しかし、み  
たららの杜が定員に達してきていて通えるわからない状  
況です。  
(女性 15～18 歳未満)
- いろいろな方に子供のことを知ってもらい、子供もコ  
ミュニケーションできる、表現できるようなかかわり  
を多く持たせようと思っはいるのですが(多くの人と  
のかかわりを持つ活動)  
(男性 15～18 歳未満)
- なるべくいろいろな方と接してもらい、子供にも慣れ  
てもらおう。ヘルパーさんにも子供を理解してもら  
う。いろいろな行事に参加させる。  
(女性 18～20 歳未満)
- 一人でも多くの方に理解、協力してもらえよう、か  
かわりを持っていただいています。本人もどんな方  
でもすぐに対応できるようたくさんの機会をつくっ  
ています。  
(女性 18～20 歳未満)
- たまにショートステイを利用して親以外の人に馴れ  
る  
(女性 18～20 歳未満)
- ショートステイを進んで利用している。家族以外の人  
達と時間を過ごすこと、いろいろな人達に介助し  
てもらうことに慣れるために。  
(男性 18～20 歳未満)
- 特にないが、なるべく人との交流をさせています。慣  
れるまでに結構時間がかかるため。



- (男性 20～25 歳未満)

  - 親以外の方ヘルパーさんの力で介護されることに慣れること。  
(男性 25～30 歳未満)
  - できるだけいろいろな人と関わりを持つようにしている。  
(不明 25～30 歳未満)
  - 通園、短期入所を積極的に取り入れて、一つでも多く子供の状況を理解してもらうこと。また子供もいろいろな人とのふれ合いをしてもらうこと。  
(女性 30 歳代)
  - 地域の人々に子供のことを理解してもらいたいと思っています。  
(女性 6～12 歳未満)
  - 日常生活において、大きく関わってくれるボランティアさんを募ってやっている。知ってもらうこと、実行。  
(女性 6～12 歳未満)
  - 長く利用していきたい。できるだけお手伝いしたり、施設の方とのコミュニケーション  
(男性 6～12 歳未満)
  - いろいろな人とのコミュニケーションを取れるよう、知らない人でも大丈夫に関わってもらうこと。  
(男性 6～12 歳未満)
  - 積極的に地域の行事に参加したり、いろいろな所へ外出をし、子供の存在を知ってもらい、障がいのことも話し、理解してもらえるように心掛けています。日中一時支援や、福祉サービスを利用し、ヘルパーさんなど多くの人にかかわってもらい、一緒に成長を見守ってもらったり、相談したりひとりで悩まないようにしています。  
(男性 6 歳未満)

#### 4. 施設

- 施設見学をしていこうと思っている。  
(男性 12～15 歳未満)
- 将来入所するかもしれない施設の利用(ショートステイなど)  
(男性 15～18 歳未満)
- 学校からこれからのショートとかサービスなどできるようお願い中。  
(男性 15～18 歳未満)
- 福祉サービスの利用  
(女性 18～20 歳未満)

- ケアホーム等の施設訪問  
(男性 18～20 歳未満)
- 週 1 回のみショートステイをさせている。  
(女性 20～25 歳未満)
- 施設建設運動をして、今年 4 月に実現します。はじめは通所だけですが、入所施設も出来るように願っています。  
(女性 25～30 歳未満)
- 施設でのショートステイを行い、本人、職員に馴れてもらう。  
(男性 30 歳代)
- 多機能型ケアホームに将来に備えて登録のみしておこうと考えています。(現在はしていません)  
(男性 30 歳代)
- 現在は夫婦 2 人で力を合わせて面倒を見ているが、75 歳になると面倒を見ることはできない体力となるため、早めに施設を検討しなければいけないと思う。  
(男性 40 歳代)
- 将来の国療入所を考えて、年に数回、平成 20 年は 5 回、短期入所をして慣れるようにしている。  
(男性 50 歳代)
- 短期入所し、その施設、場所に慣れる。そして看護師にも馴れてもらう。  
(女性 60 歳代)

#### 5. 体調管理

- 安定した精神状態、体調管理、たまにショートステイ  
(女性 18～20 歳未満)
- 体力面などを考える  
(女性 20～25 歳未満)
- 特にありませんが、体調、健康に気を使っています。  
(男性 20～25 歳未満)
- 健康管理  
(女性 25～30 歳未満)

#### 6. 父母・家族会等での活動、運動

- どのような施設になるかはまだ不明だが、親達で”希勇心 7H”という会を立ち上げて活動している。が、まだ具体的には何もできていない。  
(女性 12～15 歳未満)

- 肢体不自由児者父母の会に入会して、地域で活動し、会の活動をアピールしている。

(女性 15～18 歳未満)

- 仲間のお母さん方と去年、社会福祉法人を立ち上げる運動に参加し、春には通所施設が開設する予定です。それをもっと広げて将来地域で安心して暮らせるようにもっとがんばっていききたい。

(男性 18～20 歳未満)

- NPO 法人を利用しています。そこが、将来子ども達を受け入れてもらえるような親としての支援(お金など)ができるよう、考えています。

(女性 20～25 歳未満)

- 同じような障害を持つ父母達を新施設を立ち上げるのに頑張りました。通所の場ですが、後にホームステイ等も可能な場にしたいと考えています。とにかく近郊になれば年老いた親たちもなかなか会いに行けないので、そういう不安もあり、活動していません。

(男性 20～25 歳未満)

- 自宅で障がいのある子と暮らしていませんが、娘は 8 歳になります。当たり前前に施設ではなく、自宅や共同で暮らせることを願い、事業所を設立(NPO 法人)してみました。居宅介護、短期入所、日中移動支援の事業所。

(女性 25～30 歳未満)

- 今、釧路では 3 年がかりで障害児・者を持つ親達を中心となって、多機能型生活介護通所施設をつくっています。4 月開所予定で、今、工事中です。一歩前進かなと思っています。

(男性 30 歳代)

- 親の会で運動を進めている。支援してもらえる組織、人を育てている。子供に家庭以外の環境でも暮らせるように心掛けている。

(男性 30 歳代)

- 親から離れても安心、安全に暮らしていけるため、父母会や家族会を設置して、多種多様の運動をしています。私の息子は、自立した生活は全く考えられませんので、私共が望んでいる施設作りが出来れば安心ですが、そうでない限りいつの時期にか親子ともども心中せざるを得ません。

(男性 70 歳代以上)

## 7. その他

- お風呂が通所で入れるよう、行政にお願いしていますが、18 歳からではないと無理のようです。何とか早く利用できるよう働きかけていきたいです。

(女性 12～15 歳未満)

- 学校は公立の学校に行つて、高校は私立校に行つて頑張っています。

(男性 15～18 歳未満)

- 肢体不自由児者の親で何度も市のほうへ足を運んでいます。

(男性 18～20 歳未満)

- まだ何も…なかなか子離れできず、人に託せない。

(女性 20～25 歳未満)

- 福祉施策が不安定で、どんな準備しておくべきか。親も不安です。方向性が見えません。将来のために資金をためておこうと思つても、ある程度以上になると支援を受けられなくなりそうです。

(男性 20～25 歳未満)

- 特に着手していませんが、応援はしています。

(男性 25～30 歳未満)

- 家族との行動しか取れなかったのですが、ヘルパーと一緒に行動することが最近できるようになっています。

(男性 25～30 歳未満)

- 子供のためにバリアフリーの家を建てたり、車を買ったりしているので、お金も年金(親)で、生活している家のローンもあり、大変です。週 4 回通所代(食事・訓練)、他もリハビリ、内科、整形等病院代も高く、小遣いもいるし、お金のかかることばかり、かからなければ親子ともども心にもゆとりが出来たりと、親子の病院代に追われている。備えもない。

(女性 30 歳代)

- 市営住宅障がい者専用住宅の空き待ち中です。

(女性 30 歳代)

- 今は 1 日でも多く子供を介護できるように体調を崩さないように気を使っている。

(女性 30 歳代)

- 保険。バリアフリー化

(男性 30 歳代)

- 扶養共済金をかけているだけ。

(男性 30 歳代)

- 通所施設を利用している。

(男性 30 歳代)

- 誰からも可愛がられる性格(子供)で、私達夫婦も地域でできること(子供 110 番、ごみ収集場の掃除や除雪、地域の高齢者の方達や障がいのある方達のサロンの、話し相手や車の送迎等、できる範囲ですしています。

(男性 30 歳代)



- 自宅をバリアフリー化(移動リフトなども)  
(女性 6~12 歳未満)
- 人工内耳を考えている。  
(男性 6 歳未満)
- 将来のことは不安で一杯ですが、目の前の問題で一杯です。  
(女性 15~18 歳未満)
- 将来のために行なっていることはありません。今が大変で余裕がない。  
(男性 18~20 歳未満)
- 今は何も考えていない。親が元気なうちは、家族でずっと一緒に暮らしたいと思っている。  
(女性 20~25 歳未満)

- 具体的には決まっていますが、いろいろ準備が必要と考えています。  
(男性 30 歳代)
- 今、深く考えてはおりません。(これでは遅いのかもかもしれませんが)  
(男性 30 歳代)
- 将来のことはあまり考えないようにしているし、どうなるかはわからない。具体的にはショートステイを利用している。  
(女性 50 歳代)
- 具体的にはまだ考えていません。少しずつ考えているところだと思います。  
(女性 6~12 歳未満)

## 地域で生活が続ける(あるいは始める)上で困っていること、希望すること

### 1. 障がいに対応した住宅物件の確保

- 住宅を確保したくても車椅子ごと乗れる車を維持させる方にお金がかかり、そこまでの余力はないのが現状です。卒業後の日中通える場所がほしいです。  
(女性 15~18 歳未満)
- 身体が大きくなってきているが、なかなか住みよくしてあげることができない。介助者も妥協しながらの生活  
(女性 18~20 歳未満)
- 公営住宅に住んでいますが、一番困っていることは風呂場が狭いこと。障害者用のトイレなどが病院等で見られますが、広さがあって、利用しやすいが。  
(女性 30 歳代)

や施設でしかない。税金もそういう年金暮らしの家は安くか、低所得者は無料にさせていただくと親も心身ともにゆとりが出て、見てあげられると思うし、元気でいられると思う。

(女性 30 歳代)

- 今は住宅にかかる費用がかかりすぎるため、リフォームが出来ないこと。補助があるとかなり助かりますが。一生涯地域に住むためには、適切な医療やリハビリがなくなると困ります。  
(女性 6~12 歳未満)
- 定期的なリハビリを受けられない(短期入所するなど、地元でリハビリの場がない)
- ボランティアなど。
- スロープをつけたいと申し込んだが、補助を断られた。  
(男性 6~12 歳未満)

### 2. 住宅維持、リフォーム費用の補助

- 近くにリハビリや病院があればよい。リフォームや新築時、市や道、国での費用補助がもっとあり、教えてほしい。水道や電気、電話等の補助も半額か無料になったらいいと思う。今は他人では、よっぽどでなければ信頼できる人は少ない。施設といってもすぐに預けられるわけではなく、勝手かもしれないが、兄弟がいれば料金が安くなったり、無料になれば見てくれるのでは、と思うし、いざとなればやはり病院

- 脳性小児麻痺による両下肢麻痺のため、自宅外、階段、手すり、トイレ手すり、玄関手すり等、特に風呂場手すり等にリフォームに係る費用補助がありませんし、親として安心です。  
(女性 70 歳代以上)

### 3. 就労・仕事先の確保

- 将来もっとたくさんの人達が就職できればと思います。

(女性 12～15 歳未満)

- 就労先、仕事の確保が一番難しいと思います。  
(女性 12～15 歳未満)
- 就労先・仕事の確保や生活の安定はもちろんですが、管理者、大家さんに理解がある人がいれば良いなと思います。親が健在でもどんどん社会とつながり、独立した人生を歩んでいけるような社会の理解が必要なのです。  
(女性 12～15 歳未満)
- 就労先が地方ではないこと。  
(男性 12～15 歳未満)
- 就労先がない、あっても低賃金だし、利用料がとられるのでは生活できません。将来が不安です。  
(男性 15～18 歳未満)
- まだ学生なので、見えてこない部分はありますが、就労先、仕事が確保できて生活費が得られるようになって、安定した生活が出来ると良いと思っています。  
(男性 15～18 歳未満)

- リハビリを受けられる所があるが、仕事につけた場合、時間がどうなのか(リハビリは一生)
- 今は学生ですが、将来職場が地域にあるのか。
- 外出はヘルパーを利用すると 2 人分の費用がかかり大変。(コンサート、映画、交通費(冬道はタクシー)など)

(女性 20～25 歳未満)

- 障害者の就職が大変困難であること、自立できる生活費がなければ、何も始まらないと思う。

(女性 25～30 歳未満)

- 就労先・仕事ができれば良いと思います。  
(男性 25～30 歳未満)

- 仕事の確保

(女性 30 歳代)

- 就労先・仕事が確保でき、生活費が得られることについて希望すること。(地域で就労できればなお良いのですが)そのための資格取得が容易にできること。また地域で資格を生かせる仕事があること。

(女性 6～12 歳未満)

- 就労または社会貢献

(男性 6～12 歳未満)

- 就職先があること。自立できるだけの給料がもらえれば良いと思っています。

(男性 6 歳未満)

- 仕事がない。地域の人々の理解が得られない。

(女性 不明)

#### 4. 地域生活の体験できる機会や場

- 本人が生活する上で必要なサービス時間などが充分もらえるかが心配です。また、障害者の年金で暮らしていけるのかも不安です。私が生きているうちからひとり暮らし(自立できる)にしなくては親が金銭面の負担や介護の一部をしなくてはいけないようでは、親の死後はどのようになるか不安です。  
(男性 15～18 歳未満)
- 施設入所でも地域生活を体験できれば良いと思う。  
(女性 20～25 歳未満)
- 車椅子で移動ができ、本人のことを安心して任せられるヘルパーがいて、医療やリハビリなどしっかりと受け入れてくれるところであれば良いと思う。  
(女性 20～25 歳未満)

#### 5. 地域生活が難しくなった時の受け入れ先など(施設など)

- 今、親元を離れて寄宿舎生活をしている本児、友達とのかかわりの中で感情面が豊かになり成長が見られています。でも、卒業後と考えると、地域には本児が充実した日々を送れる施設がありません。(内容、通える日数など)
- 親元を離れて自立心がみられ、それを卒業後も生かされる施設、今望むことはこのひとつです。  
(女性 12～15 歳未満)
- 肢体不自由児者を受け入れてくれる施設がほしい。特に親が病気や冠婚葬祭や兄妹の行事等、緊急時に預かってくれるショートステイがほしい。  
(男性 12～15 歳未満)
- 現在母がひとりで介護していますが、母が亡くなった時は施設に入れると思いますが、私も病気を持っているので入院や体調不良などで面倒が見れなくなったときに心配です。  
(男性 18～20 歳未満)
- 子供を任せられる人が現れませんし、心配で託せません。ショートステイ 1 日でも心配でできません。ここなら安心して住めるというところが見つかれば。  
(女性 20～25 歳未満)
- 親亡き後も安心して任せられる地域社会もしくは施設、人を節に希望します。  
(女性 20～25 歳未満)

- 地域に住む施設があって、作業ができる場所がないので、親が亡くなった後困る。  
(男性 20～25 歳未満)
- 入所できる施設を増やしてほしいです。  
(男性 20～25 歳未満)
- 今後今の施設を退所したいのですが、家(自宅)からあまり遠くない場所で適している施設が見つからない。自宅から通所するには物理的・精神的に細かいところまで十分に煮詰めないといけない。※将来的な展望ができていない状況です。  
(女性 25～30 歳未満)
- 今は施設(療護)に入所していますが、手先が使えたり、その人に合ったお手伝いやお金にならなくても仕事をさせてもらえたらとてもよいと思います。今は部屋に居ることが多く心配です。  
(女性 25～30 歳未満)
- 居宅を使って食事から全て安心して任せられる方もいらっしゃいますが、心配で目が離せない方もいらっしゃいます。  
(男性 25～30 歳未満)
- 一人では生活できないので、親がいなくなってしまうことが心配です。子どもは重度ですし、一人暮らして働いていたこともあり、風呂、便所なども自分で行き、ご飯だけ親が作ってやらないと食べていけないです。  
(女性 30 歳代)
- 親亡き後、安心して任せられる施設が少ないこと。  
(女性 30 歳代)
- 施設が増えるといいと思う。  
(女性 30 歳代)
- 現在、両親も健在であることにより、同居し生活しているが、将来のことを考えると施設より頼るところがない。  
(男性 30 歳代)
- 現在は自宅で介護しているが、将来は子供ひとりで生活していかなければならないため、この子に合う施設に入所させたいが、なかなか入所させる施設がありません。  
(男性 40 歳代)
- 現時点では困っていることはありませんが、成人の入所施設が必要なだけあってほしいです。親が死んだ後に色々な事(金銭や手続き)を託せる公的なシステムがあればいいと思います。  
(女性 6～12 歳未満)
- 市の通園でのリハビリが原則、小学生まで(特例で中学生まで)といわれています。中学生まで延長で

きるようになることは大変ありがたいのですが、その分小学 4 年生から回数が減るとの条件をつけられました。成長期でリハビリが必要な子ども達の切実な訴えを市は聞いてはくれません。親が急病で倒れた時にも安心して預けられる場所が必要だと思います。一人っ子のため親が死んだ後が本当に心配です。

(女性 6～12 歳未満)

- 地域に施設がないので、自宅で生活できなくなった時の受け入れ施設があるとよい。  
(男性 6～12 歳未満)
- 私(母親)がいつも面倒を見ているため、体調が悪くなると障がいがある子を世話することが出来なくなり困るため、ヘルパーさんがサクシオンなど医療行為してもらえると助かります。重度障がい者を受け入れる施設を増やしてほしい(デイサービス、ショートステイなど)  
(女性 6 歳未満)
- 家族の中で、病院などにかかる時など、預ける所がない。何かあった時に一時預けたいと思うのだが、遠く、医療と療養が一緒になっているところ、施設がもっとあれば安心できるのと思う。  
(女性 6 歳未満)
- 受け入れ先がなかなかないと聞き、現在の利用者が亡くならないと入れないとも聞きました。もっと利用できるところを増やしてほしいです。  
(男性 6 歳未満)
- 親亡き後の本人の介護、生活支援(金銭的、心理的)がどうなるのか心配。地域で生活できることは理想だが、それに対応できるだけの施設等の整備がなされていない。  
(男性 70 歳代以上)

## 6. 日常で必要とする介護体制の確保

- 何とか地元でショートステイがあってほしいです。現在 12 歳です。一日も早く安心して生活ができたらと思っています。  
(女性 12～15 歳未満)
- 私の子どもは重度の障害者です。もちろん医療的行為も必要な子です。私の子どもは昨年 4 月から施設に入所しましたが、理想は地域で生活することが一番よいと思いますが、本人のことを 24 時間見てくださる方がいるかどうかとても心配ですし、お金もかかることでやむを得なく施設に入所させました。私自身理想と現実のギャップを今回目の当たりにしました。  
(女性 18～20 歳未満)

- 重度の肢体不自由児をさわったこともないようなヘルパーさんが多い。もっと訓練を受けて馴れてほしい。  
(男性 18～20 歳未満)
- 重度障害であっても通所できる場所がほしいです。  
(男性 20～25 歳未満)
- 現在通所で施設に毎日行っていますが、一人歩行が十分できず、タクシーで通っているため、障害年金のほとんどが交通費になり、福祉サービスを受けて外出したりする金銭が確保できない。また、家族が用事のあるときは一人で留守番(宿泊)ができないので、必ず連れて行くことになる。その為ショートステイ等があればよいと思う。  
(女性 25～30 歳未満)
- 仕事をするのは、無理と思うが、サービスを受けるだけではなく、本人が生きていくうえで、自分が役に立つ場面をつくることができると考える。介護体制で数多くの方が家に入出入りするのとは考えもの。サービスを細分化しないでトータルで考えてほしい。  
(男性 30 歳代)
- 成年後見制度が財産管理だけでなく、生活全般も見てもらえるような体制になることを望んでいます。たまたま、ショートステイで施設を利用するのですが、人手不足のようで十分な介護が受けられていない。  
(男性 30 歳代)
- 近くに事業所があって、日中は送迎してデイサービスを頼みたいが、もう一步安心して預けるのには不安がある。  
(男性 6～12 歳未満)
- 障害があることで幼稚園に入れない。保育園は働いていれば障害児枠があり入れるが、働きながら障害のある子を保育園に入れるのは大変。病気がちで仕事にならないし、かといってサポートしてくれる人もいないし、施設もない。障がいのある子は働かなくても幼稚園や保育園に行けるようにしてほしい。保育園で障害児 3 人に対し、一人しか先生がつかないので、一人に一人とは言わないが、しかし一人に一人つけられるくらいになってほしい。地域にリハビリの先生を置いてほしい。北海道には札幌と旭川にしか療養センターがなく、だんだん人数が増えて、月 1 回通えるはずの訓練も予約が 2,3 ヶ月後とか。もっと訓練が受けられる体制がほしい。  
(女性 6 歳未満)
- 重度の障がいがあっても、外出できる力、体力があるので、通所できる場所を増やしてほしいです。  
(女性 12～15 歳未満)

## 7. 移動支援サービスの充実

- 歩道の設備が悪く、車椅子でも移動が大変である。  
(女性 18～20 歳未満)
- 今通所している地域活動支援センターは、平成 5 年 4 月に親達が立ち上げて、現在、道・市の補助をいただきながら今日までできましたが、補助は以前の半分になりました。自立支援法により、事業転換して他の事業所と合併しなければならないが、寝たきりの子、医療的ケアの酸素吸入、経管栄養の子などの重症心身障害児の子がいる所で知的な動き回る子ども達と一緒に安心して、安全な介護ができるのでしょうか。また、重症児の指導員に知的な子供の指導が可能なののでしょうか。夜間も酸素吸入、CPAP の管理、体位変換などのため、24 時間気の休まる時のない母親に、週 5 日 10 時～15 時の間に休んだり、通院したり、社会参加ができる小規模な現在の施設を残してほしいと思います。  
(男性 50 歳代)

## 8. 訓練を受けたヘルパーによる医療行為

- 医療行為ができるようにしてほしい。そのために利用できる場所がない。  
(男性 12～15 歳未満)
- 医師の確保と医療行為を行える人を増やしてほしい。  
(女性 15～18 歳未満)
- 喀痰吸引などをできるヘルパーさんを頼めるところが近くにはない。  
(女性 6～12 歳未満)

## 9. 地域での適切な医療やリハビリ

- 近くの民間の病院でのリハビリを可能にしてほしい。もしくは訪問リハビリの充実。  
(男性 12～15 歳未満)
- 自宅の周りにサービス利用のための施設が多くあるとよいと考える。  
(女性 15～18 歳未満)
- 地元を受け入れ施設がない。子供のリハビリを受けられない、障害児を診れる医者がいない。  
(男性 15～18 歳未満)
- 地域で生活する上で、信頼できる医療施設がほしい。特に障がいについて理解を示してくれる医師。  
(男性 20～25 歳未満)
- 住居が 2 階のため、重度の子を毎日おぶって上がり



下りするのが大変になってきた。

(女性 25~30 歳未満)

- 町内でしっかりとしたリハビリが受けられる場所、その人に合った。

(男性 30 歳代)

- 地域での PT が少なすぎる。市側には PT を増員してほしいと願っているが、未だに無理と言うばかり。もう少し肢体の子の事を理解してほしいです。

(男性 6~12 歳未満)

## 10. 本人のことをまかせられる信頼できる人

- 親子 2 人だけで誰も頼る人もいないので、私が病気の時も困ります。

(女性 15~18 歳未満)

- 他の地域に比べて障害者に対する理解があまりない。もっと理解と協力が得られれば。

(男性 18~20 歳未満)

- 重度重複全介助の者が入居できるケアホームが身近に 1 つもありません。今は家から毎日元気に作業所に通って、明るく楽しく暮らしていますが、親が介護できなくなったら、社会から隔絶された施設で 24 時間過ごすことになりかねません。すごく心配です。

(女性 20~25 歳未満)

- その中でも信頼できる人材を確保できたらと思っています。

(男性 20~25 歳未満)

- 今は親が頑張っているので大丈夫ですが、病気になったりした時など状況が一変した時、緊急に本人を支えてくれる体制がないことです。地域には支援してくれる人はいません。ショートステイも満員ですと断られたこともありました。何かボランティアや地域の方々にこんな人の手助けをお願いしますと、コーディネートしてくれる人がいらしたら本人も親も安心して暮らせるのではないのでしょうか。

(男性 20~25 歳未満)

- 施設があることの安心感、日々の生活の満足、家族以外の信頼できる人が必要です。

(男性 20~25 歳未満)

- 信頼できる世話人がほしい。

(男性 25~30 歳未満)

- 親が生きているうちは、できるだけ一緒に暮らすつもりだが(その後兄弟にも見てもらいたい)最後は施設になるのでは。信頼できる人を見つけることはなかなか難しいと思います。

(男性 25~30 歳未満)

- 重症児なので一番心配なのは医療です。親亡き後、医療を受ける際に誰かが付き添ってくれるのか、入院が必要になったら誰かが付くのか、一般病院への入院はとても無理です。(ベッドに一人で寝てられない)

(男性 25~30 歳未満)

- 一番は親が安心して頼めるヘルパーが育ってほしい。体の機能維持等で専門のリハビリが受けられない。

(不明 25~30 歳未満)

- 重度で意思の疎通が難しいものは信頼できる理解者が(親に代わる)いることが第一だと思います。

(女性 30 歳代)

- 本人のことを任せられる、依頼できる人が見つかることです。

(男性 30 歳代)

- 今の世の中、信頼できる人でも金銭問題で大変な時代です。本当に任せてもよい人、施設を希望。重度障がいの子を持ち、主人も脳梗塞になってしまい 1 年が経ちます。本当にこの先どうしたらよいか今は何も考えられない毎日を過ごしています。子供との生活なのか、主人との生活なのか…

(男性 30 歳代)

- 人柄だと思うので、任せられる信頼できる人を見つけられるのが一番だと思います。

(女性 6 歳未満)

- 信頼できるヘルパーさんなど見つけれられるか。外出するのも大変になってきているので、少しの買い物も大変な時、家で見えてくれるサービスなど。

(男性 6 歳未満)

## 11. 地域住民の理解と協力

- 地域生活が難しい。他人は、なかなか障害に対しての理解がない。

(男性 6~12 歳未満)

## 12. その他

- 施設やヘルパーさん等は、今後必ず必要となると思うので、施設やヘルパーさんの質を上げるために、もっと賃金や補助金等も増やして、安全な将来を作ってほしいです。

(女性 12~15 歳未満)

- 本人が日常生活で必要とする介護体制が確保できることについて、あまりにも規制が厳しい。学童はだ

めだとか、通学には使えない等。健常者は自由になんでもするのに、障害者の必要な介護は障害者が決めるべきだ。

(女性 12~15 歳未満)

- 学校の問題がある。学校によっては薬は医療行為、訓練もできない等、子供にとって今大切なことをしてくれないのでは。その学校を選ぶことができず、どこにも該当する学校がない。障害によっては住宅事情により、一緒に生活をできないということもある。

(男性 12~15 歳未満)

- 地域生活という言葉自体が夢物語でしょう。家で家族が見て、誰かが倒れるまで頑張ったら「仕方がないので国が面倒を見ましょう」というようになるのではないですか？お金があればずっと家で見ることができますよ。

(男性 12~15 歳未満)

- 本人は大学進学を希望していますが、行きたい先で住む場所など確保できるか、母も付き生活した方が良いのかなど、近い将来でも難題があります。子供の身体のことを理由であきらめさせることはさせたくないと考えています。

(男性 12~15 歳未満)

- 国にも地方自治体にもお願いしたいです。福祉関連の予算を増額してほしい。障がいのある者が暮らしやすい社会構造をお願いします。

(男性 12~15 歳未満)

- 学校のこと: 普通学校に通学している子は就学援助が受けられず、金銭面で大変な思いをしている。

(男性 12~15 歳未満)

- 何よりも親が見られなくなったときの本人がどう生活していけるのかは、障がい者を持つ人の一番の心配だと思えます。自分で何かあっても言えない、できない、本人を置いていけない、一日でも長くそばで見たいと思うのは、私だけではないと思います。人として本人が楽しく幸せに生活できれば何も言うことはありません。どうか本人の障がい者の生活をよりよいものにご支援よろしくお願ひいたします。

(男性 12~15 歳未満)

- 突然けいれんを起こして、右半身麻痺がくるので親が仕事を辞めなければならない。病院費がかかるので、何とかしてほしい。

(男性 15~18 歳未満)

- 社会に就職口がないからヘルパーでもやるか、というような風潮が感じられる。障害者やその家族の心を受け止められるような資質や、そしてそのために教育してほしい。人が足りないから誰でもいいわけではない。

(女性 18~20 歳未満)

- 高等部を卒業して、前の施設に入所しましたが、7ヶ月ほどで退所、子どもに合わず、今現在の施設では、子どもに合っていて、健康面などを考えてくれたり、入所している少人数のため対応してくれて安心し、子供にも合っていてよかったです。

(女性 20~25 歳未満)

- 現在ケアホーム「野ぶどう」で生活しております。事業所である「ふみだす」は、とても障害者に目をしっかり向けて、お手伝いをしてもらっているので、今のところは問題なく生活できております。行政も今はヘルパーさんの分も支援ができております。ただ、年金だけで生活しているので、これでまかなえる範囲での負担でお願いしたいです。

(男性 20~25 歳未満)

- 身体障害者の移動支援について、介護体制が必要な場合、公共交通機関を利用しなければなりません。自宅からの通院等タクシー利用する際、負担が大きいです。タクシーチケット(基本料金)の受給はありますが、自治体において、地域格差がありすぎます。チケット(一度の利用枚数に制限しないで欲しい)。市の施設で整形外科医の対応に不満である。行政や親の会に訴えても改善されない。(函館市)

(男性 20~25 歳未満)

- 地域住民の理解で、障がいをたてにしていますが、ハンディキャップを持った人も生活していることを知ってほしい。2 年前に娘と大型スーパーのエレベーターに乗ったとき、中年の女性に車椅子の娘を見て「どうしてこなったの？」などいつも聞かれるのですが、黙っていたらエレベーターを降りるとき、「死んだらいいね、この子」と言われました。一部の人と思いますが、自分勝手な人は。でもくやしくて、親として泣きました。理解と協力で共に助け合って暮らせたらよいと思います。

(女性 25~30 歳未満)

- ヘルパーまた、施設 etc における介護人の質の向上

(女性 30 歳代)

- 施設が運営していけるように道や国の支援費の予算付けをお願いしたい。施設が存続していかなければ一番困る。

(女性 30 歳代)

- 寝返りをうつこともできないし、自発呼吸もできない状態で、人工呼吸器を使用し、寝たきりで自己表現などできない。100%介護(看護)が必要。施設に入所して時間で対応されたら生きていくことが困難だと思う(病院の ICU でも充分でなかった)今回のアンケート調査で求めていることと、私共の生活は違うと思いますが。



(男性 30 歳代)

- 老人のサービス事業所はあるが、若い人はない。  
(男性 30 歳代)
- 息子は交通事故による中途障がい者です。(5 歳のとき、幼稚園の帰り)その時から、現在まで病院(脳外)での治療を受け、入院等も何かあった時は病院で受け入れてもらっていました。現在の制度では、病院に入院する期間は限られているので、無理とします。医療の制度も柔軟に対応していただけたらありがたいです。  
(男性 30 歳代)
- 重症者児には、介助にマンツーマン以上の人介助、介護のスキルアップに時間を要する。事業所への加算や定期的な研修(医療や福祉)を受けることができるようになってほしい。  
(男性 30 歳代)
- 片道送迎が可能になったり、様々な医療機関の整った施設が多くなることを希望します。  
(男性 40 歳代)

- 福祉支援金を多く出してください。  
(男性 50 歳代)

- 我々を含む多くの障がいのある子や親がもともと普通級に我が子を進学させること。共に知り合う、ふれ合う機会をもっと作ってゆくことで、おのずと勇気と出会いが生まれますから。実は世間は思った以上に困ってくれる人がたくさんいます。信じて壁も越えられる力が人にはあります。  
(女性 6~12 歳未満)

- 今感じていることは、子どもは小学生でも特別支援教育の範囲内で不自由のない教育を受けていますが、高校進学を考える時、一般の高校へ行きたくても、そのような支援を受けることはできないのですよね。障がいを持った子でも一般の子と同じような選択肢を与えてあげたいです。  
(男性 6~12 歳未満)

- 兄弟がいなくて一人っ子のうえ、成人後、親が高齢になっているため、親が介護できなくなったあとの本人の生活が不安です。後見人制度のことや成人後の障害者が入れる施設情報などがもっとわかりやすくなっている文章や、情報があるといいと思います。  
(男性 6~12 歳未満)

- 我が子は地域活動支援センター,NPO 法人肢体不自由児者に通っています。障がいのある方が地域で生活をというのは、何もできないものは家にいなさいとのことなのですか？施設に入れている親たちより、いろんなことに頑張ってきました。でも、国、道、市補助金の減額、どんどん弱い者が見放されていますね。

(女性 60 歳代)

- 最後は金銭問題だと思います。  
(女性 60 歳代)

- 現在住んでいる所では、市の福祉が不十分と感じるために、将来は地方にと考えざるを得ないので希望することはない。  
(男性 6 歳未満)

- 重度重複障害者を抱えている親たちは、自立支援法が設置され、良い面、悪い面とありますが理想の自立した生活をと言う人もいますが、重い子供を抱えている親は、施設が必要としている家族もたくさんいます。今回のアンケートの内容は、自立を目指した内容に思われます。私共には程遠い設問です。しかし、私共の会員には、できるだけ記入し、差し出すようにしております。できれば回答を各会にほしいものです。将来誰もが自殺などさせないような環境づくりを期待します。大変失礼なことを記入し申し訳ございません。

(男性 70 歳代以上)



## 調査を終えて

本調査研究において、貴重なお時間を割いてご協力いただきました皆様に改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

障がいのある方がそれまでの措置によるサービスの利用（行政処分）から自己選択自己決定して利用できるサービスとして平成15年に支援費制度が施行され、平成18年には障害者自立支援法として、障がい者の地域での自立した生活を支えていくという国の方針が打ち出されました。

本調査では、特に介護支援の手厚い体制を必要とする肢体不自由の方、知的障がい等の重複障がいの方等の住まいのあり方として、共同住宅方式で介護体制や建物のバリアフリー化を工夫されている事例を多くの障がい当事者の皆様、ご家族、そして福祉関係の方々に情報提供することによって、障害者自立支援法でのケアホームやグループホームの制度の充実を待つばかりではなく、自らの創意工夫のもとで障がいのある方の多様な暮らしの在り方を考えていくきっかけとなることを願い、報告書としてまとめさせていただきました。

とかく障害者自立支援法の下でのケアホーム・グループホームでは、職員配置基準や机上の支援計画作成に追われ、本来誰がそこに暮らすことを望み、どんな人生を今後歩んでいくのか、そのために何が必要なかが、入居する本人自身も考える機会が少なくなっているという状況が少なからずあるとこの調査を開始するにあたり、私どもも感じていました。自己決定・自己責任という言葉は、まだまだ一部の身体障がい者の方たちだけの話であり、実際には在宅でホームヘルプサービスさえ使ったことがない方も多く、常に建物の中に施設職員という職業の人がいる入所施設が一番の安心だと思っている方たちも、当事者や家族の中にまだまだ多くいます。

しかし、誰であっても、その人の人生はその人だけのかけがえのないものであり、誰もそれを他人の都合で管理することもできず、勝手に決め付けることもしてはいけません。たとえ、親であってもです。どうしたいのか、何を選ぶのかを決めるのはあくまでも本人です。ただし、知的障がい等により自己決定自体に支援がいる方の場合、その方の本意をくみとっていく努力を、周囲の者が惜しむことなくしていかなければいけないでしょう。

「好きな時間にちょっと散歩に出る」、「夜遅いけど近くのコンビニに行きたいな」、「今日は落ち込むことがあったから、夜は一人静かに過ごしたい」・・・日常の中にある普通の気持ちを普通に行動に移すということが、介護度の高い方にとっては特別な贅沢にならないように、程よい距離感の支援を安定して受けられ、そして自己選択の機会を得ること、あくまでも必要なのは、直接的な介護部分と自由に動くことができる空間があることが、障がいのある方が地域生活を送っていく上での最低限の条件ではないでしょうか。しかし、現実には、トイレをどうする？ 着替えは？ 食事介助は？ お風呂は？ まだまだ人として最低限の尊厳をもって生きていくための支援体制さえ不十分な状態です。そのことを誰もが知っているはずなのに、なかなか制度的には改善されていきません。そこで制度が整うのを待っているだけでは、やはり常に受け身で他者に決められるだけ、そして選ばれるのを待つだけの生き方になってしまいます。

各地の事例から、まずは誰かが動けば何かが動き始めるということを実感しました。一人の車

いすの方がお店に行けば、店員さんは我が店のバリアフリー度を気にし、お金のやり取りは財布にまでこちらが手を出して上げれば良かったのか、それはおせっかいなのかな・・・など、あれこれ思い巡らせます。車いすでしょっちゅうウィンドウショッピングしていたら、気づいたらお店の前にスロープができていたということもあります。

住む所を探したいと不動産屋さんに行けば、「バリアフリーの物件はなかなかないですね」「障がい者だけで暮らすんですか？」と素っ気なく返す人もいるかもしれませんが、いろいろなお店を何度も何度も訪ねてちょっと店内で溜息なんてついてみると、もしかしたら見るに見かねて、掘り出し物物件や改修に理解のありそうな大家さんを探してくれる店員さんがいるかもしれない。

もちろん様々な既存の制度の活用については、ある程度の基本的な情報収集は自ら行う努力は必要です。役所で聞いたり、相談支援事業者（役所で教えてくれます）に相談したり、インターネットや携帯サイトで調べる方法もあります。そしてそれらを携えてまずは役所に相談に行ってみる。どんなに障がいが高くても、一市民であることには変わらないわけですから、遠慮することなく役所に出向き、相談してみてください。この街で障がいの重い人が親元でもなく入所施設でもなく暮らしていきたいと望んだら、まずはどのような資源がその街にあるのか。答えがその場に出なくてもいいんです。何度か足を運んで、その街にこのような課題があるということを知ってもらうことが必要です。

そして、とにかく仲間、理解してくれる人、気にかけてくれる人、隣近所の人でも行きつけのお店の人も養護学校時代の先生でも、いろいろな人を巻き込んでいくことが、いずれ大きな支えとなることが多いようです。一人の人が持っている情報や行動力はわずかですが、多くの人に悩みや思いを伝えれば、中にはお役立ち情報を持っている人もいます。また、気持の支えになってくれる人もいます。何もできなくても、引越しの時には手伝いに来てくれる人もいるかもしれないし、誰だって地域の中ではひとりでは生きていけないのですから、どんどん気持ちを伝えていきましょう。障がい当事者で自分で意思表示ができる人はもちろん自ら伝えていくことが大切ですし、コミュニケーションや理解力に重度の障がいがある方は、家族などが伝えていかなければいけません。「この子をこの街のなかで暮らさせたい」って。

今の日本社会で生きていくことは、障がいのある無しに関わらず大変です。おそらく多くの人が様々な場面で生きづらさを感じ、あきらめ、溜息をつくことが多いはず。でも、人として最低限の生きていく上での保障として、介護支援と住居支援は、個人だけで解決すべきことではないはず。多くの人の知恵と持っている情報と行動力を思いきって借りましょう。そのお返しは、地域で暮らし始めた本人のこやかな表情で十分にお釣りが出るくらいです。

今回のヒアリングでは、伺わせていただいたすべての場所で多くの印象的な出合いをいただきました。その中の例をいくつか・・・。

東北地方で農家をされている実家で20代まで在宅生活を送っていた女性。詩を書くことが好きで、投稿した詩が新聞社の賞をもらったときの写真も見せていただきました。しかし、畑仕事の合間に食事などの介助で毎日何度も家に戻ってくる母親の介護負担等も考え、自ら入所施設を望みました。行った先は、観光道路がある山の中腹よりも上にある施設。もちろん自由に外出した

りなどできません。施設のスケジュール（つまり職員配置の都合）に合わせての1日の流れが始まったことでしょう。窓から見える景色も季節の移ろいだけだったかもしれません。その中で彼女が書いた詩は、どんなものだったのか……。

明日の暮らし、1ヶ月後、1年後、10年後……曜日によって決まった同じ暮らしが入所施設にはあります。それが「安心」なのかもしれません。

それに対して地域で暮らすことは「不安」の固まりです。煩雑な書類手続き、介護者の確保、部屋の電球の交換から鍵かけ、カーテンの開け閉めまでどうするのかを考えなければいけません。お金の問題はもっと深刻です。働いて収入を得ることは、誰にとっても大変な時代です。それでも、あえて街の中で暮らしたい、困難や失敗があるのが地域だし、人との出会いを楽しんだり自分らしさを出せるのも地域……。富山の共同住宅「まちなか」という名前への思いが象徴していることです。

室蘭の「があだば一と」は、入居している0さんが子どもの頃から思い描いていた未来デパートの名前だそうです。家族や先生の希望する店舗も入ったデパートです。そしてもちろんその店長はきっと0さん自身でしょう。今、仲間と暮らす家として「があだば一と」の名前がついているということは、彼の「夢の実現」の一つの形かもしれません。

誰もが当たり前思い描く自分の暮らし、将来の夢、そして不安。それを障がいのある方も家族も大いに語ってください。周りの人に伝えてください。教えてください。

今回は障がいのある方たちの共同住宅を主として調査しましたが、高齢者も若年者もともに建物を分け合って暮らすという発想も一部の団地で始まっています。児童の場合は深刻で、一番誰かの愛情を独占したい大事な成長期に家庭が破たんした場合、本人に選択の余地はほとんどありません。そこで里親制度やファミリーサポート、児童施設のユニット化などの取り組みが行われています。

一つの実践例がいくつもの困難を浮き彫りにします。そして次の工夫が生まれます。今回の調査研究の報告によって、思いっきり素敵アイデアを思いついた方、制度の柔軟な活用を検討する必要があると感じた行政の方、一人でもいたらうれしい限りです。当事者や家族、一部の支援者での努力と実践には限りがあります。社会全体で、あるいは街全体でともに考え、知恵を出し合い、障がいのある方だけではなく誰もが暮らしやすい地域が増えていくことを願います。

肢体不自由者の地域での小規模な住まいのあり方と介護体制についての  
検討委員会名簿

氏 名	都道府県 名	所 属
大地 貴子	北海道	室蘭肢体不自由児者父母の会 副会長
竹田 保	北海道	社会福祉法人HOP 理事長
山田 隆吉	北海道	社団法人札幌肢体不自由児者父母の会 常務理事・事務局長
燕 信子	北海道	東月寒サポートセンターふらっと 代表
燕 寿哉	北海道	障がい当事者
山内 未佳	北海道	社団法人札幌肢体不自由児者父母の会 会員
山内 まゆみ	北海道	社団法人札幌肢体不自由児者父母の会 副会長
松坂 優	北海道	特定非営利活動法人わーかーびいー 理事長
熊井 ゆかり	北海道	特定非営利活動法人わーかーびいー 事務局長
樋田 尚子	北海道	特定非営利活動法人わーかーびいー とんとん 所長
(助言者) 酒井 比呂志	兵庫県	NPO 法人 西宮がすきやねん サービス提供責任者
(事務局) 保科 直巳	北海道	特定非営利活動法人わーかーびいー かいけつ太郎～ケアサービスステーション 所長



本調査研究においてご協力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。

アンケート調査にご協力いただいた方

「**社団法人**全国肢体不自由児・者父母の会連合会」各支部と会員の皆様

「**財団法人**北海道肢体不自由児者連合協会」各支部と会員の皆様

ヒアリング調査にご協力いただいた方

あおば生活ホーム「俊」

あずましや支援ハウス

生活ホーム「オエヴィス」「もんでん」

よつばホーム

グルーホーム「ゆい」

I Lホーム「ソレイユ小倉寺」

多機能型地域交流ハウス「がだばーと」

ケアホーム「野ぶどう」

笑い太鼓グループホーム「パークサイド」

身体障がい者の生活の場「まちなか」

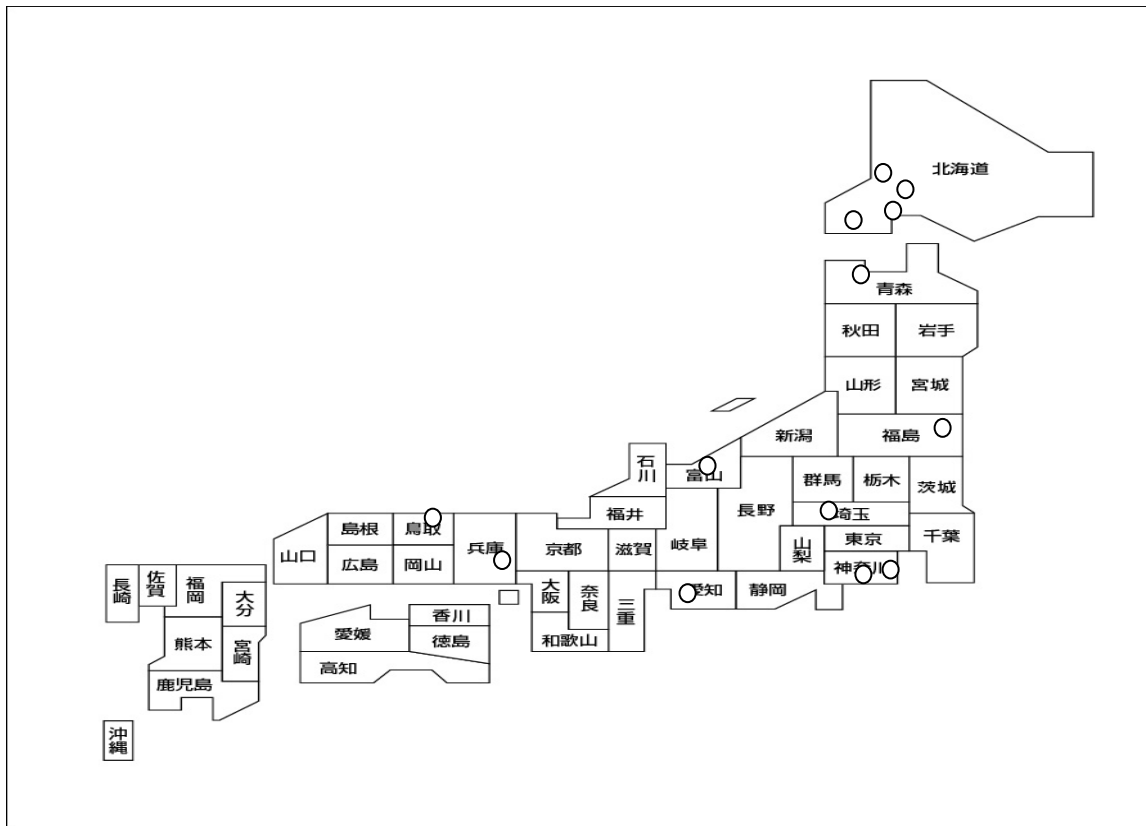
ケアホーム「すまいるはーと」

フロンティア

グループホーム「あさがお」

職員の皆さま、入居されている皆様、支援に関わっている皆様

その他、地域支援に関わっている皆さま、当事者の方から多くの情報提供をいただき、ご協力ご指導をいただきました。誠にありがとうございました。



「肢体不自由者の地域での小規模な住まいのあり方と介護体制についての調査研究」

報 告 書

平成 20 年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援法調査研究プロジェクト）

発行者： 特定非営利活動法人わーかーびいー

理事長 松坂 優

北海道札幌市厚別区上野幌 3 条 4 丁目 1 番 12 号

Tel 011-893-1199 Fax 011-893-5599

発行日： 平成 21 年 3 月 31 日

調査協力： 社団法人北海道総合研究調査会（HIT）

北海道札幌市中央区北 4 条西 6 丁目 毎日札幌会館 3 階